茨城県教育財団文化財調査報告第313集

本　田　遺　跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平 成 21 年 3 月

国土交通省北首都国道事務所
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第313集

本（ほん）田（でん）遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成21年3月

国土交通省北首都国道事務所
財団法人茨城県教育財団

遺跡全景（北から）

Ⅱ区完掘状況（南から）

出土遺物

出土遺物

序

茨城県は，県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

その一環として国土交通省が整備する首都圏中央連絡自動車道は，首都高中央環状線などと一体となって，首都圏の骨格となる３環状９放射の道路ネットワークを形成し，東京都心部への交通の適切な分散導入を図り，首都圏全体の道路交通の円滑化，首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら，この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である本田遺跡が所在することから，これを記録保存の方法により保護する必要があるため，当財団が，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け，平成19年４月から同年８月までの５か月間にわたってこれを実施しました。

本書は，その調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして，教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，境町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成21年３月

財団法人茨城県教育財団
理事長　稲　葉　節　生

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成19年度に発掘調査を実施した，茨城県猿島郡境町大字塚崎2916番地ほかに所在する本田（なかだ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　査　　平成19年４月１日～平成19年８月31日

整　理　　平成20年６月１日～平成21年１月31日

3　発掘調査は，調査課長瓦吹堅のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　三谷正

主 任 調 査 員　　小林和彦

調　　査　　員　　江原美奈子

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長村上和彦のもと，以下の者が担当した。

主 任 調 査 員　　大関武　　第３章第３節４

調　　査　　員　　江原美奈子　　第１章～第３章第３節１～３，第４節

5　本書の作成にあたり，一部の石器及び石製品の石材については，茨城県自然博物館主任学芸員小池渉氏に，炭化種子の同定については，茨城県自然博物館首席学芸主事栗栖宣博氏にそれぞれ御指導いただいた。また獣骨類の鑑定については，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏に御指導いただき，考察は付章として巻末に掲載した。古墳時代の住居跡から出土した炭化材の樹種同定については，株式会社パリノ・サーヴェイに委託し，考察は付章として巻末に掲載した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X＝＋13,860m，Y＝－4,920mの交点を基準点（A１a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「A１区」「B２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０と小文字を付し，名称は大調査区の名称を冠して「A１a1区」,「B２b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は，次のとおりである。

遺構　ＳＩ－住居跡　ＳＢ－掘立柱建物跡　ＳＫ－土坑　ＳＥ－井戸跡　ＳＤ－溝跡　ＳＡ－柵跡
ＳＦ－道路跡　ＰＧ－ピット群　Ｐ－ピット

遺物　Ｐ－土器・陶磁器　ＴＰ－拓本記録土器　ＤＰ－土製品　Ｑ－石器・石製品　Ｎ－獣骨類
Ｍ－金属製品　Ｗ－木製品・炭化材　Ｌ－漆器　Ｔ－瓦　Ｂ－骨角製品

土層　Ｋ－撹乱

3　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　日本色研事業株式会社）を使用した。

4　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の１，各遺構の実測図は60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□焼土・赤彩　□炉・火床面　■炭化材　■煤

●土器　▲拓本土器　○土製品　□石器・石製品　■獣骨類　△金属製品

5　遺物観察表・遺構一覧表の表記については，次のとおりである。

(1)　遺物番号は土器，拓本のみ記載の土器片，土製品，石器・石製品ごとに通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(2)　計測値の単位は，m・cm，kg・gである。なお計測値の（　）内の数値は現存値を，［　］内の数値は推定値を示した。

(3)　遺物観察表の備考欄は，土器の現存率，写真図版番号を記した。また，整理時に遺構名称・番号を変更した場合の旧遺構名称・番号についても，ここに併記した。

6　竪穴住居跡の主軸は，炉及び出入口ピットを通る軸線とし，主軸方向はその他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例　N－10°－E）。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要…… 1
第１章　調査経緯…… 5
　第１節　調査に至る経緯…… 5
　第２節　調査経過…… 5
第２章　位置と環境…… 7
　第１節　地理的環境…… 7
　第２節　歴史的環境…… 7
第３章　調査の成果…… 11
　第１節　調査の概要…… 11
　第２節　基本層序…… 11
　第３節　遺構と遺物…… 15
　　１　縄文時代の遺構と遺物…… 15
　　(1)　竪穴住居跡…… 15
　　(2)　炉跡…… 81
　　(3)　土坑…… 82
　　(4)　ピット群…… 123
　　(5)　遺物包含層…… 140
　　２　古墳時代の遺構と遺物…… 160
　　竪穴住居跡…… 160
　　３　中世・近世の遺構と遺物…… 163
　　(1)　掘立柱建物跡…… 163
　　(2)　柵跡…… 166
　　(3)　井戸跡…… 168
　　(4)　土坑…… 175
　　(5)　溝跡…… 179
　　(6)　道路跡…… 186
　　４　その他の遺構と遺物…… 188
　　(1)　井戸跡…… 188
　　(2)　土坑…… 189
　　(3)　溝跡…… 194
　　(4)　ピット群…… 195
　　(5)　遺構外出土遺物…… 197
　第４節　まとめ…… 200
付　章…… 217
写真図版
抄　録

本田遺跡の概要

【はじめに】

発掘調査とは

私たちが生活している台地上には，昔の人々の生活のあとがたくさん見つかっています。発掘調査とは，土の中に埋まっている昔の人の家のあと（遺構）や昔の人たちが使った道具（遺物）などを掘り出して，どのような家に住んでいたのか，どのような道具を使っていたのかなどを調べることです。

土の中に埋まっている昔の人たちの生活のあと（遺跡）は，わたしたちの歴史を知るために重要なもので，大切に後世に伝えていかなければなりません。しかし，わたしたちが生活していくうえでどうしても必要な道路や建物をつくらなければならないときには，発掘調査をして，土の中から出てきた昔の人たちの生活のようすを，図や写真に記録して保存します。

今回の調査は圏央道を建設するために行われました。道路予定地内に本田遺跡があることから，遺跡の内容を記録するために，茨城県教育財団が調査を行いました。

遺構や遺物の確認の方法

昔の人たちが生活したあとは，のちの時代の土が埋まって，黒いシミとして残ります。発掘調査では，昔の人たちが活動した地面を丁寧にならして，家のあとや土坑とよばれる穴のあとなどを探します。

ジョレンという道具で地面を平らにならします。黒いシミの部分が，昔の人たちの生活したあと（遺構）です。

遺構が確認できたら，移植コテなどで掘り下げます。中から出てくる土器（土でできた焼きものの器）や石器（石でできた道具）をこわさないように，慎重に掘り進めます。

【調査の内容】

今回の調査では，縄文時代のムラのあとや古墳時代の家のあと，江戸時代の井戸や道路のあとなどが見つかりました。特に，縄文時代の後期から晩期にかけてのムラのようすがよくわかりました。

縄文時代について

縄文時代は，いまから約１万2000年前から約2300年前の，動物や魚をとったり（狩猟），木の実やヤマイモなどを採集したりして生活していた時代です。電気やガス，水道はもちろんありません。そのため，生活がきびしく原始的な時代と考えられていましたが，発掘調査の成果からみると，自然を熟知した縄文人たちは山や川の恵みをうまく利用して，豊かな生活を送っていたようです。また米作りなどの農耕は弥生時代からと考えられていましたが，最近の調査では，縄文時代にも穀物の栽培が行なわれていたことがわかってきています。

縄文時代の境町

本田遺跡の縄文ムラは，いまから約3500年前から2300年前の，縄文時代の終わり頃（後期から晩期）に営まれていました。遺跡の東側に広がる旧長井戸沼（現在は水田）は，気温の高かった縄文時代前期（約6000年前）には，海水が流れ込んで（縄文海進）いましたが，本田ムラが営まれたころは気温が下がり，海水が退いて（海退），ヨシなどが生い茂る湿地帯になっていたようです。

本田遺跡の内容

上空から見た本田遺跡の縄文ムラです。本田遺跡では，旧長井戸沼に面する台地上に，竪穴住居跡が21軒，土坑88基，炉跡２か所，ピット群12か所，遺物包含層１か所が見つかりました。

縄文時代の家のあと（竪穴住居跡）です。大きさは約７ｍで，26畳分くらいの部屋と同じ大きさになります。手前にとび出しているのが玄関です。真ん中には火をたいたあと（炉）があります。たくさんの小さなあなは屋根を支えた柱のあとです。屋根は茅などでふかれていたと考えられますが，腐ってしまって残っていませんでした。

あな（土坑）のなかからは，たくさんの縄文土器や石器のほか，クリやクルミなどの炭化した木の実や，イノシシや鳥の骨，タニシなどの貝がらなどが出てきます。これらのあなは食料などを貯蔵するために使われたのものや，ゴミあなとして使われていたものと考えられます。

イノシシをモデルにした土製品

石でできたやじり

耳飾り（ピアス）

顔のかかれた土版（お守り？）

旧長井戸沼に向かう斜面部には，縄文土器や石器などの日用品のほか，イノシシをモデルにした土製品や，人の顔が描かれた土版など，お祭りの時に使う道具などがたくさん捨てられていました（遺物包含層）。

地域の小学生が発掘調査の体験にきてくれました。

見つかった遺構や遺物を見ていただくための一般公開を行ないました。

【調査でわかったこと】

今回の調査で，本田ムラは，地域の中心となるような，大きなムラであったことがわかりました。見つかった土器の文様や石器の材料を調べると，遠く東北地方や長野県などと交流のあったこともわかりました。今以上に自然と一体となって生活していた縄文人たちは，よりたくさんの自然の恵みを受けられるように，豊穣を願うお祭りをさかんに行なっていたようです。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所は，境町において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成17年12月８日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成18年１月11日に現地踏査を実施した。平成18年８月31日，９月１・25・26日，及び10月10・11日に茨城県教育委員会は試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成18年10月３日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，事業地内に本田遺跡が所在する旨及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

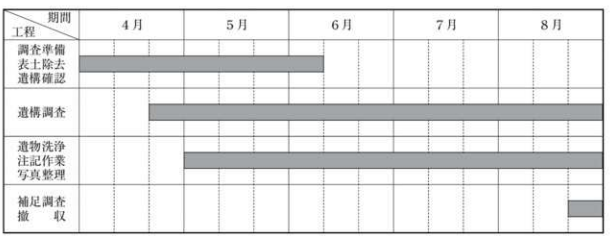
平成19年１月26日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第94条に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，平成19年２月８日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

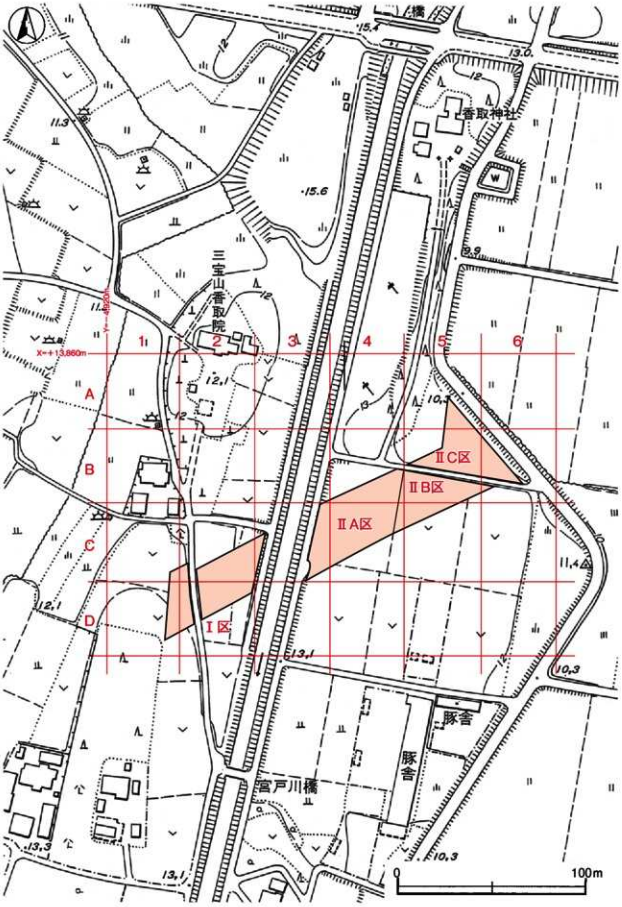
平成19年２月23日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成19年２月27日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，本田遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から本田遺跡の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成19年４月１日から同年８月31日まで，発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

本田遺跡の調査は，平成19年４月１日から同年８月31日まで実施した。以下，調査の経過について，概要を表で記載する。





第１図　本田遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

本田遺跡は，茨城県猿島郡境町大字塚崎2916番地ほかに所在している。

境町は茨城県の南西部に位置し，利根川と西仁連川に挟まれた北西から南東方向に広がる比較的平坦な猿島台地と呼称される洪積台地上に展開している。この利根川流域に広がる低台地は，地質的には新生代第四紀沖積統が中心で，約１万年前以降までの新しい時代の堆積層で形成されている。また，この沖積統の下には，第四紀洪積世（奥東京湾時代）後期に形成された洪積統が堆積しており，下層から竜ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層（武蔵野ローム，立川ローム層など）に分層される。台地上は利根川（旧常陸川）水系に流入する小河川などによって樹枝状に開析され，南北方向に延びる多くの小支谷が刻まれている。町内の標高は東高西低で利根川に向かって低くなり，最高標高は20m，最低標高は10m，平均標高は約14mである。

本田遺跡は，利根川から東へ約１km，利根川から北に延びる支谷（旧長井戸沼）に面する，標高９～12mの低台地縁辺部に位置している。台地沿いには宮戸川が南流しているが，調査区はこの宮戸川を挟んで東西に設定されている。遺跡周辺の土地利用状況は，主として水田・畑地などの耕作地で，遺跡の現況は畑地であった。

第2節　歴史的環境

本田遺跡が所在する猿島台地上には，利根川（旧常陸川）の支流によって開析された支谷が南北方向に展開している。このような支谷の多くは，縄文時代前期を盛期とする縄文海進によって出現した古鬼怒湾の湾奥の入り江の一部であった。本田遺跡の東面する支谷は旧長井戸沼と呼称されているが，これは縄文時代前期以降の海岸線の後退（海退）により，上流側からの河川による搬出土砂で三角州が形成され，各河川の利根川（旧常陸川）への呑口が閉塞されたため，広大な沼沢地となっていたことによる。このような沼沢地は，飯沼，大山沼，水海沼など，猿島台地上に多く見られたが，江戸時代の干拓事業によって姿を消し，現在では水田面となっている[1]。この支谷に臨む台地縁辺部にかけて，縄文時代をはじめとした多くの遺跡が存在している。ここでは当遺跡の主たる時期である縄文時代と古墳時代の遺構・遺物などが確認されている遺跡を中心に，周辺の遺跡の概要を述べる[2]。

境町内では発掘調査や町史編纂時の分布調査により，現在までに54か所の遺跡が確認されている[3]。なかでも縄文時代前期から晩期と古墳時代の遺構や遺物が確認できるところが多く，利根川（旧常陸川）及び旧長井戸沼沿いに多く分布している。

当遺跡の旧長井戸沼を挟んだ対岸には，ほぼ同時期の南長井戸遺跡〈19〉があり，縄文時代後期前葉から晩期中葉の遺物が多量に確認されている。また現在は削平されて見る影もないが，10数基の円墳からなる古墳群が存在し，粘土槨を有する古墳からは環頭太刀が出土したといわれている。旧一の谷沼から東に向かって入り込む谷津を取り囲むように立地する青木遺跡〈29〉では，縄文時代中期（阿玉台式期）から晩期前葉（安行３ｂ式期）までの遺物が多量に散布しており，ヤマトシジミを主体とする貝塚も確認されている。同じく旧一ノ谷沼沿いの百戸遺跡群〈32〉では縄文時代後期中葉から晩期中葉の遺物が多量に採集されており，遺跡群中のふき山古墳（前方後円墳）からは多量の円筒埴輪・人物埴輪が出土している。東京国立博物館に所蔵されてい

るほぼ完形に復元された人物埴輪２点も，本古墳出土の可能性が高いといわれている。また旧長井戸沼に面する横塚古墳群〈６〉には全長約60mの毘沙門塚古墳があり，町指定史跡となっている。

町域で発掘調査が行われた遺跡は多くないが，かわい山遺跡〈20〉では縄文時代中期末から後期の集落跡と古墳時代前期の住居跡，南坪遺跡〈３〉では縄文時代前期黒浜式の住居跡３軒と古墳時代中期の住居跡５軒が調査されている[4]。清水遺跡〈２〉では古墳時代中期・後期の住居跡各１軒と近世の溝跡などが確認されている[5]。

利根川（旧常陸川）流域の縄文時代の遺跡として，古河市（旧総和町）の釈迦才仏遺跡〈37〉[6]・思案橋遺跡などがあり，釈迦才仏遺跡では縄文時代後期から晩期の集落跡が確認され，土製仮面や耳飾りなど，特徴的な遺物が出土している。利根川南の五霞町域には，縄文時代後期から晩期の多くの住居跡と貝塚が調査された冬木A貝塚・冬木B貝塚〈45〉[7]，また21軒の竪穴住居跡とヤマトシジミを主とする地点貝塚が確認された石畑遺跡〈41〉がある[8]。古くから江川貝塚として著名である土塔貝塚〈43〉は，平成17・18年度に発掘調査が行われ，前期の住居跡と地点貝塚，及び後期前葉の集落跡が確認されている[9]。このほかにも利根川（旧常陸川）流域の猿島台地上，及び中川・江戸川流域の下総台地上では，坂東市（旧岩井市）拾二ゴゼ遺跡や野田市野田貝塚・内町貝塚〈48〉・東金野井貝塚，春日部市（旧庄和町）神明貝塚など，多くの縄文時代後・晩期の遺跡が集中している。

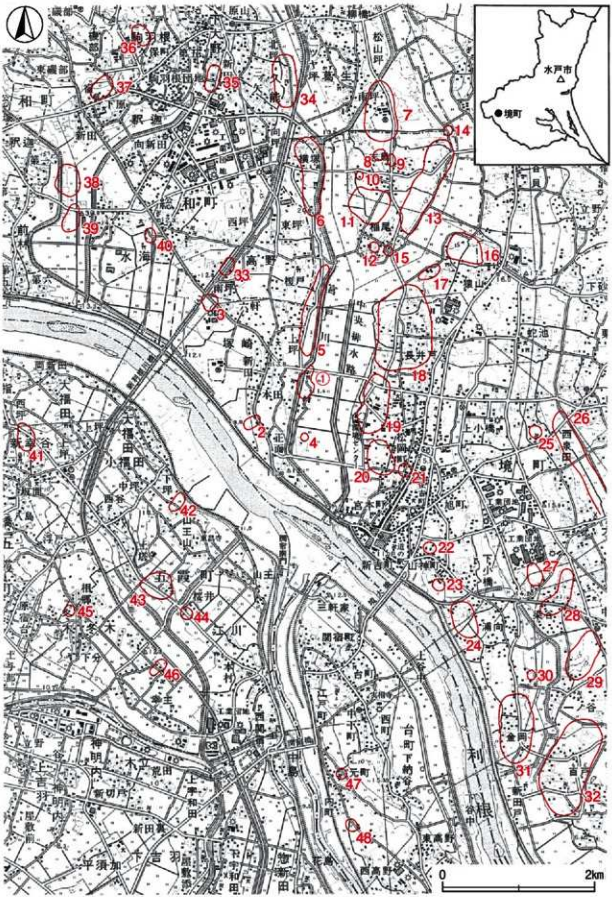
古墳時代の遺跡では，古河市（旧総和町）釈迦才仏遺跡，向坪B遺跡〈33〉，香取西遺跡〈34〉，久能西原遺跡〈35〉，駒羽根遺跡〈36〉，羽黒遺跡〈39〉などが調査されている。特に６基の方形周溝墓が確認された釈迦才仏遺跡や，子持勾玉などの祭祀関連遺物を多量に有する住居跡が確認された向坪B遺跡[10]，滑石製模造品の未製品が多量に出土した住居跡が調査された香取西遺跡[11]などが注目される。

当遺跡の北側に位置する香取神社には，県指定無形民俗文化財の「塚崎の獅子舞」がある[12]。江戸時代嘉永元年（1848）の『御獅子講中人別政帳』によれば，この獅子舞は「五穀豊穣・天下泰平」を祈願して舞うもので，文化年間の大干ばつの際には，関宿城主久世大和守に依頼され大雨を降らせたとの言い伝えがある。今回の調査で確認された道路跡は香取神社に向かって延びており，香取神社参道との関連性が考えられる。

※文中の〈　〉内の番号は，表１及び第２図の該当番号と同じである。

註

1）なお猿島台地の貝塚を調査した金井忠夫氏によれば，五霞町周辺では縄文時代前期の海進期には，干潮になっても干潟にならない深さ６mの平場の海であったが，海退が発生した縄文時代中期には満潮の場合でも深さ３mにすぎない干潟に変わり，さらに縄文時代後期後葉には，干潟が後背湿地に変わって水草が茂り，泥炭層が堆積する三角州が出現したという。
　金井忠夫「利根川の歴史」日本図書刊行会　1997年２月
2）茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）」茨城県教育委員会　2001年３月
3）境町史編さん委員会「下総境の生活史　資料編　原始・古代・中世」境町　2005年３月
4）寺門義範・西宮一男「南坪遺跡」新四号国道遺跡発掘調査会　1978年３月
5）桑村裕「清水遺跡・同所新田遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第290集　2008年３月
6）川津法伸「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書　大橋B遺跡・釈迦才仏遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第131集　1998年３月
7）高村勇・根本康弘「冬木地区上地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　冬木A貝塚・冬木B貝塚」「茨城県教育財団文化財調査報告」Ⅸ　1981年３月
8）a　瓦吹堅「石畑遺跡」猿島郡五霞村教育委員会　1977年３月
　b　成島一也「石畑遺跡　12県単道改12－03－261－052号埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第192集　2002年３月
9）須藤正美「土塔貝塚・瀬沼遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第289集　2008年３月
10）中沢時宗・桜井一美・和田雄次「一般国道４号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書１（総和地区）南坪A・B・C遺跡　向坪A・B遺跡　高野遺跡　北新田A・B・C遺跡　西坪A・B遺跡　溜原B遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第38集1986年８月
11）新井和之ほか「香取西遺跡発掘調査報告書」総和町教育委員会　1998年３月
12）境町史編さん委員会「下総境の生活史　図説・境の歴史」境町　2005年３月



第２図　本田遺跡周辺遺跡位置図（国土地理院50,000分の１「鴻巣」「水海道」）

表1　本田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	本田遺跡	○	○		○		○	○
2	清水遺跡				○			○
3	南坪遺跡		○		○	○		
4	塚崎古墳				○			
5	上坪遺跡群		○					
6	横塚古墳群				○		○	
7	北原遺跡				○			
8	田ノ台遺跡				○			
9	笹原遺跡				○			
10	関根遺跡						○	
11	稲尾遺跡				○			
12	熊野神社遺跡					○	○	○
13	志鳥遺跡			○	○			
14	志鳥貝塚		○					
15	稲尾城跡						○	
16	狼山遺跡群				○			
17	小金井古墳群				○			
18	長井戸遺跡群		○		○		○	
19	南長井戸遺跡		○		○			
20	かわい山遺跡		○		○	○		
21	末広遺跡				○			
22	山神町古墳群				○			
23	桜山古墳群				○			
24	下小橋遺跡		○		○			

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
25	大歩古墳				○			
26	大歩遺跡群		○		○	○		
27	染谷・香取神社遺跡		○		○			
28	染谷遺跡		○		○	○		
29	青木遺跡		○					
30	沼台塚古墳				○			
31	金岡遺跡群		○		○			
32	百戸遺跡群		○		○			
33	向坪B遺跡				○			○
34	香取西遺跡	○	○	○	○	○		
35	久能西原遺跡		○	○	○			
36	駒羽根遺跡		○		○	○		○
37	釈迦才仏遺跡	○	○		○			○
38	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	
39	羽黒遺跡	○	○	○	○	○	○	○
40	水海城跡					○	○	
41	石畑遺跡		○		○	○	○	○
42	同所新田遺跡				○	○	○	○
43	土塔貝塚	○	○	○	○	○		
44	桜井前遺跡		○		○	○	○	○
45	冬木B貝塚		○					
46	瀬沼遺跡		○		○		○	○
47	雲国寺内貝塚		○					
48	内町貝塚		○					

第3章　調 査 の 成 果

第1節　調 査 の 概 要

本田遺跡は，利根川沿いの標高９～12mの，低台地縁辺部に位置している。調査前の現況は畑地で，調査面積は5,397㎡である。調査区は宮戸川を挟んで大きく２つに分かれており，宮戸川西側をⅠ区，東側をⅡ区とし，さらにⅡ区については調査の便宜上，調査区域内を走る農道を境に西からⅡA・ⅡB・ⅡC区とした。

今回の調査によって，縄文時代の竪穴住居跡21軒，炉跡２か所，土坑88基，ピット群12か所，遺物包含層１か所，古墳時代の竪穴住居跡１軒，中世・近世の掘立柱建物跡２棟，柵跡２列，井戸跡４基，土坑13基，溝跡19条，道路跡１条，時期不明の井戸跡５基，土坑34基，溝跡８条，ピット群１か所が確認された。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）で150箱出土している。主な遺物は，縄文時代では縄文土器片（深鉢，浅鉢，鉢，注口土器，壺），土製品（土器片錘，耳飾り，土偶，土版，動物形土製品），石器（石鏃，打製石斧，磨製石斧，石皿，磨石，石錘），石製品（勾玉，石棒，石剣），古墳時代では土師器（高坏，壺，甕，ミニチュア土器），近世では土師質土器（小皿，焙烙），陶器（甕，擂鉢），磁器（碗），土製品（碁石状土製品）などである。

第2節　基 本 層 序

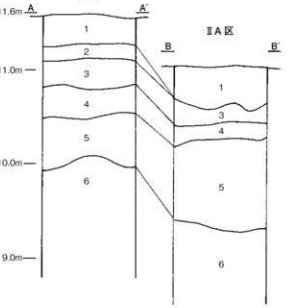
調査区のⅠ区北部（Ｃ３e1区）及びⅡA区南部（Ｃ４f4区）にテストピットを設定し，基本土層の観察を行った（第３図）。Ⅰ区はテストピットの設定された北東部に向かって緩やかに下がっている。北東部では現表土（耕作土）下はローム層であるが，Ⅰ区中央から南西側にかけては層厚10～30㎝の黒褐色土が確認でき，Ⅰ区の遺構の多くはこの層を掘り込んでいる。

Ⅱ区はⅡA区東側付近を最高地点（11.4m）とし，かまぼこ形の地形を呈している。ⅡA区及びⅡB区西側では，現表土（耕作土）下がローム層となっており，この３層上面が遺構確認面である。

ⅡB区・ⅡC区では北東側に向かって傾斜し，調査区北東端の標高は9.3mである。この傾斜地に，黒褐色土を基調とした縄文時代晩期の包含層が形成されている。遺物包含層の層序については，第３節１(5)の段を参照されたい。

第１層は，暗褐色を呈する現耕作土で，ロームブロックを中量含み，粘性は普通，締まりは弱い。層厚は20～40cmである。

第２層は，暗褐色を呈する耕作土で，第１層よりローム粒子を多く含み，また炭化粒子も微量で



第３図　本田遺跡基本土層図

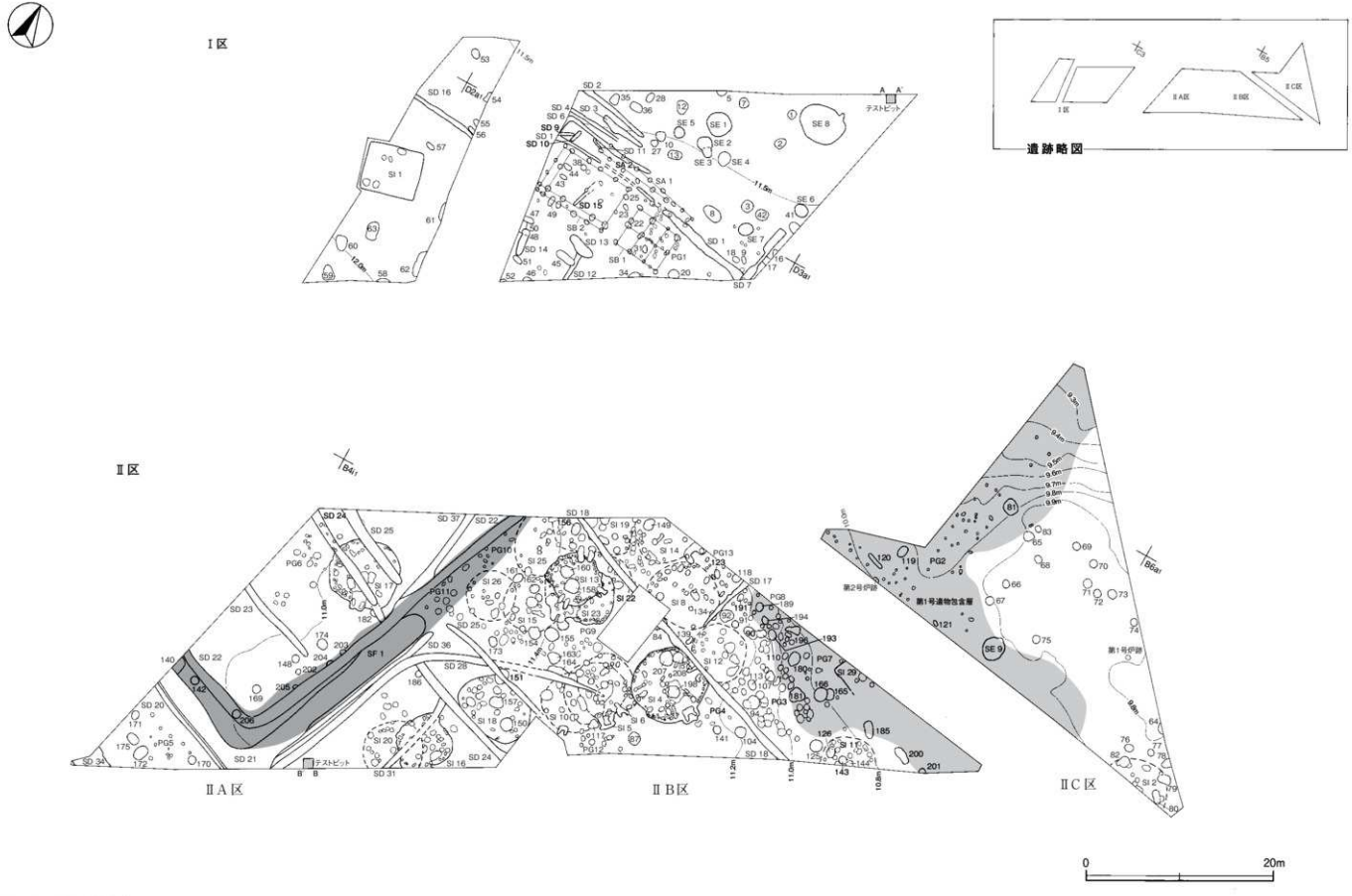
あるが確認できる。粘性は普通，締まりは弱い。層厚は10 ～ 20cmである。

第３層は，褐色のソフトローム層で，粘性・締まりともに普通である。層厚は20 ～ 30cm である。

第４層は，暗褐色のハードローム層で，粘性は普通，締まりが強い。層厚は20 ～ 40cm である。第二黒色帯（ＢＢⅡ）に相当する。

第５層は，褐色のハードローム層で，粘性・締まりとも強い。層厚はⅠ区で50 ～ 60cm，ⅡＡ区は約１ｍである。

第６層は，褐色のハードローム層で，第５層に比べてやや暗色を帯びている。強い粘性をもち，締まりも強い。層厚は下層が未掘のため不明である。



第４図　本田遺跡遺構全体図

第3節　遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

当遺跡の遺構は，竪穴住居跡21軒，炉跡２か所，土坑88基，ピット群12か所，遺物包含層１か所が確認されている。以下，確認された遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第２号住居跡（第５・６図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ６ⅰ区，標高9.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第79・80・82号土坑と重複しているが，覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状　南半部が調査区域外であり，規模及び平面形を明確に捉えることはできなかったが，炉とみられる焼土跡とピットの位置から，平面形は径７ｍほどの円形と推測できる。

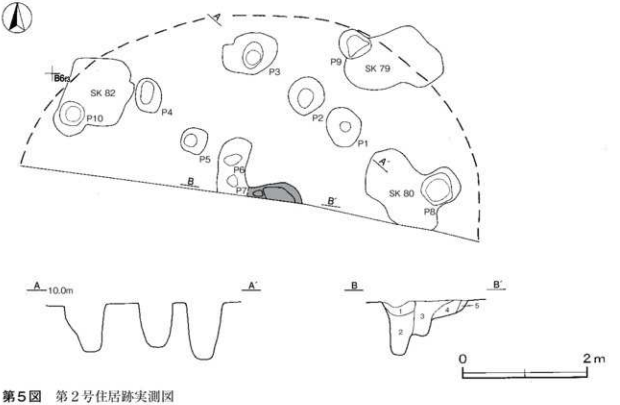
床面　ほぼ平坦である。硬化面は認められない。

炉　調査区の南端に位置している，確認できた長径60㎝，短径30㎝の楕円形の地床炉である。覆土に焼土粒子を含んでいるが，硬化した部分は認められない。西側の一部をＰ７に掘り込まれている。

Ｐ７・炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　10か所。Ｐ１～Ｐ３，Ｐ８，Ｐ10はいずれも深さ70㎝以上で主柱穴とみられるが，配置などは不明である。



第５図　第２号住居跡実測図

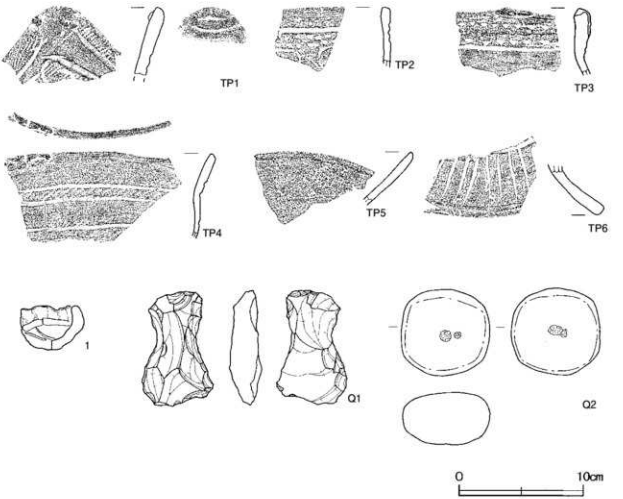
遺物出土状況　縄文土器片380点，石器２点（打製石斧，磨石），石核２点（チャート），剥片12点（チャート８，黒曜石１，瑪瑙１，その他２），焼成粘土塊２点が出土している。遺物はすべてピット覆土中から出土しており，ほとんどが晩期前葉の安行３ｂ式から晩期中葉の安行３ｃ式期のものである。TP１～TP３，Ｑ１はＰ１の覆土中層から下層，１，TP５・TP６はＰ４の覆土上層から中層，TP４はＰ９の覆土中，Ｑ２はＰ６の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から晩期前葉から中葉と考えられる。

第２号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P１	90	P３	75	P５	96	P７	82	P９	45
P２	70	P４	31	P６	78	P８	93	P10	85



第６図　第２号住居跡出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表（第６図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
1	縄文土器	ミニチュア	4.6	3.6	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	指頭による成形　底部付近削り	Ｐ４上層	100%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	沈線→LR縄文→無文部磨き　口縁部鉢巻状の隆帯貼付	P１下層	
TP2	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	仰状文　２条の刺突列	P１下層	
TP3	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部に浅い凹線　山形突起	P１中層	
TP4	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→LR縄文→無文部磨き　口唇部に２個一対の突起	P９	
TP5	縄文土器	浅鉢	長石・雲母	灰褐	普通	外面削り→ナデ	P４上層	
TP6	縄文土器	台付土器	長石	黒褐	普通	横位区画沈線→縦位沈線	P４中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q１	打製石斧	9.2	5.6	2.6	122.5	粘板岩	表面主要剥離面	P１	PL26
Q２	磨石	7.2	6.9	4.2	332.0	安山岩	正・表面・側縁部利用　正・表面に敲打痕	P６	PL28

第４号住居跡（第７～14図）

位置　調査ⅡＢ区南西のＢ５j1区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第198・207・208号土坑を掘り込み，第18号溝に掘り込まれている。また第６・12号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。遺存状態から本跡が新しいと考えられる。

規模と形状　壁の南側の一部が不整であること，南東部に方形に張り出す出入口ピット，及び床面で確認された出入口ピットなどから，３回以上の建て替えが推測できる。Ｐ１～Ｐ３，Ｐ６，Ｐ８を出入口ピットとし，炉１を伴うものを第４Ａ号住居跡，方形に張り出すＰ89～Ｐ91を出入口ピットとし，炉２を伴うものを第４Ｂ号住居跡，Ｐ60，Ｐ80～Ｐ82，Ｐ92を出入口ピットとするものを第４Ｃ号住居跡とする。第４Ａ号住居跡は南壁の不整な段差から，長径8.0m，短径7.5mほどのＤ字形に近い楕円形と推測でき，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。第４Ｂ号住居跡は長径8.4m，短径8.0mの円形で，主軸方向はＮ－56°－Ｗと推測できる。第４Ｃ号住居跡は第４Ａ・Ｂ号住居に掘り込まれているが，長径8.0m，短径7.4mのＤ字形に近い楕円形と推測でき，主軸方向はＮ－53°－Ｗである。壁高はそれぞれ10～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床面　第４Ｂ号住居跡の床面はほぼ平坦で，硬化している。また第４Ｂ号住居跡の炉２から張り出した出入口ピットの間，第４Ｃ号住居跡の出入口ピットとしたＰ60，Ｐ80～Ｐ82，Ｐ92の上も含めて，ロームブロックが多く含まれる土が厚さ５cmほど堆積している。この層は硬化しており，第４Ｂ号住居構築時の部分的な貼床とみられる。第４Ａ号住居跡の床面は，炉１の高さから第４Ｂ号住居跡より５cmほど上位になると推測されるが，硬化面は認められない。

炉　炉１は住居跡掘り込みのほぼ中央部で，底面から５cmほど上位で確認された地床炉である。硬化した焼土ブロックが堆積している。炉２は中央部東寄りに位置する地床炉で，長径300cm，短径250cmの不整円形の掘り込みを有し，掘り込みの底面は焼けて非常に硬化している。掘り込みの中央部分に厚さ約30cmにわたって焼土と灰が堆積している。焼土下には第198号土坑があり，埋め戻された後，炉２が構築されている。

炉２土層解説

1　灰　褐　色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量
2　橙　　色　焼土ブロック・灰・骨粉多量
3　灰　褐　色　灰多量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，灰少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　121か所。出入口ピットと炉の位置，深さなどから，第４Ａ号住居跡の主柱穴はＰ14，Ｐ28，Ｐ80，Ｐ112の４本，第４Ｂ号住居跡の主柱穴はＰ９，Ｐ27，Ｐ81，Ｐ94，第４Ｃ号住居跡の主柱穴はＰ９，Ｐ28，Ｐ80，Ｐ119などが考えられる。いずれの住居跡も壁際に多くの壁柱穴が巡っている。

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　６層に分層できる。第５・６層は第４Ｂ号住居跡に帰属するもので，ロームブロックを含んでいることから埋め戻された後，第４Ａ号住居が構築されている。第４Ａ号住居跡に帰属する第１～４層は，ロームブロックや焼土粒子を含んでいるものの，レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。第１層は黒褐色土で，骨片・骨粉を含んでいる。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子中量，骨粉少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　極 暗 褐 色　ロームブロック中量

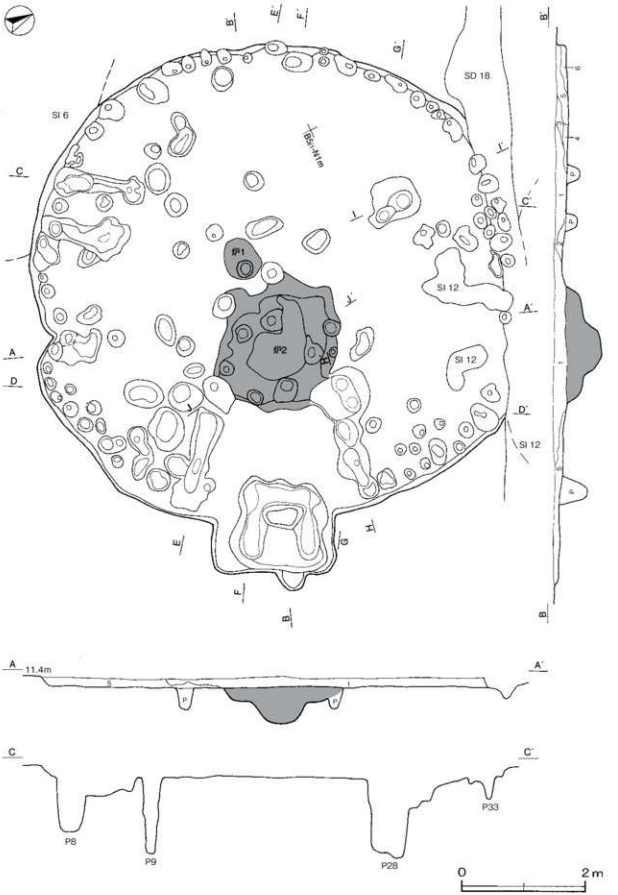
遺物出土状況　縄文土器片10,393点，土製品112点（土偶２，耳飾り４，貝輪状土製品３，土器片円盤103），石器48点（打製石斧５，磨製石斧２，石皿10，磨石20，敲石３，凹石２，砥石６），石製品６点（石剣・石棒５，垂飾品１），石核２点（黒曜石），剥片70点（黒曜石30，緑泥片岩19，チャート17，瑪瑙２，石英１，頁岩１），焼成粘土塊34点，軽石１点，炭化種子１点が出土している。また混入した陶器片１点，磁器片１点も出土している。大部分の遺物は覆土中層から下層にかけての出土で，出土土器はほとんどが後期後葉の曽谷式から安行１式のものである。９・11，TP34・TP47，DP４，Ｑ５・Ｑ７・Ｑ11・Ｑ15は床面から出土している。Ｎ１はイノシシの頭蓋骨で，Ｐ80の覆土下層から出土している（付章参照）。

所見　覆土や炉の遺存状況などから，第４Ｃ号住居跡が最も古く，第４Ｂ号住居跡，第４Ａ号住居跡への変遷が捉えられる。時期は，出土土器から後期後葉の曽谷式から安行１式期と考えられ，比較的短期間のうちに建て替えがなされたものと推測できる。

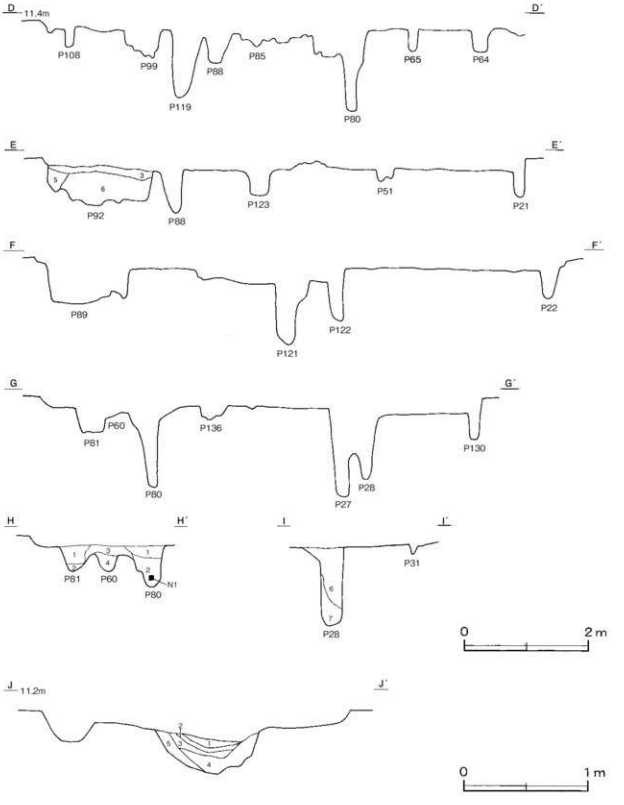
第４号住居跡ピット計測表

単位：cm

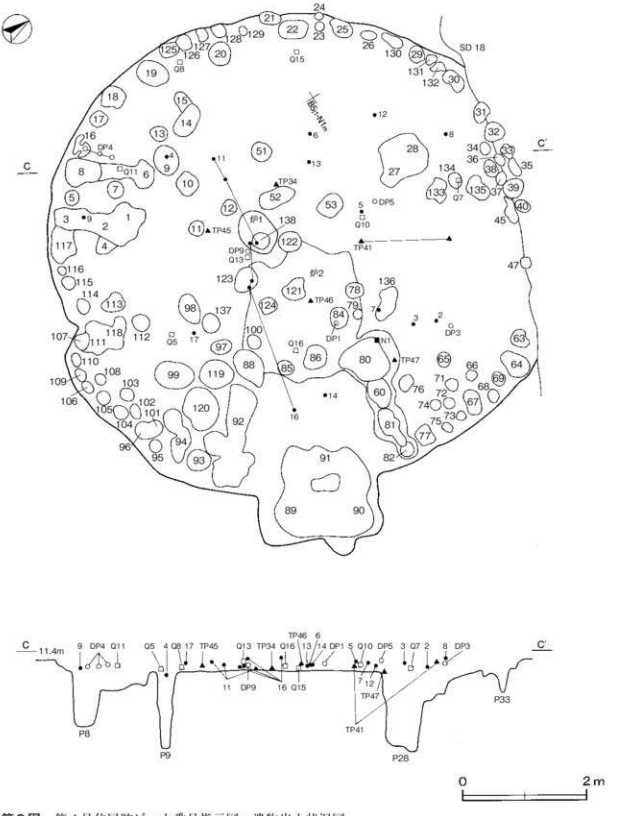
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
Ｐ１	47	Ｐ19	28	Ｐ37	22	Ｐ69	30	Ｐ90	60	Ｐ108	31	Ｐ126	23
Ｐ２	25	Ｐ20	5	Ｐ38	52	Ｐ71	55	Ｐ91	45	Ｐ109	14	Ｐ127	20
Ｐ３	53	Ｐ21	42	Ｐ39	48	Ｐ72	33	Ｐ92	58	Ｐ110	28	Ｐ128	36
Ｐ４	20	Ｐ22	46	Ｐ40	31	Ｐ73	23	Ｐ93	32	Ｐ111	54	Ｐ129	30
Ｐ５	25	Ｐ23	35	Ｐ41	55	Ｐ74	27	Ｐ94	37	Ｐ112	41	Ｐ130	53
Ｐ６	29	Ｐ24	21	Ｐ42	35	Ｐ75	21	Ｐ95	28	Ｐ113	31	Ｐ131	38
Ｐ７	33	Ｐ25	37	Ｐ45	24	Ｐ76	36	Ｐ96	41	Ｐ114	34	Ｐ132	40
Ｐ８	89	Ｐ26	77	Ｐ47	27	Ｐ77	31	Ｐ97	16	Ｐ115	33	Ｐ133	22
Ｐ９	125	Ｐ27	143	Ｐ51	20	Ｐ78	37	Ｐ98	13	Ｐ116	20	Ｐ134	24
Ｐ10	62	Ｐ28	128	Ｐ52	19	Ｐ79	13	Ｐ99	46	Ｐ117	19	Ｐ135	17
Ｐ11	30	Ｐ29	41	Ｐ53	26	Ｐ80	112	Ｐ100	41	Ｐ118	42	Ｐ136	22
Ｐ12	41	Ｐ30	30	Ｐ60	43	Ｐ81	47	Ｐ101	23	Ｐ119	107	Ｐ137	38
Ｐ13	44	Ｐ31	34	Ｐ63	35	Ｐ82	32	Ｐ102	23	Ｐ120	60	Ｐ138	24
Ｐ14	49	Ｐ32	32	Ｐ64	34	Ｐ84	80	Ｐ103	38	Ｐ121	123		
Ｐ15	31	Ｐ33	33	Ｐ65	34	Ｐ85	27	Ｐ104	28	Ｐ122	84		
Ｐ16	7	Ｐ34	34	Ｐ66	30	Ｐ86	36	Ｐ105	38	Ｐ123	42		
Ｐ17	45	Ｐ35	32	Ｐ67	31	Ｐ88	71	Ｐ106	27	Ｐ124	60		
Ｐ18	57	Ｐ36	17	Ｐ68	12	Ｐ89	62	Ｐ107	32	Ｐ125	34		



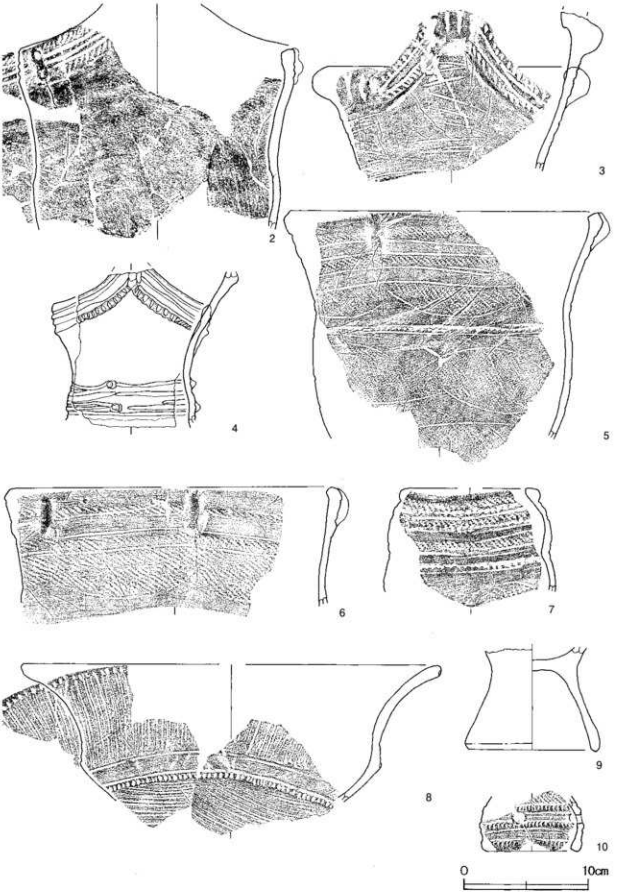
第7図　第4号住居跡実測図(1)



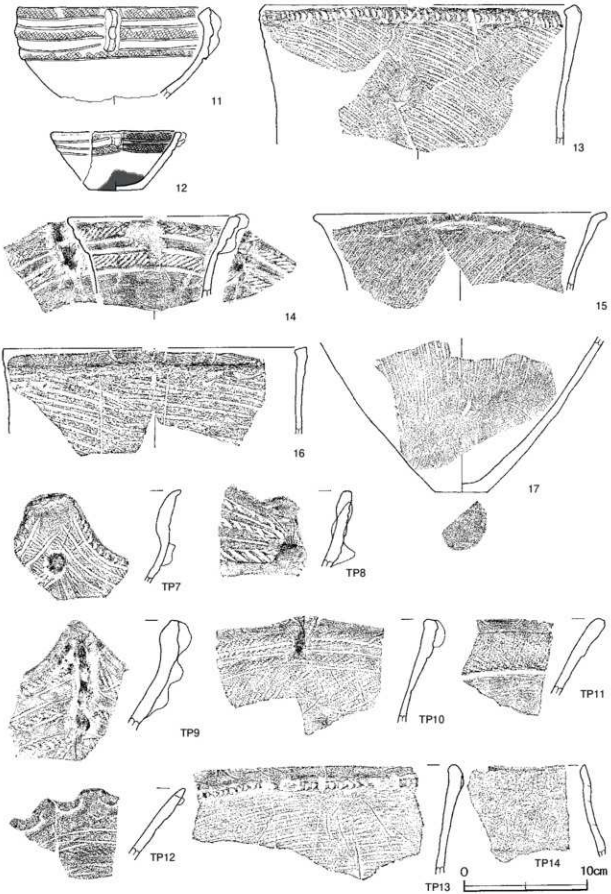
第８図　第４号住居跡実測図(2)



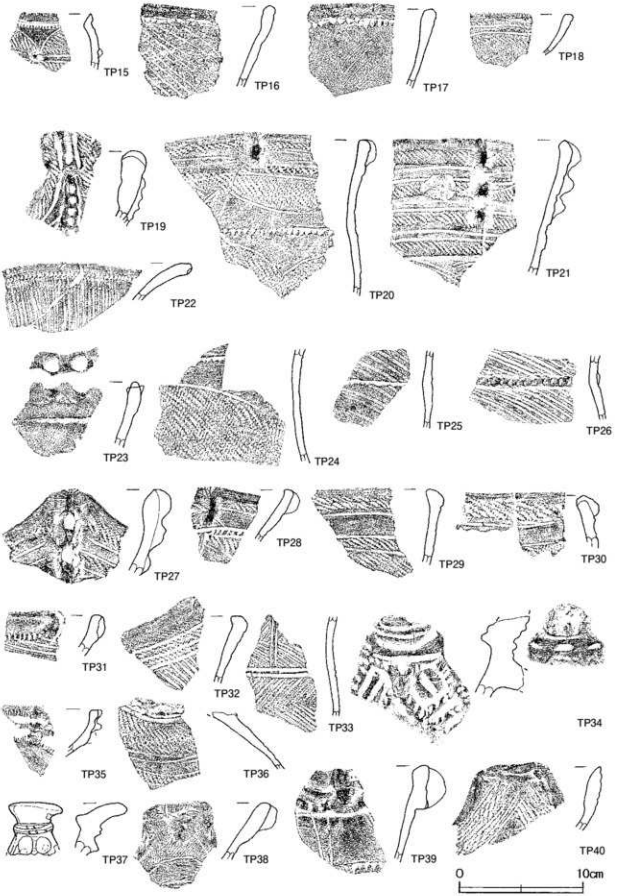
第９図　第４号住居跡ピット番号指示図・遺物出土状況図



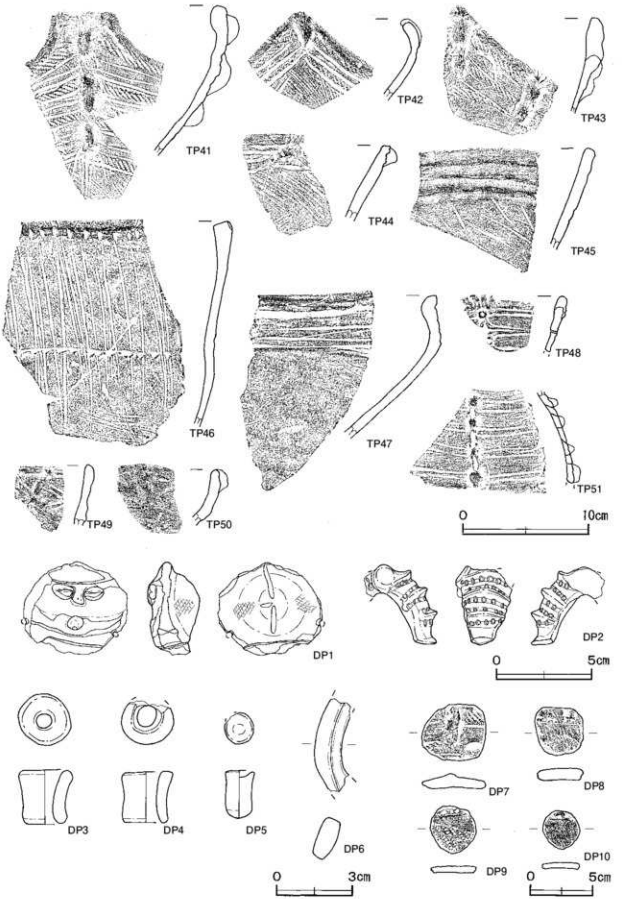
第10図　第４号住居跡出土遺物実測図(1)



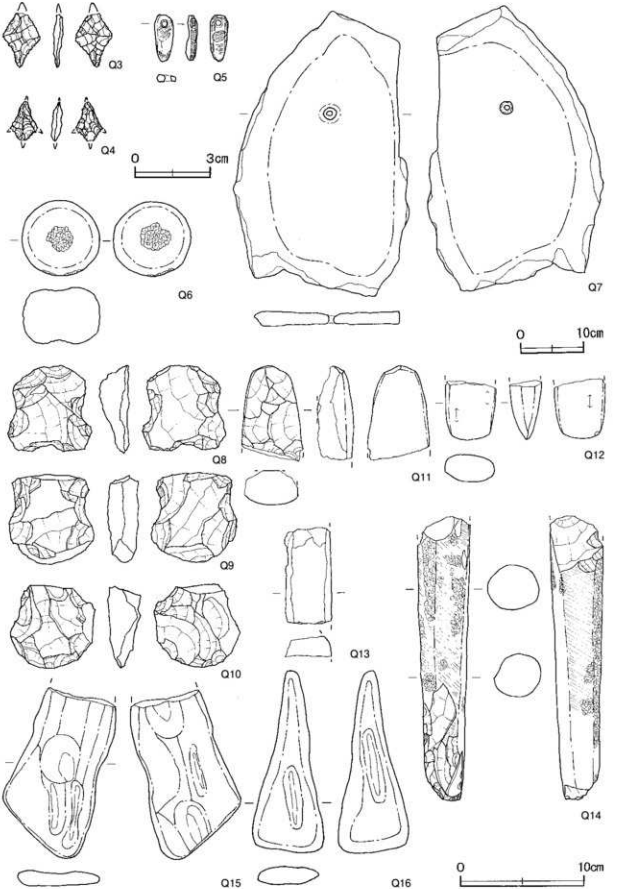
第11図　第４号住居跡出土遺物実測図(2)



第12図　第４号住居跡出土遺物実測図(3)



第13図　第４号住居跡出土遺物実測図(4)



第14図　第４号住居跡出土遺物実測図(5)

第４号住居跡出土遺物観察表（第10～14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
2	縄文土器	深鉢	[22.0]	(14.2)	－	長石・石英	黒褐	普通	コブ→沈線→縄文LR→無文部磨き	P 60上層	30%　PL15
3	縄文土器	深鉢	[19.0]	(12.6)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	頸部に縦位の結束状沈線文	覆土下層	30%
4	縄文土器	深鉢	[12.5]	(12.4)	－	長石・石英	暗褐	普通	コブ→沈線文	P 9	40%　PL15
5	縄文土器	深鉢	[25.4]	(18.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	良好	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き 二次焼成により発泡化	覆土下層	40%　PL17
6	縄文土器	深鉢	[25.0]	(9.4)	－	長石・石英	明褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土下層	40%
7	縄文土器	深鉢	[10.8]	(8.3)	－	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土下層	40%
8	縄文土器	台付土器	[32.8]	(10.8)	－	長石・石英	暗褐	普通	頸部区画沈線→条線→無文部磨き	覆土下層	30%
9	縄文土器	台付土器	－	(8.2)	[10.1]	長石・石英	褐	普通	外面磨き	床面	50%
10	縄文土器	異形台付土器	－	(4.5)	[7.2]	長石・石英	極暗褐	普通	隆帯上キザミ　透かし孔	覆土上層	40%
11	縄文土器	鉢	[15.2]	(7.2)	－	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	床面	80%　PL15
12	縄文土器	鉢	[10.6]	4.8	4.4	長石・雲母	橙	普通	コブ→沈線→縄文RL　口縁部微隆起 内面赤彩　内・外面磨き	覆土下層	60%　PL15
13	縄文土器	深鉢	[24.8]	(11.0)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	斜条縄→口縁部キザミ	炉２上層	40%　PL15
14	縄文土器	深鉢	[13.2]	(6.7)	－	長石・雲母	橙	普通	コブ→沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土下層	40%　PL15
15	縄文土器	深鉢	[23.0]	(6.2)	－	長石・石英	橙	普通	斜条縄	覆土上層	30%
16	縄文土器	深鉢	[24.0]	(7.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	斜条縄→縦位沈線	覆土下層	40%
17	縄文土器	深鉢	－	(12.3)	4.0	長石・石英	褐	普通	地縄文→斜条縄　底部削り	覆土上層	30%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	縄文RL→沈線→コブ	炉２上層	
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→キザミ	炉２上層	
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	炉２上層	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	口縁部隆起帯縄文下にキザミ	炉２上層	
TP11	縄文土器	浅鉢	長石・石英	黒褐	普通	口縁部隆起帯縄文　沈線→縄文RL	炉２上層	
TP12	縄文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	微隆帯上に沈線→縄文RL	炉２上層	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部組織→条縄	炉２上層・P 80上層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	輪積み痕明瞭	炉２上層	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 30上層	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	条縄→口縁部刺突	P 53上層	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	口縁部キザミ→条縄	P 60上層	
TP18	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	暗褐	普通	沈線→縄文RL	P 65上層	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒	普通	沈線→縄文LR・隆帯貼付　波頂部内面にも縄文施文	P 80上層	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 80上層	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→コブ貼付→無文部磨き	P 80上層	
TP22	縄文土器	台付鉢	長石・雲母	黒	普通	縦位の条縄→口縁部キザミ　口唇部下1.5cmにキザミ	P 80上層	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	口唇部に押圧文	P 80上層	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	良好	二次焼成により発泡化	P 80上層	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	条縄→体部押し引き刺突文	P 80上層	
TP26	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	条縄→隆帯貼付	P 80上層	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	P 84上層	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい褐	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	P 84下層	
TP29	縄文土器	深鉢	石英	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 84下層	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 84上層	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	コブ→条縄→隆帯上キザミ	P 91下層	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線→縄文RL→条縄	P 121上層	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	波状口縁深鉢体部　矢羽根状沈線→縦位区画文・体部のキザミ	P 88上層	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部隆帯上キザミ・枠状文　突起内面にも刺突文	床面	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP35	縄文土器	鉢	長石	黒褐	普通	隆帯上キザミ　内・外面赤彩	P120上層	
TP36	縄文土器	台付鉢	長石	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P120上層	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	コブ→沈線文	覆土中	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	沈線→縄文LR・無文部磨き	覆土中	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	キザミを伴う口縁部隆帯による区画内に円線	覆土上層	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	縄文RL→沈線	覆土上層	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層・下層	
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗褐	普通	沈線→縄文RL→頸部条線	覆土上層	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	コブ→沈線→条線	覆土中	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部3条の円線　頸部矢羽根状の沈線文	覆土下層	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明褐	普通	瘤状の条線→キザミ	覆土上層	
TP47	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部に4条の沈線施文	床面	
TP48	縄文土器	異形台付土器	長石・石英・雲母	橙	普通	コブの下に透かし孔	覆土上層	
TP49	縄文土器	壺	長石	褐灰	普通	微隆帯による格子状文様・コブ	覆土上層	
TP50	縄文土器	鉢	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	指頭によるナデ　口縁部にノの字状コブ	覆土中	
TP51	縄文土器	台付土器	長石・石英	黒褐	普通	コブ→沈線　透かし孔	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP 1	土偶	(4.9)	(5.5)	2.8	(52.3)	赤褐　長石・石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	山形土偶頭部　隆帯による人面表現　頭部に無節L施文　赤彩	覆土上層	PL23
DP 2	土偶	(4.2)	(3.9)	(3.0)	(23.6)	灰黄褐　長石・石英・赤色粒子	腕部　隆帯鳥に沈線・円形刺突	覆土上層	
DP 3	耳飾り	2.1	－	2.1	8.1	黄灰　長石・石英	指頭による整形	覆土下層	PL22
DP 4	耳飾り	2.1	－	2.0	5.3	暗灰黄　長石・赤色粒子	側面磨き	床面	PL22
DP 5	耳飾り	1.2	－	1.9	2.7	にぶい赤褐　長石	耳栓タイプ　ナデ調整　側面部分的に剥離	覆土上層	PL22
DP 6	貝輪状土製品	(3.7)	1.1	1.7	(6.2)	黒　長石・赤色粒子	外面磨き	覆土上層	
DP 7	土器片円盤	4.5	5.1	1.1	24.0	赤褐　長石・石英・赤色粒子	安行1式平縁深鉢口縁部片利用　周縁3/4研磨	炉1	
DP 8	土器片円盤	3.8	3.8	1.0	19.8	明赤褐　長石・石英・赤色粒子	粗製深鉢口縁部片利用　周縁3/4研磨	炉2覆土上層	
DP 9	土器片円盤	3.7	3.5	0.5	9.4	にぶい赤褐　長石・石英・赤色粒子	精製深鉢体部片利用　周縁の研磨不明瞭	覆土下層	
DP10	土器片円盤	3.1	2.9	0.5	6.1	黒褐　長石・石英	粗製深鉢体部片利用　周縁全周研磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q 3	石鏃	(2.1)	1.5	0.4	(0.7)	チャート	先端部欠損	炉2上層	PL25
Q 4	石鏃	(1.5)	(1.2)	0.4	(0.4)	黒曜石	先端部・茎部の一部欠損	覆土上層	PL25
Q 5	垂飾品	1.8	0.7	0.4	0.7	瑪瑙	正・裏面とも懸垂孔の下に溝状の研磨痕	床面	PL25
Q 6	磨石	6.5	6.7	4.8	292.0	安山岩	正・裏面・側線部利用　正・裏面・一端部に敲打痕	P82上層	
Q 7	石皿	45.7	27.8	2.4	4900.0	緑泥片岩	正・裏面利用　凹石転用	床面	PL28
Q 8	打製石斧	6.8	6.8	2.2	111.0	安山岩	刃部再生ヵ	覆土下層	PL27
Q 9	打製石斧	(7.0)	6.8	2.5	(161.0)	粘板岩	裏面に風化剥離痕　一部研磨　側面の一部に研磨痕	覆土上層	PL26
Q10	打製石斧	(6.6)	(6.8)	2.6	(117.0)	粘板岩	裏面に風化剥離痕	覆土下層	PL27
Q11	磨製石斧	(7.5)	4.8	2.8	(156.0)	凝灰岩	正面剥離　被熱	床面	
Q12	磨製石斧	(4.8)	(4.0)	2.2	(75.0)	凝灰岩	定角式　刃部のみ	P14上層	
Q13	石棒	(8.3)	(3.9)	(1.7)	(93.0)	粘板岩	被熱	覆土下層	
Q14	石棒	(22.6)	(4.3)	3.6	(475.0)	粘板岩	敲打→研磨　先端部にも敲打痕	覆土中	PL27
Q15	有溝砥石	(13.5)	8.9	1.3	(139.0)	花崗岩	正・裏面に溝状の研磨痕　被熱	床面	PL28
Q16	有溝砥石	14.5	5.6	1.5	88.0	花崗岩	正・裏面に溝状の研磨痕　被熱	覆土下層	PL28

第５・６・10号住居跡（第15 ～ 18図）

位置　調査ⅡＢ区南西のＣ４a9区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第28号溝に掘り込まれている。第４号住居跡，第117・164号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　いずれの住居跡も壁の立ち上がりが確認できず，炉とみられる焼土跡と出入口ピットから，３軒の住居跡の重複と判断した。第５号住居跡はＰ42 ～ Ｐ46の出入口ピットと炉１を結ぶラインを主軸とする径７ｍほどの円形で，主軸方向はＮ－51°－Ｗ，第６号住居跡はＰ１～Ｐ６の出入口ピットと炉２を結ぶラインを主軸とし，Ｐ９～Ｐ13などを壁柱穴とする６ｍほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－53°－Ｗ，第10号住居跡はＰ48の出入口ピットと炉３を結ぶラインを主軸とし，ピットの位置などから，径６ｍほどの円形で，主軸方向はＮ－５°－Ｗと推測できる。

床面　第５号住居跡の出入口ピットから炉１・２にかけて，焼土粒子混じりの硬化面が確認でき，第５号住居跡の床面の一部と考えられる。

炉　３か所。炉１と炉２は第５・６号住居跡の出入口ピットに対応する位置にあり，炉１は長径140㎝，短径130㎝の円形の地床炉，炉２は長径110㎝，短径70㎝の楕円形の地床炉である。炉３は第10号住居跡の出入口ピットの北側に位置し，径70㎝の円形の地床炉である。いずれも覆土中に焼土ブロック・炭化粒子を多量に含んでいる。炉１・２は２つの掘り込みが確認できるものの，覆土は近似しており連続的である。炉１の下位には径70㎝，深さ110㎝のＰ35がある。炉２はＰ33に，炉３はＰ41にそれぞれ掘り込まれている。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
5　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子中量

ピット　第５・６・10号住居跡合わせて56か所。それぞれのピットの帰属を判断することはできなかったが，位置や深さから，第５号住居跡の主柱穴はＰ33，Ｐ34，Ｐ44，Ｐ46，第６号住居跡の主柱穴はＰ14，Ｐ22，Ｐ28，Ｐ36，第10号住居跡の主柱穴はＰ34，Ｐ41，Ｐ49，Ｐ50などが考えられる。これら以外のピットでも主柱穴とするのに十分な深さのものがあり，さらに数回の建て替えが推測される。

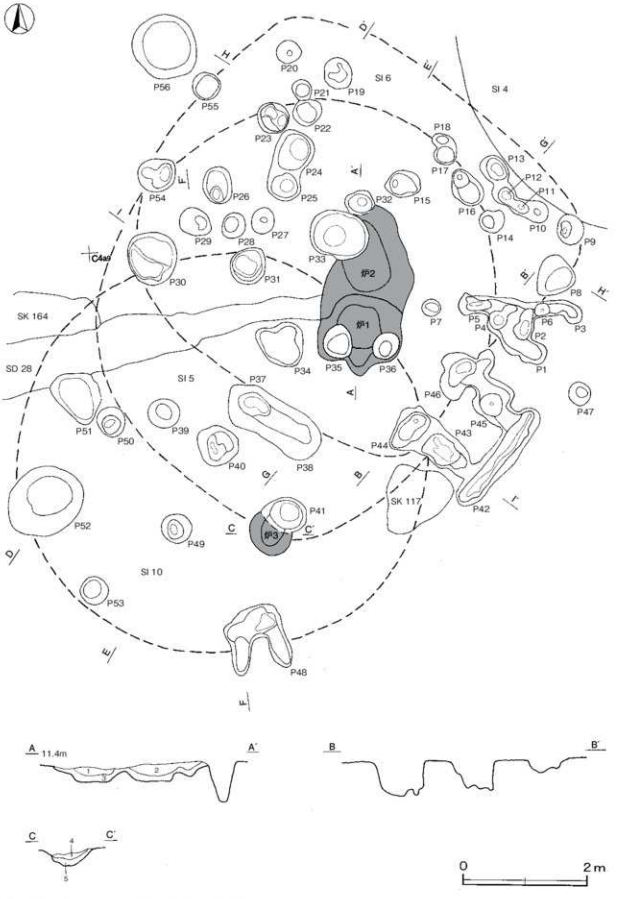
遺物出土状況　縄文土器片1,265点，土製品４点（土版１，土器片円盤３），石器10点（石鏃１，石皿２，磨石５，砥石２），石核１点，剥片４点が出土している。19は炉１下のＰ35底面から約15㎝上位で逆位で出土した。TP52は炉２の覆土下層，TP53はＰ27の覆土上層，TP60はＰ50の覆土上層から出土している。ピット覆土中から出土した土器は後期後葉の曽谷式から安行１式のものが多いが，Ｐ19，Ｐ41からは安行２式土器が出土している。その他の土器は前期が38点，後期前葉が19点，晩期前葉が17点である。

所見　ピットの配置と炉の切り合いから，第５号住居跡が最も新しいことは確認できるが，第６号住居跡と第10号住居跡の新旧関係は不明である。炉やピットの覆土中から出土している土器は曽谷式から安行１式期のものが主体で大きな時間差が見られず，３軒の住居跡も後期後葉の比較的短い期間の重複と考えられる。ただしピットの一部や覆土中の土器から，第５号住居跡は晩期前葉まで機能していた可能性もある。

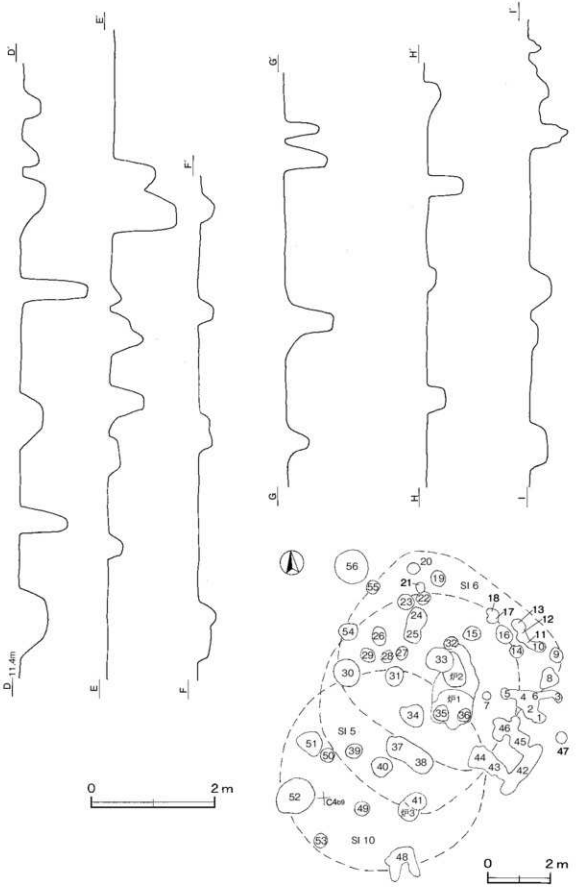
第５・６・10号住居跡ピット計測表

単位：cm

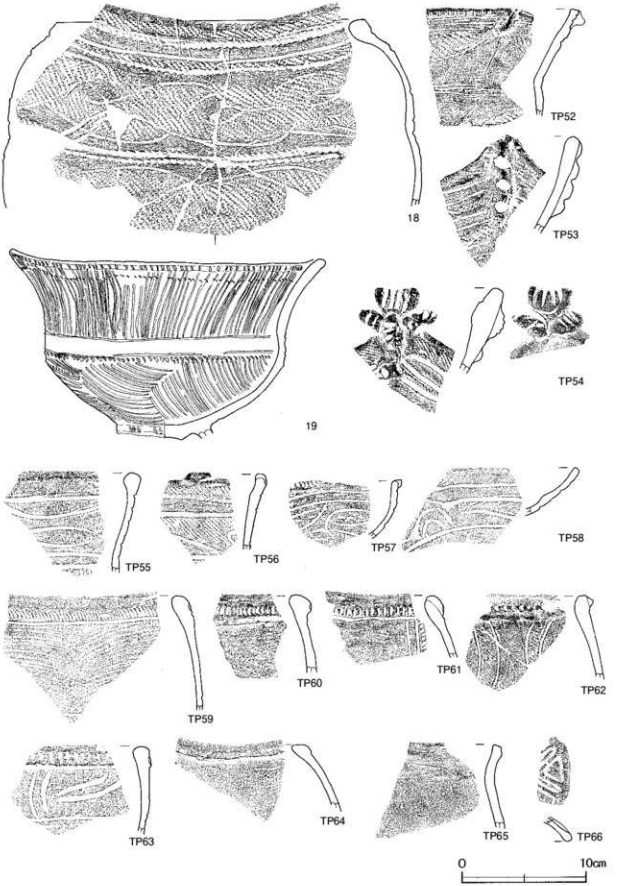
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
Ｐ１	15	Ｐ８	21	Ｐ15	31	Ｐ22	32	Ｐ29	43	Ｐ36	74	Ｐ43	38	Ｐ50	83
Ｐ２	67	Ｐ９	22	Ｐ16	36	Ｐ23	37	Ｐ30	44	Ｐ37	59	Ｐ44	55	Ｐ51	43
Ｐ３	12	Ｐ10	8	Ｐ17	54	Ｐ24	47	Ｐ31	30	Ｐ38	38	Ｐ45	39	Ｐ52	43
Ｐ４	21	Ｐ11	42	Ｐ18	48	Ｐ25	75	Ｐ32	68	Ｐ39	27	Ｐ46	48	Ｐ53	6
Ｐ５	14	Ｐ12	51	Ｐ19	35	Ｐ26	41	Ｐ33	99	Ｐ40	23	Ｐ47	83	Ｐ54	58
Ｐ６	19	Ｐ13	34	Ｐ20	98	Ｐ27	67	Ｐ34	50	Ｐ41	94	Ｐ48	40	Ｐ55	47
Ｐ７	16	Ｐ14	65	Ｐ21	27	Ｐ28	101	Ｐ35	110	Ｐ42	18	Ｐ49	27	Ｐ56	30



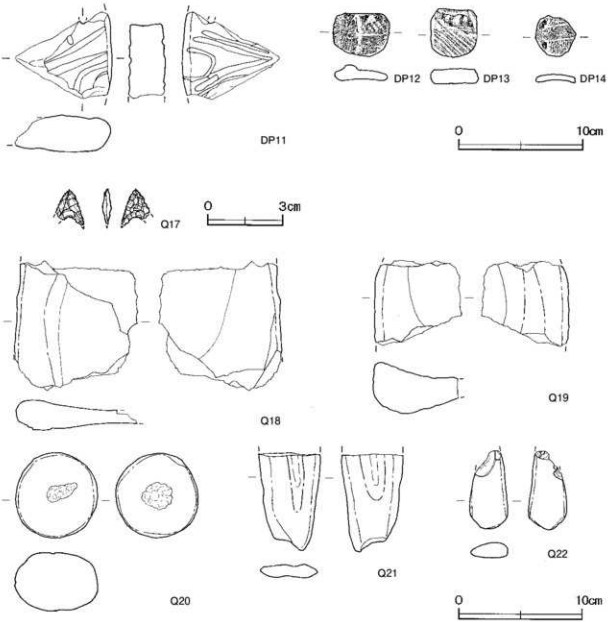
第15図　第５・６・10号住居跡実測図(1)



第16図　第５・６・10号住居跡実測図(2)



第17図　第５・６・10号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図　第５・６・10号住居跡出土遺物実測図(2)

第５・６・10号住居跡出土遺物観察表（第17・18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
18	縄文土器	深鉢	[24.4]	(14.9)	－	長石・石英	黒褐	普通	沈線・キザミ→縄文RL→無文部磨き	覆土中	40%　PL17
19	縄文土器	台付鉢	24.4	(15.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	条線→キザミ　口縁部下・体部屈曲部下にも キザミ	P35	50%　PL15

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP52	縄文土器	深鉢	長石	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	炉２下層	
TP53	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	P27上層	
TP54	縄文土器	深鉢	長石	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL　隆帯上にキザミ	覆土中	
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	対向弧線文	覆土中	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中	
TP57	縄文土器	浅鉢	長石	褐	普通	入組帯状文・刺突文　口縁部に突起　舟形土器か	覆土中	
TP58	縄文土器	浅鉢	長石	にぶい褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP59	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	条線→沈線→キザミ	覆土中	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	頸部条線	P50上層	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→縦位区画→口縁部区画	覆土中	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	口縁部結縄貼付→沈線→無節L充填	覆土中	
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口頸部区画→頸部隆文様施文	覆土中	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部削り出しにより隆起	覆土中	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部棒ナデ　体部縦位の削り	覆土中	
TP66	縄文土器	蓋	長石	褐	普通	降帯上・口唇部に細かいキザミ	P 3	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP11	土版	(5.0)	(5.5)	2.1	(47.0)	にぶい褐　長石・石英・赤色粒子	残存する上端部に懸垂孔	覆土中	
DP12	土器片円盤	3.6	4.8	1.4	20.9	黄褐　長石・石英	安行１式平縁深鉢口縁部片利用　周縁研磨	P27	
DP13	土器片円盤	4.0	4.1	1.2	30.8	にぶい赤褐　長石・赤色粒子	粗製深鉢口縁部片利用　周縁研磨	覆土中	
DP14	土器片円盤	3.5	3.5	0.7	8.7	明褐　長石・石英・雲母	口縁部片利用　周縁打ち欠き	P 1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q17	石鏃	(2.1)	(1.6)	0.5	(1.0)	チャート	端部欠損	P37	
Q18	石皿	(11.1)	(10.5)	2.5	(412.0)	雲母片岩	正・裏面利用	炉1	
Q19	石皿	(7.2)	(7.4)	4.4	(225.0)	雲母片岩	正面利用	覆土中	
Q20	磨石	7.3	6.9	5.0	347.0	雲母片岩	正・裏面・側縁に研磨痕・敲打痕	覆土中	
Q21	有溝砥石	(8.5)	5.3	1.1	(54.0)	花崗岩	正・裏面に溝状の研磨痕	覆土中	
Q22	磨石	(6.8)	3.3	1.4	(37.4)	頁岩	端部に研磨痕　二次焼成	P45	

第８号住居跡（第19・20図）

位置　調査Ⅱ B 区のＢ４g0区，標高11.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第17号溝に掘り込まれている。第14号住居跡，第134号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　壁を確認することはできなかったが，ピットの位置や深さなどから，炉を中心として径７mほどの円形と推測できる。

床面　炉の周囲が長径4.0m，短径3.0mの楕円形に一段下がっているが，硬化面は認められない。

炉　中央やや東寄りに位置する，長径130cm，短径70cmの楕円形の地床炉である。覆土に焼土ブロックを少量含んでいるものの，火床面は認められない。P14に掘り込まれている。

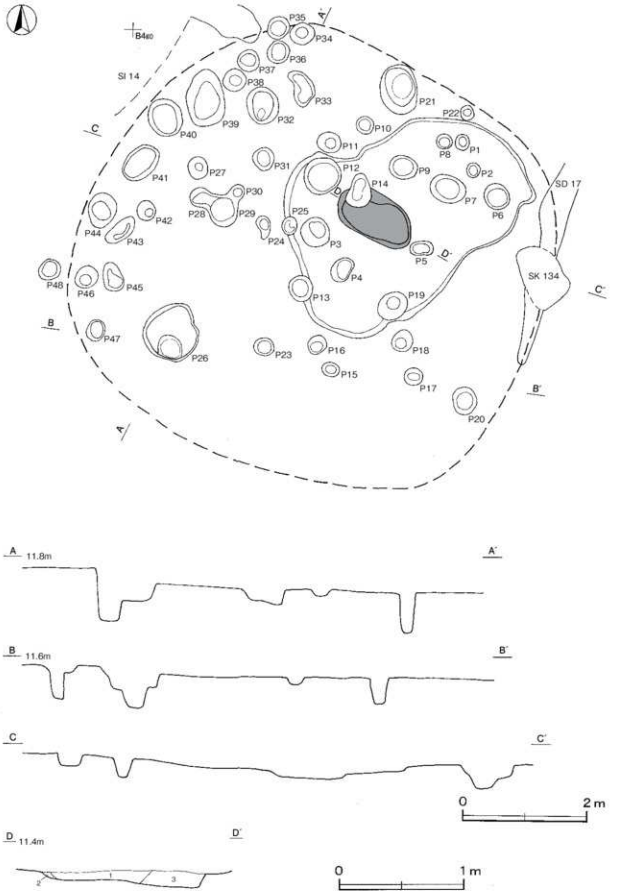
炉土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

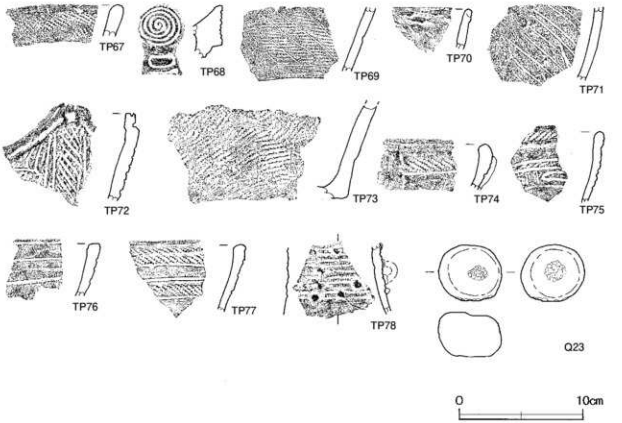
ピット　48か所。深さや位置からＰ６，Ｐ17，Ｐ26，Ｐ27，Ｐ33などが主柱穴で，北西部に弧状に巡るＰ34～Ｐ48は壁柱穴とみられる。またＰ11，Ｐ20，Ｐ23，Ｐ24なども深さがあり，別の柱穴配置も考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片153点，土製品１点（土器片円盤），石器１点（磨石），剥片２点（チャート）が出土している。後期前葉の堀之内式土器を若干含んでいるものの，出土土器の大部分は後期後葉のものである。Ｐ21の覆土中からは炭化種子（オニグルミ）・獣骨片が出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第19図　第８号住居跡実測図



第20図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P１	13	P８	19	P15	8	P22	－	P29	23	P36	12	P43	25
P２	11	P９	17	P16	26	P23	26	P30	24	P37	17	P44	38
P３	48	P10	15	P17	42	P24	56	P31	14	P38	39	P45	40
P４	16	P11	36	P18	28	P25	－	P32	20	P39	25	P46	28
P５	36	P12	13	P19	28	P26	51	P33	65	P40	34	P47	52
P６	23	P13	－	P20	33	P27	29	P34	15	P41	23	P48	15
P７	15	P14	31	P21	30	P28	22	P35	6	P42	54		

第８号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	普通	肥厚する口縁部に縄文RL施文	P３下層	
TP68	縄文土器	注口土器	長石	にぶい黄橙	普通	把手部分	P３下層	
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐	普通	沈線→縄文LR	P７上層	
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面に輪積み痕	P21上層	
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部条線施文	P21上層	
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	集合沈線	P26上層	
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	無節L　上側の割れ口に接合痕	P26上層	
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→コブ→縄文RL	P33上層	
TP75	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部隆起　縄文LR→沈線	P33上層	
TP76	縄文土器	鉢	長石・石英	褐	普通	口縁部沈線文	P46中層	
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P46中層	
TP78	縄文土器	壺	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→コブ→隆帯上キザミ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q23	磨石	4.9	5.4	3.7	127.6	安山岩	正・裏面・下端部に敲打痕	覆土中	

第11号住居跡（第21・22図）

位置　調査ⅡB区のB5i6区，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

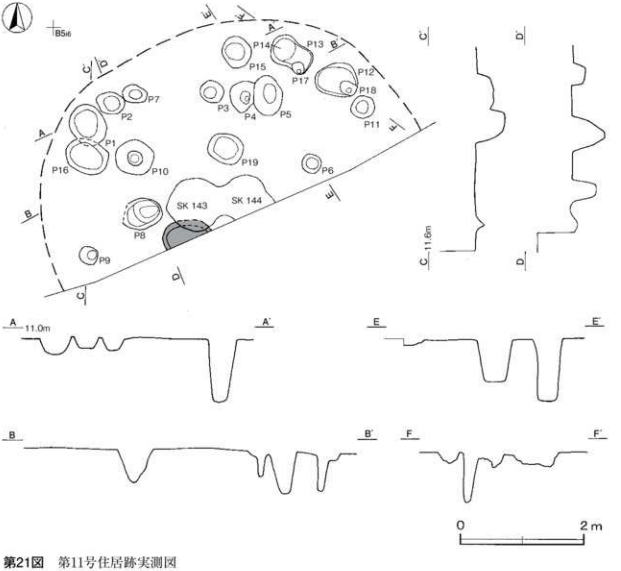
重複関係　第126号土坑を掘り込んでいる。また第143号土坑に掘り込まれている。第144号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　南半部が調査区域外であるが，炉とピットの位置から径6mほどの円形と推測できる。

床面　ほぼ平坦である。硬化面は認められない。

炉　南半部が調査区域外で，確認できた長径80cm，短径40cmの楕円形の地床炉である。覆土は焼土粒子をやや多く含んでいるが，硬化した部分はない。

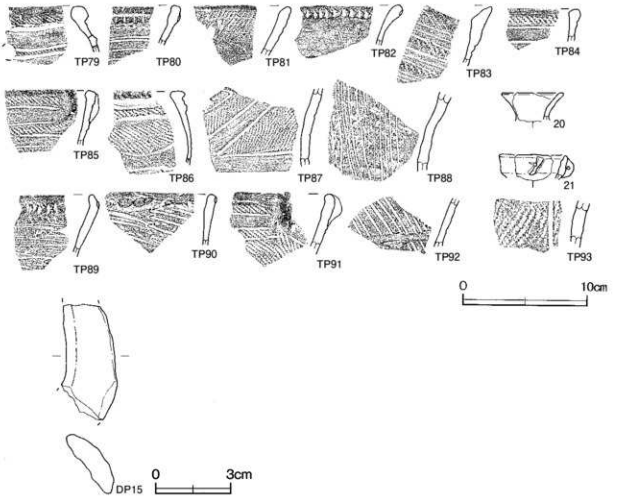
ピット　19か所。P5，P10が位置と深さから主柱穴，P1，P2，P7，P9，P11～P18が壁柱穴とみられる。覆土はやや黒味の強い褐色土で，ローム粒子を少量含むものが多い。



第21図　第11号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片274点，土製品１点（貝輪状土製品），石器２点（石皿，磨石），石核２点（チャート），剥片６点（チャート５，黒曜石１）が出土している。遺物はすべてピット覆土中から出土したもので，後期前葉の堀之内式土器を若干含んでいるものの，大部分が後期後葉の曽谷式から安行１式の土器である。20・21のミニチュア土器はＰ８，Ｐ11から，DP15はＰ17の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は出土土器から，後期後葉の曽谷式から安行１式期と考えられる。



第22図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
Ｐ１	27	Ｐ４	39	Ｐ７	20	Ｐ10	52	Ｐ13	17	Ｐ16	43	Ｐ19	67
Ｐ２	20	Ｐ５	68	Ｐ８	38	Ｐ11	17	Ｐ14	21	Ｐ17	39		
Ｐ３	104	Ｐ６	9	Ｐ９	16	Ｐ12	20	Ｐ15	100	Ｐ18	77		

第11号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
20	縄文土器	ミニチュア	[5.3]	(2.5)	－	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	歪み　外面ナデ調整	Ｐ８中層	40%
21	縄文土器	ミニチュア	[5.9]	(2.1)	－	長石	黒褐	普通	ノの字状の突起	Ｐ11上層	50%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP79	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰褐	普通	隆帯上に縄文RL→沈線	P１上層	
TP80	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	口縁部隆帯貼付→沈線→キザミ	P４上層	
TP81	縄文土器	深鉢	石英・雲母	黒褐	普通	口縁部沈線→縄文LR	P７中層	
TP82	縄文土器	深鉢	長石	黒褐	普通	口縁部にキザミ　磨き調整	P７中層	
TP83	縄文土器	深鉢	長石	暗灰黄	良好	二次焼成　発泡化	P７下層	
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P10上層	
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P８上層	
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P８上層	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	P８上層	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	櫛歯状工具による条線	P８上層	
TP89	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内面に凹線状のナデ	P９上層	
TP90	縄文土器	深鉢	石英	にぶい橙	普通	口縁部内面に凹線状のナデ	P９上層	
TP91	縄文土器	深鉢	長石	褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P16上層	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→横位の凹線状磨消	P16上層	
TP93	縄文土器	深鉢	長石	暗褐	普通	縄文LR→沈線	P11上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP15	円錐状土製品	(5.0)	2.4	2.6	(16.8)	にぶい黄橙　長石	ナデ調整	P17中層	

第12号住居跡（第23・24図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５h2区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第18号溝に掘り込まれている。第４号住居跡と重複しているが，覆土による新旧関係は不明である。遺存状態から第４号住居跡が新しいと考えられる。

規模と形状　壁が確認できなかったが，ピットと焼土の位置から，第４号住居跡内のＰ18，Ｐ19を出入口ピットとして，径６ｍほどの円形と推測される。主軸方向はＮ－26°－Ｅである。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　Ｐ３の南側に位置する，径60cmの円形の地床炉である。焼土は薄く，掘り込みは伴っていない。

ピット　19か所。Ｐ18，Ｐ19が出入口ピットである。深さのあるＰ10，Ｐ12，Ｐ15，Ｐ16，Ｐ17が主柱穴で，Ｐ１，Ｐ６～Ｐ９が壁柱穴とみられる。Ｐ12の覆土はロームブロックを含んでいるが，堆積状況から自然堆積とみられる。

Ｐ12土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　褐色　ロームブロック中量

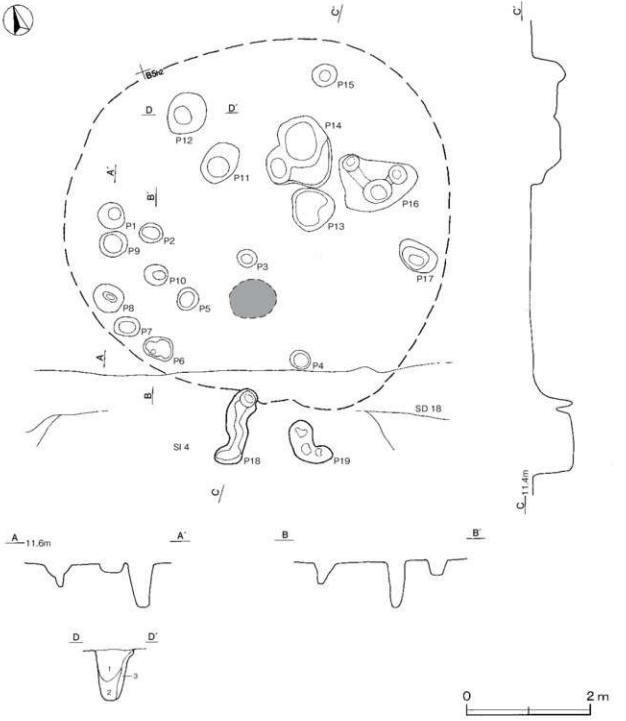
遺物出土状況　縄文土器片661点，土製品１点（土器片円盤），焼成粘土塊１点，剥片16点（チャート８，黒曜石２，片岩６）が出土している。すべてピット覆土中からの出土で，土器では後期前葉や晩期中葉のものも含まれるが，全体的には後期後葉のものである。Ｐ17から出土したTP111は外面に網代圧痕がみられ，「籠目土器」の可能性がある。

所見　時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

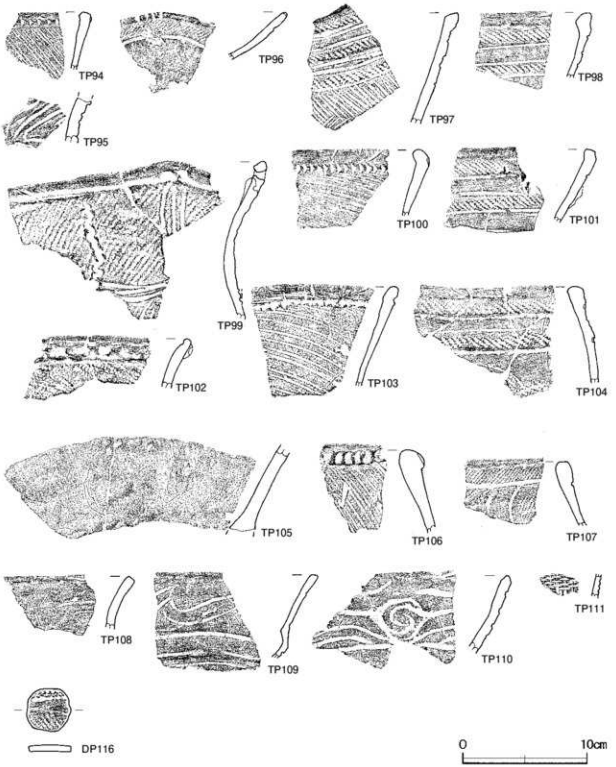
第12号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	70	P 4	12	P 7	14	P 10	75	P 13	20	P 16	70	P 19	39
P 2	24	P 5	19	P 8	36	P 11	50	P 14	50	P 17	50		
P 3	−	P 6	34	P 9	16	P 12	90	P 15	48	P 18	40		



第23図　第12号住居跡実測図



第24図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	条線→口縁部キザミ→口縁部区画沈線	P３上層	
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線文	P７上層	
TP96	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	沈線→縄文LR　口唇部にキザミ	P12上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL・頸部条線	P14	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P14	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文LR→沈線	P16	
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	条線→口縁部キザミ	P14	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P15中層	
TP102	縄文土器	深鉢	白色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文RL→口縁部結束痕貼付　口縁部内面円形施文	P15中層	
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	条線→口縁部キザミ	P15中層	
TP104	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線→縄文RL→隆帯下キザミ	P15中層	
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位の磨き	P16	
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	条線→口縁部結束痕貼付	P16上層	
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR	P16上層	
TP108	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部ナデ調整	P16上層	
TP109	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・小礫	明赤褐	普通	入組帯状文	P16下層	
TP110	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	上下対向弧線文・三叉状入り組み文	P16下層	
TP111	縄文土器	鉢 a	長石・石英	にぶい黄橙	普通	1越1沿1逆の圧痕　部分的に2越	P17上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP16	土器片円盤	3.5	3.4	0.5	8.5	黒褐 密母　長石・石英・	安行1式深鉢体部破片利用　周縁3/4研磨	P15中層	

第13・22・23号住居跡（第25 ～ 31図）

位置　調査Ⅱ A区のB 4 h7・8区，標高11.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係　覆土や出入口ピット，壁柱穴の位置などから，第13号住居跡，第23号住居跡とも２回以上の建て替えが推測できる。第13号住居跡はP113 ～ P117を出入口ピットとし，P１～ P15，P88 ～ P99などの壁柱穴が巡る掘り込みを壁とする第13A号住居跡と，小形で深い掘り込みを有し，P78，P79を出入口ピットとする第13B号住居跡がある。覆土の堆積状況や炉の位置などから，第13B号住居跡から第13A号住居跡への変遷が捉えられる。北側の一部が第19号住居の出入口ピットに掘り込まれている。また第158・160号土坑と重複しており，第13B号住居跡が最も古く，第158・160号土坑に掘り込まれている。また第13A号住居は第158号土坑を掘り込んでいる。

第22号住居跡は，炉とピットから住居跡としたが，壁は確認できなかった。第23A号住居，第18号溝に掘り込まれている。第13A・13B・14・19号住居跡との新旧関係は不明である。

第23号住居跡は，P79，P81を出入口ピットとし，P140 ～ P158などが巡る掘り込みを壁とする第23A号住居跡と，P166，P167，P181を出入口ピットとする第23B号住居跡がある。第23A・B号住居跡は，覆土と壁の遺存状況から第23B号住居跡から第23A号住居跡への変遷が推測できる。第13号住居跡との関係は，覆土の堆積状況から第13A号住居跡を掘り込んでいる。南西部が第15号住居に掘り込まれている。また第13号住居跡，第23号住居跡とも，第25号住居跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　第13A号住居跡は長径6.5m，短径5.5mの楕円形で，主軸方向はN－90°である。壁高は30cmで，外傾して立ち上がっている。第13B号住居跡は径4.5mの円形で，主軸方向はN－22°－Eである。壁高は20cmで，外傾して立ち上がっている。

第23A号住居跡は，長径7.2m，短径5.6mほどの楕円形で，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は10cmほどで，外傾して立ち上がっている。南東壁際で小ピットが二重に巡る部分があることなどから，東壁を拡張して

いる可能性がある。第23B号住居跡は，出入口ピットと壁柱穴の位置から径６ｍほどの円形と推測できる。主軸方向はＮ－３°－Ｗである。第22号住居跡については，規模・形状とも不明である。

床面　いずれもほぼ平坦であるが，第23Ａ号住居跡は西側に向かって若干傾斜している。第13Ｂ・23Ａ号住居跡の床面は全体的に硬化している。

炉　第13Ａ号住居跡の炉は長径210㎝，短径110㎝の楕円形の地床炉で，15㎝ほどの厚さで焼土と灰が堆積し，焼土中には骨片・骨粉が含まれている。第22号住居跡の炉は径100㎝ほどの円形の地床炉で，焼土と灰が厚く堆積しており，火床面は硬化している。炉掘り込みの底面には深さ40㎝のピット状の掘り込みがある。第23Ａ号住居跡の南東部にも径50㎝，厚さ５㎝ほどの焼土の散布がみられる。

第13Ａ号住居跡炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・骨粉少量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，灰中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量

第22号住居跡炉土層解説

1　橙　　色　焼土粒子・灰多量，炭化粒子・骨粉微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック・灰多量，骨粉微量
3　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・灰少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

ピット　第13・22・23号住居跡合わせて179か所。それぞれの帰属を明らかにすることはできなかったが，出入口ピットとの位置や深さなどから，第13Ａ号住居跡の主柱穴はＰ26，Ｐ38，Ｐ51，Ｐ84，第13Ｂ号住居跡の主柱穴はＰ68，Ｐ69，Ｐ72，Ｐ73，Ｐ76，Ｐ85～Ｐ87と推測できる。第13Ａ号住居跡は壁際に多数の壁柱穴が巡っている。第23Ａ号住居跡の主柱穴はＰ53，Ｐ74，Ｐ77，Ｐ130が，第23Ｂ号住居跡の主柱穴は，深さや出入口ピットとの位置からＰ27，Ｐ50，Ｐ82，Ｐ165などが推測できる。第22号住居跡は第23号住居に掘り込まれていること，また東側３分の１ほどが調査区域外であることから不明な部分が多いが，炉との位置や深さなどからＰ158，Ｐ172，Ｐ175や，第14号住居跡の帰属としたＰ34などが本跡に伴う可能性がある。ピットの覆土は暗褐色でローム粒子を多く含み，焼土粒子・炭化粒子を微量に含むものが多い。

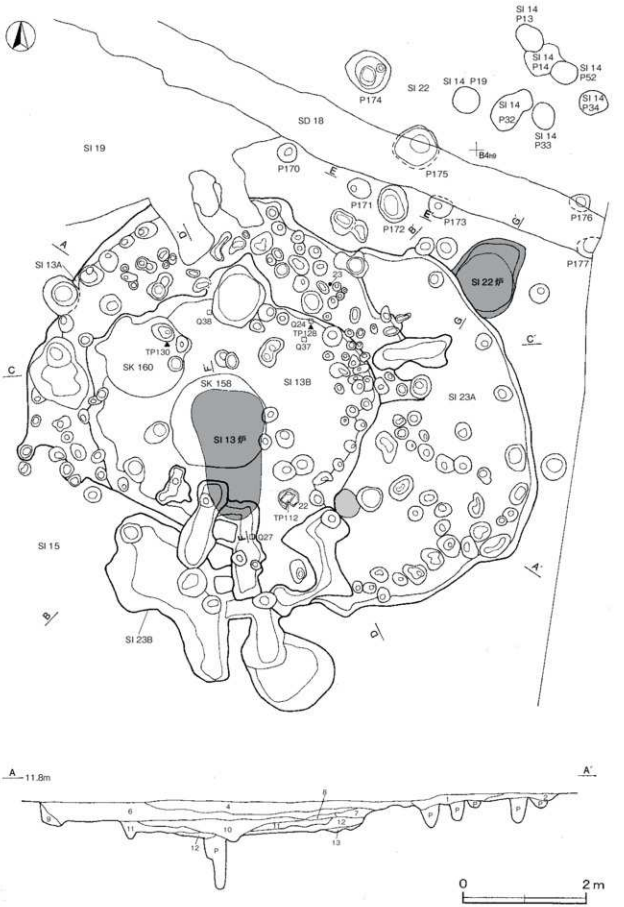
Ｐ171・172土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量

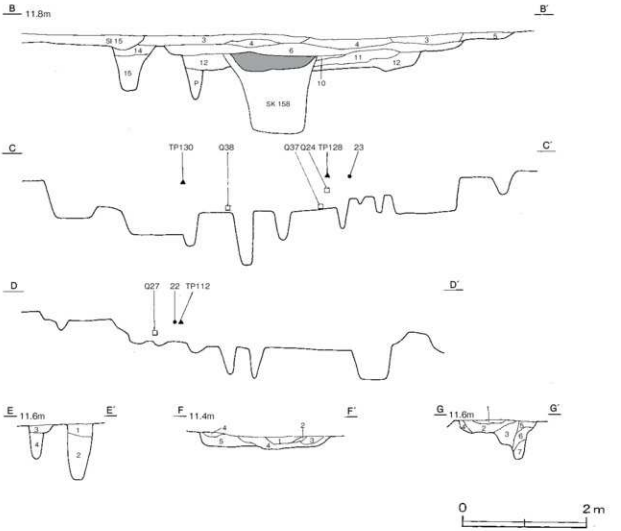
覆土　第13・23号住居跡で15層に分層できる。第１～５層が第23Ａ号住居跡，第６～９層が第13Ａ号住居跡，第10～13層が第13Ｂ号住居跡，第14・15層が第23Ｂ号住居跡に帰属する。第13Ｂ号住居跡の第10・11層はロームブロックを含んでおり，埋め戻された後，第13Ａ号住居が構築されている。第13Ａ号住居跡，第23Ａ号住居跡はレンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。また焼土ブロックを多く含む第５層は，第23Ａ号住居跡の壁際に隅丸方形状に巡るように堆積している。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　極暗褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
6　黒　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
7　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・骨片微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量



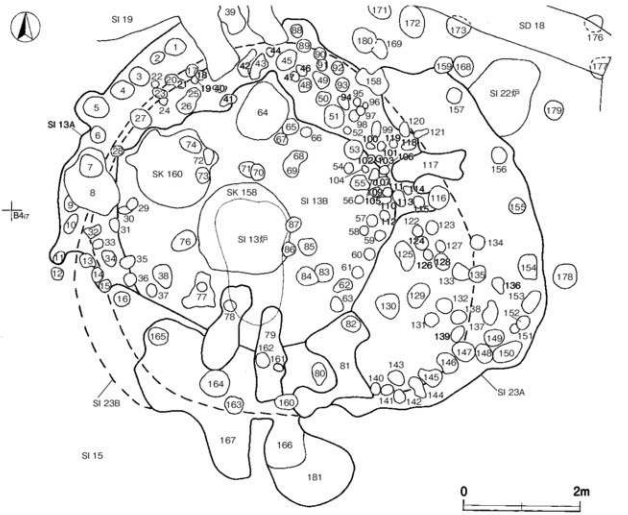
第25図　第13・22・23号住居跡実測図(1)



第26図　第13・22・23号住居跡実測図(2)

遺物出土状況　第13・22・23号住居跡あわせて縄文土器片2,292点，土製品21点（土偶２，土錘１，土器片円盤18），石器38点（石鏃１，石錘１，打製石斧４，磨製石斧１，石皿７，磨石13，凹石１，敲石１，砥石９），石製品２点（垂飾品，石剣・石棒），石核３点（瑪瑙２，黒曜石１），剥片17点（黒曜石13，チャート４）が出土している。22，TP112は第23A号住居跡の出入口ピット北側から正位で出土した土器で，覆土第４層下面から埋設された深鉢体部内の覆土は焼土粒子を多く含んでいる。出土位置から第23A号住居跡に伴う埋設土器と捉えることも可能である。覆土中及びピット覆土中から出土した土器の多くは後期後葉曽谷式から安行１式のものであるが，下層ほどやや古い傾向がある。TP115はP64から，TP116･TP117はP68から出土したもので，後期前葉から後期中葉に比定できる。これらのピットは第13B号住居跡に伴うものと推測される。

所見　時期は，出土土器から最も古い第13B号住居跡が後期前葉から後期後葉とみられる。それ以外の住居跡は後期後葉の曽谷式期から安行１式期と考えられ，比較的短期間の重複と推測できる。また第23A号住居跡の東壁際で確認できた焼土は，焼成による床面の硬化は見られず，また炭化材なども認められないことから，住居焼失時のものとするより，住居廃絶時に廃棄されたものか，または住居廃絶に伴う何らかの儀礼的な行為のものと推測できる。このような住居跡覆土中にみられる帯状の焼土の堆積は，第17A・19A号住居跡でも確認されている。

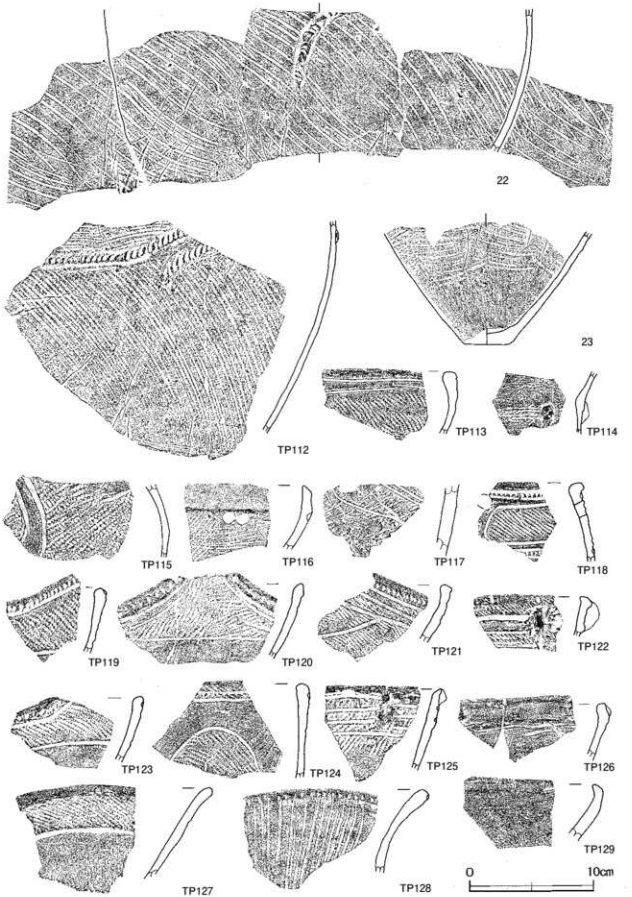


第27図　第13・22・23号住居跡ピット番号指示図

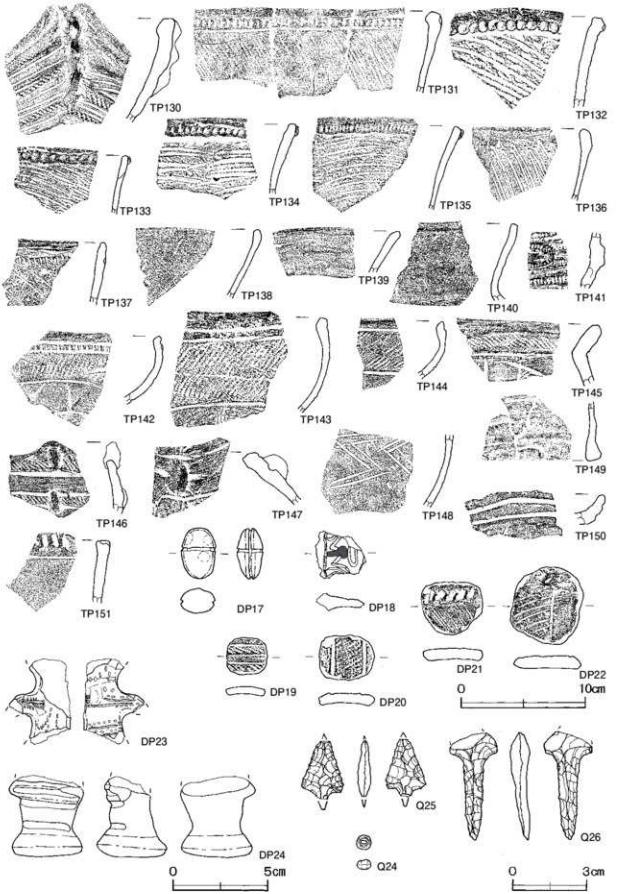
第13・22・23号住居跡ピット計測表

単位：cm

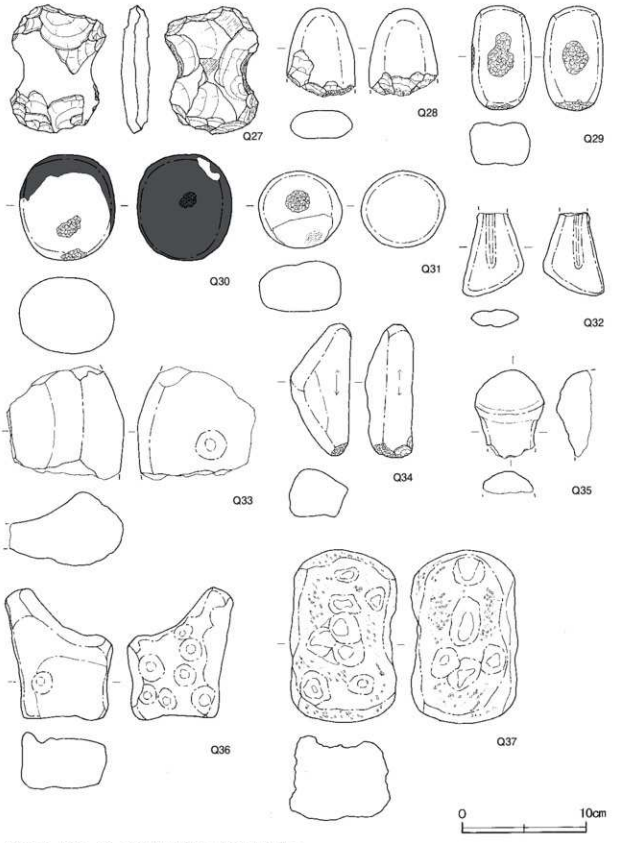
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	30	P 24	32	P 47	17	P 70	82	P 94	24	P 118	2	P 141	25	P 164	101
P 2	27	P 25	19	P 48	16	P 71	31	P 95	21	P 119	28	P 142	12	P 165	70
P 3	37	P 26	34	P 49	25	P 72	48	P 96	27	P 120	51	P 143	29	P 166	13
P 4	30	P 27	62	P 50	38	P 73	53	P 97	35	P 121	24	P 144	29	P 167	54
P 5	24	P 28	18	P 51	82	P 74	77	P 98	38	P 122	17	P 145	28	P 168	15
P 6	40	P 29	37	P 52	26	P 76	35	P 99	21	P 123	28	P 146	38	P 169	28
P 7	29	P 30	27	P 53	51	P 77	50	P 100	17	P 124	19	P 147	36	P 170	15
P 8	40	P 31	18	P 54	34	P 78	27	P 101	25	P 125	22	P 148	24	P 171	51
P 9	14	P 32	27	P 55	5	P 79	33	P 102	20	P 126	12	P 149	38	P 172	96
P 10	20	P 33	15	P 56	7	P 80	19	P 103	18	P 127	12	P 150	15	P 173	24
P 11	27	P 34	34	P 57	9	P 81	19	P 104	8	P 128	35	P 151	5	P 174	67
P 12	15	P 35	25	P 58	11	P 82	42	P 105	61	P 129	28	P 152	8	P 175	93
P 13	24	P 36	30	P 59	10	P 83	17	P 106	37	P 130	105	P 153	8	P 176	17
P 14	11	P 37	18	P 60	11	P 84	47	P 107	26	P 131	28	P 154	11	P 177	29
P 15	15	P 38	54	P 61	23	P 85	46	P 109	−	P 132	26	P 155	24	P 178	17
P 16	25	P 39	14	P 62	20	P 86	34	P 110	17	P 133	30	P 156	28	P 179	−
P 17	26	P 40	51	P 63	5	P 87	54	P 111	30	P 134	29	P 157	26	P 180	−
P 18	31	P 41	12	P 64	72	P 88	16	P 112	5	P 135	10	P 158	102	P 181	33
P 19	20	P 42	25	P 65	54	P 89	40	P 113	20	P 136	15	P 159	43		
P 20	26	P 43	30	P 66	36	P 90	18	P 114	25	P 137	17	P 160	79		
P 21	14	P 44	9	P 67	58	P 91	14	P 115	11	P 138	8	P 161	2		
P 22	23	P 45	23	P 68	45	P 92	25	P 116	53	P 139	22	P 162	10		
P 23	19	P 46	29	P 69	58	P 93	15	P 117	53	P 140	24	P 163	47		



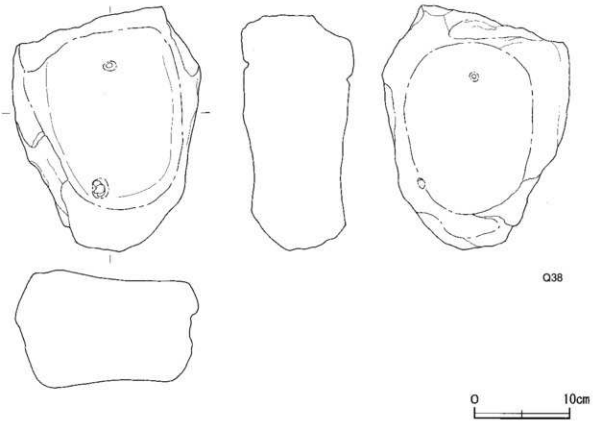
第28図　第13・22・23号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図　第13・22・23号住居跡出土遺物実測図(2)



第30図　第13・22・23号住居跡出土遺物実測図(3)



第31図　第13・22・23号住居跡出土遺物実測図(4)

第13・22・23号住居跡出土遺物観察表（第28 ～ 31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
22	縄文土器	深鉢	－	(13.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	条縄→結縄貼付　内面下半煤付着	埋設土器	30%　PL15
23	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	3.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	条縄　体部下端・底部磨き	覆土中層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	条縄→結縄貼付	埋設土器	
TP113	縄文土器	鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部縄文RL横位回転施文	炉下層	
TP114	縄文土器	壺ヵ	長石	にぶい黄橙	普通	縄文LR→沈線→コブ貼付	炉上層	
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	縄文LR→沈線→沈線間磨消	P64中層	
TP116	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	条縄　口縁部下に2個1対の押圧文	P68下層	
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	無節L→沈線	P68下層	
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	沈線→縄文RL→磨き　口縁部下に貫通孔	P79下層	
TP119	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL・口縁部キザミ	P79中層	
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部微隆起　沈線→縄文LR	P160上層	
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	縄文RL→沈線	覆土中層	
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP123	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP124	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き・口縁部キザミ	覆土下層	
TP125	縄文土器	深鉢	長石・石英・小礫	橙	普通	コブ→縄文LR→沈線	覆土上層	
TP126	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LRL　口縁部微隆起	覆土上層	
TP127	縄文土器	鉢	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部微隆起　沈線→縄文RL	覆土上層	
TP128	縄文土器	台付鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口唇部キザミ→条縄	覆土上層	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄褐	普通	口縁部屈曲　ナデ	覆土下層	
TP130	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP131	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	条線→口縁部キザミ→口縁部区画沈線	覆土上層	
TP132	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	地縄文→条線→口縁部結縄貼付　口縁部内面に凹線	覆土上層	
TP133	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部結縄→条線	覆土中層	
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	地縄文→口縁部結縄貼付→条線　口縁部内面に凹線	覆土上層	
TP135	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	不良	地縄文→横位の条線→縦位区画	覆土上層	
TP136	縄文土器	深鉢	石英	灰黄	普通	斜位の条線→縦位の磨消	覆土上層	
TP137	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	条線→キザミ　口縁部内・外面に凹線	覆土下層	
TP138	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部厚く屈曲	覆土下層	
TP139	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	内・外面ナデ	覆土上層	
TP140	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	覆土下層	
TP141	縄文土器	壺ヵ	長石・雲母	にぶい橙	普通	沈線→キザミ	覆土上層	
TP142	縄文土器	鉢	長石	にぶい黄橙	良好	沈線→縄文LR→口縁部キザミ	覆土上層	
TP143	縄文土器	鉢	長石・雲母	明褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土上層	
TP144	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中層	
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	頸部に磨消縄文　沈線→縄文RL	覆土上層	
TP146	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土下層	
TP147	縄文土器	鉢ヵ	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL　コブ貼付	覆土下層	
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・小礫	にぶい黄橙	普通	縦位の結束文	覆土上層	
TP149	縄文土器	台付土器	長石・黒色粒子	灰黄	不良	隆帯上に縄文施文　二次焼成　発砲化	覆土上層	
TP150	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	沈線→磨き	覆土下層	
TP151	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部にキザミ	P 173上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP17	土錘	4.0	2.7	2.0	21.7	にぶい黄橙 長石・石英	指頭による整形　沈線横方向→縦位方向	覆土上層	PL21
DP18	不明土製品	(4.0)	(4.0)	1.3	(14.4)	浅黄橙　長石・石英	裏面接合痕の可能性　二次焼成	SI23床面	
DP19	土器片円盤	2.9	3.1	0.7	7.5	明赤褐　長石・雲母・赤色粒子	安行１式深鉢体部破片利用　周縁全周研磨	覆土中層	
DP20	土器片円盤	3.6	4.4	0.9	17.9	にぶい黄橙 長石・石英	堀之内１式深鉢体部破片利用　周縁研磨部分的	P 79上層	
DP21	土器片円盤	4.2	4.9	1.1	24.6	明褐　長石・石英・赤色粒子	粗製深鉢口縁部破片利用　周縁全周研磨	覆土上層	
DP22	土器片円盤	6.0	5.8	1.6	40.9	明褐　長石・赤色粒子	粗製深鉢口縁部破片利用　周縁研磨部分的	覆土上層	
DP23	土偶	(4.5)	(3.2)	1.2	(12.6)	黄褐　長石	右側面は接合痕　正中線部分で調整	覆土上層	PL23
DP24	土偶	(4.3)	(4.0)	(3.7)	(43.9)	にぶい橙　長石・石英	脚部　腰部分に隆帯・沈線文	覆土中層	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q24	乗擦品	0.55	0.55	0.38	0.2	長石質	穿孔一方向	覆土中層	PL25
Q25	石鏃	(2.2)	1.6	0.5	(1.2)	チャート	押圧調整　裏面に風化調整痕	覆土上層	PL25
Q26	石鏃	(4.3)	1.9	0.7	(2.6)	チャート	頭部に風化調整痕	覆土上層	PL25
Q27	打製石斧	10.2	7.5	2.0	188.0	凝灰岩	裏面に研磨痕　特にくびれ部に明瞭	覆土中層	PL26
Q28	磨製石斧	(7.0)	5.5	2.2	(138.2)	蛇紋岩	先端部欠損後敲石に転用ヵ　一部研磨痕	覆土中層	PL27
Q29	磨石	8.4	4.8	3.4	239.0	安山岩	正・裏・一側縁・下端部に敲打痕	覆土上層	
Q30	磨石	8.4	7.6	6.0	610.0	安山岩	正・裏・下端部に敲打痕	SI23床面	
Q31	磨石	6.1	6.6	4.0	228.0	安山岩	正面に敲打痕　下端の割れ口部分に研磨痕	覆土下層	
Q32	砥石	(6.6)	4.9	1.4	(41.1)	花崗岩	正・裏面に溝状の研磨痕	覆土上層	
Q33	石錘	(9.1)	(9.3)	5.9	(599.0)	多孔質安山岩	裏面に凹み	覆土下層	
Q34	砥石	10.6	4.7	3.9	232.0	凝灰岩	下端部に敲打痕	覆土中	
Q35	石棒	(7.1)	(5.4)	(2.8)	(129.4)	安山岩	敲打整形	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q36	石皿	10.5	8.5	5.9	361.0	安山岩	表面に凹み　側縁も研磨明瞭	覆土上層	
Q37	円石	13.8	8.5	7.5	792.0	安山岩	正・裏面に凹み	覆土下層	PL28
Q38	石皿	(25.8)	19.6	12.2	(9)6000	安山岩	正面に凹み　側縁も研磨	覆土下層	PL28

第14号住居跡（第32・33図）

位置　調査ⅡA区のB４g9区，標高11.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第８・19・22号住居跡，第149号土坑と重複しているが，いずれも新旧関係は不明である。

規模と形状　覆土がほとんどなかったため壁を確認することができなかったが，出入口ピットやその他のピットの位置から，径８mほどの円形と推測できる。主軸方向はN－65°－Wである。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

ピット　49か所。形状からP49～P51が出入口ピットとみられる。主柱穴は位置や深さからP１，P４，P41，P45などで，調査区域外に想定される１か所を合わせて５本主柱配置が推測できる。P６，P９，P10，P23～P25，P31，P37などが壁柱穴とみられる。また，この他にも深さのあるピットがあり，さらに数回の建て替えが考えられる。ピットの覆土はロームブロックを含む暗褐色土の単一層のものが多い。P19，P32～P34は位置的に第22号住居跡に帰属する可能性がある。

遺物出土状況　縄文土器片178点，石器１点（磨製石斧）が出土している。遺物の多くはピットの覆土中から出土したもので，ほとんどが後期後葉のものである。P18の覆土上層からは，製塩土器片１点が出土している。またP14の覆土上層からは炭化種子１点が出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第14号住居跡ピット計測表

単位：cm

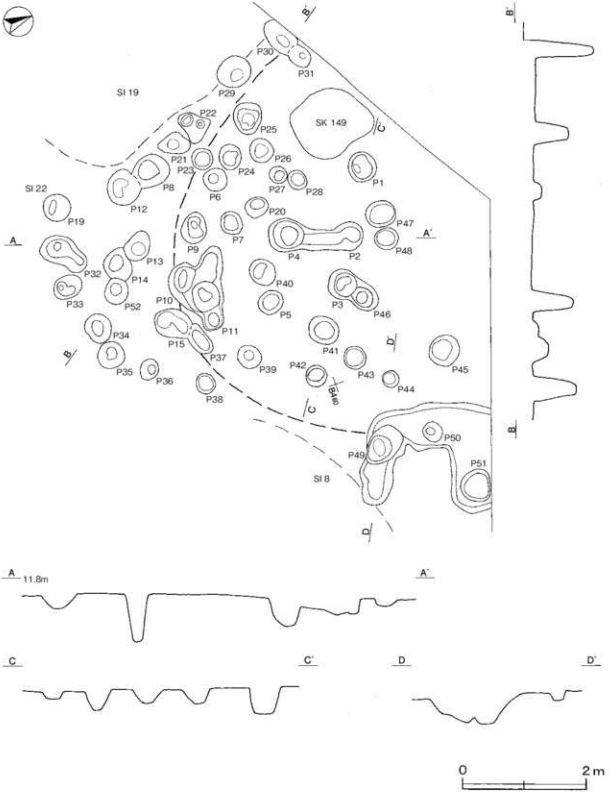
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P１	41	P８	28	P15	－	P25	57	P32	22	P39	39	P46	17
P２	25	P９	55	P19	42	P26	－	P33	－	P40	22	P47	10
P３	25	P10	39	P20	65	P27	30	P34	68	P41	30	P48	11
P４	46	P11	－	P21	24	P28	13	P35	25	P42	13	P49	45
P５	29	P12	19	P22	37	P29	58	P36	31	P43	11	P50	93
P６	62	P13	76	P23	16	P30	90	P37	12	P44	16	P51	40
P７	16	P14	21	P24	15	P31	－	P38	14	P45	79	P52	25

第14号住居跡出土遺物観察表（第33図）

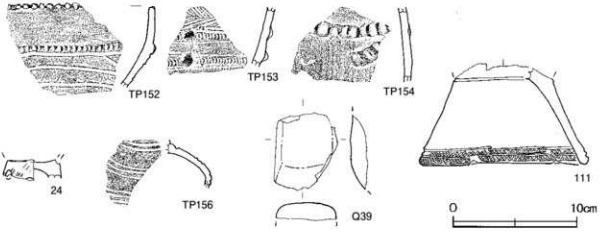
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
24	縄文土器	台付鉢	－	(1.5)	－	白色粒子	橙	普通	脚部　無節L施文　透かし孔４孔	P８上層	20%
111	縄文土器	台付鉢	－	(8.0)	13.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	縄文RL→沈線	P50上層	50%　PL16

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP152	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部無文地に横位沈線文	P10下層	
TP153	縄文土器	深鉢	石英・雲母	橙	普通	隆帯上キザミ→コブ貼付	P６上層	
TP154	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい褐	普通	条線→結線貼付	P５上層	
TP156	縄文土器	注口ｾ	長石	にぶい橙	普通	３本１単位の沈線文　体部磨き	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q39	磨製石斧	(6.2)	(5.0)	(1.4)	(66.2)	砂岩	定角式か	床面	



第32図　第14号住居跡実測図



第33図　第14号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡（第34 ～ 36図）

位置　調査Ⅱ A区のB 4 j7区，標高112mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第23A号住居跡を掘り込んでいる。第26号住居跡，第154・161・162号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　壁が確認できず，炉とピットの配置から径6 mほどの円形と推測できる。また炉の南東4 mほどのところに方形に巡る立ち上がりが確認できたが，この立ち上がりが本跡に伴うものかは不明である。

床面　ほぼ平坦であるが，緩やかに南西方向に傾斜している。硬化面は認められない。

炉　径120cmの円形の地床炉で，掘り込みは擂鉢状に中央部が下がっている。焼土が厚く堆積し，底面は硬化している。

炉土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　39か所。位置や深さなどから，Ｐ５，Ｐ31，Ｐ35，Ｐ39が主柱穴とみられる。出入口ピット，壁柱穴とみられるピットは確認できなかった。Ｐ１はローム粒子と焼土粒子を多く含んでいることから人為堆積とみられ，Ｐ１を埋め戻した後，炉が構築されている。

Ｐ１土層解説

1　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・骨粉少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

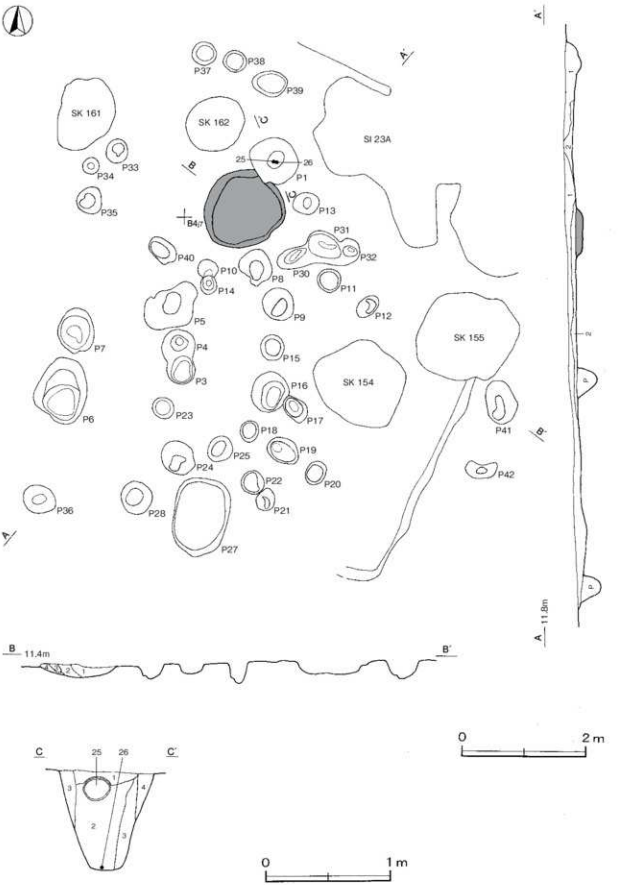
覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

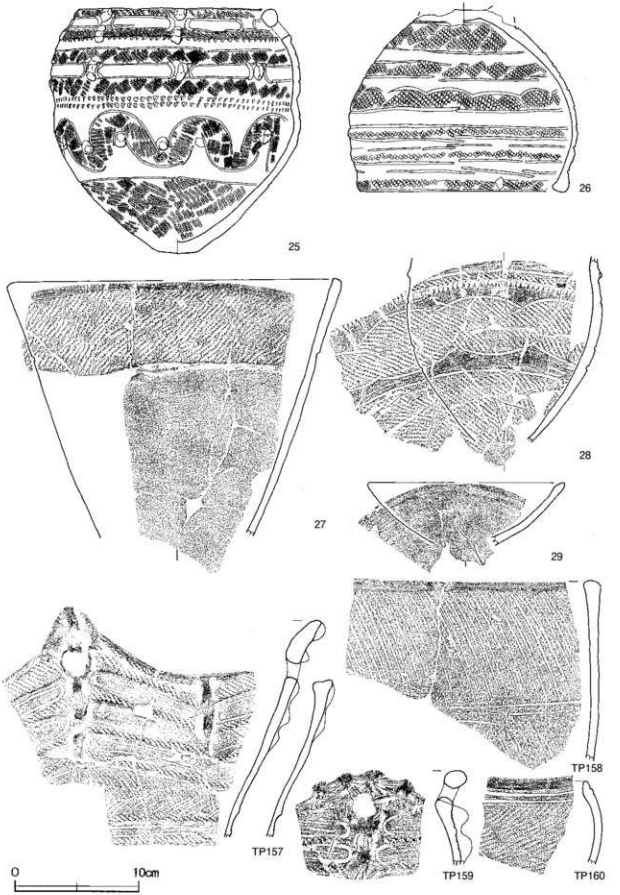
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・骨粉微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片1,492点，土製品６点（土器片円盤），石器８点（石鏃２，磨製石斧１，石皿３，磨石２），剥片15点（黒曜石３，チャート４，石英１，その他７）が出土している。25はＰ１覆土上層から横位で，26はＰ１底面から逆位で出土している。その他の遺物は覆土中，及びピット覆土中から出土したもので，出土土器はほとんどが後期後葉のものである。

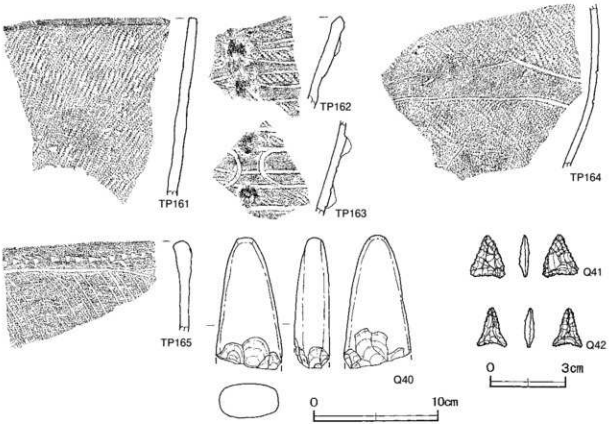
所見　時期は，出土土器から後期後葉の安行１式期と考えられる。



第34図　第15号住居跡実測図



第35図　第15号住居跡出土遺物実測図(1)



第36図　第15号住居跡出土遺物実測図(2)

第15号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	77	P 7	100	P 12	32	P 17	43	P 22	15	P 28	105	P 34	10	P 39	91
P 3	76	P 8	21	P 13	43	P 18	11	P 23	40	P 30	24	P 35	26	P 40	9
P 4	44	P 9	27	P 14	56	P 19	13	P 24	28	P 31	48	P 36	54	P 41	28
P 5	40	P 10	39	P 15	9	P 20	44	P 25	39	P 32	58	P 37	22	P 42	7
P 6	128	P 11	12	P 16	37	P 21	30	P 27	66	P 33	15	P 38	20		

第15号住居跡出土遺物観察表（第35・36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	15.5	19.5	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL→コブ貼付・弧線文 体部下端縄文RL→削り　口縁部に２孔 整備時の研磨痕	Ｐ１上層	100%　PL17
26	縄文土器	台付鉢	－	(14.5)	16.2	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	脚部　沈線→縄文RL→無文部磨き	Ｐ１底面	50%　PL17
27	縄文土器	深鉢	[26.6]	(20.5)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に幅広い縄文帯LR　体部ナデ	覆土中	25%
28	縄文土器	深鉢	－	(14.7)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き・ 胴部隆帯ドキザミ	覆土中	10%
29	縄文土器	浅鉢	[15.6]	(5.0)	－	長石・石英	黒褐	普通	内・外面丁寧な磨き	覆土中	25%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP157	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	縄文RL→無文部磨き→枠状文	覆土中	
TP158	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線区画→条線→無文部磨き	覆土中	
TP159	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中	
TP160	縄文土器	鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中	
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	縄文LR横位回転施文	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	コブ→沈線→縄文RL→無文部磨き	P７中層	
TP163	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き→コブ貼付	P３中層	
TP164	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL	P７下層	
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	条線→口縁部ヤザミ→口縁部区画沈線	P１上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q40	磨製石斧	(10.5)	5.2	2.7	(233.0)	凝灰岩	定角式　下端部に敲打痕	P７上層	PL27
Q41	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.6	黒曜石	両面押圧剥離　凹基無茎鏃　裏面に主要剥離痕	覆土中	PL25
Q42	石鏃	1.2	1.6	0.4	0.4	黒曜石	両面押圧剥離　凹基無茎鏃　裏面に風化剥離痕	覆土中	PL25

第16号住居跡（第37・38図）

位置　調査Ⅱ A区のＣ４d6区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第20号住居，第31号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東壁と西壁では弧の形状が大きく異なっている。P48 ～ P50，P55 ～ P57を壁柱穴とするものを第16A号住居跡，P46，P47，P51 ～ P54，P58，P59を壁柱穴とするものを第16B号住居跡とする。第16A号住居跡は径5.5mほどの円形，第16B号住居跡は径６mほどの円形と推測できる。壁高は10 ～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床面　ほぼ平坦であり，全体的に硬化面が認められる。

炉　中央やや南寄りに位置する，長径90cm，短径60cmの楕円形の地床炉である。中央部が下がる擂鉢状で，火床面は硬化している。P28に掘り込まれている。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量

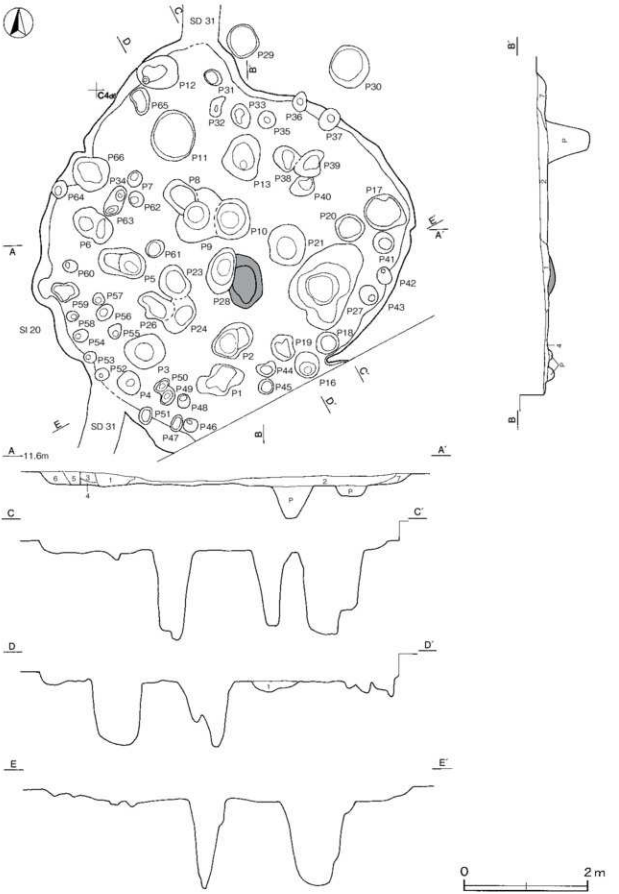
ピット　62か所。西壁際の壁柱穴が２重に巡ることや，平面形と炉の位置などから，第16A号住居跡の主柱穴はP24，P34，P39，P41，第16B号住居跡の主柱穴はP３，P６，P13，P27と推測できる。ピットの覆土はロームブロックを中量含む暗褐色土，及び黒褐色土のものが多い。

覆土　７層に分層できる。第１・２・７層が第16A号住居跡，第３～６層が第16B号住居跡に帰属する。いずれもロームブロックを含んでいるが，特に西壁際の第３層から第６層はブロック状に堆積しており，埋め戻された後，再度掘り込まれて第１・２・７層が自然堆積している。

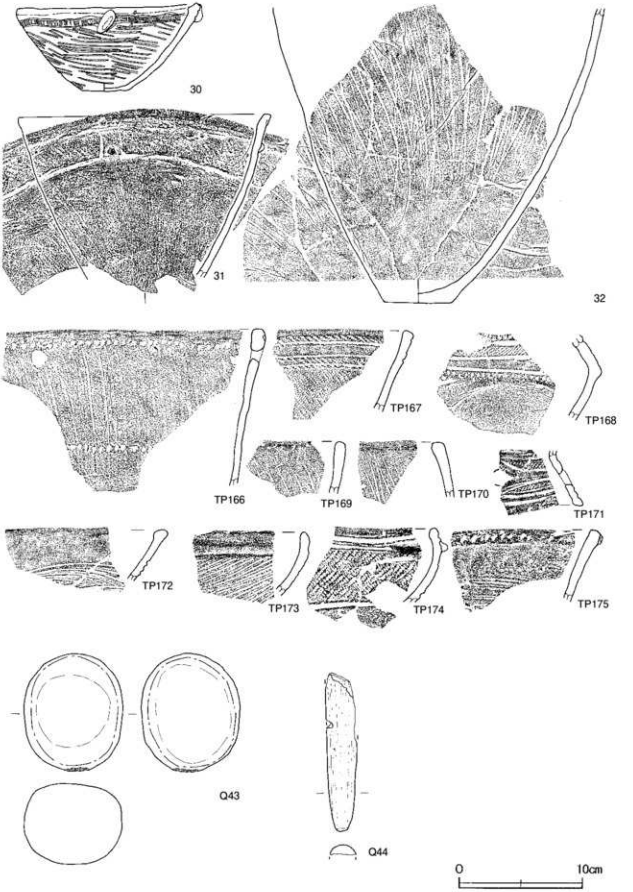
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子中量
3　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック多量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　褐色　ロームブロック中量
7　褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片268点，土製品２点（土器片円盤），石器１点（磨石），石製品１点（石剣），剥片11点（黒曜石８，チャート２，その他１），焼成粘土塊３点が出土している。覆土中，及びピットの覆土中から出土している土器は，後期中葉の加曽利Ｂ式を少量含んでいるものの，ほとんどが後期後葉の曽谷式から安行１式のものである。30・31は住居掘り込み外のP30から出土している。

所見　覆土の堆積状況や炉の位置から，第16B号住居跡から第16A号住居跡への変遷が捉えられる。第16A号住居跡は主柱穴が数基重複していることから，さらに数回の建て替えが考えられる。時期は，出土土器から後期後葉の曽谷式期から安行１式期とみられ，比較的短期間のうちに建て替えがなされたものと推測できる。



第37図　第16号住居跡実測図



第38図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	25	P 10	106	P 21	122	P 32	15	P 41	50	P 50	25	P 59	9
P 2	140	P 11	103	P 23	51	P 33	17	P 42	44	P 51	7	P 60	16
P 3	110	P 12	10	P 24	66	P 34	13	P 43	43	P 52	22	P 61	25
P 4	30	P 13	144	P 26	－	P 35	27	P 44	5	P 53	22	P 62	18
P 5	88	P 16	23	P 27	133	P 36	13	P 45	8	P 54	34	P 63	－
P 6	112	P 17	17	P 28	93	P 37	17	P 46	13	P 55	16	P 64	22
P 7	24	P 18	20	P 29	63	P 38	22	P 47	8	P 56	9	P 65	21
P 8	89	P 19	18	P 30	81	P 39	45	P 48	8	P 57	17	P 66	46
P 9	145	P 20	12	P 31	21	P 40	25	P 49	29	P 58	16		

第16号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
30	縄文土器	浅鉢	14.0	7.1	3.6	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	コブ→口縁部区画・キザミ→体部条線 コブ１か所	P 30上層	100%　PL16
31	縄文土器	深鉢	[20.2]	(12.9)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部下端沈線→弧線文→縄文RL→ コブ貼付　体部削り→磨き	P 30中層	30%　PL16
32	縄文土器	深鉢	－	(23.6)	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ナデ→縦位の条線　底部ナデ	覆土中	25%　PL16

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP166	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	条線→キザミ　口縁部に補修孔	P 5上層	
TP167	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 5底面	
TP168	縄文土器	注口ｎ	長石	にぶい黄橙	普通	頸部・体部屈曲部キザミ　沈線→縄文LR→無文部磨き	P 11中層	
TP169	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄褐	普通	ナデ→縦位の条線	P 11上層	
TP170	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ナデ→縦位の条線	P 11下層	
TP171	縄文土器	台付土器	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	沈線→縄文LR　三叉状の透かし孔	P 2上層	
TP172	縄文土器	浅鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	横位区画沈線→斜沈線充填　内・外面磨き	P 17中層	
TP173	縄文土器	鉢	石英	にぶい褐	普通	口縁部に凹線状のナデ	覆土中	
TP174	縄文土器	鉢	長石	にぶい赤橙	普通	コブ→沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中	
TP175	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部縁帯貼付　頸部条線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　など	出土位置	備　考
Q 43	磨石	9.4	7.9	6.5	687.0	安山岩	正・裏・側縁部利用　下端に敲打痕	P 18上層	
Q 44	石剣	(12.7)	(2.4)	(0.8)	(27.2)	珪化木	磨き整形	覆土中	PL27

第17号住居跡（第39 ～ 43図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ４a2区，標高11ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第24・25号溝に掘り込まれている。第182号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　出入口部が２か所確認できること，また覆土の堆積状況から，２回以上の建て替えが推測できる。南側のＰ２～Ｐ４を出入口ピット，及び楕円形の炉を有するものを第17Ａ号住居跡，掘り込みの西壁内側のＰ16，Ｐ18，Ｐ21 ～Ｐ24を出入口ピットとするものを第17Ｂ号住居跡とする。第17Ａ号住居跡は長軸7.5ｍ，短軸7.4ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｗである。壁高は約20㎝で，外傾して立ち上がっている。床面の中央付近が10㎝ほど下がっており，この部分が第17Ｂ号住居跡の壁とすると，第17Ｂ号住居跡は長径6.0ｍ，短径5.0ｍの楕円形で，主軸方向はＮ－72°－Ｗである。壁高は約10㎝で，外傾して立ち上がっている。

床面　第17A・B号住居跡とも平坦で硬化しており，特に炉と出入口ピット周辺は顕著である。

炉　床面ほぼ中央に位置する長径150cm，短径110cmの楕円形の地床炉である。焼土が厚く堆積しており，火床面は赤変硬化している。

ピット　79か所。位置と深さから，第17A号住居跡の主柱穴はP13，P19，P29，P37，P50，第17B号住居跡の主柱穴はP14，P30，P46，P53とみられる。第17A号住居跡では西壁際に径20～30cmの壁柱穴が密に巡っているが，北壁から東壁際にかけては間隔を空けてやや深さのあるピットが巡っている。ピットの覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土のものが多い。

覆土　9層に分層できる。第1～7層は第17A号住居跡の覆土で，レンズ状の自然堆積である。覆土第6・7層中の焼土ブロックは，遺構確認面で東壁際に帯状に巡っている様子が確認された。第8・9層は第17B号住居跡の覆土で，ロームブロックを含んでおり，埋め戻されたものとみられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック多量
7　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック中量
8　極暗褐色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量

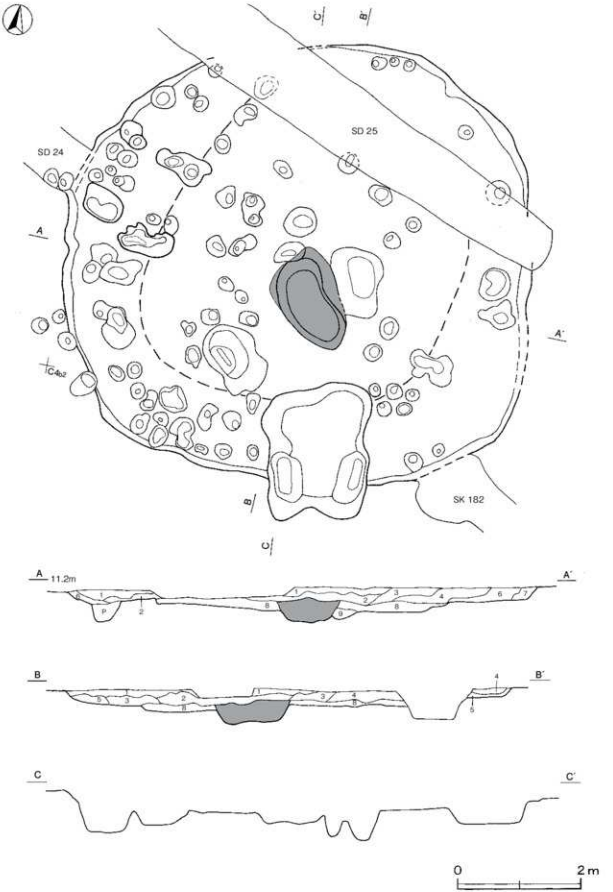
遺物出土状況　縄文土器片1,661点，土製品5点（土錘1，土器片円盤4），石器15点（石鏃2，石皿3，磨石8，砥石2），石核1点（チャート），剥片37点（黒曜石21，チャート14，頁岩1，黒色安山岩1）のほか，焼成粘土塊39点，軽石2点が出土している。出土遺物の多くは第17A号住居跡床面及びピット覆土中から出土したもので，後期後葉の安行1式から安行2式が多い。33は炉とP28の覆土中から出土している。

所見　覆土の堆積状況から，新旧関係は第17B号住居跡から第17A号住居跡への変遷が捉えられる。時期は，出土土器から後期後葉の安行1式期から安行2式期と考えられ，炉の覆土内や床面から出土した土器から，第17A号住居跡は安行2式期に比定できる。東壁際で確認できた焼土は厚さ5～10cmで，焼成による床面の硬化は見られない。また炭化材なども認められないことから，住居焼失時のものとするより，住居廃絶時に廃棄されたものか，または住居廃絶に伴う何らかの儀礼的な行為のものと推測できる。同様の焼土は第19A号住居跡，第23A号住居跡でも確認されている。

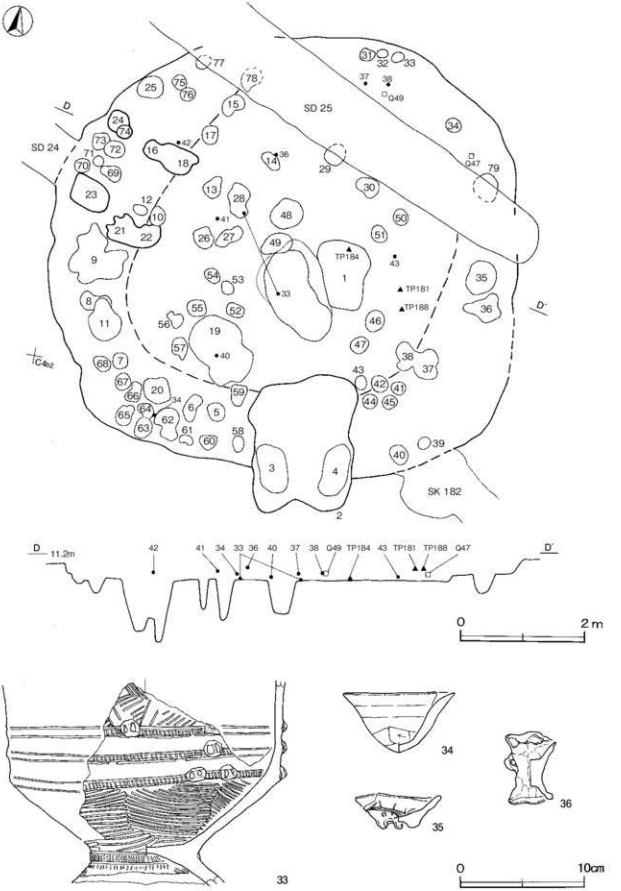
第17号住居跡ピット計測表

単位：cm

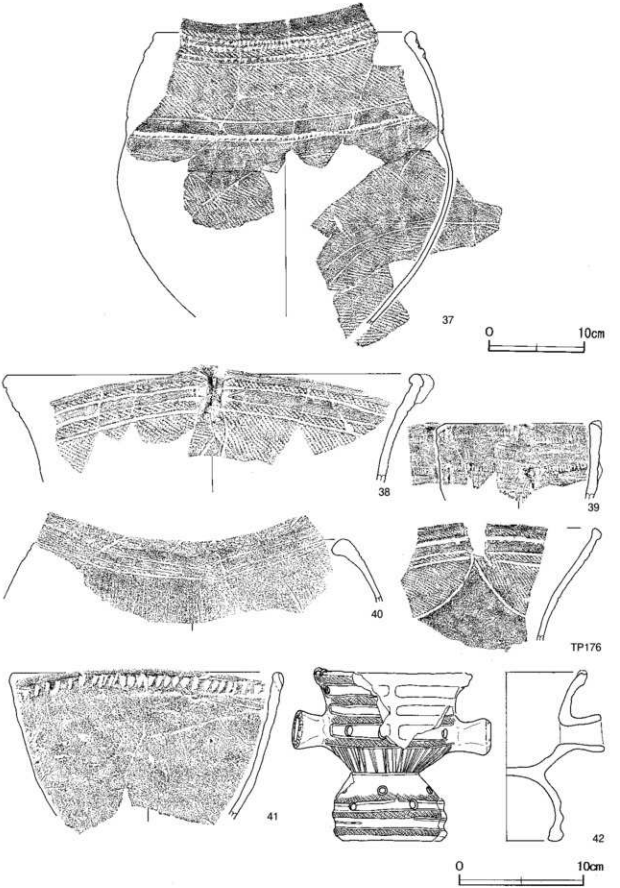
番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P1	130	P11	34	P21	37	P31	24	P41	19	P51	16	P61	27	P71	50
P2	32	P12	20	P22	26	P32	19	P42	47	P52	29	P62	32	P72	53
P3	42	P13	78	P23	45	P33	27	P43	17	P53	59	P63	41	P73	16
P4	50	P14	30	P24	23	P34	41	P44	24	P54	45	P64	22	P74	55
P5	31	P15	28	P25	55	P35	43	P45	34	P55	33	P65	30	P75	62
P6	35	P16	81	P26	37	P36	24	P46	43	P56	23	P66	48	P76	46
P7	30	P17	46	P27	31	P37	54	P47	38	P57	47	P67	27	P77	67
P8	19	P18	98	P28	36	P38	39	P48	50	P58	24	P68	30	P78	19
P9	57	P19	78	P29	60	P39	21	P49	47	P59	24	P69	55	P79	69
P10	23	P20	35	P30	41	P40	31	P50	27	P60	38	P70	22		



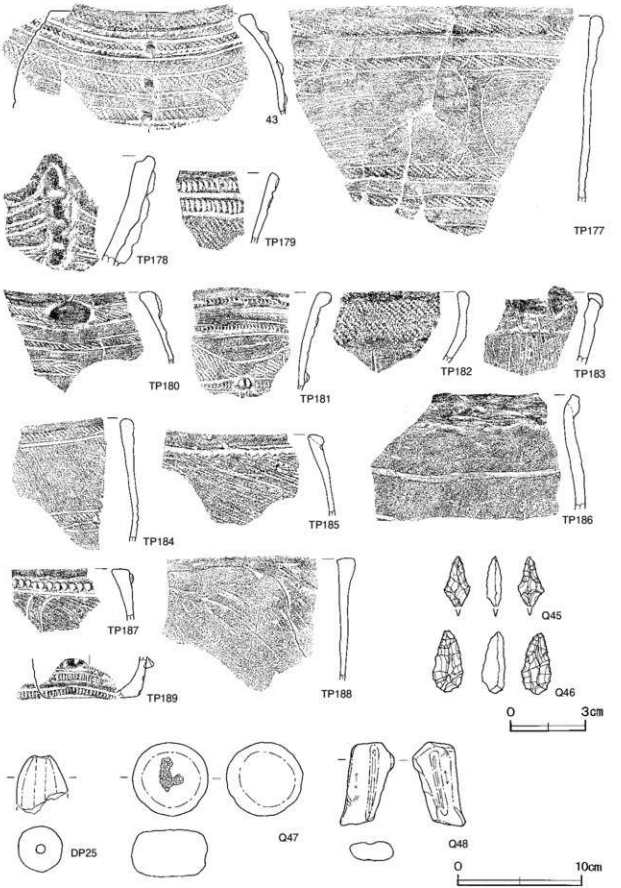
第39図　第17号住居跡実測図



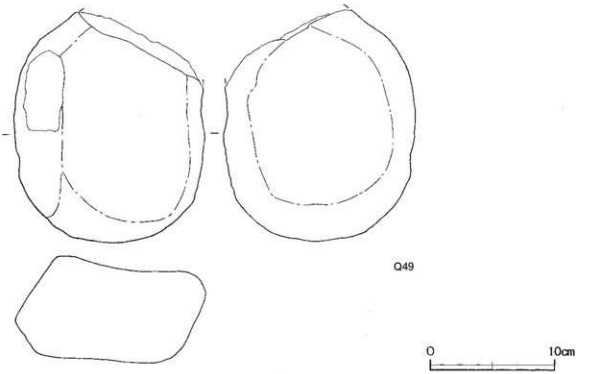
第40図　第17号住居跡ピット番号指示図・出土遺物実測図



第41図　第17号住居跡出土遺物実測図(1)



第42図　第17号住居跡出土遺物実測図(2)



第43図　第17号住居跡出土遺物実測図(3)

第17号住居跡出土遺物観察表（第40～43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
33	縄文土器	台付鉢	－	(16.2)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部矢羽根状条縄→磨消 隆帯上キザミ→沈線→コブ貼付→ 無文部磨き　脚部縄文RL	炉覆土・ P28覆土	40%　PL18
34	縄文土器	ミニチュア	[8.9]	4.7	－	長石・石英・ 黒色粒子	浅黄橙	普通	頸部強い磨き　体部下半削り	17A床面	30%　PL20
35	縄文土器	ミニチュア	[6.6]	2.8	3.4	長石・雲母・ 赤色粒子	明赤褐	普通	4脚（1脚欠損）　沈線と円形竹管文	覆土上層	75%　PL20
36	縄文土器	ミニチュア	4.0	5.7	3.6	長石・石英・ 赤色粒子・小礫	橙	普通	指頭による整形　口縁部にコブ貼付	覆土上層	100%　PL20
37	縄文土器	深鉢	[27.8]	(30.3)	－	長石・石英・雲母・ 小礫	橙	普通	口縁部隆起帯縄文下キザミ・沈線→ 縄文RL→無文部磨き	17A床面	50%　PL17
38	縄文土器	深鉢	[32.8]	(8.6)	－	長石・雲母・ 赤色粒子	赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	17A床面	30%
39	縄文土器	深鉢	[11.6]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線→微隆起帯上キザミ→無文部磨き	17A床面	40%　PL16
40	縄文土器	深鉢	[24.3]	(5.0)	－	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい橙	普通	瘤状の条縄→口縁部沈線	覆土上層	40%
41	縄文土器	深鉢	[21.2]	(11.6)	－	長石・雲母・ 赤色粒子・小礫	明赤褐	普通	口縁部に輪積み痕　体部ナデ	覆土上層	30%　PL16
42	縄文土器	異形台付 土器	[12.6]	13.4	[7.7]	長石	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	17A床面	60%　PL17
43	縄文土器	深鉢	[16.2]	(7.9)	－	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き・コブ貼付	17A床面	30%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP176	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P52	
TP177	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線→縄文RL　頸部条縄→対弧文	覆土下層	
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	摩滅顕著　隆起帯上に縄文施文ヵ	覆土上層	
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL・口縁部キザミ　外面煤付着	覆土上層	
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	17A床面	
TP181	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	コブ貼付→隆帯上キザミ　沈線→縄文RL	覆土上層	
TP182	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	体部磨き	覆土上層	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部区画→瘤状条縄	覆土上層	
TP184	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	条縄→口縁部沈線・キザミ	覆土下層	
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・小礫	にぶい黄褐	普通	条縄→口縁部隆帯下キザミ　口縁部粘土帯貼付	覆土上層	

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部粘土帯貼付	覆土上層	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	糸線→頭部弧線文→結線貼付→口縁部区画沈線	17A床面	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面削り→ナデ　口縁部肥厚	覆土上層	
TP189	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	コブ貼付→隆帯上キザミ	17A床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　　徴　　な　　ど	出土位置	備　考
DP25	土錘	(4.6)	(3.8)	(3.7)	(29.9)	にぶい黄橙 長石・石英	貫通孔付近に研磨痕	17A床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴　　な　　ど	出土位置	備　考
Q45	石鏃	(2.0)	1.1	0.6	(0.9)	チャート	有茎　未製品 α	覆土上層	PL25
Q46	石鏃	2.5	1.2	1.0	2.6	頁岩	未製品 α	17A床面	PL25
Q47	磨石	5.8	6.1	3.9	189.0	安山岩	正・裏・側縁利用　正面・側縁に敲打痕	17A床面	
Q48	砥石	6.6	4.3	1.5	34.6	凝灰岩	正・裏面に凹線状の研磨痕	覆土上層	
Q49	石皿	(18.4)	15.2	8.6	(3750.0)	安山岩	側縁にも研磨痕　二次焼成	17A床面	PL28

第18号住居跡（第44・45図）

位置　調査ⅡA区のC4b7区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第150・151・157号土坑，第24・25号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長径8.0m，短径5.5mほどの楕円形の掘り込みが確認できたが，東側はやや掘りすぎている。ピットの位置などから，径6mほどの円形と推測できる。壁高は10～30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床面　ほぼ平坦で，南側に若干傾斜している。

ピット　34か所。位置や深さから，P1，P8，P21，P24，P26が主柱穴と考えられる。出入口ピットは確認できない。また壁際にはやや深い径40～50cmのピットが巡っており，壁柱穴とみられる。覆土はローム ブロックを含む暗褐色土や黒褐色土が多い。P1はローム ブロックを含み，ブロック状の堆積状況から，埋め戻されている。

P1土層解説

1　暗　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム ブロック微量
3　褐　　色　ローム ブロック中量
4　極 暗 褐 色　ローム ブロック少量

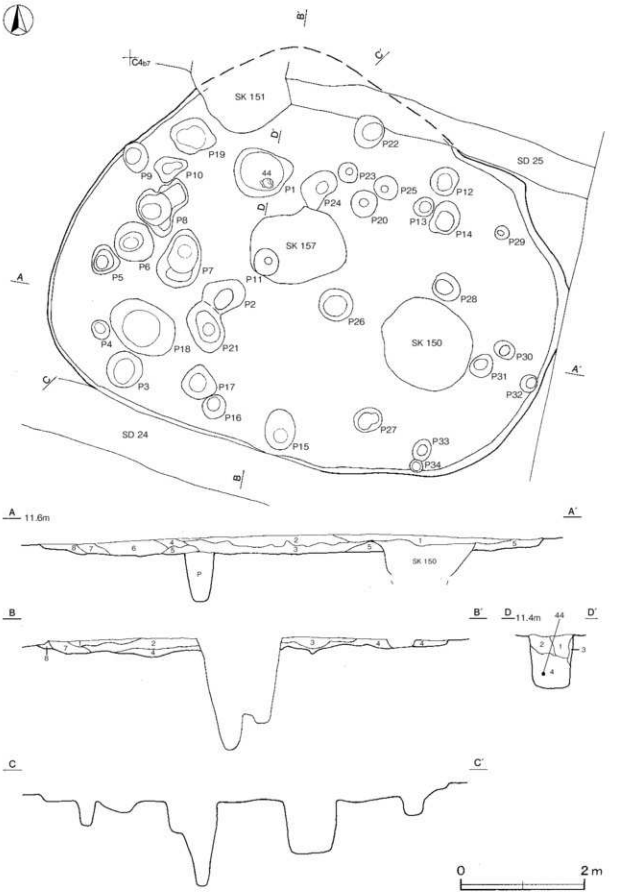
覆土　8層に分層できる。ローム ブロックを含んでいるものの，レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。第3～8層が堆積した後，第150号土坑に掘り込まれている。

土層解説

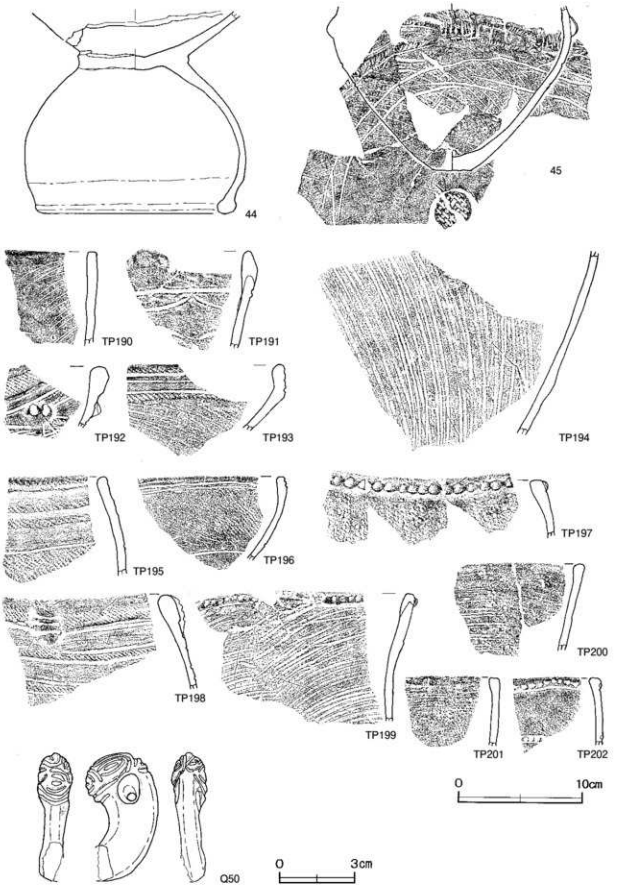
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　褐　　色　ローム ブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片978点，土製品7点（土器片円盤），石器6点（石皿3，磨石1，砥石1，礫器1），石製品1点（勾玉），剥片9点（黒曜石7，チャート2）が出土している。出土した土器は後期後葉の曽谷式から安行1式が多いが，覆土上層からは後期後葉の安行2式や晩期中葉の安行3c式も少量出土している。44の台付鉢脚部は，P1の覆土下層から逆位で出土している。Q50は確認面で出土したもので，晩期中葉と考えられる。

所見　時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第44図　第18号住居跡実測図



第45図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	85	P 6	58	P 11	161	P 16	－	P 21	84	P 26	135	P 31	18
P 2	52	P 7	133	P 12	34	P 17	33	P 22	63	P 27	21	P 32	17
P 3	92	P 8	90	P 13	55	P 18	18	P 23	35	P 28	50	P 33	20
P 4	42	P 9	44	P 14	18	P 19	40	P 24	57	P 29	21	P 34	－
P 5	53	P 10	49	P 15	－	P 20	36	P 25	37	P 30	33		

第18号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
44	縄文土器	台付鉢	－	(16.2)	15.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤褐	普通	鉢部磨き　脚部閉り→ナデ 脚端部匹縄状のナデ　脚内部に赤彩	P 1 下層	50%　PL18
45	縄文土器	深鉢	－	(13.1)	3.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部閉り→条縄→横位区画沈線 底部に網代痕	覆土上層	30%　PL16

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	ナデ→条縄施文	P 1 下層	
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	頸部ナデ→対向弧線文	P 2 底面	
TP192	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	隆帯上キザミ→コブ貼付	P 2 底面	
TP193	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL　体部条縄施文	覆土上層	
TP194	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄橙	良好	体部屈位の条縄　内面横位の磨き	P 11 上層	
TP195	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土下層	
TP196	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL	覆土上層	
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	縄文LR→口縁部結縄貼付	覆土上層	
TP198	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	コブ貼付・沈線→隆帯上縄文RL施文→無文部磨き	覆土下層	
TP199	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	条縄→結縄貼付→結縄下ナデ	覆土上層	
TP200	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐	普通	横位の条縄	覆土上層	
TP201	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	櫛歯状工具による条縄施文	覆土上層	
TP202	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線→キザミ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q50	勾玉	5.1	(2.9)	1.4	(19.9)	碧玉	頭部に沈線による弧線文　両面穿孔 孔周りに禁垂時の研磨痕	覆土上層	PL26

第19号住居跡（第46・47図）

位置　調査ⅡA区のB 4 g8区，標高11.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第18号溝に掘り込まれている。第13A号住居跡を掘り込んでいる。第14・22・25号住居跡，第156号土坑とも重複しているが，覆土がほとんどなかったことから，新旧関係は不明である。

規模と形状　炉が2か所確認されていることやピットの配置から，２回以上の建て替えが想定される。P33，P34，P42間にみられる浅い溝状の掘り込みを西壁とし，炉１とP１，P２，P４～P６，P10，P23～P26の小ピット列を壁柱穴とするものを第19A号住居跡，炉２とP30～P32の出入口ピットを有するものを第19B号住居跡とする。北半部が調査区域外のため不明瞭であるが，炉とピットの位置などから，第19A号住居跡は東側に出入口ピットを有する東西６mほどの隅丸方形，第19B号住居跡は径６mほどの円形と推測できる。第19B号住居跡の主軸方向はN－32°－Wである。第19A号住居跡東壁の壁柱穴上では，厚さ３～５cmの焼土粒子と炭化粒子を多く含む土が，帯状に確認されている。

床面　ほぼ平坦で，炉周辺は硬化している。

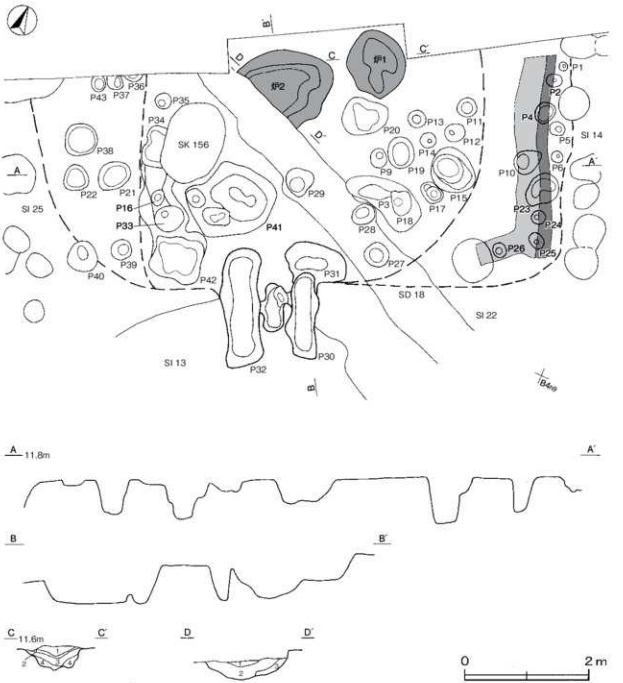
炉　炉１は長径100cm，短径90cmの楕円形の地床炉で，炉２は第18号溝に掘り込まれているため，確認できた長径130cm，短径120cmの楕円形の地床炉である。２つの炉とも厚く焼土と灰が堆積し，火床面は硬化している。焼土・灰の中には骨片・骨粉も多く含まれている。

炉１土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，骨片・骨粉少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　明赤褐色　焼土粒子・灰極多量，骨粉少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック多量
4　褐　色　ロームブロック多量

炉２土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，ロームブロック・骨粉微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量

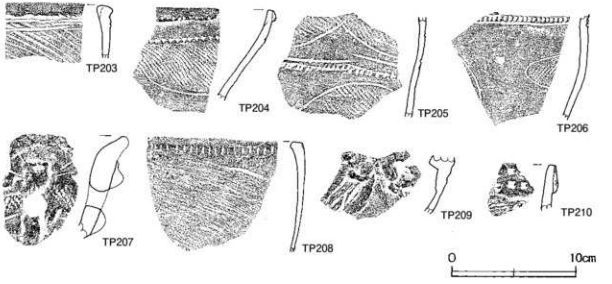


第46図　第19号住居跡実測図

ピット　41か所。位置や深さから第19A号住居跡の主柱穴はP15，P41，第19B号住居跡の主柱穴はP19，P21と考えられる。覆土はロームブロックを少量含む暗褐色土のものが多い。

遺物出土状況　縄文土器片285点，土製品４点（土器片円盤），石核３点（チャート）のほか，焼成粘土塊１点が出土している。遺物はピットの覆土中，及び炉の覆土中から出土したもので，土器のほとんどは後期後葉の曽谷式から安行１式である。TP209は炉２の覆土中から出土したもので，曽谷式とみられる。

所見　第19A号住居跡東側壁柱穴上にみられた焼土が住居跡に伴うものとすると，新旧関係は第19A号住居跡から第19B号住居跡への変遷が推測できる。時期は，出土土器から後期後葉の曽谷式期から安行１式期と考えられ，第19B号住居跡は炉内出土土器から曽谷式期に比定できる。焼土と炭化粒子を多く含む帯状の堆積は，床面までは達しておらず，床面の赤変硬化はみられない。また炭化材なども見られないことから，住居焼失によるものではなく，住居廃絶時に廃棄されたもの，あるいは住居廃絶に伴う何らかの行為によるものと考えられる。第17A・23A号住居跡でも同様の焼土の堆積が確認できる。



第47図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	20	P 9	21	P 15	75	P 21	53	P 27	57	P 33	31	P 39	34
P 2	27	P 10	53	P 16	35	P 22	6	P 28	59	P 34	20	P 40	43
P 3	24	P 11	99	P 17	22	P 23	21	P 29	55	P 35	28	P 41	65
P 4	10	P 12	35	P 18	50	P 24	20	P 30	62	P 36	41	P 42	55
P 5	47	P 13	15	P 19	54	P 25	19	P 31	61	P 37	34	P 43	34
P 6	29	P 14	22	P 20	44	P 26	14	P 32	66	P 38	41		

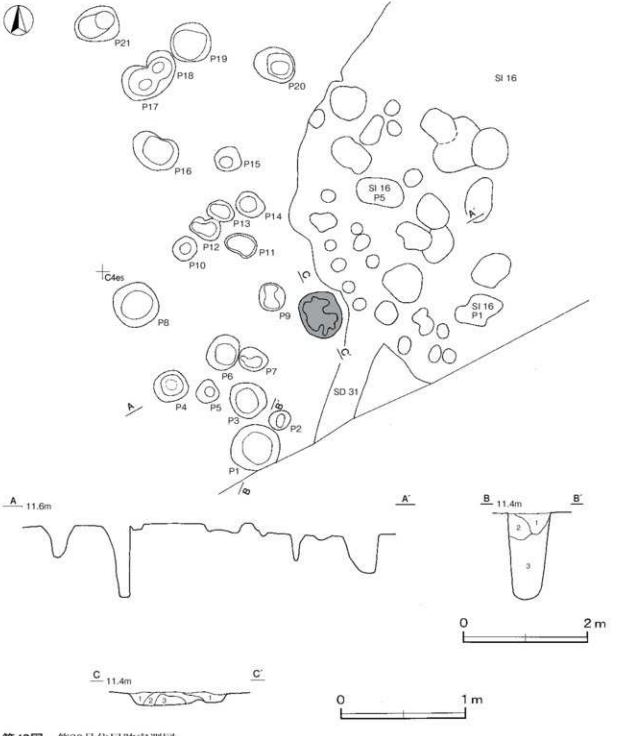
第19号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP203	縄文土器	深鉢	石英・黒色粒子	橙	普通	条線→口縁部沈線	P 1 上層	
TP204	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	良好	口唇部粘土帯貼付→キザミ　沈線→縄文RL→無文部磨き	P 1 下層	
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 1 上層	
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR・体部キザミ→無文部磨き	P 4 下層	
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 11 上層	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP208	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄褐	普通	口縁部キザミ　体部斜行条線　外面煤付着	P21上層	
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯による枠状文・沈線	炉2	
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部半截竹管による刺突 体部竹管状工具による押し引き文	炉2掘方	

第20号住居跡（第48図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ４e5区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。



第48図　第20号住居跡実測図

重複関係　第31号溝に掘り込まれている。第16号住居跡とも重複しており，遺存状況から第16号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　覆土がないため，壁を捉えることができなかった。また南東部が調査区域外となるため不明な部分が多いが，炉とピットの位置から径６ｍほどの円形と推測できる。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　中央からやや南東に位置している，長径80㎝，短径60㎝の楕円形の地床炉である。焼土が厚く堆積し，火床面は硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

ピット　21か所。炉との位置や深さから，Ｐ１，Ｐ８，Ｐ15と，第16号住居跡のＰ１，Ｐ５が主柱穴と考えられる。壁柱穴となる小ピットはみられない。Ｐ１はロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

Ｐ１土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　Ｐ５の覆土中から，縄文土器片10点，剥片１点（チャート）が出土している。土器はいずれも小片である。

所見　時期は，出土土器と第16号住居跡との重複関係から，後期後葉と考えられる。

第20号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
Ｐ１	131	Ｐ４	53	Ｐ７	16	Ｐ10	60	Ｐ13	11	Ｐ16	106	Ｐ19	30
Ｐ２	22	Ｐ５	22	Ｐ８	49	Ｐ11	16	Ｐ14	111	Ｐ17	52	Ｐ20	87
Ｐ３	128	Ｐ６	115	Ｐ９	16	Ｐ12	16	Ｐ15	101	Ｐ18	28	Ｐ21	23

第25号住居跡（第49図）

位置　調査ⅡＡ区のＢ４h6区，標高11.3ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　近世の第１号道路に掘り込まれている。第13・19・23号住居跡とも重複しているが，覆土がないため新旧関係は不明である。

規模と形状　焼土跡とピットから住居跡と判断したが，壁が捉えられていないため，規模・形状は不明である。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

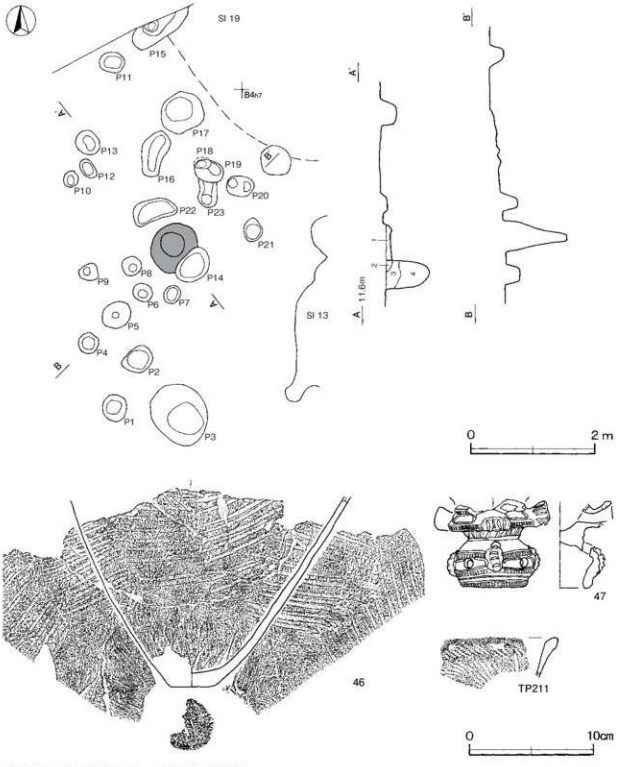
炉　長径80㎝，短径70㎝の楕円形の地床炉である。焼土の堆積は５㎝ほどで，火床面はよく硬化している。

Ｐ14・炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量

ピット　23か所。Ｐ５，Ｐ11，Ｐ17～Ｐ19，Ｐ21は深さが40㎝を超えるものであるが，配置は不整である。ピットの覆土はローム粒子をやや多く含み，焼土粒子・炭化粒子を含む暗褐色土で，いずれのピットの覆土も近似している。Ｐ14は炉を掘り込んでいる。

遺物出土状況　縄文土器片74点，土製品１点（土器片円盤），石器１点（磨石）のほか，混入した瓦片４点も出土している。遺物はすべてピットの覆土中から出土しており，ほとんどが後期後葉である。47は炉の１ｍほど東の，床面から出土している。

所見　時期は，床面から出土した土器から，後期後葉の安行２式期と考えられる。



第49図　第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
P 1	35	P 4	23	P 7	18	P 10	17	P 13	25	P 16	53	P 19	56	P 22	10
P 2	31	P 5	101	P 8	29	P 11	53	P 14	69	P 17	43	P 20	27	P 23	27
P 3	38	P 6	28	P 9	25	P 12	17	P 15	30	P 18	63	P 21	46		

第25号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
46	縄文土器	深鉢	－	(15.0)	3.6	長石・石英・黒色粒子・小礫	にぶい橙	普通	底部削り　底部から約7cmの間に煤付着	P14中層	40%
47	縄文土器	異形台付土器	－	(7.0)	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯上キザミ	床面	50%　PL20

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP211	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	縄文RL→縦位沈線	P14中層	

第26号住居跡（第50・51図）

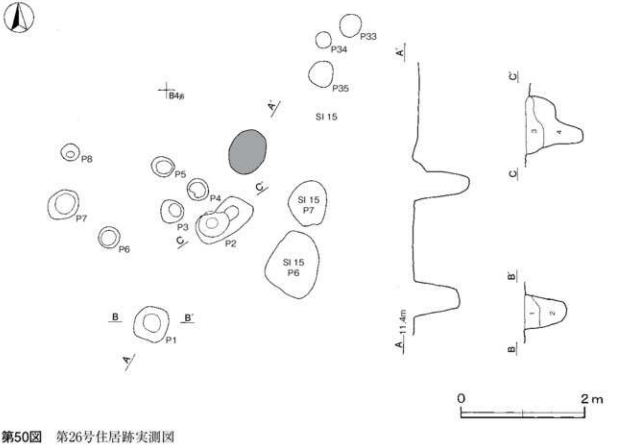
位置　調査ⅡA区のB4j6区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第15号住居跡と重複しているが，覆土がないため新旧関係は不明である。近世の第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　焼土とピットから住居跡としたが，壁の立ち上がりが確認できなかったことから，規模・形状などは不明である。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　長径70cm，短径60cmの楕円形の地床炉である。焼土は薄く，散布するような状態であった。掘り込みは認められない。



第50図　第26号住居跡実測図

ピット　8か所。配置などが不整で，主柱穴は不明である。第15号住居跡のＰ６，Ｐ７，Ｐ33～Ｐ35は，位置から本跡に伴う可能性がある。Ｐ１，Ｐ２はロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

Ｐ１・２土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片13点が出土している。すべてピットの覆土中からの出土で後期後葉のものである。

所見　時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第51図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡ピット計測表

単位：cm

番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ	番号	深さ
Ｐ１	72	Ｐ２	88	Ｐ３	43	Ｐ４	19	Ｐ５	38	Ｐ６	14	Ｐ７	41	Ｐ８	34

第26号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰赤	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	Ｐ１中層	

第29号住居跡（第52図）

位置　調査ⅡＢ区北東部のＢ５g5区，標高10.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北半部が調査区域外で，確認できた壁の一部と，炉とみられる焼土跡及びピットの位置から，平面形は東西５ｍほどの方形と推測できる。壁高は約20cmで，外傾して立ち上がっている。

床面　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　径100cmの円形の地床炉である。覆土中に焼土粒子を多量に含んでいるが，火床面の赤変硬化は認められない。

炉土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量

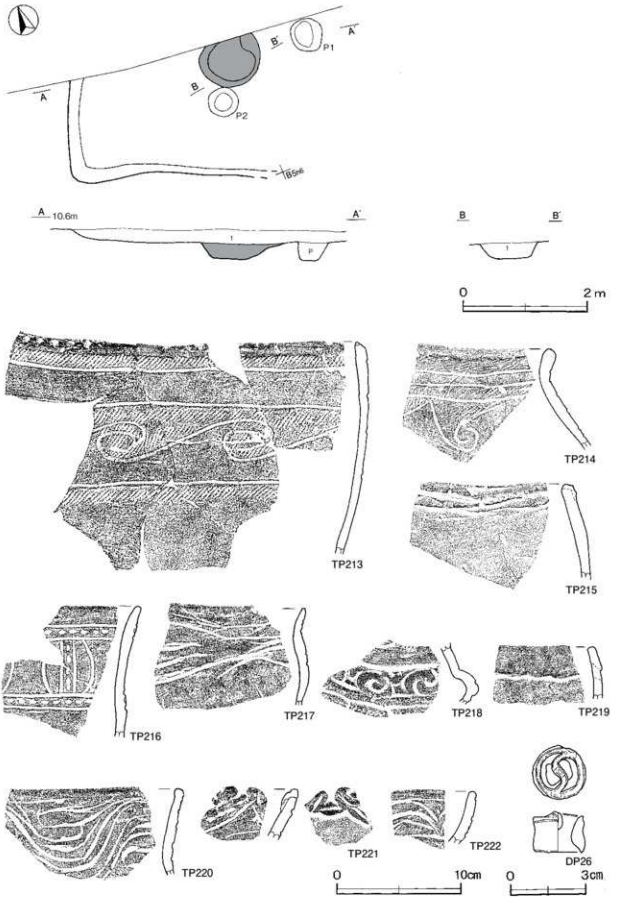
ピット　2か所。Ｐ１は深さ34cm，Ｐ２は深さ29cmである。壁柱穴は認められない。

覆土　住居跡を被っている晩期の包含層と連続的な黒褐色土が堆積している。堆積状況から，自然堆積とみられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片758点，土製品１点（耳飾り），石器１点（磨石），剥片５点（チャート３，その他２）のほか，軽石１点が出土している。遺物は覆土中から出土したもので，晩期前葉から中葉のものがほとんどである。TP213～TP215は炉の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から晩期前葉から中葉と考えられる。



第52図　第29号住居跡・出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　な　ど	出土位置	備　考
TP213	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	黒褐	普通	ステッキ状入組文→縄文LR→無文部磨き	炉覆土中	PL19
TP214	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	沈線→縄文無節L→無文部磨き	炉覆土中	
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	内・外面ナデ　口縁粘土帯上削り	炉覆土中	
TP216	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	崩文様帯系	覆土中	
TP217	縄文土器	鉢	長石・石英・小礫	灰黄褐	普通	内・外面ナデ　沈線による菱形区画文施文ヵ	覆土中	
TP218	縄文土器	注口	長石・石英	橙	普通	体部下半縄文LR	覆土中	
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	複合口縁　輪積み痕明瞭	覆土中	
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	三角形区画文・三叉状入組文	覆土中	
TP221	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に鉢巻状の貼付文	覆土中	
TP222	縄文土器	浅鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	内・外面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP26	耳飾り	2.1	－	1.6	(4.1)	浅黄橙　長石・赤色粒子	側面指頭によるナデ　摩滅顕著	覆土中	PL22

表2　縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸 (径)(径)	壁高(cm)	床面	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
2	B 6 d3	－	[円形]	[7.3]×(2.9)	－	平坦	－	－	10	1	－	縄文土器、石器	SK79・80・82
4 A	B 5 j1	N-35°-E	楕円形	8.0 ×[7.5]	10～16	平坦	4	5	96	1	自然	縄文土器、土製品、石器、石製品、炭化種子	SK198・207・208→SI4C→SI4B→本跡　SI 6・12
4 B	B 5 j1	N-56°-W	円形	8.4 × 8.0	10～16	平坦	4	3		1	入為		SK198・207・208→SI4C→本跡→SI4A　SI 6・12
4 C	B 5 j1	N-53°-W	楕円形	8.0 × 7.4	10～16	平坦	4	5		－	－		SK198・207・208→本跡→SI4B→SI4A　SI 6・12
5	C 4 a9	N-51°-W	[円形]	[7.2]×[6.7]	－	平坦	4	5	32	1	－	縄文土器、土製品、石器	SI 6・10→本跡→SD28　SI 4　SK117・164
6	C 4 a9	N-53°-W	[隅丸方形]	[7.0]×[5.9]	－	平坦	4	6		1	－	縄文土器、土製品、石器、炭化種子	本跡→SI 5→SD28　SI 4・10　SK117・164
8	B 4 g0	－	[円形]	[7.3]×[6.8]	－	平坦	5	－	43	1	－	縄文土器、土製品、石器、炭化種子	本跡→SD17　SI4　SK134
10	C 4 a9	N-5°-W	[円形]	[6.7]×[6.5]	－	平坦	4	1	32	1	－	縄文土器、土製品、石器	本跡→SI 5→SD28　SI 6　SK117・164
11	B 5 i6	－	[円形]	[6.2]×(3.1)	－	平坦	2	－	17	1	－	縄文土器、土製品、石器	SK126→本跡→SK143　SK144
12	B 5 h2	N-26°-E	[円形]	[6.5]×[5.8]	－	平坦	5	2	12	1	－	縄文土器、土製品	HSK93・102・103・130・136～138　本跡→SD18　SI 4
13 A	B 4 h8	N-90°	楕円形	6.5 × 5.5	30	平坦	4	5	144	1	自然	縄文土器、土製品、石器、石製品	SI13BSK158→本跡→SI19・23A・23B　SI22・25　SK160
13 B	B 4 h8	N-22°-E	円形	4.5 × 4.5	20	平坦	8	2		－	入為		本跡→SI13A・23A・23B、SK158・160　SI22・25
14	B 4 g9	N-65°-W	[円形]	[8.0]×[8.0]	－	平坦	4	3	42	－	－	縄文土器、石器	SI 8・19・22　SK149
15	B 4 j7	－	[円形]	[6.0]×[6.0]	－	平坦	4	－	35	1	自然	縄文土器、土製品、石器	SI23A→本跡　SI26　SK154・161・162
16 A	C 4 d6	－	[円形]	[5.5]×(5.0)	10～20	平坦	4	－	53	1	自然	縄文土器、土製品、石器、石製品	SI16B→本跡→SI20→SD31
16 B	C 4 d6	－	[円形]	[6.0]×(5.8)	10～20	平坦	4	－		－	入為		本跡→SI16A→SI20→SD31
17 A	C 4 a2	N-8°-W	[隅丸方形]	7.5 × 7.4	20	平坦	5	3	61	1	自然	縄文土器、土製品、石器	SI17B→本跡→SD24・25　SK182
17 B	C 4 a2	N-72°-W	楕円形	6.0 × 5.0	10	平坦	4	6		－	入為		本跡→SI17A→SD24・25　SK182
18	C 4 b7	－	[円形]	[6.0]×[6.0]	10～30	平坦	5	－	29	－	自然	縄文土器、土製品、石器	本跡→SK150・151・157、SD24・25
19 A	B 4 g8	－	[隅丸方形]	[6.0]×[6.0]	－	平坦	2	－	34	1	－	縄文土器、土製品	SI13A→本跡→SI19B→SD18　SI14・22・25、SK156
19 B	B 4 g8	N-32°-W	[円形]	[6.0]×[6.0]	－	平坦	2	3		1	－		SI13A→SI19A→本跡→SD18　SI14・22・25、SK156
20	C 4 e5	－	[円形]	[6.0]×[6.0]	－	平坦	5	－	18	1	－	縄文土器	SI16→本跡→SD31
22	B 4 h8	－	－	－	－	平坦	4	－	144	1	－	縄文土器、土製品、石器、石製品	本跡→SI23A、SD18　SI13A・13B・14・19・23B
23 A	B 4 h8	N-8°-W	楕円形	7.2 × 5.6	10	平坦	4	2	144	－	自然	縄文土器、土製品、石器、石製品	SI13A・13B・22→SI23B→本跡→SI15　SI25
23 B	B 4 h8	N-3°-W	[円形]	[7.2]×[6.2]	－	－	4	3		－	－		HSK159　SI13A・13B→本跡→SI23A→SI15　SI25
25	B 4 h6	－	－	－	－	平坦	－	－	23	1	－	縄文土器、土製品、石器	本跡→SF 1　SI13・19・23
26	B 4 j6	－	－	－	－	平坦	－	－	8	1	－	縄文土器	本跡→SF 1　SI15
29	B 5 g5	－	[方形]	[5.0]×(2.0)	20	平坦	－	－	2	1	自然	縄文土器、土製品、石器	HSK199

(2) 炉跡

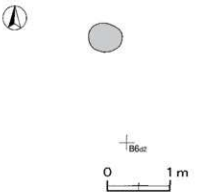
今回の調査で，縄文時代と考えられる炉跡２か所が確認されている。以下，確認された遺構及び遺物について記載する。

第１号炉跡（第53図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ６c1区，標高9.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径55cm，短径45cmの楕円形で，長径方向はＮ－83°－Ｗである。厚さ３～５cmほどの焼土粒子の散布が確認できたのみで，掘り込みは認められない。

所見　周辺に柱穴等が確認できなかったことから，住居跡に伴うものとは考えられない。時期は，遺物が出土していないため明確にできないが，縄文時代と考えられる。



第53図　第１号炉跡実測図

第２号炉跡（第54図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ５e4区，標高10mの台地上に位置している。

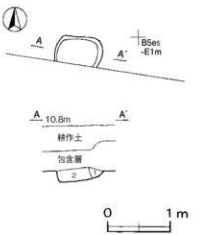
規模と形状　長径72cm，確認できた短径44cmの楕円形で，長径方向はＮ－81°－Ｗである。底面は平坦で，確認面からの深さは18cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片７点，剥片１点（黒曜石）が覆土上層から出土している。また覆土上層から焼成粘土塊219ｇが出土している。

所見　周辺に第２号ピット群のＰ27～Ｐ29があることから，住居跡に伴う炉跡の可能性があるが，柱穴配置等が捉えられないことから断定はできない。また多量の焼成粘土塊が出土していることから，土器や土製品の焼成跡の可能性も考えられる。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第54図　第２号炉跡実測図

表３　縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
1	Ｂ６e1	Ｎ-83°-Ｗ	楕円形	0.55×0.45	－	－	－	－	－	
2	Ｂ５e5	Ｎ-81°-Ｗ	楕円形	0.72×0.44	18	外傾	平坦	人為	縄文土器，剥片，焼成粘土塊	H18SK122

(3) 土坑

今回の調査で，縄文時代とみられる土坑88基が確認されている。そのうち，覆土の堆積状況や遺物の出土状況などが特徴的な土坑29基については実測と遺物，及び出土遺物観察表，その他の土坑については一覧表と実測図を掲載した。

第76号土坑（第55図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ６e3区，標高10mの台地平坦部に位置している。

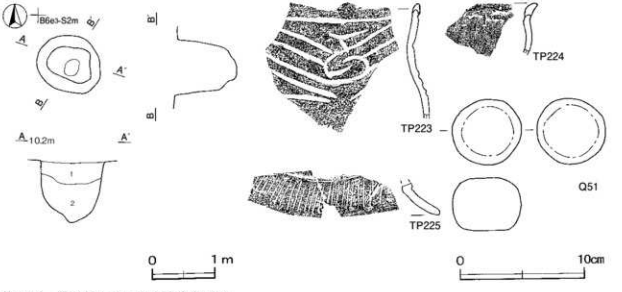
規模と形状　長径1.06m，短径0.92mの楕円形で，長径方向はＮ－58°－Ｗである。深さは94cmで，底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片240点，石器２点（磨石），剥片８点（チャート）のほか，軽石１点が出土している。TP223～TP225は，覆土上層からそれぞれ出土している。Q51は底面から出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第55図　第76号土坑・出土遺物実測図

第76号土坑出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ゆるい波状口縁　三叉状入組文施文　内・外面ナデ	覆土上層	
TP224	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面ナデ　口縁部に粘土輪積み痕	覆土上層	
TP225	縄文土器	台付鉢	石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部　横位区画沈線→縦位沈線	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q51	磨石	5.2	5.5	4.2	186.0	安山岩	正・裏面，側縁部利用	底面	

第78号土坑（第56図）

位置　調査ⅡC区のB６e4区，標高9.9mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認できた長径0.94m，短径0.90mの楕円形で，長径方向はN－48°－Eである。深さは108cmで，底面は平坦であるが，南西部に深さ20cmのピットがある。壁は外傾して立ち上がっている。

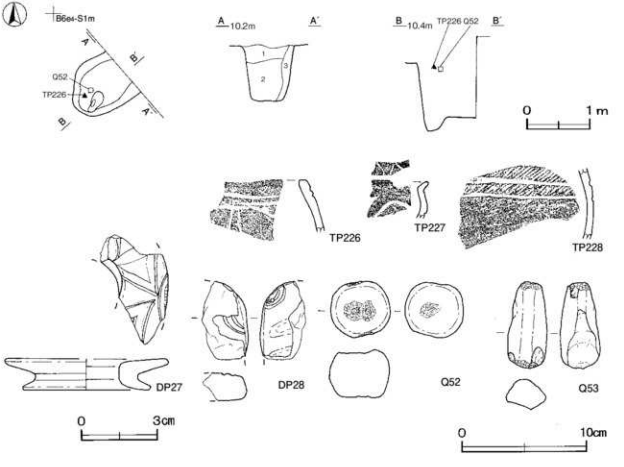
覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量，粘土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片229点，土製品２点（耳飾り，土版），石器４点（磨製石斧１，磨石２，敲石１），石核１点（チャート），二次加工のある剥片１点（チャート），剥片４点（チャート）が出土している。TP226，Q52は南西部の覆土上層から，DP27・DP28は覆土中層から出土している。また南西部の底面からは径20cmほどの粘土塊が出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第56図　第78号土坑・出土遺物実測図

第78号土坑出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	頂部に弧線文	覆土上層	
TP227	縄文土器	小形鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁内面に沈線文	覆土上層	
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	縄文無節L→沈線	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP27	耳飾り	[6.5]	－	1.2	(5.4)	黒　長石・石英	滑車形	覆土中層	
DP28	土版	(6.3)	(3.6)	2.2	(48.4)	にぶい黄橙 長石・赤色粒子	裏面に凹線状の文様	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q52	磨石	4.4	4.7	3.8	102.1	安山岩	正・裏面・上下端部に敲打痕	覆土上層	
Q53	敲石	6.8	3.1	2.3	62.6	砂岩	上下端部に敲打痕	覆土下層	

第80号土坑（第57・58図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ６f4区，標高9.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号住居跡のＰ８と重複しているが，新旧関係は不明である

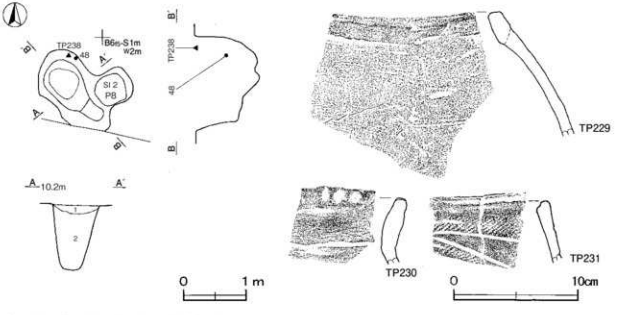
規模と形状　長径1.51m，短径0.84mの不定形で，長径方向はＮ－42°－Ｗである。深さは103cmで，底面は北西部が30cmほど下がっている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ローム粒子を多く含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

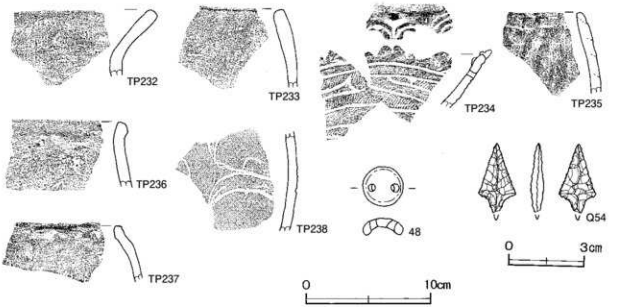
土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片283点，石器２点（石鏃，磨製石斧），石核４点（チャート），剥片２点（チャート）のほか，焼成粘土塊１点が出土している。48は北東壁際の覆土中層から，TP238は覆土上層から出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第57図　第80号土坑・出土遺物実測図



第58図　第80号土坑出土遺物実測図

第80号土坑出土遺物観察表（第57・58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
48	縄文土器	蓋	3.1	1.3	－	長石	黒	良好	内・外面研磨	覆土中層	100%　PL20

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	外面煤り	覆土中	
TP230	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　外面磨き	覆土上層	
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	沈線→縄文無節L	覆土中層	
TP232	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	内・外面ナデ	覆土上層	
TP233	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内・外面ナデ	覆土上層	
TP234	縄文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中層	
TP235	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	内・外面ナデ　外面に輪積み痕	覆土中層	
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部下強いナデ	覆土上層	
TP237	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部下強いナデ	覆土中層	
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	内・外面丁寧なナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q54	石鏃	(2.7)	1.4	0.5	(1.2)	チャート	有茎　下端部欠損	覆土中層	PL25

第81号土坑（第59図）

位置　調査ⅡC区のB5a7区，標高9.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸1.66m，短軸1.44mの隅丸長方形で，長軸方向はN－68°－Wである。深さは112cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

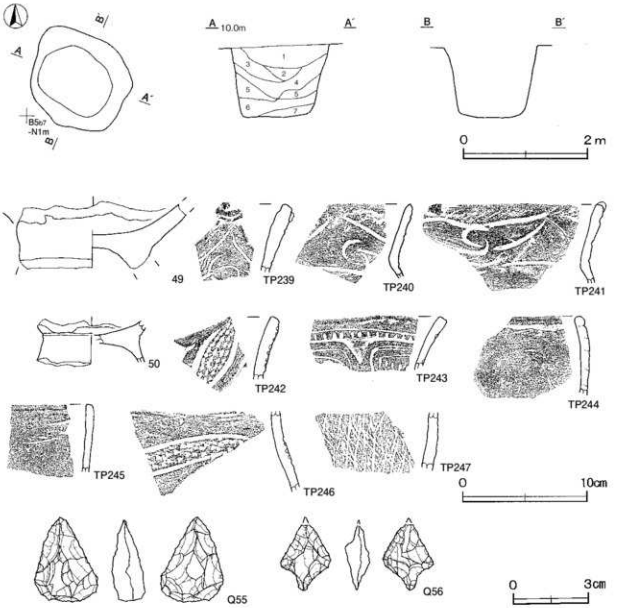
覆土　7層に分層できる。ロームブロックを含んでいる層が多いが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子極多量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子極多量，焼土粒子微量
6　黒　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片735点，石器４点（石鏃２，磨石２），石核１点（チャート），剥片４点（チャート３，黒曜石１）が出土している。土器はほとんどが晩期中葉のものである。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第59図　第81号土坑・出土遺物実測図

第81号土坑出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
49	縄文土器	台付鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	摩滅顕著	覆土中層	20%
50	縄文土器	台付鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面ナデ	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR	覆土下層	
TP240	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	ステッキ状入組文	覆土中層	
TP241	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線→細密沈線文充填→無文部磨き	覆土上層	
TP242	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	緩い波状口縁	覆土中層	
TP243	縄文土器	鉢	長石・雲母	橙	普通	三叉状の抉り	覆土上層	
TP244	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面輪積み痕明瞭	覆土上層	
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	内・外面削り	覆土中層	
TP246	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線→刺突充填	覆土下層	
TP247	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	網目状撚糸文施文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q55	石鏃	3.4	2.5	1.3	7.7	チャート	未製品　正・裏面に原石面残す	覆土下層	PL25
Q56	石鏃	(2.6)	2.1	1.0	(2.6)	黒色安山岩	未製品ヵ　正面に主要剥離面	覆土上層	PL25

第82号土坑（第60図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ６ℓ3区，標高9.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号住居跡のＰ10と重複しているが，新旧関係は不明である。

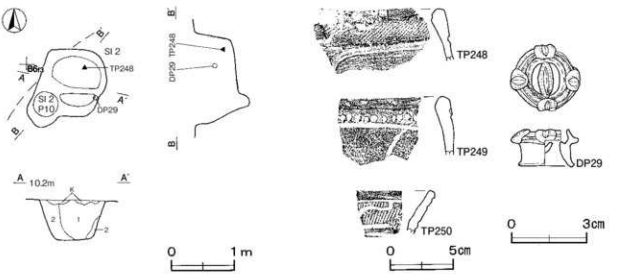
規模と形状　長軸1.08m，短軸1.03mの隅丸方形で，長軸方向はＮ－12°－Ｅである。深さは66cmで，底面は南側に向かって傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片111点，土製品１点（耳飾り），石核５点（チャート），剥片２点（チャート）が出土している。TP248，DP29は覆土中層から出土している。また石核は，覆土中層から下層で出土している。

所見　覆土の堆積状況や，耳飾りが出土していることなどから，墓坑の可能性がある。時期は，出土土器から晩期前葉と考えられる。



第60図　第82号土坑・出土遺物実測図

第82号土坑出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP248	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き　口唇部の突起剥離	覆土中層	
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	横位沈線→口縁部キザミ・縦位弧線文	覆土中層	
TP250	縄文土器	浅鉢	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文LR→クランク状沈線文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP29	耳飾り	2.7	－	1.5	(5.3)	橙　長石	透かし貼り耳飾り　先端が細い工具による刺突充填	覆土中層	PL.22

第90号土坑（第61図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５g2区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第110号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

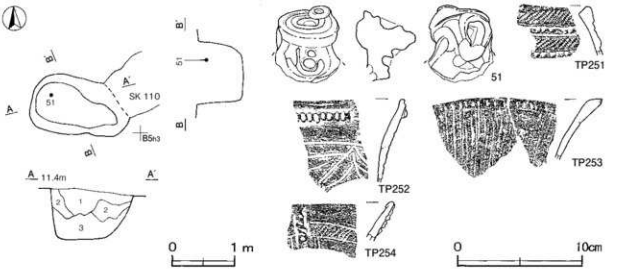
規模と形状　長径1.70m，短径0.93mの楕円形で，長径方向はＮ－77°－Ｗである。深さは74cmで，底面は平坦である。壁は西壁が直立し，北・東・南壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。すべての層にロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片90点，剥片５点（チャート３，黒曜石２）が出土している。51は北西部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，後期前葉から後期後葉と考えられる。



第61図　第90号土坑・出土遺物実測図

第90号土坑出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
51	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	波状口縁深鉢口縁部突起	覆土上層	5％

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP251	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→隆帯下キザミ	覆土上層	
TP252	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内面に凹線	覆土上層	
TP253	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	縦位条線→口唇部キザミ	覆土上層	
TP254	縄文土器	深鉢	長石	灰黄褐	普通	沈線区画→縄文LR→隆帯貼付　口縁部内面に凹線	覆土上層	

第92号土坑（第62・63図）

位置　調査ⅡB区のB５g1区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径1.48m，短径1.20mの不定形で，深さは46cmである。底面は凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっているが，北壁は階段状である。

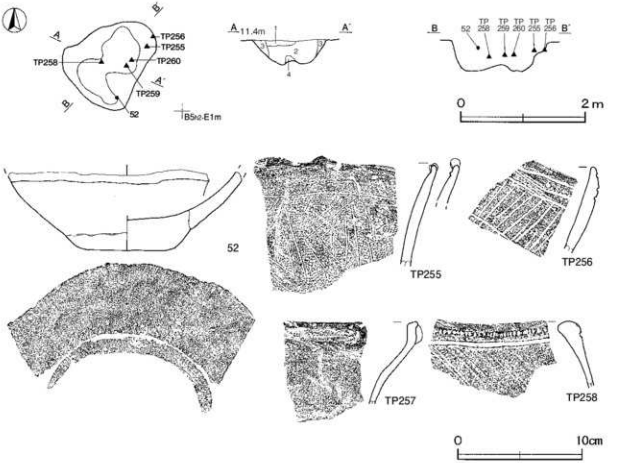
覆土　４層に分層できる。ロームブロックと炭化物を含んでいることから，埋め戻されている。

土層解説

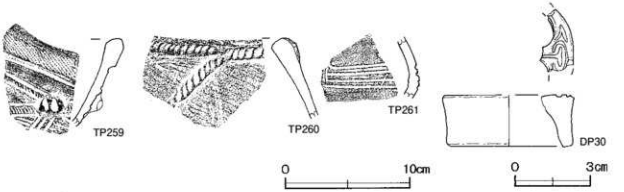
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片257点，土製品３点（耳飾り１，土器片円盤２），剥片５点（チャート４，黒曜石１）が出土している。52，TP255・TP256・TP258 ～ TP260，DP30は覆土中層から出土している。

所見　覆土の堆積状況や耳飾りが出土していることなどから，墓坑の可能性がある。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第62図　第92号土坑・出土遺物実測図



第63図　第92号土坑出土遺物実測図

第92号土坑出土遺物観察表（第62・63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
52	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面粗い磨き　内面・底面ナデ	覆土中層	100%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP255	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文無節L充填	覆土中層	
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	波状口縁α	覆土中層	
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	コブ→口縁部縄文RL→口縁部沈線	覆土中層	
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	口縁部キザミ→条線→区画沈線	覆土中層	
TP259	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	沈線→縄文RL・隆帯上キザミ→コブ貼付	覆土中層	
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	条線→綾線貼付	覆土中層	
TP261	縄文土器	注口α	長石・石英	にぶい褐	普通	外面磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　など	出土位置	備　考
DP30	耳飾り	[5.2]	－	2.0	(5.0)	にぶい黄褐 長石・石英	磨き整形　内面にも赤彩	覆土中層	

第117号土坑（第64図）

位置　調査ⅡＢ区のＣ４b0区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５・６・10号住居跡と重複するが，新旧関係は不明である。

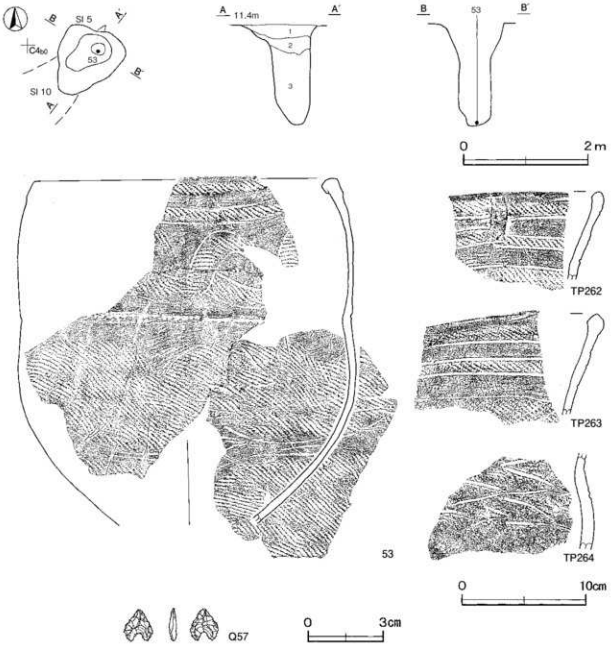
規模と形状　長径1.20m，短径1.00mの不定形で，長径方向はＮ－37°－Ｅである。深さは161cmで，底面は皿状である。壁は直立しているが，南壁は上位が階段状に立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックと焼土粒子を含み，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片28点，石器１点（石鏃），石製品３点（石剣）が出土している。53は底面から出土している。また細片のため図示できなかったが，石剣片が覆土下層から出土している。

所見　深い円筒状の土坑で，底面から深鉢の大形破片が出土していること，また石剣片を伴っていることから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第64図　第117号土坑・出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
53	縄文土器	深鉢	[24.0]	(27.5)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	底面	30%　PL18

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP262	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中層	
TP263	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	緩い波状口縁　沈線→縄文RL→無文部磨き	底面	
TP264	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	煤付着	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q57	石鏃	1.3	1.1	0.3	0.2	黒曜石	無茎　押圧調整	覆土上層	PL25

第118号土坑（第65図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５ｆ区，標高11.2ｍの台地平坦部に位置している。

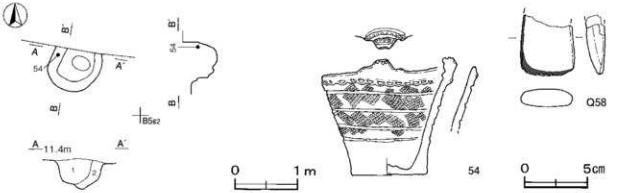
規模と形状　北半部が調査区域外となるため，確認できた南北径0.66ｍ，東西径0.82ｍで，遺存状況から楕円形で，長径方向はＮ－16°－Ｅと推定できる。深さは50㎝で，底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。いずれもローム粒子を多く含んでおり，埋め戻されている。

土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片87点，石器１点（磨製石斧），石製品１点（石棒）が出土している。54は北西部の覆土上層から出土している。

所見　ほぼ完形の小形深鉢が出土していること，人為的に埋め戻されていることなどから，墓坑の可能性がある。時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第65図　第118号土坑・出土遺物実測図

第118号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
54	縄文土器	深鉢	10.2	9.2	5.9	長石・黒母・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文LR　内・外面磨き	覆土上層	100%　PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q58	磨製石斧	(4.8)	4.1	1.4	(44.2)	凝灰岩	刃部に微細剥離痕	覆土中層	

第148号土坑（第66図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ４d2区，標高11.0ｍの台地平坦部に位置している。

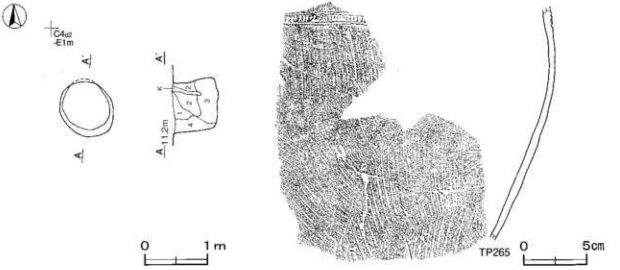
規模と形状　長径0.94ｍ，短径0.82ｍの楕円形で，長径方向はＮ－43°－Ｗである。深さは70㎝で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっているが，北壁のみオーバーハングしている。

覆土　４層に分層できる。いずれもロームブロックやローム粒子を含む覆土で，第４層を掘り込んだところへ第１～３層がレンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片22点が出土している。TP265は覆土上層から出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第66図　第148号土坑・出土遺物実測図

第148号土坑出土遺物観察表（第66図）

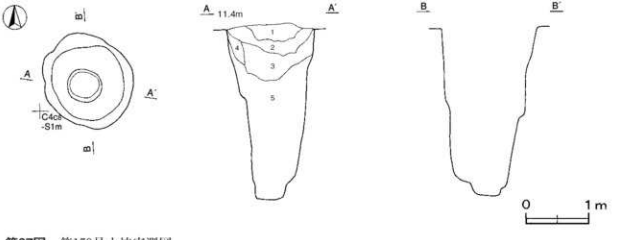
番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	条線→頂部沈線区画→キザミ	覆土上層	

第150号土坑（第67・68図）

位置　調査ⅡB区のC４b8区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第18号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.58m，短径1.42mの楕円形で，長径方向はN－17°－Wである。深さは252cmで，底面は平坦であるが，中央部に深さ18cmのピットがある。壁は直立して立ち上がっている。



第67図　第150号土坑実測図

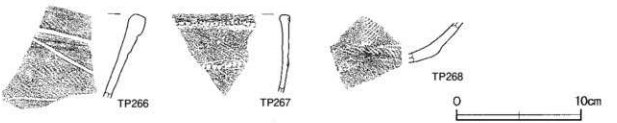
覆土　5層に分層できる。いずれもロームブロックやローム粒子をやや多く含む土で，埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片260点，土製品２点（土器片円盤）が出土している。TP266 ～ TP268は覆土上層から出土している。

所見　深い円筒形の形状であることや，人為的に埋め戻されていることなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第68図　第150号土坑出土遺物実測図

第150号土坑出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP266	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP267	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	普通	条線→横位区画沈線→キザミ	覆土上層	
TP268	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	角底土器ヵ　沈線→縄文RL	覆土上層	

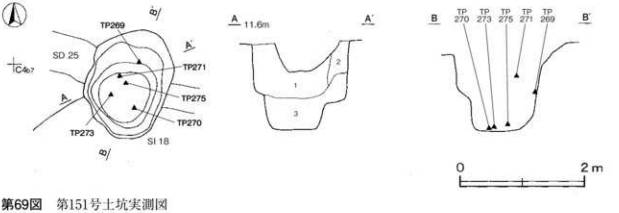
第151号土坑（第69・70図）

位置　調査ⅡＢ区のＣ４b7区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第18号住居跡を掘り込み，第25号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.78m，短径1.28mの楕円形で，長径方向はＮ－20°－Ｅである。深さは140cmで，底面は平坦である。壁は段をなして立ち上がっており，特に北壁で顕著である。

覆土　３層に分層できる。いずれもロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

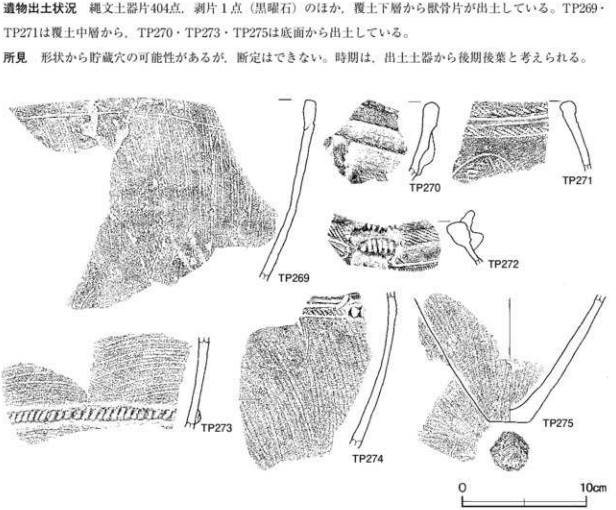


第69図　第151号土坑実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片404点，剥片１点（黒曜石）のほか，覆土下層から獣骨片が出土している。TP269・TP271は覆土中層から，TP270・TP273・TP275は底面から出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第70図　第151号土坑出土遺物実測図

第151号土坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP269	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	条線→口縁部区画沈線　外面体部下半煤付着	覆土中層	
TP270	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き　隆帯下沈線磨り消し	底面	
TP271	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中層	
TP272	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線・キザミ→縄文RL→無文部磨き	覆土下層	
TP273	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	条線→組紐貼付	底面	
TP274	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL→コブ貼付・弧線文施文　体部条線　煤付着	覆土下層	
TP275	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面磨き　底部網代圧痕	底面	

第158号土坑（第71図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ４i7区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第13Ｂ号住居跡を掘り込み，第13Ａ号住居に掘り込まれている。

規模と形状　径1.50mの円形で，深さは118cmである。底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

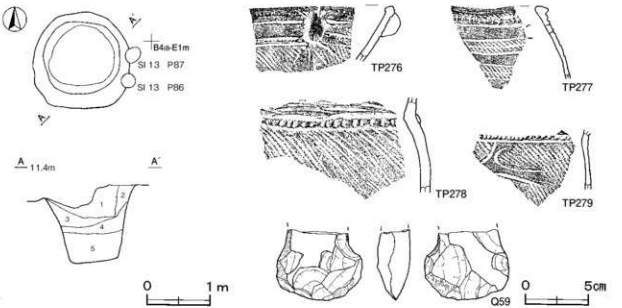
覆土　5層に分層できる。第3・4層はロームブロックを多く含んでおり，本跡を埋め戻した後，第13A号住居の炉が構築されている。

土層解説

1　極暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片241点，石器2点（磨石，打製石斧），剥片1点（チャート）が出土している。TP276～TP279は，覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第71図　第158号土坑・出土遺物実測図

第158号土坑出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP276	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	コブ貼付→沈線→キザミ・縄文LR　口唇部キザミ	覆土上層	
TP277	縄文土器	深鉢	石英・雲母	褐	普通	沈線→縄文RL→口縁部キザミ・無文部磨き	覆土上層	
TP278	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	条線→経線貼付	覆土上層	
TP279	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→キザミ・無文部磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q59	打製石斧	(5.6)	6.7	2.6	(113.2)	玄武岩	くびれ部・刃部に研磨痕	覆土上層	

第161号土坑（第72図）

位置　調査Ⅱ B区のB 4 i6区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第15号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.20m，短径0.88mの不整楕円形で，長径方向はN－18°－Eである。深さは178cmで，底面は中位で段をなしている。壁は外傾して立ち上がっている。

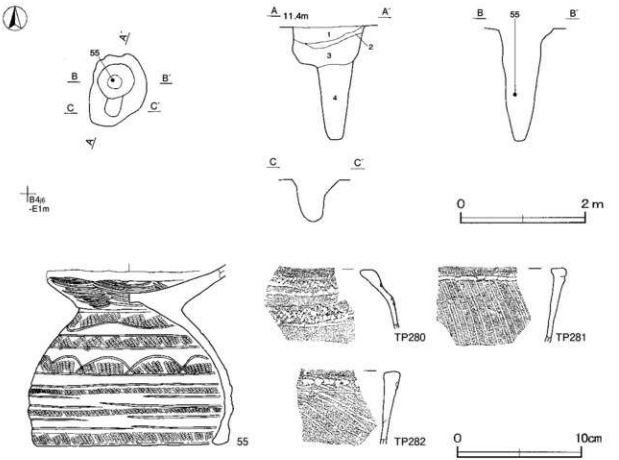
覆土　4層に分層できる。いずれの層もローム ブロックを含んでおり，埋め戻されている。

土層解説

1　極 暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片103点，剥片１点（チャート）が出土している。55は覆土中層から出土している。

所見　55は脚部内面に赤色顔料の塗布が認められることから，脚部を何らかの容器に転用している可能性がある。深い円筒形の形状であることや，人為的に埋め戻されていること，大形の土器片が出土していることなどから，墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第72図　第161号土坑・出土遺物実測図

第161号土坑出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
55	縄文土器	深鉢	－	(14.2)	15.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 脚部内面に赤彩	覆土中層	50%　PL18

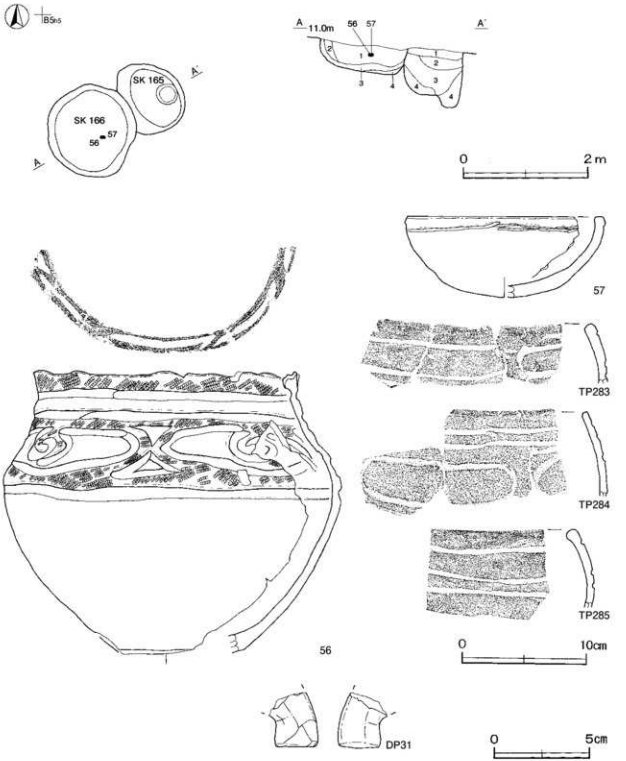
番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP280	縄文土器	深鉢	長石・黒色粒子	にぶい褐	普通	沈線→隆帯下キザミ→縄文RL→無文部磨き	覆土中層	
TP281	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄	良好	条線→口縁部押し引き沈線	覆土下層	
TP282	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	条線→口縁部沈線・キザミ	覆土下層	

第165号土坑（第73図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５h5区，標高10.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係　第166号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.26m，確認できた短径0.94mの楕円形で，長径方向はN－56°－Wである。深さは72cmで，底面は平坦であるが，北東部に深さ18cmのピットがある。壁は直立して立ち上がっている。



第73図　第165号土坑実測図，第166号土坑・出土遺物実測図

覆土　4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片22点が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第166号土坑（第73図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５h5区，標高10.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係　第165号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.50m，確認できた短径1.36mの楕円形で，長径方向はＮ－７°－Ｗである。深さは44cmで，底面は北東方向に傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　4層に分層できる。第１・２層は，レンズ状に堆積している第３・４層を掘り込んだところへ堆積しており，ローム粒子や焼土粒子，炭化粒子を含むことから，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片263点，土製品１点（土偶），石器１点（磨石），石核２点（石英），剥片７点（チャート），軽石１点が出土している。遺物は第１層中から多く出土しており，56・57，DP31も第１層中から出土している。

所見　ほぼ完形に復元できる土器が出土していること，人為的に埋め戻されていることなどから，墓坑の可能性がある。特に第１・２層の堆積状況からは，貯蔵穴であった土坑を，墓坑として再利用している可能性も考えられるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。

第166号土坑出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
56	縄文土器	深鉢	21.1	(22.4)	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土上層	70%　PL18
57	縄文土器	浅鉢	[15.4]	6.4	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面削り→粗い磨き　内面磨き	覆土上層	70%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP283	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土上層	
TP284	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	内・外面ナデ	覆土上層	
TP285	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内・外面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP31	土偶	(2.9)	(2.7)	3.1	(20.3)	黄橙　長石・石英	磨き整形	覆土上層	

第173号土坑（第74図）

位置　調査ⅡＢ区のＣ４a6区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径1.14m，短径0.86mの楕円形で，長径方向はＮ－36°－Ｗである。深さは70cmで，底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

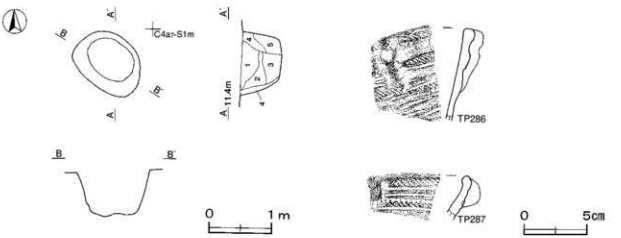
覆土　5層に分層できる。第1～3層は，レンズ状に堆積している第4・5層を掘り込んだところへ堆積しており，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を含んでいることから，埋め戻されている。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片45点，剥片1点（黒曜石）が出土している。覆土下層から獣骨片が出土している。

所見　形状や堆積状況から墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第74図　第173号土坑・出土遺物実測図

第173号土坑出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP286	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中層	
TP287	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	良好	沈線→縄文RL・キザミ→無文部磨き	覆土下層	

第174号土坑（第75図）

位置　調査ⅡA区のC4c2区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径1.18m，短径0.89mの楕円形で，長径方向はN－73°－Wである。深さは97cmで，底面は平坦である。壁は東壁が直立しており，北・西・南壁はオーバーハングしている。

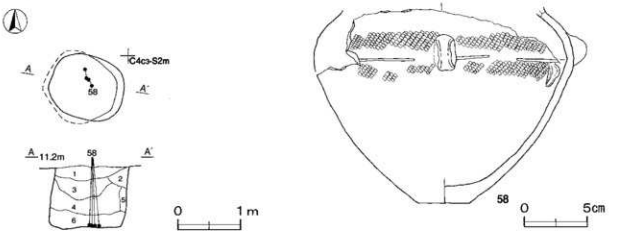
覆土　6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから，埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片126点が出土している。58は底面から出土している。

所見　形状や堆積状況から墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第75図　第174号土坑・出土遺物実測図

第174号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
58	縄文土器	壺	－	(15.4)	4.0	長石・石英・雲母・小礫	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→磨き　沈線磨り消し 体部下半磨き　底部網代痕→磨き	底面	50%　PL16

第181号土坑（第76・77図）

位置　調査ⅡB区のB5h4区，標高11mの台地平坦部に位置している。

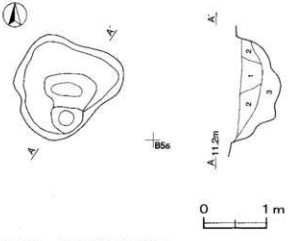
規模と形状　長径1.72m，短径1.60mの不定形で，長径方向はN－74°－Eである。深さは64cmで，底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層に分層できる。第1・2層は焼土粒子及び骨粉を多く含み，ブロック状に堆積していることから，埋め戻されている。

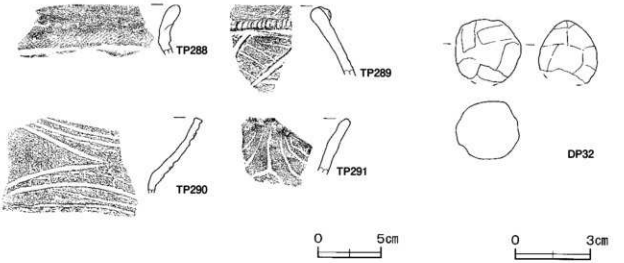
土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・骨粉多量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　極暗褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・骨粉少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片341点，土製品1点（土玉），石器2点（磨石，砥石），石核5点（チャート），剥片3点（チャート2，緑泥片岩1）が出土している。遺物は第1・2層中から多く出土しており，TP288～TP291も第2層中からの出土である。DP32は覆土上層から出土している。

所見　覆土に焼土粒子や骨粉を含んでいることや，人為的に埋め戻されていることなどから，墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期前葉から中葉と考えられる。



第76図　第181号土坑実測図



第77図　第181号土坑出土遺物実測図

第181号土坑出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP288	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR	覆土上層	
TP289	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	条線→結線貼付→弧線文	覆土上層	
TP290	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	ナデ→菱形区画文	覆土上層	
TP291	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	ナデ→三叉状入組文　口唇部に沈線施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP32	土玉	(2.5)	2.6	2.3	(14.5)	にぶい黄橙 長石・石英	削り整形	覆土上層	

第185号土坑（第78図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５h6区，標高10.7ｍの台地斜面部に位置している。

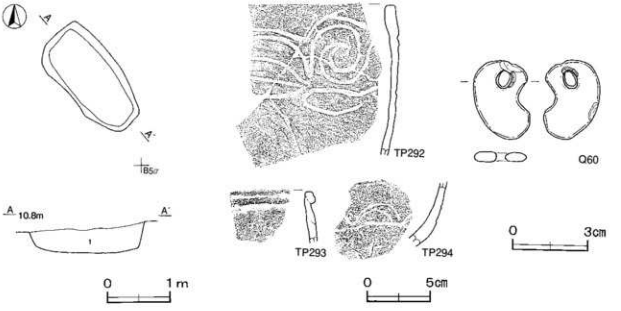
規模と形状　長軸1.85ｍ，短軸0.92ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－43°－Ｗである。深さは43㎝で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　ロームブロックを多く含む黒褐色土によって，埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片108点，石器１点（磨石），石製品１点（勾玉），剥片２点（チャート）が出土している。TP293・TP294，Ｑ60は覆土上層から，TP292は覆土下層から出土している。

所見　形状や勾玉が出土していることなどから，墓坑の可能性がある。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第78図　第185号土坑・出土遺物実測図

第185号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP292	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	ナデ→沈線→文様施文部粗い磨き	覆土下層	
TP293	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	口縁部に粘土帯貼付　外面に輪積み痕	覆土上層	
TP294	縄文土器	鉢	長石・赤色粒子	浅黄橙	不良	ナデ→沈線文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q60	勾玉	3.1	2.1	0.4	3.3	砂岩	平滑な曜利用　くびれ部のみ強く研磨	覆土上層	PL26

第198号土坑（第79図）

位置　調査ⅡB区のB5j1区，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第4号住居に掘り込まれている。

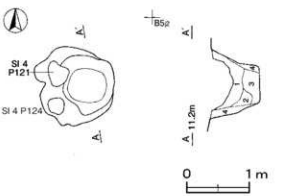
規模と形状　長径1.32m，短径1.26mの不定形で，長径方向はN－70°－Eである。深さは80cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　4層に分層できる。ローム粒子・炭化粒子を含む，締まりの弱い層がブロック状に堆積していることから，埋め戻されている。第3層中には焼土粒子・灰も含まれている。

土層解説

1　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・灰微量
4　暗褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

所見　遺物を伴わないことから性格や明確な時期は不明であるが，第4号住居に掘り込まれていることから，後期後葉以前と考えられる。



第79図　第198号土坑実測図

第200号土坑（第80図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５h7区，標高10.5mの台地斜面部に位置している。

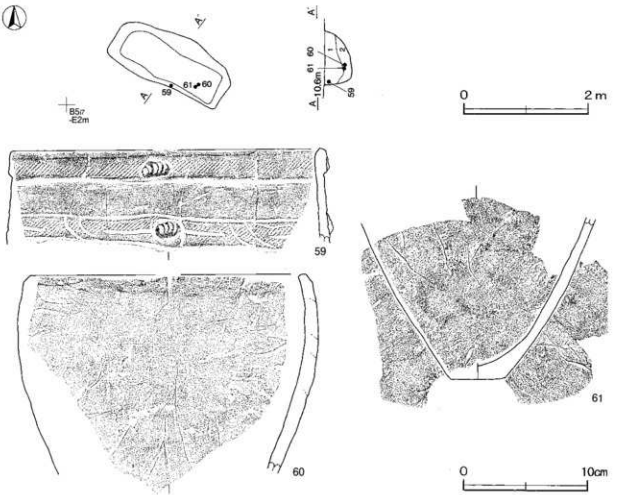
規模と形状　長軸1.98m，短軸0.82mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－64°－Ｗである。深さは50cmで，底面は平坦である。壁は南・東壁が外傾して，北・西壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。ローム粒子を多く含む土で，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片66点が出土している。59は覆土上層から，60・61は覆土下層から出土している。

所見　形状や覆土が埋め戻されていること，底面から10cm上の位置から大形の土器片が出土していることなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から晩期前葉と考えられる。



第80図　第200号土坑・出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
59	縄文土器	深鉢	[24.9]	(7.5)	－	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文無節L→コブ貼付・磨き	覆土上層	30%
60	縄文土器	深鉢	[22.0]	(16.0)	－	長石・石英	黒褐	普通	外面削り→粗いナデ	覆土下層	25%
61	縄文土器	深鉢	－	(12.7)	4.3	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面・底面削り　内面保付者	覆土下層	25%

第202号土坑（第81図）

位置　調査ⅡA区のC4d2区，標高11mの台地平坦部に位置している。

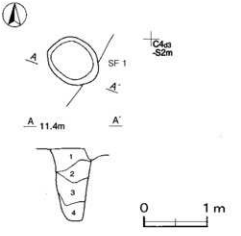
重複関係　第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長径0.83m，短径0.72mの楕円形で，長径方向はN－40°－Wである。深さは116cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　4層に分層できる。ローム粒子・炭化粒子を含む暗褐色土によって，埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量

所見　遺物がなく，性格や時期は不明であるが，深い円筒形の形状は，第161号土坑や第203・205号土坑などに類似していることから墓坑の可能性があるが，断定はできない。



第81図　第202号土坑実測図

第203号土坑（第82図）

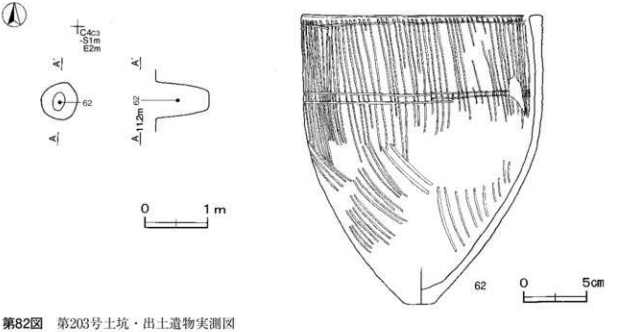
位置　調査ⅡA区のC4c3区，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝，第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長径0.60m，短径0.58mの円形である。深さは83cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況　縄文土器片8点が出土している。62は覆土中層から横位で出土している。

所見　深い円筒形で，ほぼ完形の深鉢が出土していること，それ以外にほとんど遺物を伴っていないことなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第82図　第203号土坑・出土遺物実測図

第203号土坑出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
62	縄文土器	深鉢	18.9	22.9	2.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	沈線→横位区画→キザミ	覆土中層	80% PL19

第204号土坑（第83図）

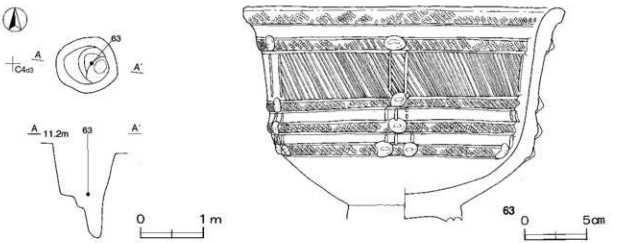
位置　調査ⅡA区のC4d3区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝，第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.00m，短径0.90mの楕円形で，長径方向はN－82°－Wである。深さは145cmで，底面は中位で段をなしている。壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況　縄文土器片4点が出土している。63は覆土中層から正位で出土している。

所見　深い円筒形で，鉢部がほぼ完形に遺存する台付鉢が出土していること，それ以外にほとんど遺物を伴っていないことなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第83図　第204号土坑・出土遺物実測図

第204号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
63	縄文土器	台付鉢	24.5	(17.0)	－	長石	浅黄橙	普通	条線→横位沈線→縄文区L→コブ貼付→縦位沈線・無文部磨き　内面煤付着	覆土中層	50% PL20

第205号土坑（第84図）

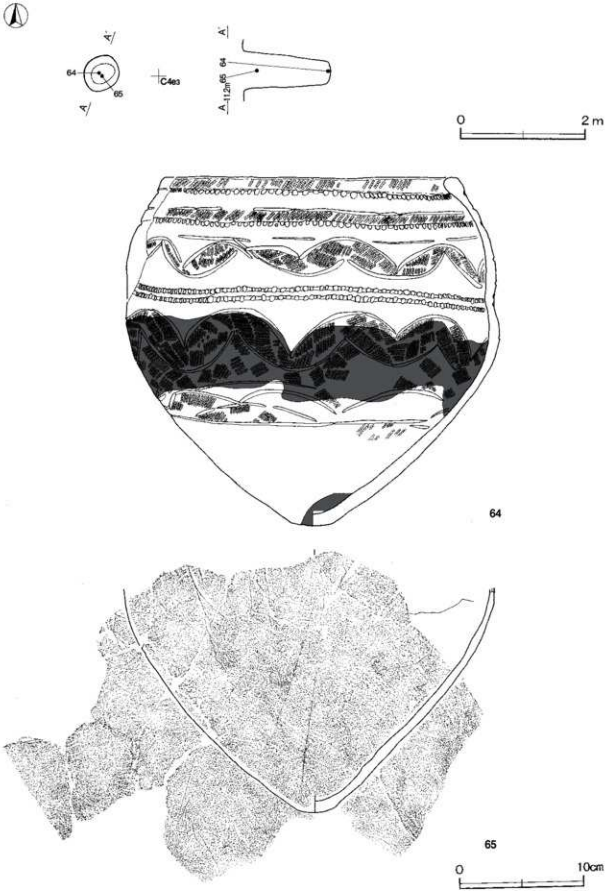
位置　調査ⅡA区のC4d2区，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22号溝，第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長径0.60m，短径0.53mの楕円形で，長径方向はN－20°－Eである。深さは140cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況　縄文土器片18点が出土している。64は底面から正位で，65は覆土上層から逆位で出土している。

所見　深い円筒形で，ほぼ完形の深鉢が出土していること，それ以外にほとんど遺物を伴っていないことなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



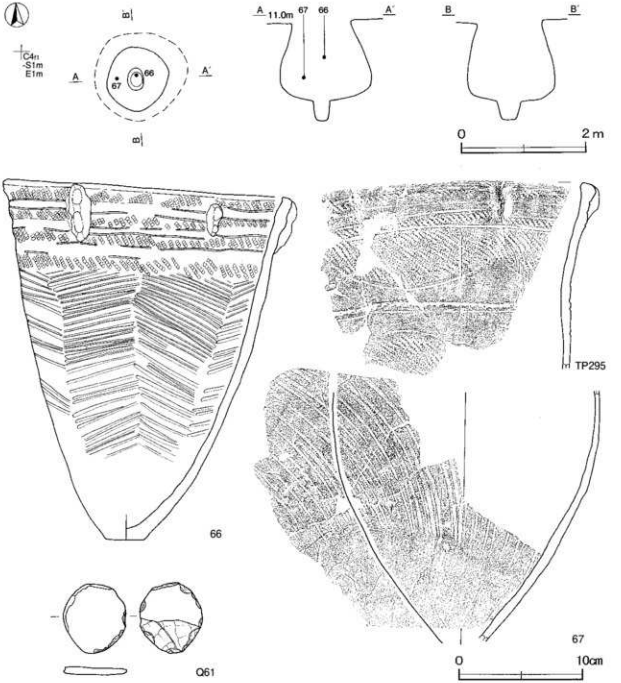
第84図　第205号土坑・出土遺物実測図

第205号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
64	縄文土器	深鉢	[23.5]	27.8	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	沈線→刺突→縄文及→無文部磨き 体部下半は磨きにより縄文潰消　内面磨き	底面	60%　PL19
65	縄文土器	深鉢	－	(17.8)	3.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい・褐	普通	外面・底部削り	覆土上層	50%

第206号土坑（第85図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ４ｆ区，標高10.9ｍの台地平坦部に位置している。



第85図　第206号土坑・出土遺物実測図

重複関係　第22号溝，第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　径1.02mの円形で，深さは126cmである。底面は平坦で，中央に深さ30cmのピットがある。壁はオーバーハングしている。

遺物出土状況　縄文土器片188点，石製品２点（石棒，石製円盤），剥片１点（チャート）が出土している。66は覆土中層から正位で，67は覆土下層から正位で，TP295は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　深い円筒形でほぼ完形の深鉢が出土していること，それ以外にほとんど遺物を伴っていないことなどから墓坑の可能性があるが，断定はできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第206号土坑出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	22.3	28.3	3.0	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 体部条縄・下半磨き　内面磨き	覆土中層	80%　PL19
67	縄文土器	深鉢	－	(20.0)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	底部付近磨き　外面煤付着	覆土下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP295	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	黒褐	普通	コブ貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q61	円盤	5.6	5.0	0.6	22.8	凝灰岩	周縁を敲打して整形	覆土中	

第207号土坑（第86・87図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５i1区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

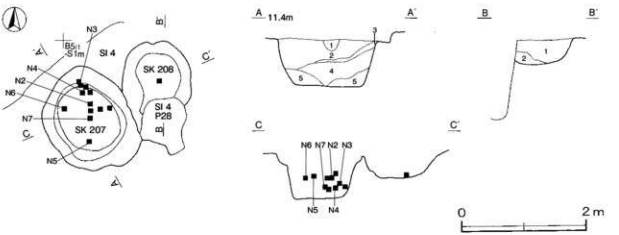
重複関係　第４号住居に掘り込まれている。第208号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.70m，短径1.36mの楕円形で，長径方向はＮ－28°－Ｗである。深さは75cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がり，上位で段をなしている。

覆土　５層に分層できる。第２層は炭化粒子を多く含んでおり，第３層はロームブロックを多く含んでいる。土坑中位まで自然に堆積した後，埋め戻されたものとみられる。

土層解説

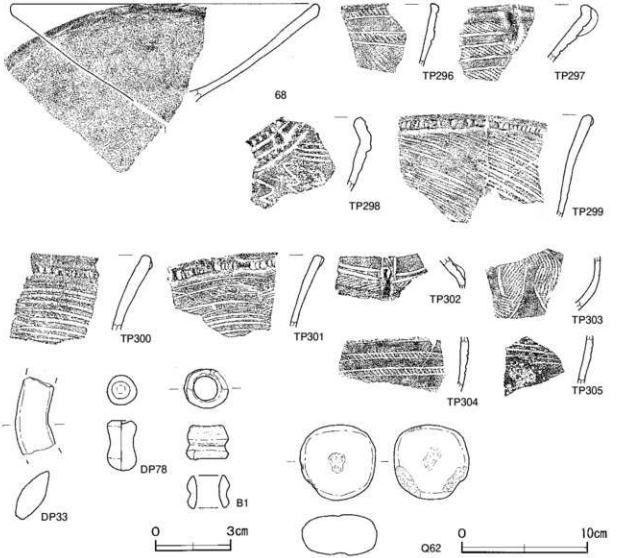
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量



第86図　第207・208号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片124点，土製品２点（耳飾り，貝輪状土製品），石器３点（石皿，磨石，砥石），骨角器１点（栓状製品）が出土している。TP296 ～ TP300，TP302 ～ TP304は覆土上層，TP301・TP305は覆土中層，68は覆土下層からそれぞれ出土している。また覆土中層から下層にかけて，獣骨片が良好な遺存状態で出土している（付章参照）。

所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，土器片や獣骨片などが多く出土していることから，土坑の機能停止後，廃棄土坑として用いられた可能性がある。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第87図　第207号土坑出土遺物実測図

第207号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
68	縄文土器	浅鉢	[24.6]	(7.7)	－	長石・雲母	褐	普通	内・外面磨き	覆土下層	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP296	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP297	縄文土器	深鉢	長石・雲母	極暗褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP298	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい褐	普通	隆帯上キザミ	覆土上層	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP299	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	条線→縄線貼付	覆土上層	
TP300	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	縄線貼付→条線	覆土上層	
TP301	縄文土器	深鉢	長石	黒	普通	条線→縄線貼付	覆土中層	
TP302	縄文土器	壺か	赤色粒子	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土上層	
TP303	縄文土器	深鉢	長石	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP304	縄文土器	深鉢	雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	覆土上層	
TP305	縄文土器	壺か	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き　赤彩	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP33	円輪状土製品	(3.0)	1.3	1.9	(5.7)	にぶい黄橙　長石	ナデ整形	覆土上層	
DP78	耳飾り	－	1.2	2.0	3.1	黒　長石	研磨整形	覆土中層	PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q62	磨石	6.0	6.0	3.2	183.0	安山岩	周縁研磨　正・裏面・周縁敲打	覆土上層	

番号	器種	上径	下径	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
B 1	柱状製品	1.6	1.7	1.3	(1.9)	蛇角	凋か　研磨整形　孔径0.9cm	覆土中	PL28

第208号土坑（第86図）

位置　調査ⅡB区のB5i1区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第4号住居に掘り込まれている。第207号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

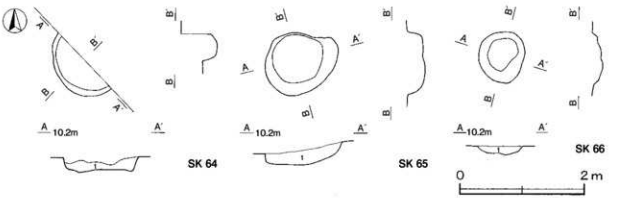
規模と形状　確認できた長径1.20m，短径1.06mの楕円形で，長径方向はN－0°である。深さは38cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　2層に分層できる。いずれもロームブロックを含んでおり，埋め戻されている。

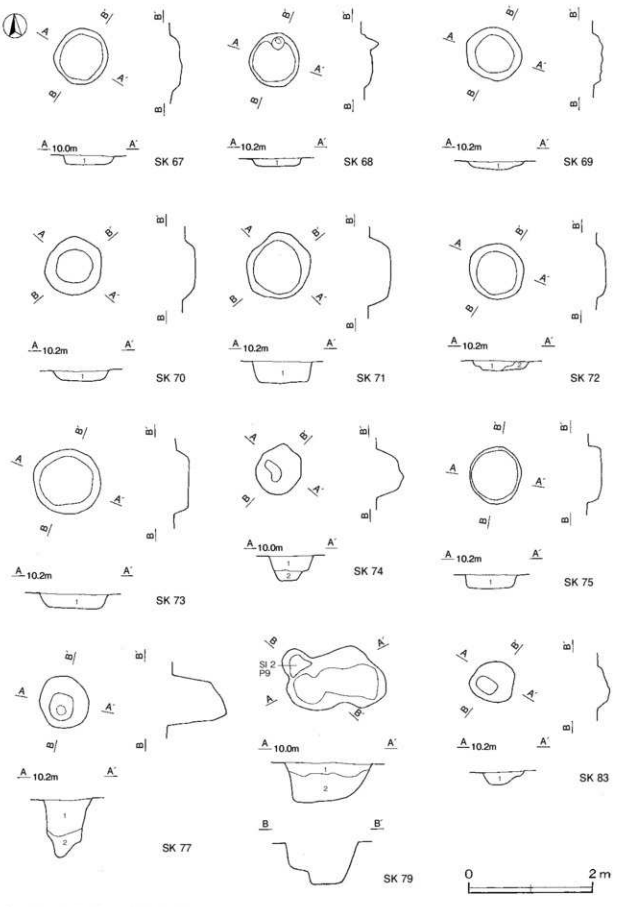
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片59点が出土しているが，いずれも小片で図示できない。また覆土中層から下層にかけて，獣骨片と貝類（オオタニシ）が良好な遺存状態で出土している（付章参照）。

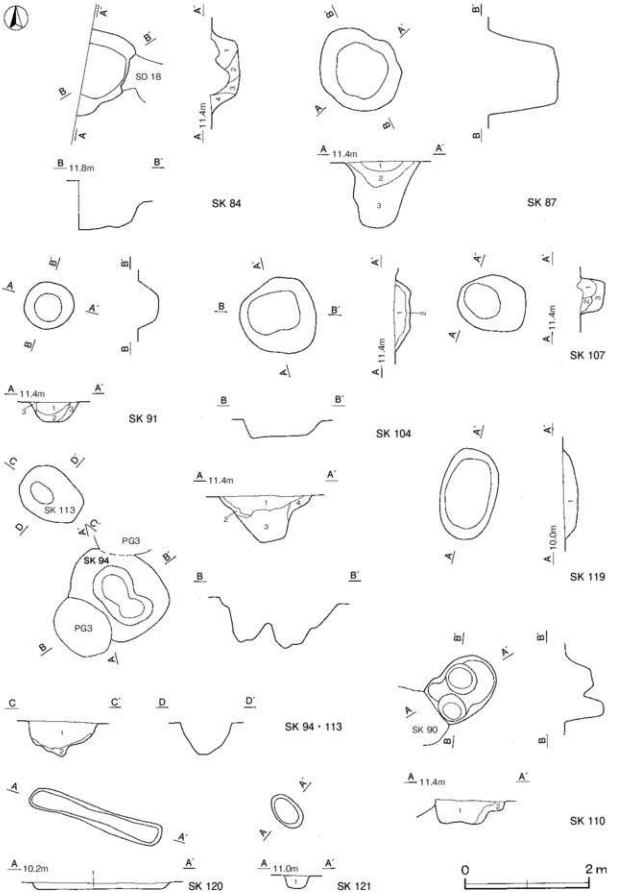
所見　形状から貯蔵穴の可能性があるが，土器片や獣骨片などが出土していることから，土坑の機能停止後，廃棄土坑として用いられた可能性がある。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



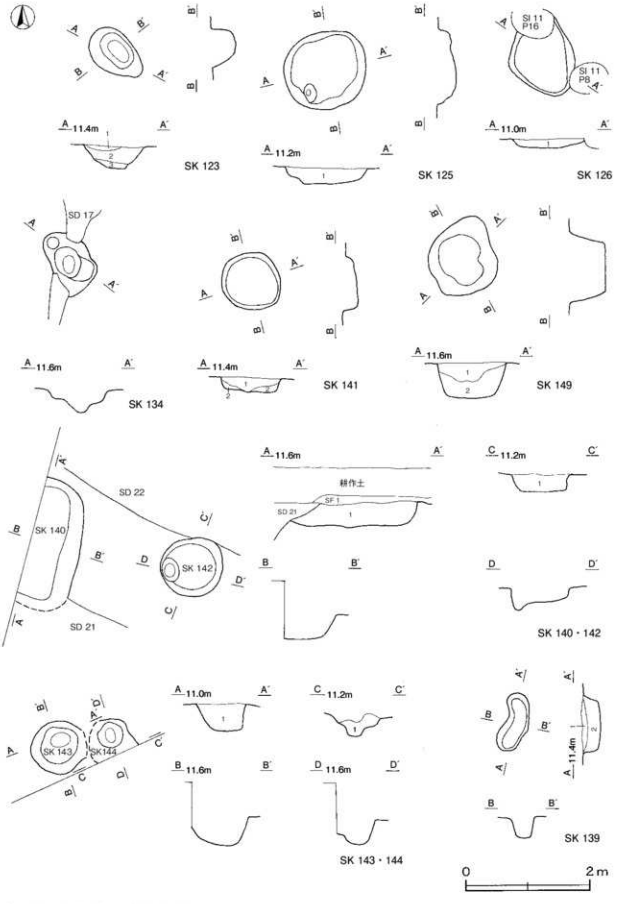
第88図　縄文時代土坑実測図(1)



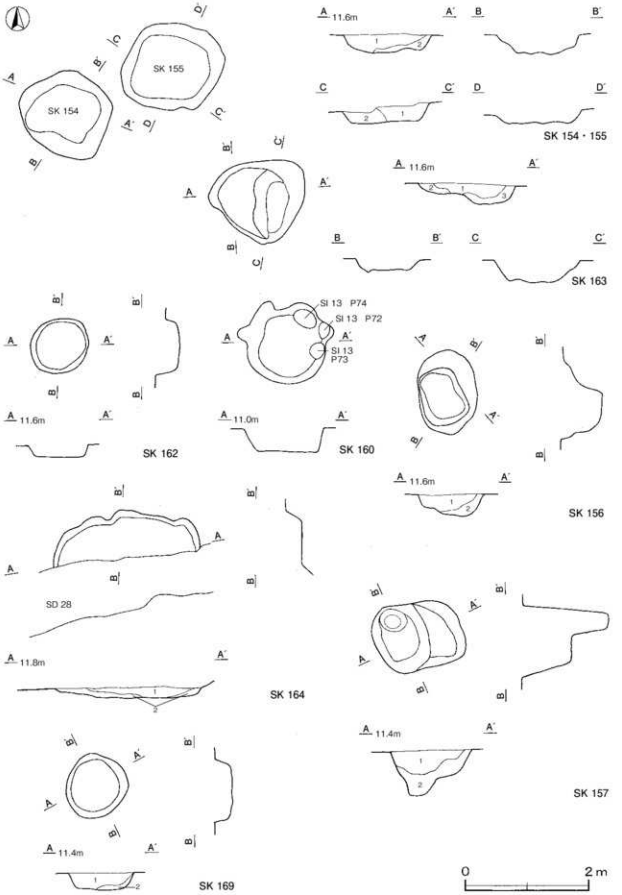
第89図　縄文時代土坑実測図(2)



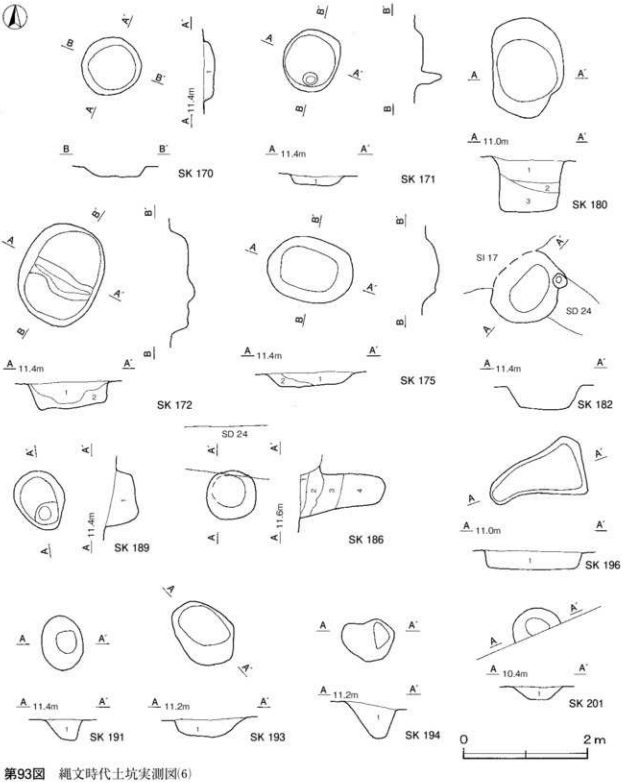
第90図　縄文時代土坑実測図(3)



第91図　縄文時代土坑実測図(4)



第92図　縄文時代土坑実測図(5)



第93図　縄文時代土坑実測図(6)

第64号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第65号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第66号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第67号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第68号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第69号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第70号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第71号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第72号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第73号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第74号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第75号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第77号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量

第79号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第83号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

第84号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第87号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第91号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第94号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

第104号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第107号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第110号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第113号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量

第119号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第120号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量

第121号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量

第123号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第125号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第126号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第139号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第140号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第141号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第142号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第143号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第144号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第149号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第154号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第155号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第156号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第157号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第163号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第164号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量

第169号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第170号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量

第171号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量

第172号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第175号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量

第180号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子多量

第186号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第189号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量

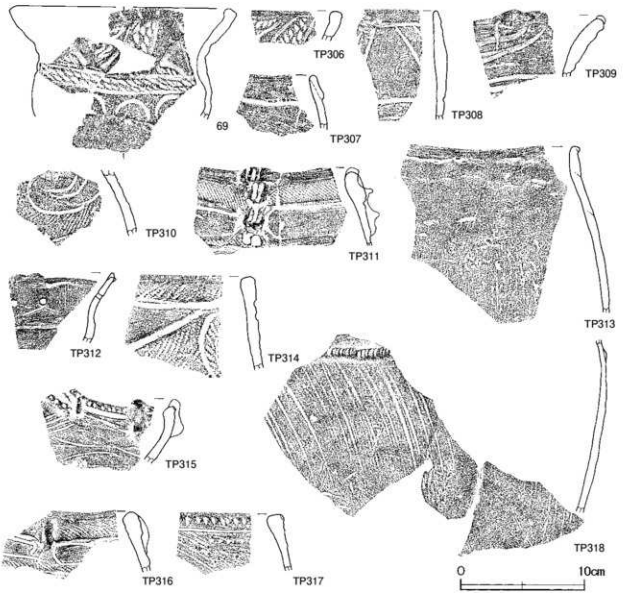
第191号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量

第193号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量

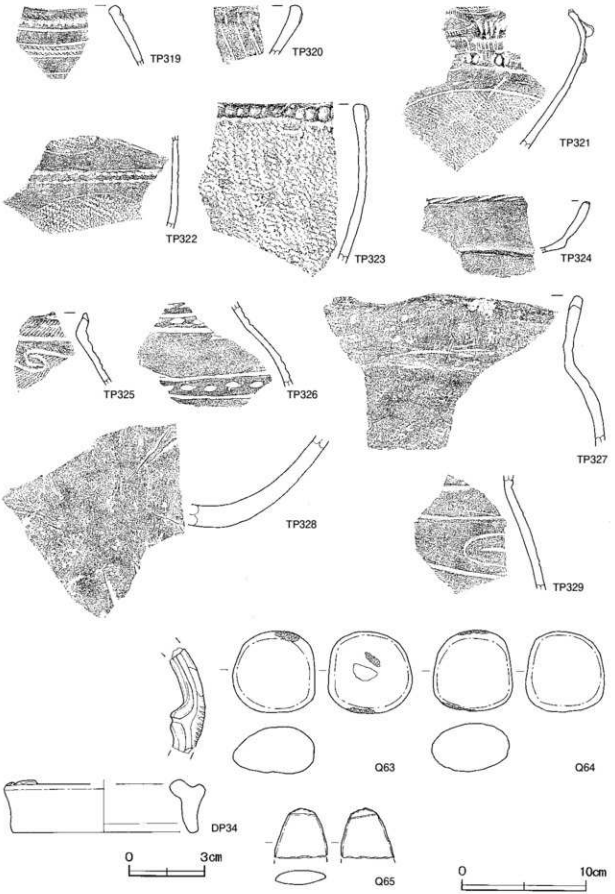
第194号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第196号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第201号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量



第94図　縄文時代土坑出土遺物実測図(1)



第95図　縄文時代土坑出土遺物実測図(2)

縄文時代土坑出土遺物観察表（第94・95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
69	縄文土器	深鉢	[16.8]	(8.9)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内面凹線状のナデ	SK64下層	10%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP306	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部内面凹線状のナデ　69と同一個体？	SK64下層	
TP307	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	複合口縁　口縁部指頭によるおさえ　体部削り	SK64上層	
TP308	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	内・外面ナデ	SK75上層	
TP309	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	内・外面ナデ　口縁部にB突起	SK75上層	
TP310	縄文土器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR	SK75上層	
TP311	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	コブ→隆帯上縄文RL→沈線→無文部磨き	SK79上層	
TP312	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面ナデ　補修孔	SK121上層	
TP313	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ　輪積み痕明瞭	SK121上層	
TP314	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	SK94	
TP315	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部隆帯貼付→沈線	SK126上層	
TP316	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	SK143上層	
TP317	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	条線→口縁部横位区画沈線	SK143上層	
TP318	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	組織→条線　二次焼成により変形	SK134	
TP319	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	SK154下層	
TP320	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	条線→口縁部キザミ	SK154下層	
TP321	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	沈線→縄文RL	SK154上層	
TP322	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	暗褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	SK154下層	
TP323	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	縄文LR→組織貼付	SK155	
TP324	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部・内面磨き　口唇部キザミ　体部削り	SK160下層	
TP325	縄文土器	広口壺	長石・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	SK189上層	
TP326	縄文土器	広口壺	石英・雲母	橙	普通	ナデ→文様施文→磨き	SK189上層	
TP327	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	良好	外面粗い磨き　内面ナデ	SK191下層	
TP328	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	内・外面ナデ　内面煤付着	SK189下層	
TP329	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	良好	沈線→磨き	SK196上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP34	耳飾り	(8.0)	－	2.1	(8.7)	にぶい黄橙～黒 長石・石英	滑車形　外面磨き整形	SK143上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q63	磨石	6.5	6.4	3.8	246.0	安山岩	上・下端、表面に敲打痕	SK77上層	
Q64	磨石	6.4	6.1	3.8	214.0	安山岩	上・下端に敲打痕	SK77上層	
Q65	不明石製品	(4.0)	4.0	1.1	(15.4)	花崗岩	先端部に沈線文　研磨による整形	SK160下層	

表4　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m） 長径（軸）×短径（軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備　考 重複関係（古→新）
64	B 6 d3	－	[円・楕円形]	(1.22)×(0.50)	23	外傾	凹凸	自然	縄文土器，剥片	晩期中葉	
65	B 5 b7	N-68°-E	不整楕円形	1.12×1.00	27	外傾	皿状	人為	縄文土器	晩期中葉	
66	B 5 c8	N-6°-W	楕円形	0.81×0.73	16	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	晩期中葉	
67	B 5 d7	N-35°-E	楕円形	0.90×0.81	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器	晩期中葉	
68	B 5 b8	N-7°-E	楕円形	0.87×0.78	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	晩期中葉	北壁際にピット

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)							
69	B 5 a9	−	円形	0.87×0.82	15	緩斜	凹凸	自然	縄文土器、陶器	晩期中葉	
70	B 5 a9	−	円形	0.96×0.89	15	緩斜	平坦	人為	縄文土器	晩期中葉	
71	B 5 b9	N−51°−E	楕円形	1.06×0.96	34	外傾	平坦	人為	縄文土器	晩期中葉	
72	B 5 b0	−	円形	0.93×0.85	16	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	晩期中葉	
73	B 5 b0	−	円形	1.10×1.04	22	外傾	平坦	自然	縄文土器	晩期中葉	
74	B 6 b1	−	円形	0.75×0.70	43	外傾・有段	皿状	自然	縄文土器	晩期中葉	
75	B 5 d9	−	円形	0.88×0.82	22	外傾	平坦	人為	縄文土器、石皿、磨石、剥片、陶器	晩期中葉	
76	B 6 e3	N−58°−W	楕円形	1.06×0.92	94	外傾	皿状	自然	縄文土器、磨石、石核、剥片、軽石	晩期中葉	
77	B 6 e3	N−21°−W	楕円形	0.86×0.76	92	外傾	皿状	自然	縄文土器、磨石、石核、剥片	晩期中葉	
78	B 6 e4	N−48°−E	[楕円形]	(0.94)×0.90	108	外傾	平坦	自然	縄文土器、石錘、石核、剥片	晩期中葉	
79	B 6 e4	N−85°−W	不定形	1.56×0.90	62	外傾・緩斜	平坦	自然	縄文土器、石核、剥片	晩期中葉	SI 2−P 9
80	B 6 f4	N−42°−W	不定形	1.51×0.84	103	外傾	凹凸	自然	縄文土器、石錘、磨石、剥片	晩期中葉	SI 2−P 8
81	B 5 a7	N−68°−W	隅丸長方形	1.66×1.44	112	外傾	平坦	自然	縄文土器、石錘、磨石、剥片	晩期中葉	
82	B 6 f3	N−12°−E	隅丸方形	1.08×1.03	66	外傾	平坦	人為	縄文土器、耳飾り、石核、剥片	晩期前葉	SI 2−P10
83	B 5 a8	−	円形	0.68×0.66	22	緩斜	皿状	自然	縄文土器	晩期中葉	
84	B 4 h0	N−10°−E	[楕円形]	1.38×(0.70)	44	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	本跡→SD18
87	C 5 a1	N−35°−W	楕円形	1.43×1.26	108	外傾	平坦	自然	縄文土器、砥石	後期後葉	
90	B 5 g2	N−77°−W	楕円形	1.70×0.93	74	外傾・直立	平坦	自然	縄文土器、剥片	後期前葉〜後葉	SK110
91	B 5 g2	−	円形	0.78×0.74	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	
92	B 5 g1	N−45°−E	不定形	1.48×1.20	46	外傾・有段	凹凸	人為	縄文土器、石錘、土製円盤、剥片、亀ヶ岡土器	後期後葉	
94	B 5 i3	N−41°−W	[楕円形]	1.56×[1.26]	78	外傾・緩斜	凹凸	自然	縄文土器、耳飾り、石錘、石核、剥片	晩期前葉〜中葉	PG 3−P 27・30
104	B 5 j3	−	円形	1.23×1.22	32	外傾・緩斜	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	
107	B 5 k3	N−68°−W	楕円形	1.08×0.92	34	外傾	平坦	人為	−	縄文	
110	B 5 g2	N−58°−E	[楕円形]	(1.10)×0.85	36	直立・外傾	凹凸	有段	縄文土器、砥石、剥片	晩期前葉〜中葉	SK90
113	B 5 i3	N−50°−W	楕円形	1.04×0.80	52	外傾・緩斜	凹凸	人為	縄文土器、剥片	後期後葉	
117	C 4 h0	N−37°−E	不定形	1.20×1.00	161	直立・有段	皿状	人為	縄文土器、石錘、石鏃	後期後葉	SI 5・6・10
118	B 5 f1	N−16°−E	[楕円形]	0.82×(0.66)	50	外傾	凹凸	人為	縄文土器、磨製石斧、石錘	後期前葉	
119	B 5 d5	N−16°−E	楕円形	1.43×0.89	25	緩斜	皿状	人為	縄文土器	晩期中葉	
120	B 5 d4	N−80°−W	長方形	2.16×0.34	8	外傾	平坦	人為	縄文土器	晩期前葉	
121	B 5 e6	N−46°−W	楕円形	0.62×0.36	20	外傾	平坦	自然	縄文土器	晩期中葉	
123	B 5 f1	N−45°−W	楕円形	0.99×0.64	38	緩斜	皿状	自然	縄文土器、石匙、剥片、炭化種子(クスギか)	後期後葉〜晩期前葉	
125	B 5 i5	−	円形	1.32×1.22	31	外傾	凹凸	自然	縄文土器	晩期前葉	
126	B 5 a6	N−30°−W	[不整楕円形]	(1.20)×0.98	16	緩斜	凹凸	自然	縄文土器、剥片、焼成粘土塊	後期後葉	本跡→SI11
134	B 5 g1	N−53°−W	不定形	1.01×0.65	39	緩斜	有段	−	縄文土器	後期後葉	本跡→SD17 SI 8
139	B 5 h1	N−18°−E	不整楕円形	0.94×0.35	33	外傾・直立	平坦	自然	縄文土器、剥片	後期後葉	
140	C 3 f9	N−14°−E	隅丸方形	2.08×(0.82)	42	外傾	平坦	自然	−	縄文	本跡→SD21、SF 1
141	B 5 j3	−	円形	1.01×0.92	24	直立	平坦	自然	−	縄文	
142	C 3 f0	−	円形	1.00×1.00	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	本跡→SD21、SF 1 南西部にピット
143	B 5 a6	−	円形	0.86×0.84	47	外傾・緩斜	皿状	自然	縄文土器、剥片、亀ヶ岡土器、炭化種子(オニグルミ?)か、獣骨片	後期後葉	SI11→本跡 SK144
144	B 5 k6	N−42°−W	(不定形)	(0.60)×0.69	39	外傾	有段	自然	−	縄文	SI11 SK143
148	C 5 d2	N−43°−W	楕円形	0.94×0.82	70	外傾・内傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	
149	B 4 f9	N−17°−E	不整楕円形	1.33×1.12	57	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	SI14
150	C 4 h8	N−17°−W	楕円形	1.58×1.42	252	直立	平坦	人為	縄文土器、土器片円盤	後期後葉	SI18→本跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m） 長径（軸）×短径（軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備　考 重複関係（古→新）
151	C 4 b7	N-20°-E	楕円形	1.78×1.28	140	有段	平田	自然	縄文土器，剥片，骨片	後期後葉	SI18→本跡→SD25
154	B 4 j7	N-63°-W	不整楕円形	1.44×1.30	30	外傾・緩斜	凹凸	自然	縄文土器	後期後葉	SI15
155	B 4 j8	N-67°-E	不整楕円形	1.68×1.46	16	緩斜	凹凸	自然	縄文土器，剥片	後期中葉	
156	B 4 g7	N-10°-W	楕円形	1.32×0.94	66	外傾・緩斜	皿状	自然	縄文土器	後期後葉	SI19
157	C 4 b7	N-85°-E	不整楕円形	1.50×1.08	80	外傾・有段	平田	自然	縄文土器	後期後葉	SI18→本跡　北壁際にピット
158	B 4 h7	－	円形	1.50×1.50	118	外傾	平田	人為	縄文土器，磨石，剥片	後期後葉	SI13B→本跡→SI13A
160	B 4 h7	－	不整形	1.32×1.32	38	外傾	平田	－	縄文土器，石製品	後期中葉	本跡→SI13B
161	B 4 i6	N-18°-E	不整楕円形	1.20×0.88	178	外傾	有段	人為	縄文土器，剥片	後期後葉	SI15
162	B 4 i7	N-48°-E	楕円形	0.98×0.88	20	外傾	平田	－	－	縄文	SI15
163	B 4 j8	N-90°	楕円形	1.54×1.33	35	外傾	有段	自然	縄文土器	後期後葉	
164	C 4 a8	不明	［楕円形］	(2.38)×(0.72)	24	外傾	平田	自然	縄文土器	後期中葉	本跡→SD28　SI 5・10
165	B 5 h5	N-56°-W	［楕円形］	1.26×(0.94)	72	直立	平田	自然	縄文土器	後期後葉	本跡→SK166
166	B 5 h5	N-7°-W	［楕円形］	1.50×(1.36)	44	外傾	平田	人為	縄文土器，土錘，磨石，石棒，剥片	晩期中葉	SK165→本跡
169	C 4 e1	N-24°-E	楕円形	1.02×0.92	28	外傾	平田	自然	縄文土器	後期中葉～後葉	
170	C 4 g1	－	円形	0.95×0.92	16	外傾	平田	自然	縄文土器，土師質土器	後期後葉	
171	C 3 g9	N-20°-E	楕円形	0.98×0.88	14	外傾・緩斜	凹凸	自然	縄文土器	後期後葉	南壁際にピット
172	C 3 h0	N-34°-E	楕円形	1.64×1.28	38	外傾	凹凸	自然	－	縄文	
173	C 4 a6	N-36°-W	楕円形	1.14×0.86	70	外傾・直立	皿状	人為	縄文土器，剥片，獣骨片	後期後葉	
174	C 4 c2	N-73°-W	楕円形	1.18×0.89	97	内傾・直立	平田	人為	縄文土器，剥片	後期後葉	
175	C 3 h9	N-71°-W	楕円形	1.36×0.98	26	緩斜	凹凸	自然	－	縄文	
180	B 5 g4	N-3°-W	楕円形	1.62×1.10	95	外傾・直立	平田	自然	縄文土器	後期後葉	
181	B 5 h4	N-74°-E	不定形	1.72×1.60	64	外傾	凹凸	人為	縄文土器，土玉，磨石，石棒，剥片	後期前葉～中葉	
182	C 4 h3	N-42°-E	［楕円形］	1.08×(0.95)	36	外傾	平田	－	縄文土器，磁器，瓦	後期後葉	SI17 SD24
185	B 5 h6	N-43°-W	隅丸長方形	1.85×0.92	43	外傾	平田	人為	縄文土器，磨石，勾玉，剥片	晩期中葉	
186	C 4 c5	－	円形	0.82×0.78	132	外傾・直立	皿状	人為	－	縄文	本跡→SD24
189	B 5 g2	N-24°-W	楕円形	0.97×0.80	50	緩斜	凹凸	自然	縄文土器，軽石	後期後葉～晩期中葉	
191	B 5 g2	N-3°-E	楕円形	0.88×0.66	32	外傾・緩斜	皿状	自然	縄文土器	後期後葉～晩期中葉	
193	B 5 g3	N-41°-W	楕円形	1.15×0.87	30	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	後期後葉～晩期前葉	
194	B 5 g2	N-80°-W	不定形	0.83×0.63	60	緩斜	皿状	自然	縄文土器	後期	
196	B 5 g3	N-70°-E	不定形	1.56×0.96	28	外傾	平田	自然	縄文土器	晩期前葉～中葉	
198	B 5 j1	N-70°-E	不定形	1.32×1.26	80	外傾	平田	人為	－	後期後葉～晩期前葉	本跡→SI 4
200	B 5 h7	N-64°-W	隅丸長方形	1.98×0.82	50	外傾・緩斜	平田	人為	縄文土器，剥片	晩期前葉	
201	B 5 h8	－	［円・楕円形］	0.78×(0.38)	19	緩斜	平田	自然	－	縄文	
202	C 4 d2	N-40°-W	楕円形	0.83×0.72	116	外傾	平田	人為	－	縄文	本跡→SF 1
203	C 4 c3	－	円形	0.60×0.58	83	外傾	平田	－	縄文土器	後期後葉	本跡→SD22．SF 1
204	C 4 d3	N-82°-W	楕円形	1.00×0.90	145	外傾	有段	－	縄文土器	後期後葉	本跡→SD22．SF 1
205	C 4 d2	N-20°-E	楕円形	0.60×0.53	140	外傾	平田	－	縄文土器，礫器	後期後葉	本跡→SD22．SF 1
206	C 4 f1	－	円形	1.02×1.02	126	内傾	平田	－	縄文土器，土製円盤，石棒，剥片	後期後葉	本跡→SD22．SF 1
207	B 5 i1	N-28°-W	楕円形	1.70×1.36	75	外傾・有段	平田	人為	縄文土器，耳飾状土製品，石皿，磨石，砥石，獣骨	後期後葉	EISI 4・P 27　本跡→SI 4　SK208
208	B 5 i1	N-90°	楕円形	1.20×1.06	38	外傾	平田	人為	縄文土器，獣骨，貝類	後期後葉	EISI 4・P 28　本跡→SI 4　SK207

(4) ピット群

今回の調査で，縄文時代と考えられるピット群12か所が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記載する。

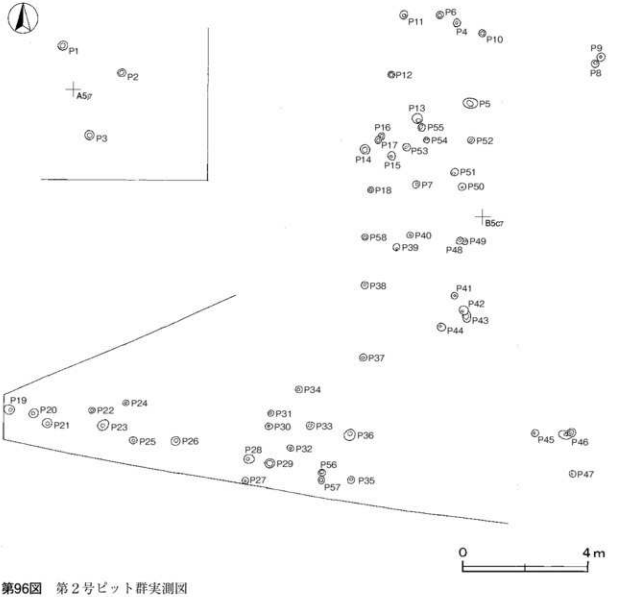
第２号ピット群（第96図）

位置　調査ⅡＣ区のＡ５i6～Ｂ５e7区，標高9.5～9.9mの斜面部に位置している。

規模と形状　南北23m，東西20mほどの範囲から，ピット58か所が確認された。平面形は長径18～52cmの円形あるいは楕円形で，深さは４～65cmである。

遺物出土状況　ピットの覆土中から縄文土器片114点，石器１点（磨石），剥片１点（チャート）のほか，混入した土師器片10点（高坏１，壺１，甕８）も出土している。縄文土器は，後期後葉のものを若干含んでいるが，ほとんどが晩期中葉のものである。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から晩期中葉と考えられる。



第96図　第２号ピット群実測図

第２号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	32	31	12	21	30	30	－	41	22	20	20
2	24	24	16	22	22	17	－	42	29	26	34
3	38	26	18	23	38	30	－	43	24	23	8
4	26	25	21	24	21	20	－	44	25	23	30
5	46	28	21	25	23	22	－	45	23	20	22
6	27	22	15	26	28	28	27	46	52	26	50
7	25	22	40	27	23	20	12	47	21	17	28
8	26	21	27	28	34	27	44	48	25	19	16
9	28	27	56	29	27	26	4	49	18	16	18
10	22	22	12	30	24	23	8	50	25	23	22
11	26	25	25	31	20	19	12	51	23	23	9
12	21	20	19	32	21	18	16	52	23	22	16
13	33	29	53	33	26	24	6	53	24	24	20
14	30	27	43	34	21	19	14	54	19	16	12
15	26	22	17	35	24	23	18	55	22	21	12
16	20	20	15	36	36	32	65	56	21	20	48
17	22	19	12	37	25	23	22	57	24	21	16
18	20	19	16	38	24	21	24	58	20	19	19
19	32	31	－	39	24	[24]	14				
20	31	30	－	40	22	18	26				

第３号ピット群（第97 ～ 100図）

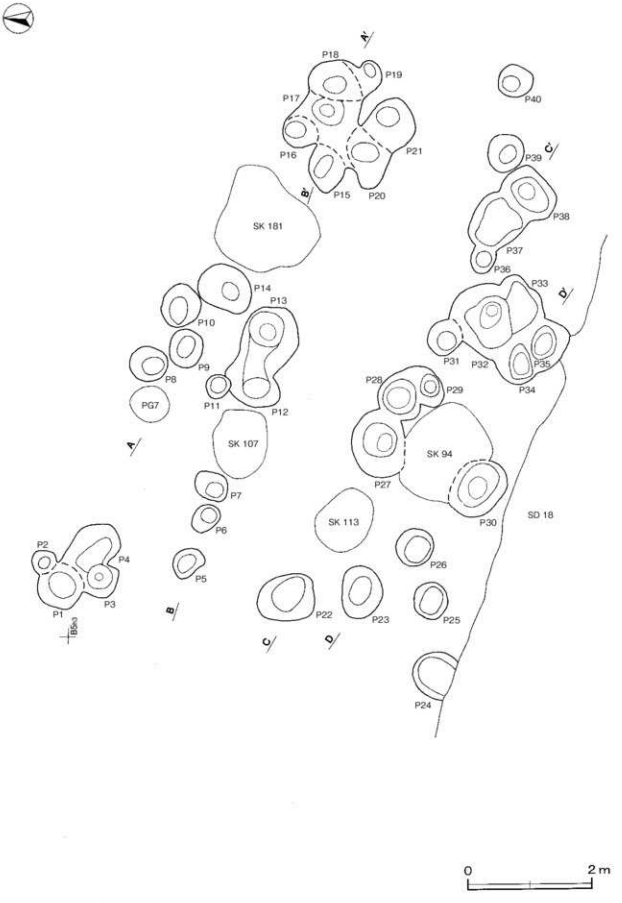
位置　調査Ⅱ B区のＢ５h3 ～Ｂ５i5区，標高11.2mの台地斜面部に位置している。

重複関係　第18号溝に掘り込まれている。第94号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。またピットが一地点で４か所以上重複している部分があるが，それぞれの新旧関係は不明である。

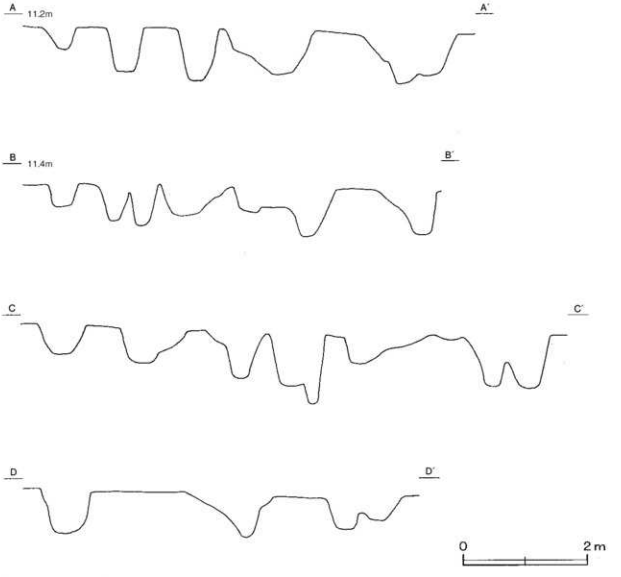
規模と形状　南北７m，東西10mほどの範囲から，ピット40か所が確認された。平面形は長径43 ～ 122cmの円形または楕円形で，深さは24 ～ 120cmである。

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片2,622点，土製品９点（土偶１，耳飾り４，土器片円盤４），石器８点（石鏃２，打製石斧１，磨製石斧１，磨石１，敲石２，砥石１），石製品４点（石棒２，垂飾品２），石核７点（チャート），剥片55点（チャート43，黒曜石９，緑泥片岩３），焼成粘土塊５点，軽石１点，炭化種子（クヌギッ）25点が出土している。炭化種子はＰ14の覆土中層から出土している。土器は後期後葉から晩期中葉のものが多い。

所見　ピットが東西方向に列状に分布していることなどから，本跡は何らかの建物跡が数軒以上重複したものと考えられる。Ｐ８～Ｐ14，Ｐ15 ～Ｐ21，Ｐ27 ～Ｐ30，Ｐ36 ～Ｐ39のピットが重複する部分は，１×１間の建物跡が数回建て替えられたものと想定することもできるが，それぞれの柱穴配置を捉えることは困難である。時期は，出土土器から後期後葉から晩期中葉と考えられる。



第97図　第３号ピット群実測図(1)

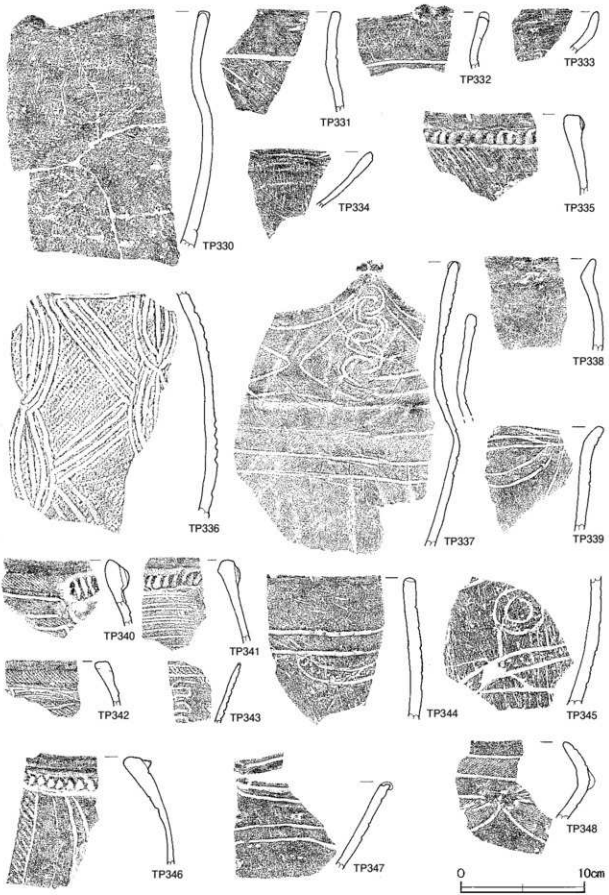


第98図　第３号ピット群実測図(2)

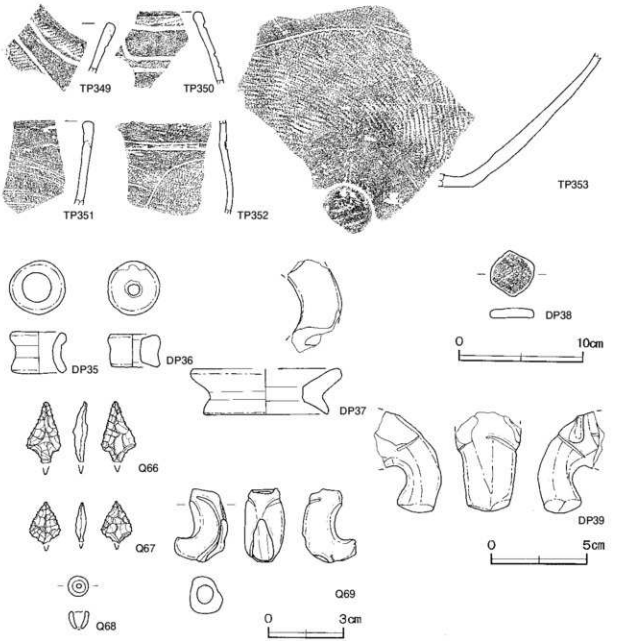
第３号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	[70]	[64]	82	15	80	[58]	35	29	76	[48]	120
2	[40]	40	90	16	57	[50]	46	30	104	[80]	72
3	[88]	68	90	17	[92]	[60]	76	31	58	54	44
4	[88]	68	102	18	94	[62]	64	32	[122]	[104]	102
5	56	40	48	19	43	[38]	18	33	[84]	[40]	34
6	48	36	64	20	98	[68]	49	34	[64]	[62]	54
7	60	44	68	21	[78]	76	40	35	[86]	[58]	36
8	60	60	56	22	90	73	50	36	[50]	38	80
9	60	53	70	23	83	63	77	37	[90]	78	74
10	68	60	39	24	(66)	74	24	38	92	[66]	78
11	40	36	81	25	58	53	38	39	64	60	34
12	102	[60]	55	26	62	58	34	40	60	52	26
13	[112]	90	93	27	110	[86]	76				
14	86	68	96	28	78	[68]	96				



第99図　第３号ピット群出土遺物実測図(1)



第100図　第３号ピット群出土遺物実測図(2)

第３号ピット群出土遺物観察表（第99・100図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP330	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	緩い波状口縁　内・外面ナデ　口縁部に煤付着	P１	
TP331	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	細密沈線文充填ヵ	P１中層	
TP332	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	沈線→縄文RL	P４上層	
TP333	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	底面に細い沈線で文様施文	P４上層	
TP334	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面削り　内面磨き	P４中層	
TP335	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	組紐貼付→条線	P４中層	
TP336	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	縄文LR→沈線	P７	
TP337	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	不良	沈線→縄文LR	P12	PL19
TP338	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部強いナデ　体部内・外面ナデ	P12下層	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP339	縄文土器	鉢	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内・外面ナデ	P 12中層	
TP340	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	暗褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	P 10上層	
TP341	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄橙	普通	条線→組紐貼付→胴部磨り消し	P 21上層	
TP342	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文RL→沈線	P 21上層	
TP343	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄	普通	沈線→縄文RL	P 21上層	
TP344	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ　口唇部にキザミ　TP345と同一個体	P 28中層	
TP345	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ　TP344と同一個体	P 28中層	
TP346	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文無節L→組紐貼付	P 33上層	
TP347	縄文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内・外面粗い磨き	P 33上層	
TP348	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	コブ貼付→沈線→縄文LR	P 33上層	
TP349	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	良好	沈線→縄文LR→無文部磨き	P 37下層	
TP350	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	沈線→縄文無節L	P 37下層	
TP351	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	口縁部に輪積み痕	P 37上層	
TP352	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き　内面煤付着　二次焼成で変形	P 40	
TP353	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	沈線→縄文RL　底部網代圧痕→ナデ	P 40	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP35	耳飾り	2.1	－	1.7	3.5	暗灰黄　長石	外面ナデ整形	P 2中層	PL22
DP36	耳飾り	2.0	－	1.3	6.8	明褐　長石・石英	外面ナデ整形	P 2中層	PL22
DP37	耳飾り	[6.1]	－	1.8	(7.8)	橙　長石・石英・黒色粒子	内・外面ナデ整形	P 37上層	
DP38	土器片円盤	3.6	3.5	0.8	9.6	にぶい橙　長石・石英	深鉢体部片利用　周縁1/2研磨	P 4	
DP39	土偶	(5.3)	(3.6)	3.4	(39.9)	にぶい黄褐　長石・石英	中空	P 38中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q66	石鏃	(2.4)	1.4	0.5	(1.1)	チャート	有茎　先端部欠損　押圧調整	P 2中層	PL25
Q67	石鏃	(1.7)	1.2	0.4	(0.5)	チャート	有茎か　茎部先端欠損　押圧調整	P 33上層	PL25
Q68	垂飾品	0.8	0.8	0.7	0.6	長石質	上面からの片側穿孔	P 38下層	PL25
Q69	垂飾品	2.9	2.1	1.6	9.1	チャート	勾玉状	P 39下層	PL26

第４号ピット群（第101図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５j2・j3区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北3.5m，東西４mほどの範囲から，ピット５か所が確認された。平面形は長径38 ～ 80cmの円形あるいは楕円形で，深さは17 ～ 40cmである。

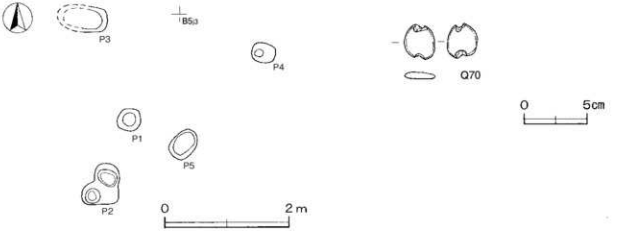
遺物出土状況　覆土中から縄文土器片58点，石器１点（石錘）が出土している。土器はほとんどが後期後葉のものである。Q70はＰ１の覆土上層から出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第４号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	38	36	31	3	[80]	42	17	5	50	38	18
2	74	52	40	4	38	32	26				



第101図　第４号ピット群・出土遺物実測図

第４号ピット群出土遺物観察表（第101図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
Q70	石錘	2.8	2.4	0.5	4.1	安山岩	扁平な礫の上下を打ち欠き	Ｐ１上層	PL27

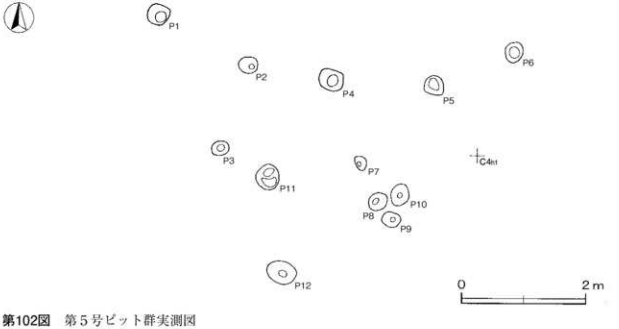
第５号ピット群（第102図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ３g9～Ｃ４g1区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北５m，東西６mほどの範囲から，ピット12か所が確認された。平面形は長径25～48cmの円形あるいは楕円形で，深さは10～68cmである。

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片31点，剥片２点（チャート）が出土している。土器はほとんどが後期後葉のものである。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。



第102図　第５号ピット群実測図

第５号ピット群計測表

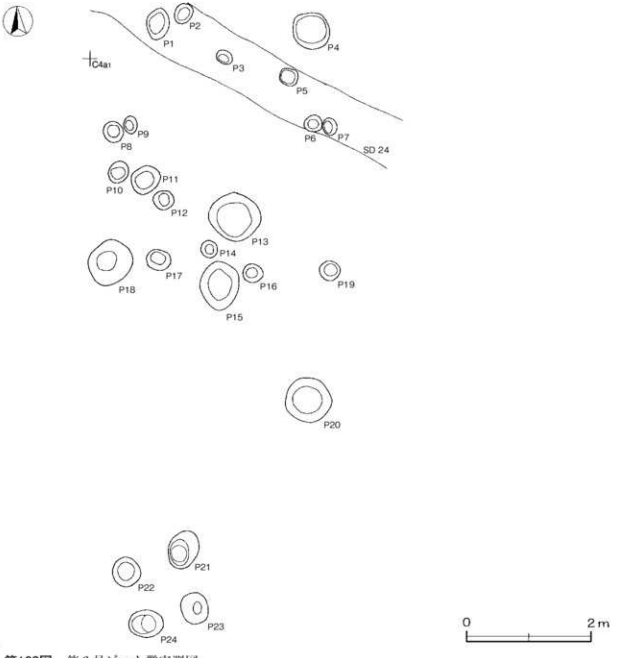
単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	36	34	10	5	33	33	19	9	29	23	17
2	30	26	49	6	34	30	26	10	35	30	14
3	30	24	15	7	25	15	64	11	40	38	45
4	42	32	16	8	32	27	29	12	48	35	68

第６号ピット群（第103図）

位置　調査ⅡＡ区のＢ４j1～Ｃ４c1区，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第24号溝に掘り込まれている。



第103図　第６号ピット群実測図

規模と形状　南北10m，東西４mほどの範囲から，ピット24か所が確認された。平面形は長径26 ～ 83cmの円形または楕円形で，深さは11 ～ 101cmである。

遺物出土状況　P21から縄文土器片１点が出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第６号ピット群計測表

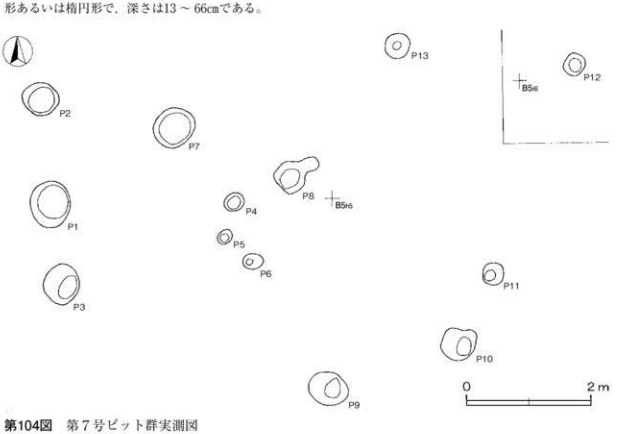
単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	50	47	42	9	28	22	16	17	38	32	45
2	33	30	29	10	36	30	32	18	73	64	49
3	26	20	11	11	47	42	31	19	31	31	49
4	65	60	101	12	34	31	35	20	71	71	26
5	29	25	50	13	83	77	17	21	61	48	55
6	29	26	29	14	27	26	22	22	46	44	25
7	27	23	40	15	76	63	19	23	50	44	64
8	32	32	19	16	32	28	32	24	56	45	29

第７号ピット群（第104図）

位置　調査Ⅱ B区のＢ５g3 ～Ｂ５h6区，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北７m，東西11mほどの範囲から，ピット13か所が確認された。平面形は長径25 ～ 73cmの円形あるいは楕円形で，深さは13 ～ 66cmである。



第104図　第７号ピット群実測図

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片165点，石器１点（磨石），石核１点（チャート），剥片６点（チャート３，黒曜石２，緑泥片岩１）が出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉から晩期中葉と考えられる。

第７号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	73	63	66	6	32	25	27	11	37	36	50
2	60	51	54	7	66	59	30	12	34	31	14
3	62	57	37	8	72	50	30	13	40	39	47
4	32	29	15	9	63	54	41				
5	25	21	13	10	61	54	42				

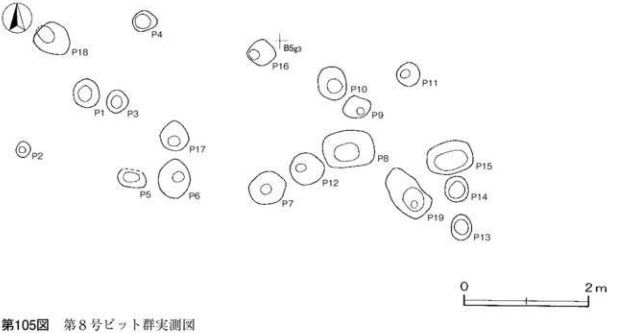
第８号ピット群（第105・106図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ５f2 ～ g3区，標高10.7 ～ 11.2mの斜面部に位置している。

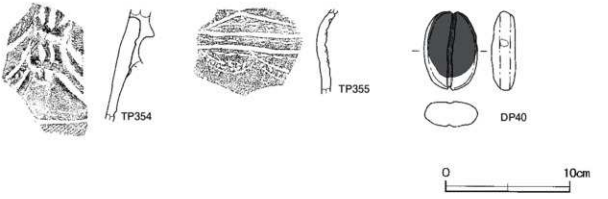
規模と形状　南北４m，東西８mほどの範囲から，ピット19か所が確認された。平面形は長径25 ～ 82cmの円形あるいは楕円形で，深さは13 ～ 94cmである。

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片195点，土製品１点（土錘）が出土している。TP354はＰ７の覆土上層から，TP355はＰ16の覆土上層から，DP40はＰ12の覆土下層からそれぞれ出土している。土器はほとんどが後期後葉から晩期中葉のものである。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉から晩期中葉と考えられる。



第105図　第８号ピット群実測図



第106図　第８号ピット群出土遺物実測図

第８号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	45	43	33	8	81	58	34	15	51	74	33
2	25	22	13	9	37	36	39	16	40	39	62
3	37	34	21	10	52	49	37	17	53	50	90
4	40	34	22	11	37	34	35	18	55	52	58
5	46	[28]	26	12	55	50	74	19	82	50	66
6	64	50	94	13	40	32	18				
7	60	52	92	14	40	39	30				

第８号ピット群出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP354	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	Ｐ７上層	
TP355	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黄褐	普通	内・外面ナデ	Ｐ16上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP40	土錘	6.2	4.2	1.9	53.1	にぶい黄褐　長石・石英・赤色粒子	有溝土錘	Ｐ12下層	

第９号ピット群（第107図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ４j8・j9区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北３m，東西３mほどの範囲から，ピット７か所が確認された。平面形は長径22～59cmの円形あるいは楕円形で，深さは７～29cmである。

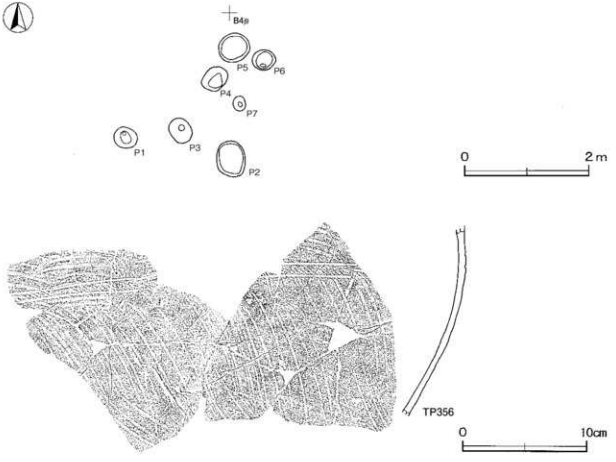
遺物出土状況　Ｐ１から縄文土器片12点が出土している。TP356はＰ１の覆土上層から出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第９号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	36	32	15	4	45	36	21	7	22	20	16
2	59	45	7	5	49	44	12				
3	40	33	29	6	38	32	15				



第107図　第９号ピット群・出土遺物実測図

第９号ピット群出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP356	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	条線→沈線→縄文RL	Ｐ１上層	

第10号ピット群（第108図）

位置　調査ⅡＡ区のＢ４h5・i5区，標高10mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　南北６m，東西４mほどの範囲から，ピット９か所が確認された。平面形は長径24～84cmの円形または楕円形で，深さは29～102cmである。

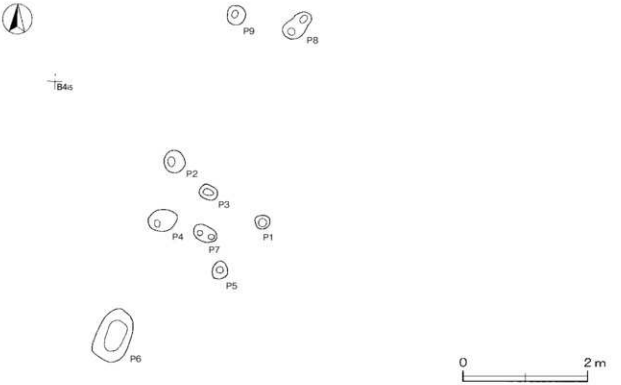
遺物出土状況　Ｐ２・Ｐ７から縄文土器片15点が出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第10号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	24	23	34	4	47	35	34	7	40	25	32
2	35	33	53	5	30	26	29	8	51	30	49
3	29	22	34	6	84	53	102	9	29	29	41



第108図　第10号ピット群実測図

第11号ピット群（第109図）

位置　調査Ⅱ A区のＢ４j5～Ｃ４a5区，標高11.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　南北４m，東西４mほどの範囲から，ピット10か所が確認された。平面形は長径30～86cmの円形あるいは楕円形で，深さは12～140cmである。

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片75点のほか，混入した陶器片１点が出土している。TP357・TP358はＰ８の覆土上層から出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

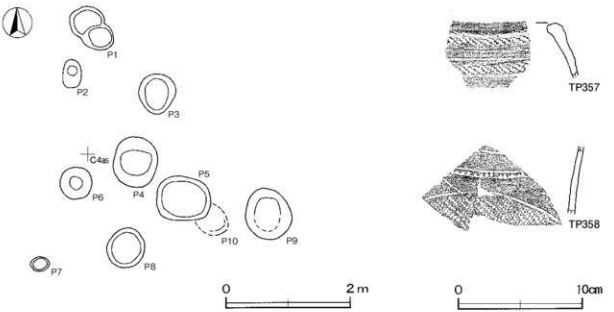
第11号ピット群出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP357	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	に示い橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	Ｐ８上層	
TP358	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	Ｐ８上層	

第11号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	80	54	39	5	86	70	60	9	66	61	140
2	47	30	36	6	82	75	52	10	46	[40]	44
3	64	60	38	7	50	50	12				
4	81	70	62	8	30	21	90				



第109図　第11号ピット群・出土遺物実測図

第12号ピット群（第110図）

位置　調査ⅡB区のC４b0，C５b1区，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北３m，東西６mほどの範囲から，ピット10か所が確認された。平面形は長径42～70cmの円形あるいは楕円形で，深さは19～121cmである。

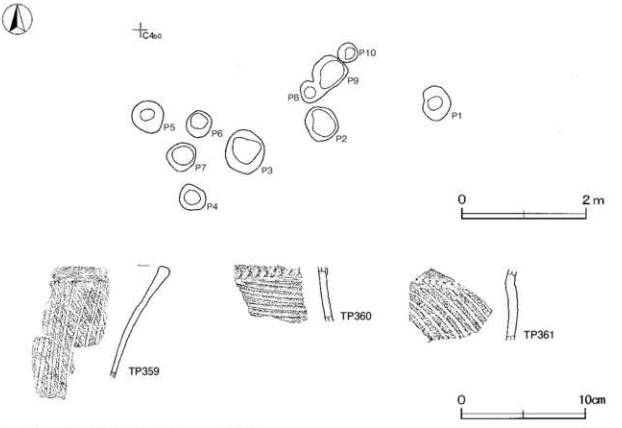
遺物出土状況　覆土中から縄文土器片26点が出土している。TP359はＰ７の覆土上層，TP360はＰ３の覆土下層，TP361はＰ４の覆土中層から出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期後葉と考えられる。

第12号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	54	42	38	5	52	50	117	9	[58]	50	49
2	54	50	60	6	42	42	20	10	30	30	19
3	70	64	121	7	50	46	75				
4	46	42	84	8	36	[30]	30				



第110図　第12号ピット群・出土遺物実測図

第12号ピット群出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP359	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線右廻→左廻　頸部に無文帯	Ｐ７上層	
TP360	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	条線→結束貼付	Ｐ３下層	
TP361	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐	普通	頸部ナデ→刺突→条線	Ｐ４中層	

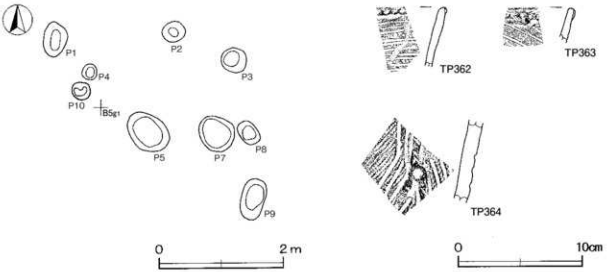
第13号ピット群（第111図）

位置　調査ⅡＢ区のＢ４f0～Ｂ５g1区，標高11.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　南北3.5m，東西４mほどの範囲から，ピット９か所が確認された。平面形は長径26～74cmの円形または楕円形で，深さは13～39cmである。

遺物出土状況　覆土中から縄文土器片128点が出土している。TP362・TP364はＰ５の覆土上層，TP363はＰ９の覆土中層から出土している。

所見　分布状況から規則性は認められず，建物跡を想定することはできない。時期は，出土土器から後期前葉から後葉と考えられる。



第111図　第13号ピット群・出土遺物実測図

第13号ピット群計測表

単位：cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	50	40	26	4	26	20	13	8	40	30	19
2	36	30	32	5	74	56	39	9	68	36	36
3	40	40	18	7	60	56	21	10	30	30	20

第13号ピット群出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP362	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	条線→縦線貼付	P５上層	
TP363	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	条線→縦線貼付	P９中層	
TP364	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縄文L.R→沈線	P５上層	

表５　縄文時代ピット群一覧表

番号	位置	範囲(m) 南北	範囲(m) 東西	ピット数	ピット平面形	規模(cm) 長径	規模(cm) 短径	規模(cm) 深さ	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
2	A５i6～B５e7	23.0	20.0	58	円・楕円	18～52	16～32	4～65	縄文土器，土師器，石器，剥片	
3	B５h3～B５l5	7.0	10.0	40	円・楕円	43～122	36～104	24～120	縄文土器，土製品，石器，石製品，石核，剥片，焼成粘土塊，軽石，炭化種子(クヌギ)	BISK35,86,88,89,95～101,105,106,108,109,111,112,114～116,121,127～129,131～133,135,167,168,177～179,197　本跡→SD18　SK94
4	B５j2-j3	3.5	4.0	5	円・楕円	38～80	32～52	17～40	縄文土器，石器	
5	C３g9～C４g1	5.0	6.0	12	円・楕円	25～48	15～38	10～68	縄文土器，剥片	
6	B４i1～C４c1	10.0	4.0	24	円・楕円	26～83	20～77	11～101	縄文土器	本跡→SD24
7	B５g3～B５h6	7.0	11.0	13	円・楕円	25～73	21～63	13～66	縄文土器，石器，石核，剥片	
8	B５f2～B５g3	4.0	8.0	19	円・楕円	25～82	22～74	13～94	縄文土器，土製品	BISK190,192,195
9	B４j8-j9	3.0	3.0	7	円・楕円	22～59	20～45	7～29	縄文土器	BISI24
10	B４h5-i5	6.0	4.0	9	円・楕円	24～84	22～53	29～102	縄文土器	BISI27　本跡→SF１
11	B４i5～C４a5	4.0	4.0	10	円・楕円	30～86	21～75	12～140	縄文土器，陶器	BISI28　本跡→SF１
12	C４b0-C５b1	3.0	6.0	10	円・楕円	42～70	30～64	19～121	縄文土器	BISI３
13	B４f0～B５g1	3.5	4.0	9	円・楕円	26～74	20～56	13～39	縄文土器	BISI９

(5) 遺物包含層

第１号遺物包含層（第112～127図）

確認状況　調査ⅡＢ区のＢ５g2区からⅡＣ区のＢ６e1区，標高9.3～11.2mの斜面部に，縄文時代晩期の土器片を多量に含む黒褐色土の堆積が確認できた。地形的にはⅡＢ区東側からⅡＣ区北側に向かって緩やかに傾斜しており，ⅡＣ区東側のＢ５a8区からＢ６f4区は微高地状に若干高くなっている。遺物を包含する黒褐色土は，ⅡＢ区の台地縁辺部からこの微高地を取り巻くように堆積しており，遺物を包含している範囲は現道路部分を挟んで東西36mで，南北は北側が調査区域外に延びているため50mまでしか確認できなかった。

調査の方法　遺物の出土状況を確認しながら小調査区毎に掘り下げを行った。そのうち，特に遺物の出土が多かったＢ５g3区からＢ５h0区，及びＢ５d3区からＢ６f1区にかけては，小調査区を更に４区分し２m×２mの小区を設定した。遺物は土器の完形品に近いものや大形の破片，土製品，石器，石製品については座標と高さを計測し，それ以外については深さ10cm毎に任意の層位で取り上げた。

重複状況　遺物包含層は，確認できたすべての遺構を被っており，遺物包含層を掘り込んだ遺構は認められない。また遺物包含層中からも遺構は認められていない。遺物包含層の下からは，ⅡＢ区の斜面際で第29号住居跡や第165・166・185・200号土坑，第７・８号ピット群などが確認されているが，東側に斜面を下るほど遺構の密度は低くなる。またⅡＣ区では北側の斜面にかけて第２号ピット群が存在しているのみで，住居跡はなく，土坑数基が確認されているのみである。

覆土　遺物包含層が存在する地点では，確認面からローム面まで７層に分層できる。このうち縄文時代の遺物が出土するのは第２層から第７層であるが，特に第２層の黒褐色土と第３層の暗褐色土が，広い範囲で縄文時代晩期の遺物を多量に包含する層である。層厚は10～50cmで，斜面下側に厚く堆積している。第４層はⅡＢ区の遺構を被う土で，縄文時代後期から晩期中葉の遺物を含んでいる。第６・７層は，ⅡＢ区斜面際の不自然な段差部分に堆積している暗褐色土で，ロームブロックを多く含み，焼土粒子・炭化粒子も微量に含んでいることから，この段差部分は埋め戻された可能性がある。

土層解説

1　暗　褐　色　耕作土
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
7　褐　　色　ロームブロック中量

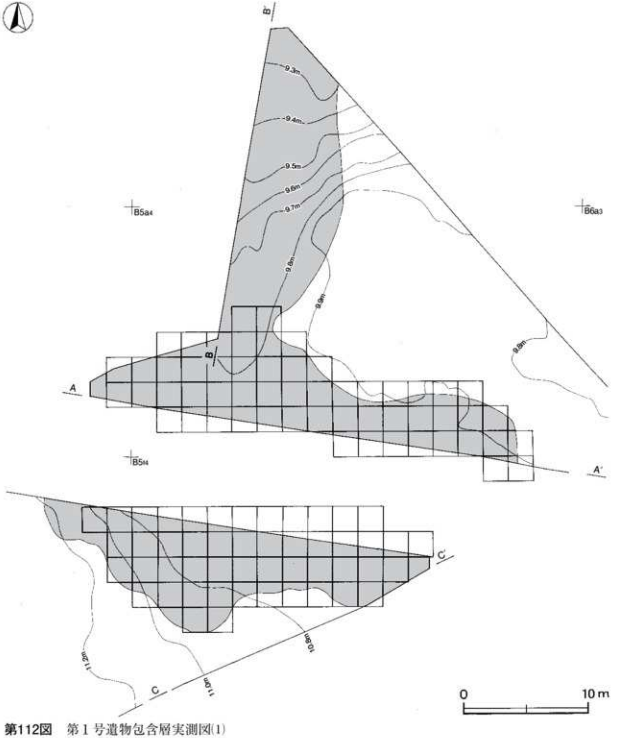
遺物出土状況　縄文土器片23,216点，土製品48点（土版16，土偶11，耳飾り８，垂飾品１，動物形土製品１，匙形土製品１，土錘１，土器片円盤７，不明２），石器124点（石鏃５，打製石斧６，磨製石斧７，石皿19，磨石71，敲石３，錘３，凹石２，砥石８），石製品16点（垂飾品４，石剣・石棒11，独鈷石１），石核64点（チャート61，黒曜石３），剥片263点（チャート228，黒曜石24，緑泥片岩７，石英２，安山岩２），焼成粘土塊15点，軽石28点，炭化種子３点（クヌギッ２，オニクルミ１）が出土している。今回，遺物包含層の出土遺物として報告したものは第２・３層中から出土したもので，時期別に調査区毎の出土土器の点数を示すと，第114図のようになる。

所見　第114図から土器の平面分布を読み取ると，出土量が多いのはⅡＢ区の57・58・66・70・73・74・77・79・89・93区などで，特に第３・７・８号ピット群周辺のⅡＢ区の台地縁辺部から斜面部にかけて多い。

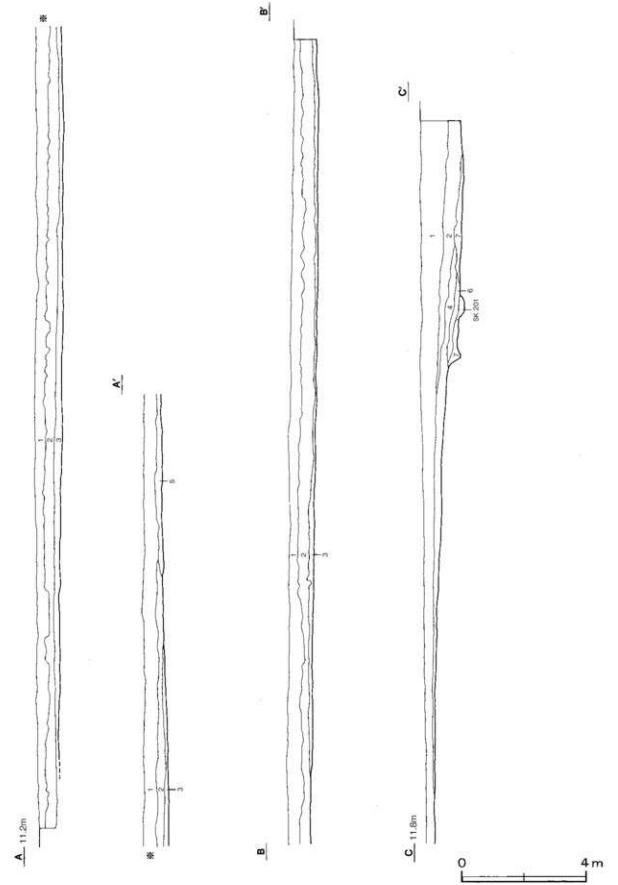
土器を時期別でみると，後期が２％，晩期前葉期が12％，晩期中葉期が86％で，当包含層の出土土器は晩期中葉期，なかでも安行３ｃ式期が主体となっている。土器は比較的大形の破片が多く，摩滅の度合いも少ないこと，また遺物包含層中に遺構の存在が確認できなかったことなどから，晩期中葉期にはこの斜面部が廃棄場的な空間であった可能性が考えられる。出土量の多い晩期中葉期の土器を系統別の比率でみると，安行式系が

44%，大洞式系が３％，前浦式系が３％，無文粗製系が50％で，当地域の晩期中葉期の土器様相は安行式系と在地系の無文粗製土器を主体とし，客体的に大洞式や前浦式を伴っている。

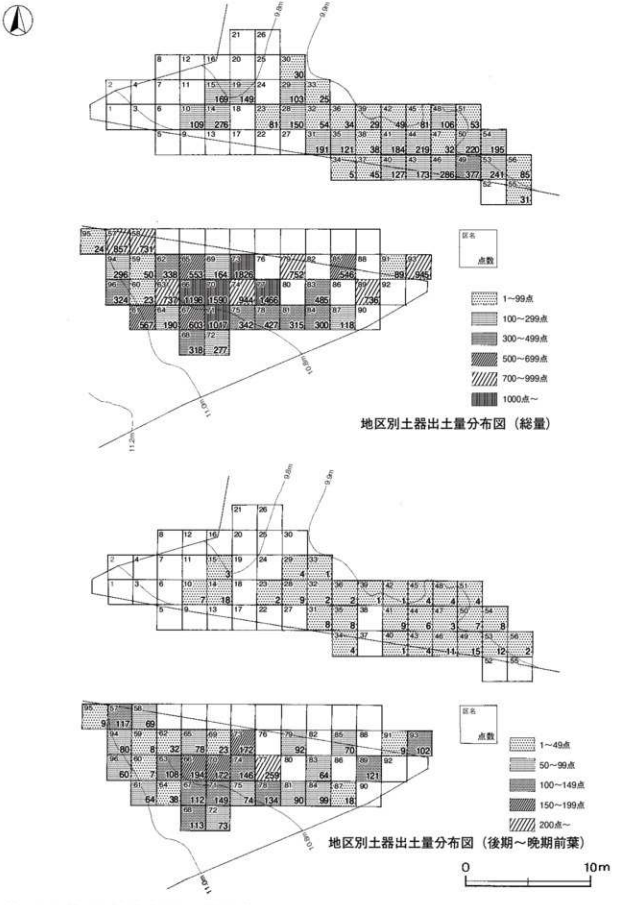
後期から晩期前葉期の土器の平面分布をみると（第114図），出土量毎の分布状況は晩期中葉期の状況と大きくは変わらないが，より台地縁辺部にかけて多い。台地上に後期後半の遺構群が存在することからすれば，この時期の遺物をより多く包含していることが予測されるが，実際には少量にとどまっていることから考えると，晩期中葉期以前に斜面部を削平するなどの人為的造作が行われたことも推測できる。例えばＢ５i8区の斜面際の不自然な段差は覆土の堆積状況から埋め戻されたものとみられ，人為的な掘り込みの可能性がある。



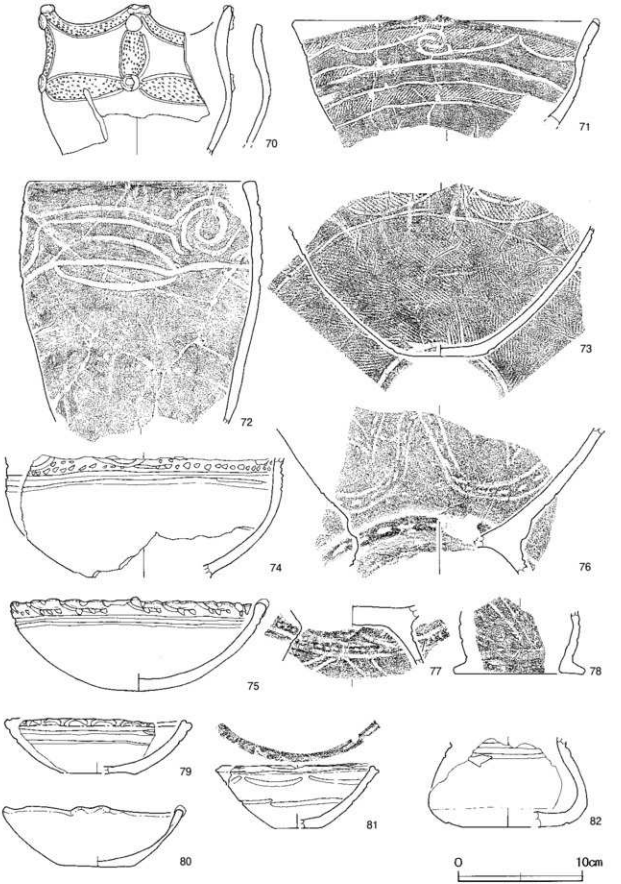
第112図　第１号遺物包含層実測図(1)



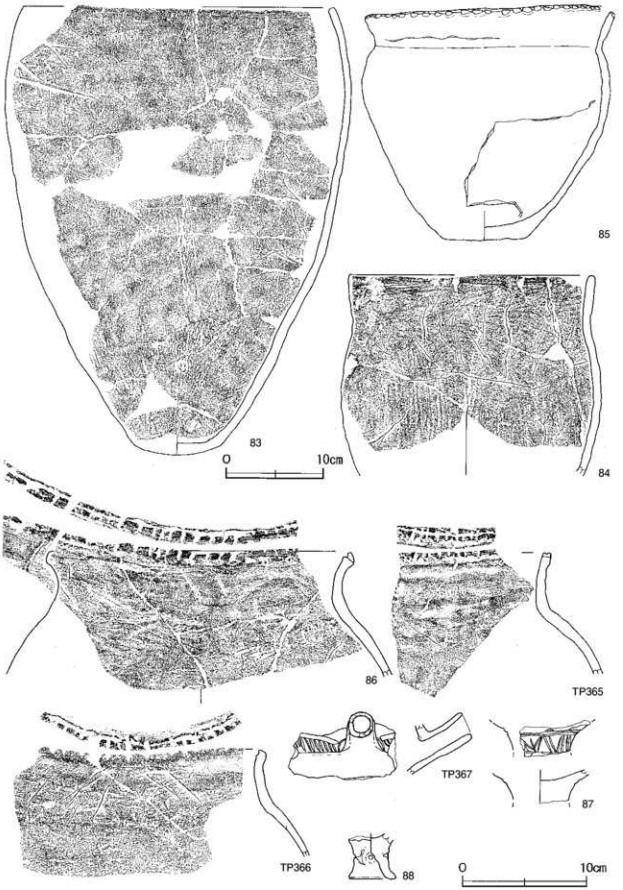
第113図　第１号遺物包含層実測図(2)



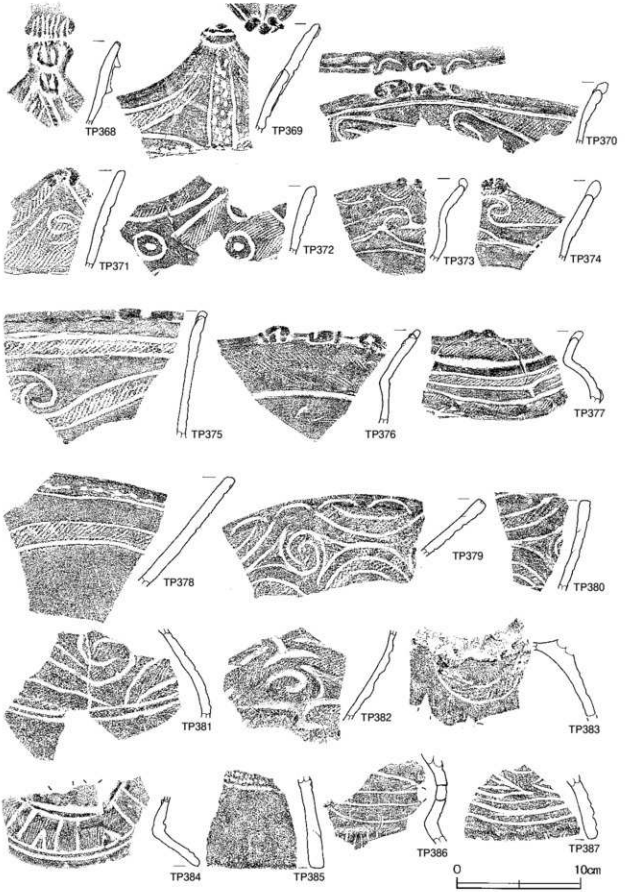
第114図　第1号遺物包含層出土遺物分布図



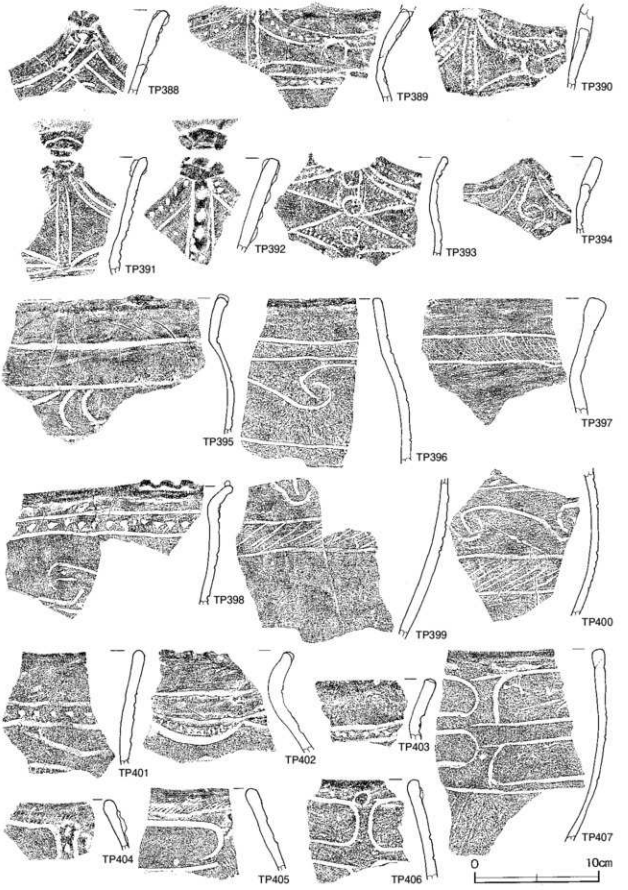
第115図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(1)



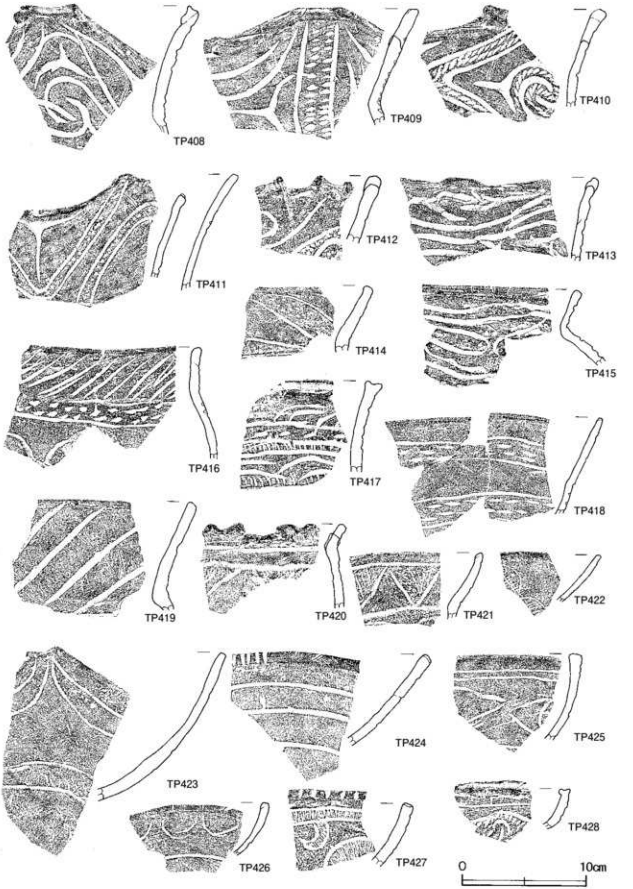
第116図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(2)



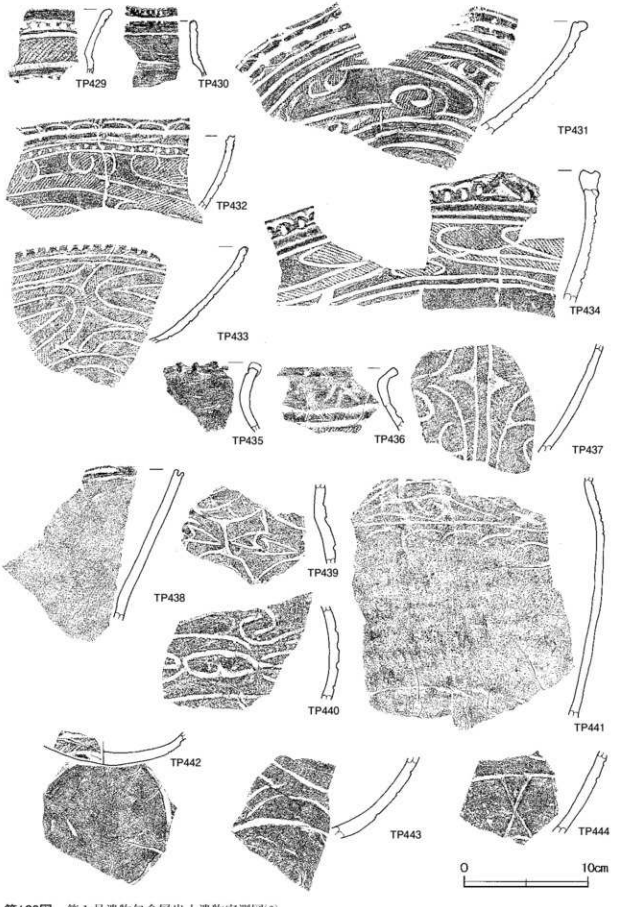
第117図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(3)



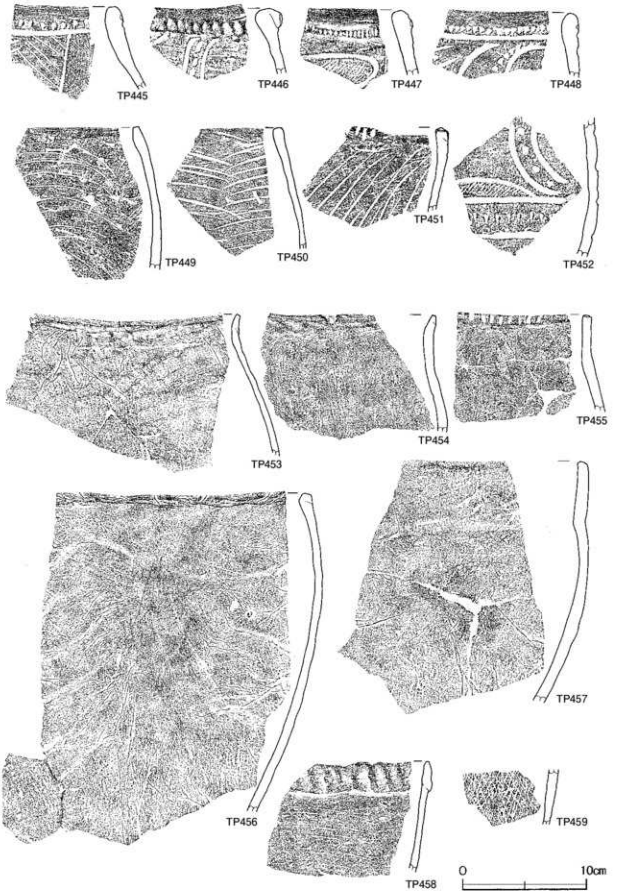
第118図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(4)



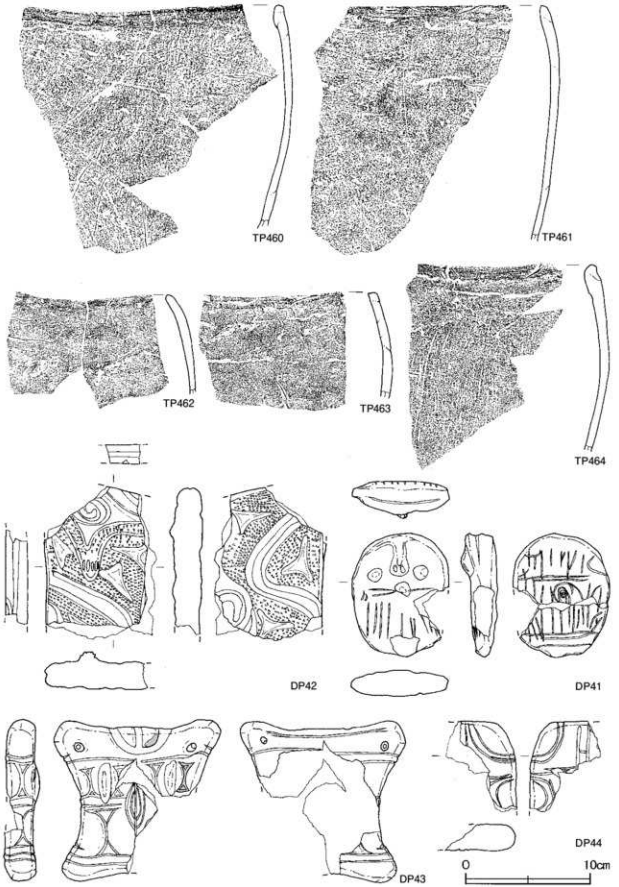
第119図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(5)



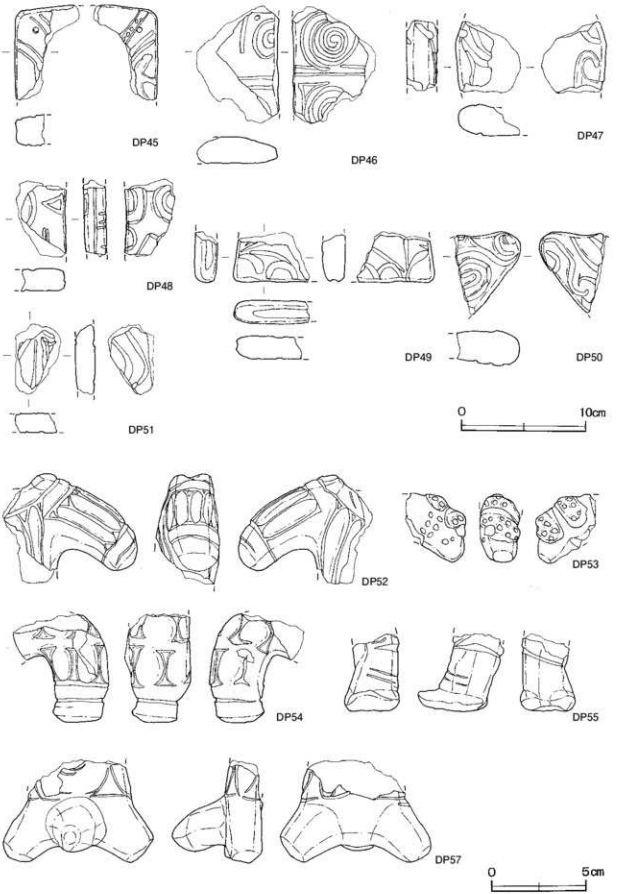
第120図　第1号遺物包含層出土遺物実測図(6)



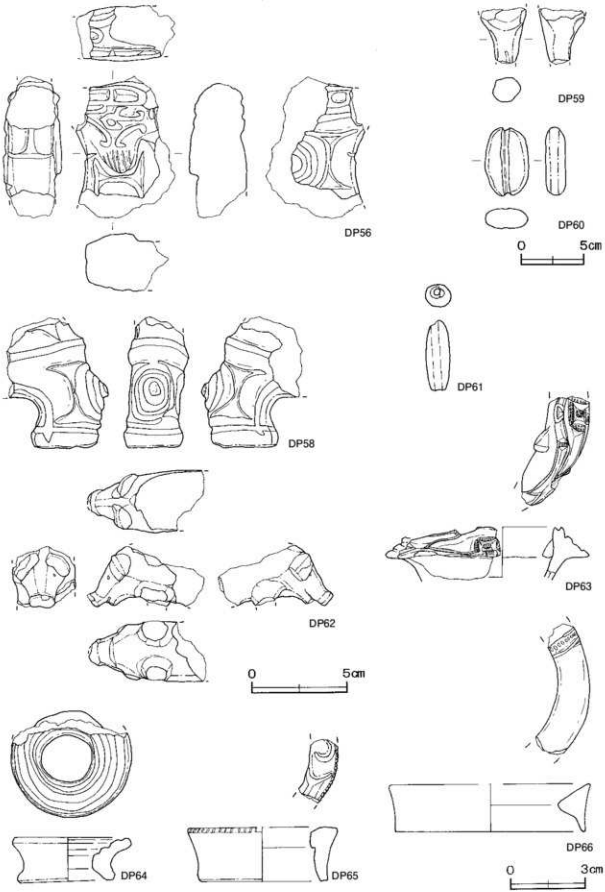
第121図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(7)



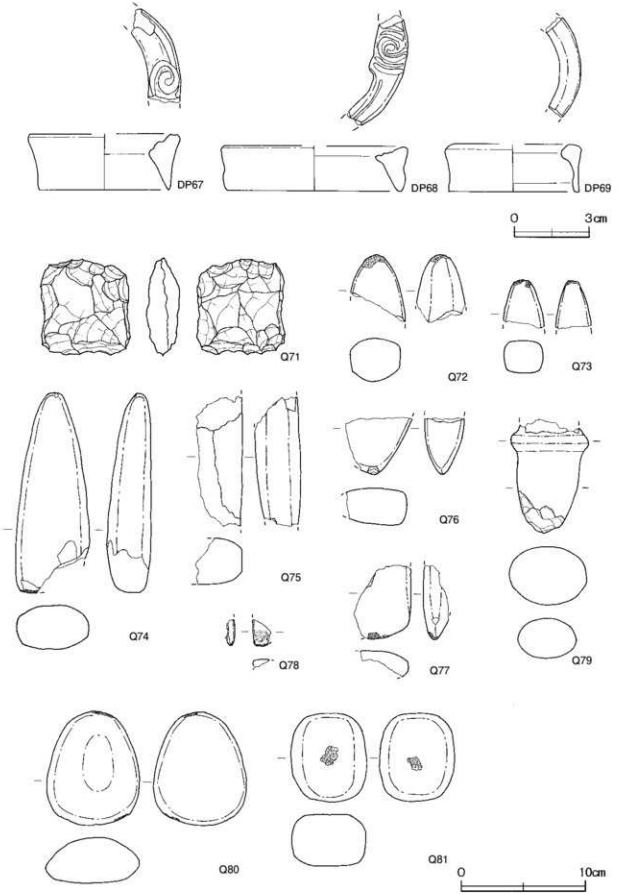
第122図　第1号遺物包含層出土遺物実測図(8)



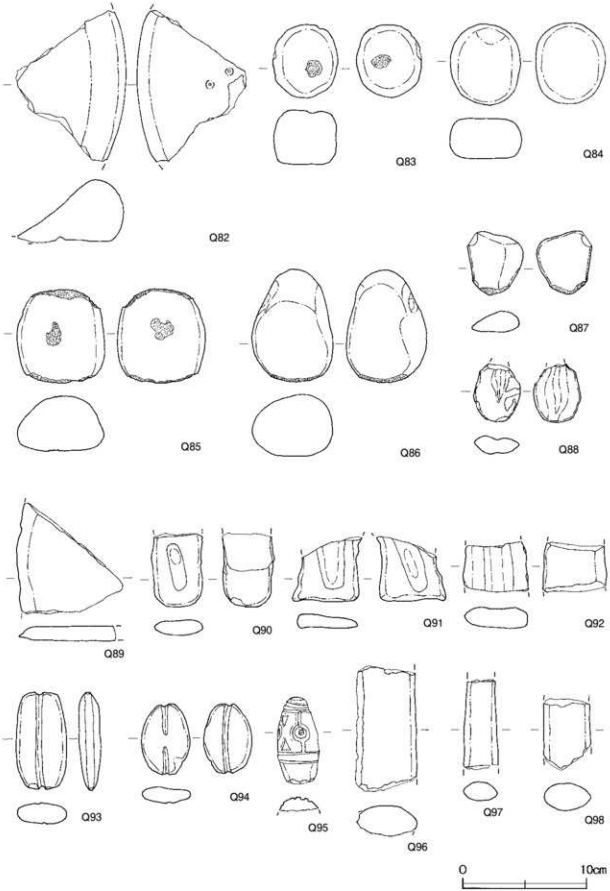
第123図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(9)



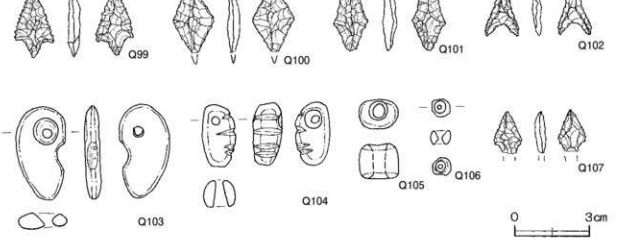
第124図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(10)



第125図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第126図　第１号遺物包含層出土遺物実測図⑫



第127図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第１号遺物包含層出土遺物観察表（第115～127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
70	縄文土器	深鉢	[14.5]	(11.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線→刺突充填→無文部磨き	Ⅱ C区	30%　PL20
71	縄文土器	鉢	[23.4]	(8.5)	－	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	良好	沈線→無節L縄文→磨き　内面磨き	77区	30%
72	縄文土器	深鉢	[18.0]	(19.2)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ナデ→沈線文→磨き　内面ナデ	78区	30%
73	縄文土器	深鉢	－	(10.3)	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き　底部磨き	77区	40%
74	縄文土器	鉢	－	(9.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	外面体部磨き　内面磨き	71･77区	40%
75	縄文土器	浅鉢	20.1	7.6	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	外面沈線→磨き　内面磨き 補修孔を貫通	57区	100%　PL21
76	縄文土器	台付鉢	－	(11.8)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	摩滅顕著	77区	40%
77	縄文土器	台付鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	摩滅顕著	89区	30%
78	縄文土器	台付鉢	－	(5.0)	[10.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	摩滅顕著	49区	30%
79	縄文土器	浅鉢	[14.8]	4.3	[5.8]	長石・石英・雲母・小礫	灰黄褐	普通	内・外面磨き	23区	30%
80	縄文土器	浅鉢	14.3	4.8	5.6	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外面・底部削り　内面ナデ	Ⅱ C区	90%　PL20
81	縄文土器	浅鉢	[11.8]	5.0	[3.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→磨き　内面ナデ→粗い磨き 口唇部に沈線文	59区	50%
82	縄文土器	壺	－	(7.1)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面磨き	77区	40%
83	縄文土器	深鉢	[32.2]	47.0	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	77区	30%
84	縄文土器	深鉢	[19.4]	(15.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面ナデ→粗い磨き	Ⅱ C区	70%
85	縄文土器	深鉢	19.8	18.8	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	外面口縁部指頭ナデ　体部粗いナデ	Ⅱ C区	70%　PL19
86	縄文土器	深鉢	[22.8]	(9.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面口頸部ナデ　体部削り　内面ナデ 口唇部沈線→キザミ	83区	30%
87	縄文土器	台付鉢	－	(2.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→ナデ	18区	30%
88	縄文土器	ミニチュア	－	(3.6)	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ナデ　玉抱三叉文の遺かし孔	7区	50%　PL20

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP365	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面口頸部ナデ　体部削り　口唇部沈線→キザミ 弧と同一ヵ	85区	
TP366	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面口頸部ナデ　体部削り　口唇部沈線→キザミ 弧と同一ヵ	83区	
TP367	縄文土器	注口	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面体部削り　細密沈線文充填	Ⅱ C区	
TP368	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→無節L→無文部磨き	70区	
TP369	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き　内面粗い磨き	73区	
TP370	縄文土器	鉢	長石・石英	明黄褐	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き	89区	
TP371	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	良好	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	70区	
TP372	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	Ⅱ C区	

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 な ど	出土位置	備　考
TP373	縄文土器	鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き	77区	
TP374	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き	85区	
TP375	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	78区	
TP376	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	外面沈線→縄文RL→無文部磨き　内面磨き	83区	
TP377	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	65区	
TP378	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	良好	外面沈線→無節L→無文部磨き　内面磨き	77区	
TP379	縄文土器	浅鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き　口唇部弧線文	65区	
TP380	縄文土器	浅鉢	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き　口唇部弧線文 TP379と同一ヵ	73区	
TP381	縄文土器	壺	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	49区	
TP382	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	良好	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	ⅡC区	
TP383	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→縄文LR　透かし孔	77区	
TP384	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き　内面粗いナデ	83区	
TP385	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐	普通	外面無文部ナデ　摩滅顕著	89区	
TP386	縄文土器	台付鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→磨き	93区	
TP387	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ナデ→沈線	31区	
TP388	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面コブ貼付→沈線→磨き	97区	
TP389	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	外面沈線→粗い磨き　内面ナデ	77区	
TP390	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	外面沈線→粗い磨き　内面ナデ　TP389と同一ヵ	73区	
TP391	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	内・外面ナデ	3区	
TP392	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面隆帯貼付→沈線→細密沈線文充填　内面磨き	79区	
TP393	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面磨き	22区	
TP394	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	外面沈線→粗い磨き	77区	
TP395	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面折り→沈線→粗いナデ　内面ナデ	73区	
TP396	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ→沈線	57区	
TP397	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文充填→磨き　内面ナデ	97区	
TP398	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→磨き　内面口縁部磨き　体部ナデ	73区	
TP399	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→粗い磨き	93区	
TP400	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→粗い磨き　TP399と同一	93区	
TP401	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	摩滅顕著	89区	
TP402	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→磨き　内面粗い磨き	89区	
TP403	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	内・外面ナデ	77区	
TP404	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面枠状沈線文→細密沈線文充填→ナデ	58区	
TP405	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	65区	
TP406	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→粗い磨き	77区	
TP407	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	外面沈線→磨き　体部下半ナデ	83区	
TP408	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	内面口縁部に粘土帯貼付	46区	
TP409	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→粗い磨き　内面ナデ	18区	
TP410	縄文土器	深鉢	長石・雲母・小礫	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刺突文充填→磨き	73区	
TP411	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面折り→沈線文→ナデ	73区	
TP412	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面ナデ→沈線・刺突文　内面磨き	25区	
TP413	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・封状物質	灰黄褐	良好	外面ナデ→三叉状入組文	77区	
TP414	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線文・刺突文→粗い磨き	77区	
TP415	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→粗いナデ　内面口縁部磨き　体部ナデ	73区	
TP416	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	良好	外面沈線→磨き　内面ナデ	93区	
TP417	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面ナデ　口唇部に円線施文	28区	
TP418	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線・刺突文→磨き　内面粗い磨き	93区	
TP419	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→磨き	77区	

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　な　ど	出土位置	備　考
TP420	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面ナデ→沈線　内面ナデ	77区	
TP421	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き	83区	
TP422	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文充填	77区	
TP423	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	外面ナデ　内面磨き	16区	
TP424	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内・外面磨き　口唇部キザミ	84区	
TP425	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→磨き　内面磨き	81区	
TP426	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄橙	良好	外面沈線→磨き	89区	
TP427	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き	41区	
TP428	縄文土器	浅鉢	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面沈線・刺突文→粗い磨き　内面ナデ	93区	
TP429	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	77区	
TP430	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→磨き　口唇部キザミ	73区	
TP431	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・小礫	褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き　口唇部に沈線文	41・44区	
TP432	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き　口唇部に弧線文 内面磨き・浅い沈線文	93区	
TP433	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	59区	
TP434	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→縄文RL→無文部磨き　口縁部に入突起 口唇部に弧線文	25区	
TP435	縄文土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面磨き　内面口縁部沈線施文	31区	
TP436	縄文土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈線→縄文LR→無文部磨き	38区	
TP437	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	外面沈線→無節L→無文部磨き	59区	
TP438	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	良好	内・外面磨き 口唇部に沈線文	74区	
TP439	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→ナデ	63区	
TP440	縄文土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	外面ナデ→沈線	49区	
TP441	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗褐	普通	外面ナデ→沈線→粗い磨き	69区	
TP442	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→細密沈線文充填→無文部磨き	65区	
TP443	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	外面沈線→磨き　内面磨き・煤付着	15区	
TP444	縄文土器	浅鉢	長石・石英・小礫	灰黄褐	普通	外面沈線→磨き　三叉部抉り込み状	58区	
TP445	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面沈線→細密沈線文充填　内面粗い磨き	66区	
TP446	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小礫	明褐	普通	外面条線→口縁部隆帯貼付→弧線文	78区	
TP447	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	外面沈線・隆帯貼付→縄文LR→無文部磨き	73区	
TP448	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文充填→ナデ	77区	
TP449	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	外面ナデ→条線　内面ナデ	51区	
TP450	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面ナデ→条線　内面ナデ	Ⅱ C区	
TP451	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→ナデ　内面ナデ　口唇部キザミを伴う突起	93区	
TP452	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面沈線→縄文LR	68区	
TP453	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面削り　内面ナデ　口縁部に輪積み痕	74区	
TP454	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	外面口縁部粘土輪積み痕　縦位のナデ　内面ナデ	12区	
TP455	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	良好	外面縦位の粗いナデ　口唇部キザミ	18区	
TP456	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面削り→粗いナデ	57区	
TP457	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面削り→粗いナデ	59区	
TP458	縄文土器	深鉢	長石・石英・小礫	にぶい褐	普通	外面口縁部粘土帯貼付　頸部条線	53区	
TP459	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗灰	普通	外面網目状撚糸文	77区	
TP460	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面口縁部横ナデ　体部縦位ナデ	58区	
TP461	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	外面口縁部横ナデ　体部縦位ナデ　口縁部輪積み痕	57区	
TP462	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	77区	
TP463	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	内・外面ナデ　輪積み痕明瞭	9区	
TP464	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面口縁部指頭ナデ　体部縦位ナデ	Ⅱ C区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP41	土版	9.8	7.7	2.9	(159.0)	明黄褐　長石・赤色粒子	人面表現　沈線→ナデ　上端部に沈線文	6・15区	PL23
DP42	土版	(12.1)	(8.9)	3.0	(305.0)	にぶい黄橙　長石・石英・雲母・赤色粒子	人体表現　隆帯脇に沈線・円形刺突	Ⅱ C区	PL24
DP43	土版	12.8	13.2	2.6	(260.0)	にぶい褐　長石・石英・赤色粒子	人体表現ヵ　沈線→磨き	22・79・87区	PL23
DP44	土版	(7.2)	5.5	2.2	(71.1)	にぶい褐　長石・石英・雲母	沈線→磨き	9・14区	PL24
DP45	土版	(7.5)	(5.1)	(2.4)	(58.3)	明褐　長石・石英・赤色粒子	沈線→ナデ　摩滅	Ⅱ C区	PL24
DP46	土版	(9.4)	(6.5)	(2.1)	(94.2)	橙　長石・石英・雲母・赤色粒子	側面に沈線　摩滅顕著	73区	PL24
DP47	土版	(5.6)	(5.2)	2.5	(67.2)	にぶい黄橙　長石・雲母・赤色粒子	沈線→ナデ	93区	PL24
DP48	土版	(6.1)	(3.9)	1.9	(44.6)	にぶい黄橙　長石・石英・雲母	沈線→磨き	7区	
DP49	土版	(4.0)	(6.1)	1.8	(49.4)	明褐　長石・石英・赤色粒子	沈線→磨き　側面に凹線	71区	PL24
DP50	土版	(6.6)	(5.3)	3.1	(88.1)	橙　長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	人体表現ヵ　沈線→磨き	11区	PL24
DP51	土版	(5.6)	(3.6)	1.5	(32.3)	にぶい褐　長石・石英・赤色粒子	沈線→ナデ	57区	
DP52	土偶	(5.8)	(7.1)	(3.3)	(95.1)	にぶい褐　長石・石英・赤色粒子	腕部　中空　沈線→磨き	40区	PL23
DP53	土偶	(3.6)	(3.1)	2.2	(21.2)	にぶい黄橙　長石・石英	腕部　刺突文　ナデ整形	49区	
DP54	土偶	(5.7)	(5.0)	(3.3)	(71.0)	明褐　長石・雲母・赤色粒子	腕部　中実　沈線→磨き	16区	PL23
DP55	土偶	(5.1)	(2.9)	(4.5)	(36.4)	にぶい黄橙　長石・石英	脚部　沈線→ナデ	63区	
DP56	土偶	(7.5)	(5.3)	2.9	(103.7)	にぶい橙　長石・石英・雲母・赤色粒子	体部　沈線→磨き	11区	PL24
DP57	土偶	(5.4)	7.9	4.9	(96.7)	にぶい黄橙　長石・石英	体～脚部　ナデ→沈線→粗い磨き	17区	PL23
DP58	土偶	(6.9)	(5.4)	(3.2)	(99.7)	にぶい褐　長石・雲母・赤色粒子	脚部　沈線→磨き	Ⅱ B区	PL23
DP59	鳥形土製品	(4.4)	(3.6)	(2.0)	(22.0)	にぶい黄褐　長石・石英・雲母	ナデ整形	73区	
DP60	土錘	5.5	3.5	1.5	35.5	明赤褐　長石・石英	ナデ→有溝　被熱	18区	PL22
DP61	垂飾品	2.8	1.0	0.9	2.4	灰黄褐　長石・雲母	外面磨き　孔径0.5cm	62区	
DP62	動物形土製品	(6.1)	(3.3)	(3.2)	(40.4)	橙　長石・石英・雲母・赤色粒子	イノシシヵ　ナデ整形	43区	PL23
DP63	耳飾り	[8.0]	－	(2.2)	(7.3)	にぶい黄橙　長石・石英	漏斗状　透かし彫り	71区	PL22
DP64	耳飾り	4.7	－	1.8	(17.2)	橙　長石・雲母	側面指頭ナデ	73区	PL22
DP65	耳飾り	[6.0]	－	2.2	(5.2)	黒褐　長石・石英	内・外面磨き	Ⅱ C区	
DP66	耳飾り	[8.0]	－	1.9	(12.5)	にぶい赤褐　長石・石英	上面磨き　側面ナデ	65区	
DP67	耳飾り	[6.0]	－	2.2	(10.4)	にぶい黄橙　長石	沈線→研磨	63区	
DP68	耳飾り	[7.4]	－	1.8	(10.3)	にぶい黄橙　長石・雲母	沈線→粗い磨き	66区	
DP69	耳飾り	[5.4]	－	1.9	(5.4)	灰黄褐　長石・石英	上面・側面研磨	48区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q71	打製石斧	7.7	7.0	2.6	179.8	ホルンフェルス	上下端使用痕ヵ	Ⅱ C区	PL26
Q72	磨製石斧	(5.4)	4.3	(3.7)	(77.0)	砂岩	定角式　先端部に敲打痕	65区	
Q73	磨製石斧	(3.8)	3.2	2.6	(43.0)	花崗岩	定角式　先端部に敲打痕	26区	
Q74	磨製石斧	15.9	5.9	3.5	(492.0)	緑色凝灰岩	定角式　刃部に敲打痕　敲石として再利用ヵ	49区	PL27
Q75	磨製石斧	(10.3)	(3.6)	(3.6)	(212.0)	緑色凝灰岩	定角式　被熱	23区	
Q76	磨製石斧	(4.5)	(5.2)	3.1	(90.3)	花崗岩	定角式　刃部に剥離痕　被熱	9区	
Q77	磨製石斧	(5.9)	(4.5)	(2.0)	(49.0)	緑色凝灰岩	定角式	22区	
Q78	磨製石斧	(2.1)	(1.4)	(0.5)	(2.0)	蛇紋岩	小形品　研磨整形　刃部に微細剥離痕	Ⅱ C区	PL27
Q79	敲石	(9.1)	6.2	4.7	(274.0)	安山岩	刃部敲打痕　使用痕ヵ	Ⅱ C区	PL26
Q80	磨石	9.0	7.4	3.6	341.0	安山岩	上下端に敲打痕	66区	
Q81	磨石	7.0	5.9	4.1	282.0	安山岩	正・裏面に敲打痕　被熱	70区	
Q82	石皿	(12.0)	(8.6)	5.3	(465.0)	安山岩	裏面に凹痕	Ⅱ C区	
Q83	磨石	5.8	5.2	4.3	178.6	安山岩	正・裏・左側縁部に敲打痕　被熱	45区	
Q84	磨石	6.4	5.7	3.1	188.0	安山岩	正・裏・周縁利用	93区	
Q85	磨石	7.4	6.9	4.4	357.0	安山岩	正・裏・上下端に敲打痕　被熱	71区	
Q86	敲石	9.0	6.4	5.3	419.0	安山岩	下端部に敲打痕	93区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q87	敲石	5.1	4.4	1.9	48.6	花崗岩	下端部に敲打痕	66区	
Q88	有溝砥石	(4.6)	3.7	1.4	(26.4)	花崗岩	正・裏面に溝状の研磨痕　被熱	97区	
Q89	砥石	(8.8)	(8.4)	1.2	(98.8)	花崗岩	裏面剥離　被熱	65区	
Q90	有溝砥石	(5.9)	4.1	1.2	(29.9)	花崗岩	被熱	69区	
Q91	有溝砥石	(5.1)	(5.4)	1.4	(36.7)	花崗岩	被熱	74区	
Q92	有溝砥石	(3.9)	5.2	1.6	(51.8)	花崗岩	被熱	Ⅱ C区	
Q93	石錘	7.7	4.0	1.6	85.9	砂岩	有溝	17区	PL27
Q94	石錘	5.6	3.8	1.2	36.9	凝灰岩	有溝	Ⅲ B区	PL27
Q95	石剣	(6.8)	(3.2)	(1.4)	(39.1)	石英片岩	円文・十字文	Ⅲ C区	PL27
Q96	石剣	(10.0)	(4.8)	(2.4)	(210.0)	雲母片岩	被熱	78区	
Q97	石剣	(7.2)	(2.7)	1.5	(48.6)	泥岩	被熱	67区	
Q98	石剣	(5.7)	3.6	2.1	(68.6)	雲母片岩	研磨整形	44区	
Q99	石鏃	2.7	1.6	0.5	1.5	チャート	有茎　押圧剥離	13区	PL25
Q100	石鏃	(2.7)	1.6	0.5	(1.7)	チャート	有茎　押圧剥離　茎部欠損	70区	PL25
Q101	石鏃	(2.7)	1.4	0.6	(1.4)	チャート	有茎　押圧剥離　先端部欠損	Ⅱ C区	PL25
Q102	石鏃	2.2	1.4	0.4	0.7	チャート	無茎　押圧剥離	Ⅲ C区	PL25
Q103	垂飾品	3.7	2.0	0.6	5.3	砂岩	勾玉形　片面穿孔　孔径0.4cm	65区	PL26
Q104	垂飾品	2.5	1.4	1.2	6.5	曹長岩	勾玉形　片面穿孔　孔径0.3cm	65区	PL25
Q105	垂飾品	1.1	1.6	1.4	3.7	チャート	両面穿孔　孔径0.5cm	19区	PL25
Q106	垂飾品	0.7	0.8	0.6	0.4	チャート	両面穿孔　孔径0.1cm　研磨による多面体	6区	PL25
Q107	石鏃	(1.6)	1.1	0.4	(0.6)	チャート	有茎　押圧剥離　茎部欠損	61区	PL25

2　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡１軒が確認されている。以下，確認した遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第１号住居跡（第128・129図）

位置　調査Ⅰ区のＤ１d0区で，標高11.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.12m，短軸5.13mの長方形で，長軸方向はＮ－75°－Ｅである。壁高は３～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，東側に向かって若干傾斜している。硬化面は認められない。北壁の貯蔵穴西側と，南壁中央から東側，東壁中央部に壁溝が認められる。南西コーナー部を除く各壁際の床面には，柱状の炭化材が放射状に道存しており，北東・北西コーナー部には焼土がブロック状に堆積している。

炉　中央部のやや北壁寄りに付設された地床炉である。長径64cm，短径46cmの楕円形で，床面を14cmほど掘り込んでいる。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は深さ52cm，Ｐ２は深さ55cmで，いずれも主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は北壁下の中央付近に位置し，長径102cm，短径76cmの楕円形で，深さは43cmである。底面は鍋底状で，壁は外傾して立ち上がっている。

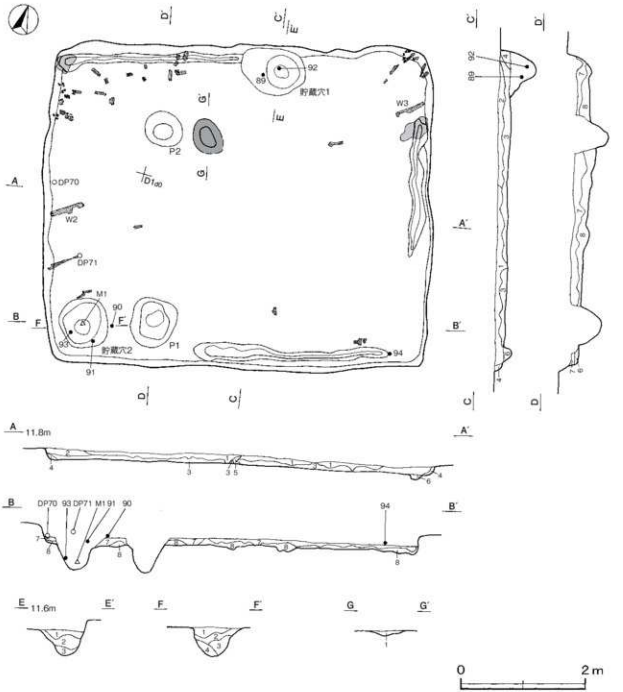
貯蔵穴2は南西コーナー部に位置し，径80cmの円形で，深さは52cmである。底面は鍋底状で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化材少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量

貯蔵穴2　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・炭化材少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
4　褐　　色　ロームブロック少量



第128図　第1号住居跡実測図

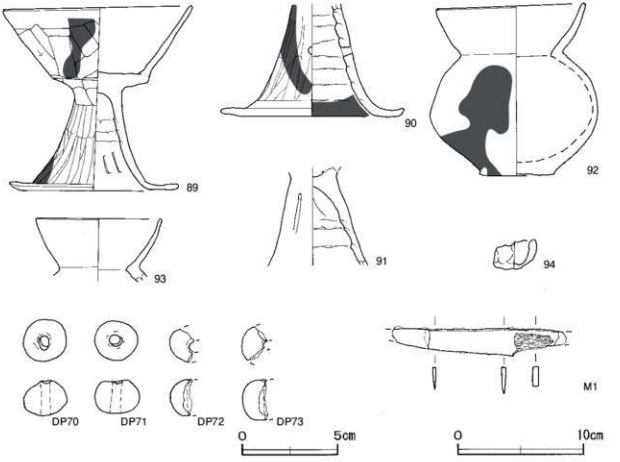
覆土　6層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第7・8層は掘方への埋土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化材少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片273点（坏8，高坏58，壺31，甕175，ミニチュア土器1），土製品4点（球状土錘），鉄製品3点（刀子1，不明2）のほか，流れ込んだ縄文土器片2点，陶器片2点（碗），剥片1点，軽石5点が出土している。89・92は貯蔵穴1の覆土中層から，91は貯蔵穴2の覆土上層から，93，M1は貯蔵穴2の覆土中層からそれぞれ出土している。90は南西コーナー部，94は南東コーナー部，DP70・DP71は西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。DP72・DP73は覆土下層から出土している。W2・W3は，クヌギである（付章参照）。

所見　時期は，出土土器から中期中葉に比定できる。床面から炭化材が出土していることから，焼失住居とみられる。



第129図　第1号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
89	土師器	高坏	14.7	15.1	13.4	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外面縦位のヘラ削り 脚部外面縦位のヘラナデ　内面絞り	貯蔵穴１	60%　PL21
90	土師器	高坏	－	(8.9)	14.5	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラナデ　内面絞り 透かし孔１	床面	40%
91	土師器	高坏	－	(7.7)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラナデ　内面絞り	貯蔵穴２	30%
92	土師器	壺	11.6	13.7	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ナデ	貯蔵穴１	95%　PL21
93	土師器	壺	9.8	(4.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	内・外面摩滅により調整不明	貯蔵穴２	30%
94	土師器	ミニチュア	2.9	2.4	－	長石・石英・赤色粒子・小礫	黒褐	普通	指頭による成形	床面	100%　PL20

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土・色調	特徴など	出土位置	備考
DP70	球状土錘	2.3	1.8	0.7	8.5	にぶい褐　長石・赤色粒子	表面ナデ　一方向から穿孔	床面	PL22
DP71	球状土錘	2.3	1.7	0.6	6.5	明赤褐　長石・石英	表面ナデ　一方向から穿孔	床面	PL22
DP72	球状土錘	(1.8)	1.8	0.6	(2.44)	黒　長石	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土下層	
DP73	球状土錘	(1.9)	2.1	－	(2.74)	にぶい褐　長石・赤色粒子	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴など	出土位置	備考
M１	刀子	(13.9)	2.2	0.3～0.5	(24.1)	鉄	茎部断面長方形　茎部先端欠損	貯蔵穴２	PL28

３　中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は，掘立柱建物跡２棟，柵跡２列，井戸跡４基，土坑13基，溝跡19条，道路跡１条が確認されている。以下，主として遺物が出土している遺構について記述し，それ以外の遺構については一覧表で掲載する。

(1)　掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第130図）

位置　調査Ｉ区のＤ２b7区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22・31号土坑，第１号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行３間，梁間２間の総柱建物跡で，桁行方向をＮ－82°－Ｗとする東西棟である。規模は桁行5.2m，梁行4.4mで，面積は22.9㎡である。柱間寸法は桁行が1.8mを基調としているが，Ｐ１・Ｐ10間とＰ２・Ｐ11間，Ｐ３・Ｐ４間は1.7mとやや狭い。梁行は2.2mを基調としている。柱筋はおおむね通っている。

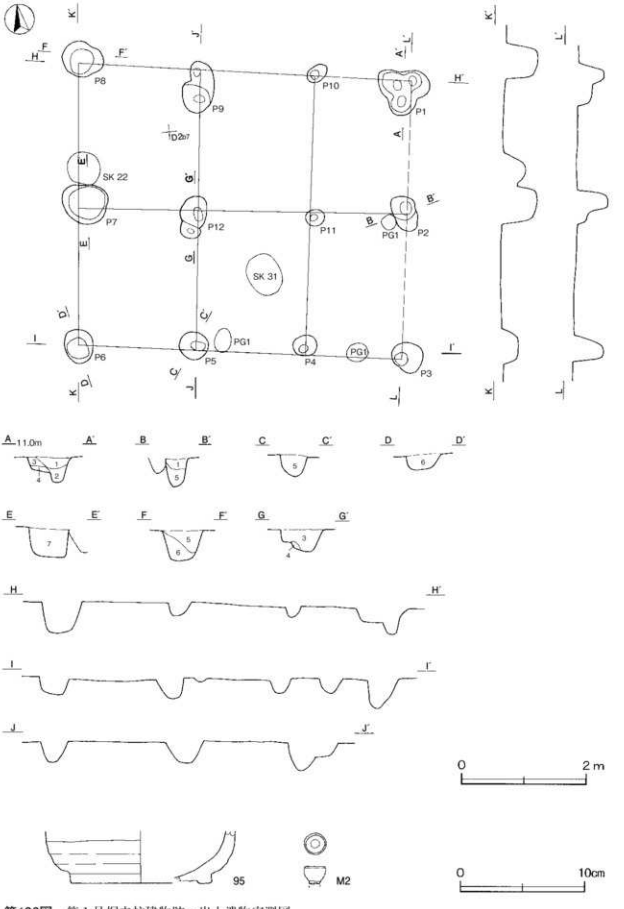
柱穴　12か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは15～50cmである。覆土はいずれもロームブロックを含んでおり，柱抜き取り後に埋め戻されたものとみられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック多量
7　黒　　色　ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片11点（鍋類２，不明９），陶器片１点（瓶），石器１点（砥石），銅製品１点（煙管）のほか，流れ込んだ土師器片３点（壺１，甕２），剥片１点（瑪瑙）が出土している。95はＰ４の覆土中から，Ｍ２はＰ１の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から17世紀代と考えられ，機能的には倉庫と推測できる。



第130図　第１号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第130図）

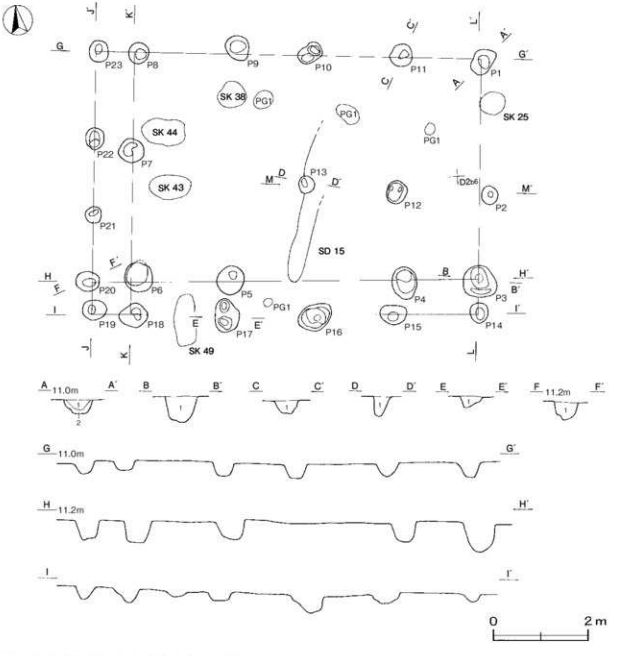
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
95	陶器	瓶	－	(4.1)	[11.0]	長石	にぶい黄	普通	内・外面鉄釉	Ｐ４覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特徴など	出土位置	備　考
M2	煙管	(1.7)	径1.7	－	(2.9)	銅	火皿部	Ｐ１覆土中	

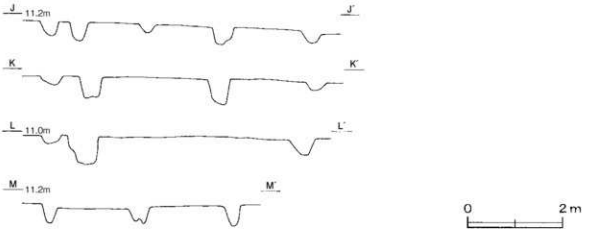
第２号掘立柱建物跡（第131・132図）

位置　調査Ｉ区のＤ２a4～Ｄ２b6区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第25・38・43・44・49号土坑，第15号溝跡，第１号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。



第131図　第２号掘立柱建物跡実測図(1)



第132図　第２号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造　桁行４間，梁間２間の総柱建物跡で，桁行方向をＮ－85°－Ｗとする東西棟である。西側及び南側に庇を有している。規模は桁行8.2m，梁行5.5mで，面積は45.1㎡である。柱間寸法は桁行が1.8mを基調としているが，Ｐ５・Ｐ６間とＰ８・Ｐ９間は2.0mとやや広い。梁行はＰ１・Ｐ２間が2.8m，Ｐ２・Ｐ３間が1.8m，Ｐ６・Ｐ７間が2.6m，Ｐ７・Ｐ８間が2.2mとやや不均一である。庇部分の柱間は1.8mを基調としている。柱筋はおおむね通っているが，束柱のＰ７・Ｐ13間，側柱のＰ４・Ｐ５間が欠落している。

柱穴　23か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは16～64㎝である。覆土は黒褐色土を基調とする単一層のものが多く，柱抜き取り後に自然堆積したものとみられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　ピット内から陶器片１点（碗）のほか，流れ込んだ縄文土器片１点，土師器片２点（甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から近世と考えられ，機能的には屋敷あるいは倉庫と推測できる。

表６　中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁（間）	規模 桁×梁（m）	面積(㎡)	桁行柱間（m）	梁行柱間（m）	柱穴 構造	柱穴 柱穴数	柱穴 平面形	柱穴 深さ（cm）	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
1	Ｄ２b7	Ｎ-82°-Ｗ	３×２	5.2×4.4	22.9	1.8･1.7	2.2	総柱	12	円・楕円	15～50	土師質土器，陶器，石器，鋼製品	旧SK21・24・26・29・30・32　SK22・21　PG１
2	Ｄ２a1～Ｄ２b6	Ｎ-85°-Ｗ	４×２	8.2×5.5	45.1	1.8･2.0	1.8･2.6・2.2･2.8	総柱	23	円・楕円	16～64	陶器	旧SK15　SK25・38・43・44・49　SD15　PG１

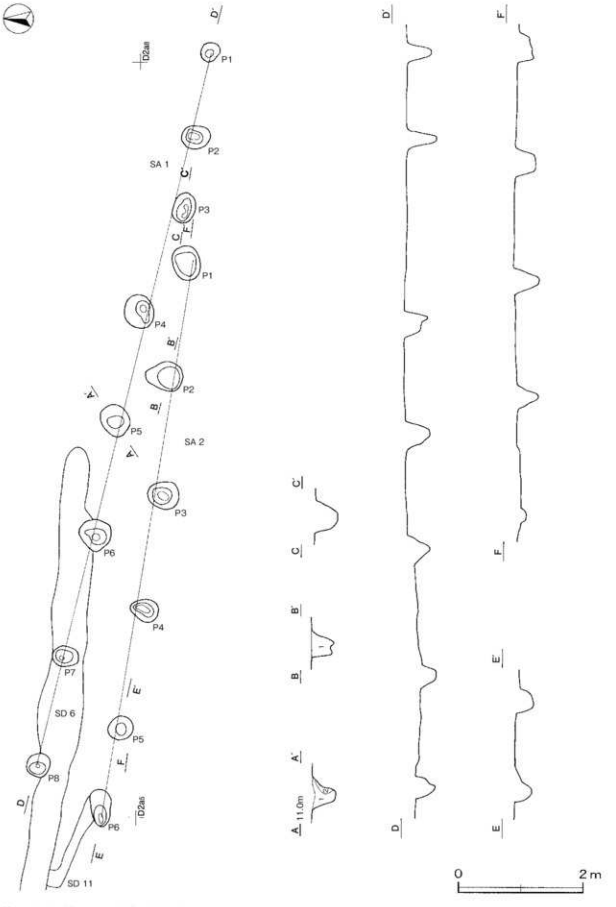
(2)　柵跡

第１号柵跡（第133図）

位置　調査Ｉ区のＣ２j5～Ｄ２a8区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｐ１からＰ８までの長さは11.65mで，方向はＮ－77°－Ｗである。柱間寸法は1.8mを基調としているが，Ｐ１・Ｐ２間は1.3m，Ｐ２・Ｐ３間は1.2m，Ｐ６・Ｐ７間は2.0mである。柱筋はおおむね通っているが，Ｐ３のみ南側にずれている。



第133図　第1・2号柵跡実測図

柱穴　8か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは22～48cmである。覆土は黒褐色を基調とした単一層で，柱抜き取り後に自然堆積したものとみられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　P２，P５の覆土中から流れ込んだ土師器片２点，不明鉄製品１点が出土している。

所見　時期は，本跡の南側に位置する第１・２号掘立柱建物跡と軸線がほぼ同方向であることから近世と考えられ，第１・２号掘立柱建物跡の北側を区画，あるいは遮蔽する施設と推測できる。

第２号柵跡（第133図）

位置　調査Ⅰ区のＣ２j5～Ｄ２a7区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第11号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　P１からP６までの長さは9.0mで，方向はN－81°－Wである。柱間寸法は1.8mを基調としているが，P５・P６間のみ1.4mである。柱筋はおおむね通っている。

柱穴　6か所。平面形は円形もしくは楕円形で，深さは９～42cmである。覆土は黒褐色を基調とした単一層で，柱抜き取り後に自然堆積したものとみられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　P３，P６の覆土中から流れ込んだ縄文土器片１点，土師器片７点が出土している。

所見　時期は，本跡の南側に位置する第１・２号掘立柱建物跡と軸線がほぼ同方向であることから近世と考えられ，第１・２号掘立柱建物跡の北側を区画，あるいは遮蔽する施設と推測できる。

表７　中世・近世柵跡一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴					主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
					本数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
1	Ｃ２j5～Ｄ２a8	N-77°-W	11.65	1.2～2.0	8	円・楕円	34～54	26～50	22～48	土師器，鉄製品	ⅡSK19　SD６→本跡
2	Ｃ２j5～Ｄ２a7	N-81°-W	9.00	1.4～1.9	6	円・楕円	39～60	30～48	9～42	縄文土器，土師器	SD11→本跡

(3)　井戸跡

第１号井戸跡（第134図）

位置　調査Ⅰ区のＣ２h7区で，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

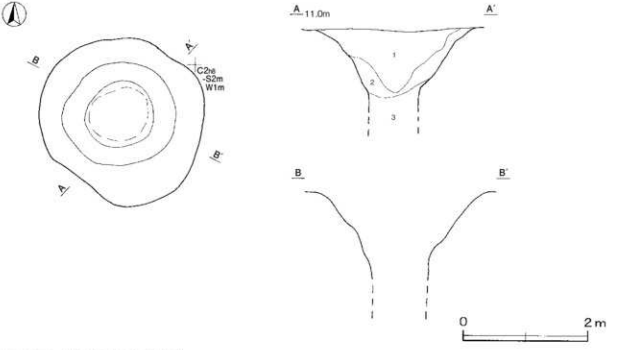
規模と形状　上部は長径274m，短径260mの円形でロート状に掘り込まれ，下部は径1.0mほどの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ1.4mほど掘り込んだ時点で，土砂崩落の危険があるため，以下の調査を断念した。

覆土　３層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれているが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片６点（小皿４，不明２），陶器片１点（甕）のほか，流れ込んだ縄文土器片31点が出土している。土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見　素掘りの構造である。時期は，出土土器から近世と考えられる。



第134図　第１号井戸跡実測図

第４号井戸跡（第135図）

位置　調査Ⅰ区のＣ２i8区で，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

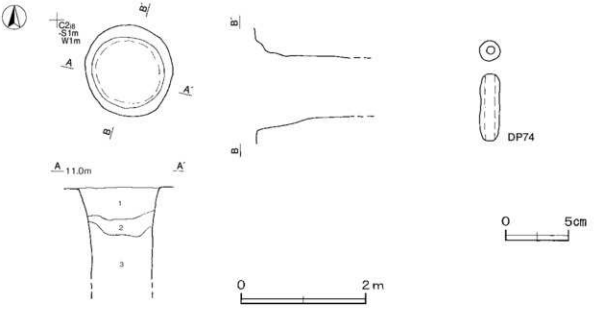
規模と形状　長径1.49m，短径1.40mの円形で，円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ1.6mほど掘り込んだ時点で土砂崩落の危険があるため，以下の調査を断念した。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，白色粘土粒子微量
3　極 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片３点（鍋類２，小皿１），土製品１点（管状土錘）のほか，流れ込んだ縄文土器片10点，土師器片１点，石器１点（磨石），剥片２点（チャート）が出土している。DP74は覆土上層から出土している。

所見　素掘りの構造である。時期は，出土土器から近世と考えられる。



第135図　第４号井戸跡・出土遺物実測図

第４号井戸跡出土遺物観察表（第135図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP74	管状土錘	5.3	径1.6	－	13.6	にぶい橙　長石	ナデ整形　孔径0.65cm	覆土上層	

第８号井戸跡（第136～138図）

位置　調査Ⅰ区のＣ２g9・g0区で，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　上部は長径4.61m，短径3.64mの不整楕円形で，長径方向はＮ－83°－Ｗである。北壁・西壁・南壁はロート状に掘り込まれるが，東壁側は階段状に段をなしている。下部は一辺1.20mの方形で，上場には板材が井桁状に遺存している。また北・西・南側の壁面には，半割した竹材を縦位に置き，枠としている。確認面から深さ1.8mほど掘り込んだ時点で土砂崩落の危険があるため，以下の調査を断念した。

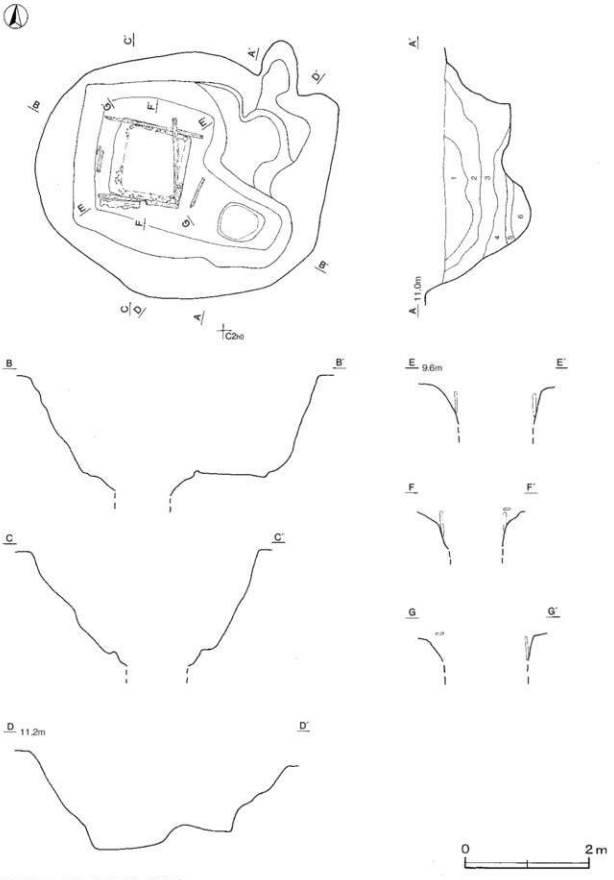
覆土　６層に分層できる。いずれの層にもロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。下部の方形の掘方と井戸枠材との間は，粘土と砂が裏込めされている。

土層解説

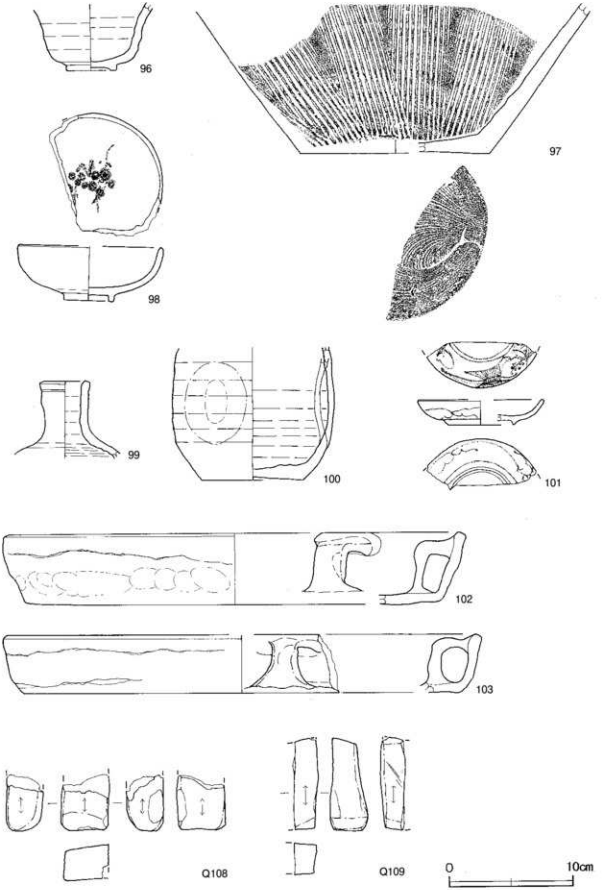
1　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黄　褐　色　砂粒多量，ロームブロック少量
3　灰　褐　色　砂粒多量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　黄　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師質土器片６点（鍋類４，擂鉢１，不明１），陶器片５点（擂鉢１，碗２，瓶２），磁器片４点（鉢２，皿２），漆器１点（椀），石器３点（砥石２，石臼１），不明鉄製品３点，木製品１点（建築材）のほか，流れ込んだ縄文土器片６点，土師器片１点が出土している。96～103，Q108～Q110はいずれも覆土上層から出土している。Ｗ１，Ｌ１は下部の井戸枠内の覆土中から出土している。

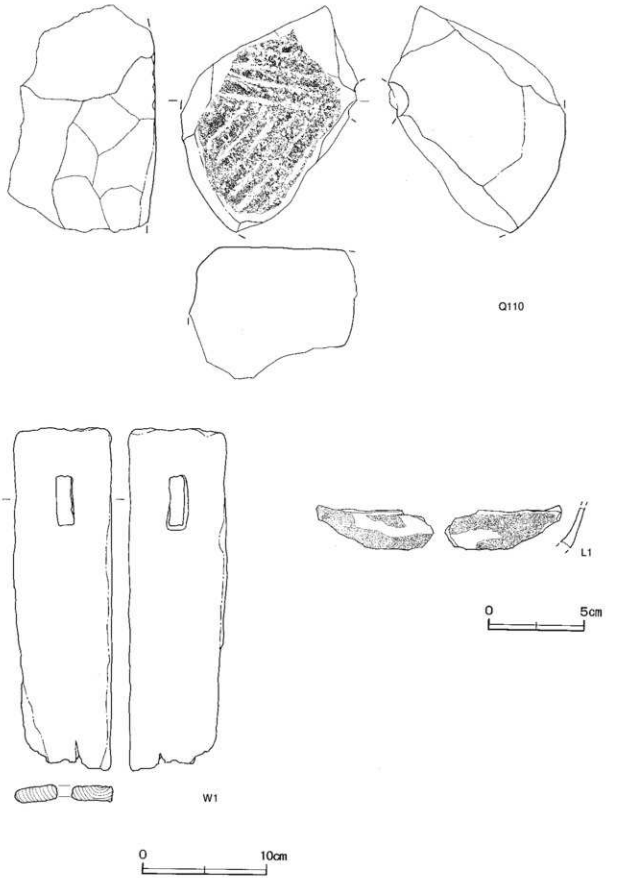
所見　板材と半割竹材による井戸枠構造である。廃絶時期は，出土土器から18世紀代と考えられる。



第136図　第８号井戸跡実測図



第137図　第８号井戸跡出土遺物実測図(1)



第138図　第８号井戸跡出土遺物実測図(2)

第８号井戸跡出土遺物観察表（第137・138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
96	陶器	碗	－	(5.3)	3.9	緻密	灰黄	普通	内・外面灰釉	覆土上層	60%
97	陶器	擂鉢	－	(11.9)	[15.1]	長石・石英	明赤褐	普通	底部回転糸切り　12条１単位	覆土上層	60%
98	陶器	碗	[11.2]	4.3	3.9	赤色粒子	灰白	普通	内・外面灰釉	覆土上層	70%
99	陶器	瓶	3.0	(6.1)	－	石英	淡黄	普通	内面口頸部・外面灰釉	覆土上層	40%
100	陶器	瓶	－	(10.6)	8.1	長石	灰白	普通	外面鉄釉　内・外面ロクロナデ	覆土上層	50%
101	磁器	皿	[9.8]	2.0	[5.2]	緻密	灰白	普通	染め付け	覆土上層	40%
102	土師質土器	焙烙	36.9	5.7	32.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面指頭痕	覆土上層	50%　PL21
103	土師質土器	焙烙	[38.2]	4.6	[34.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	輪積み痕	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q108	砥石	(4.5)	3.8	2.9	(62.2)	凝灰岩	砥面４面	覆土上層	30%
Q109	砥石	(7.4)	(2.0)	2.9	(61.2)	凝灰岩	砥面２面	覆土上層	80%
Q110	石臼	径[23.4]	－	11.7	(2940)	安山岩	孔径[3.3]cm　下臼	覆土上層	30%

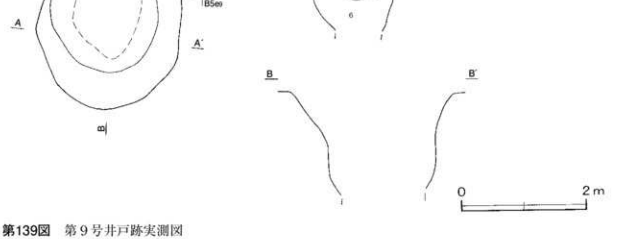
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
W１	板	(27.3)	7.9	1.3	(183.2)	木	はぞ穴4.0×1.0cm　建築部材か	覆土下層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
L１	漆器	椀	－	(2.0)	－	木	重量(4.0)g　内・外面赤色漆塗彩	覆土下層	20%

第９号井戸跡（第139・140図）

位置　調査ⅡＣ区のＢ５e8区で，標高10mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　上部は長径2.61m，短径2.25mの楕円形でロート状に掘り込まれ，下部は長径1.40m，短径1.10mほどの不整楕円形である。長径方向はＮ－14°－Ｅで，確認面から深さ1.6mほど掘り込んだ時点で土砂崩落の危険があるため，以下の調査を断念した。



第139図　第９号井戸跡実測図

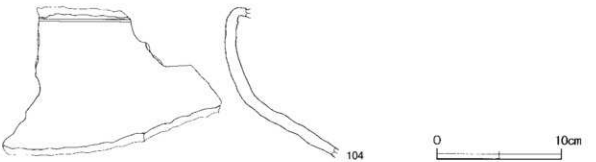
覆土　6層に分層できる。第4層は粘土を主体とする層，第5層はロームを主体とする層で，第4層が埋め戻された後，第1～3層がレンズ状に自然堆積したものとみられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
4　灰　白　色　粘土ブロック多量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量

遺物出土状況　陶器片1点（甕）のほか，流れ込んだ縄文土器片662点，土製品1点（土版），石器6点（石皿1，磨石4，石錘1），石核5点（チャート），剥片2点（チャート，黒曜石），焼成粘土塊1点が出土している。104は覆土下層から出土している。

所見　素掘りの構造である。時期は，出土土器から中世から近世と考えられる。



第140図　第9号井戸跡出土遺物実測図

第9号井戸跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
104	陶器	甕	－	(11.9)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	内面口縁部・外面自然釉	覆土下層	10%

表8　中世・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)(南北軸×東西軸)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
1	C 2h7	－	円形	2.74×2.60	(133)	緩斜	－	自然	土師質土器，陶器	HSK11
4	C 2i8	－	円形	1.49×1.40	(162)	直立	－	自然	土師器，土製品	HSK 6
8	C 2g9 ～g0	N-83°-W	不整楕円形	4.61×3.64	(176)	外傾・有段	－	人為	土師質土器，陶器，磁器，須恵器，石器，木製品	
9	B 5e8	N-14°-E	[楕円形]	2.61×2.25	(163)	外傾	－	自然・人為	陶器	

(4)　土坑

第34号土坑（第141図）

位置　調査Ⅰ区のD 2c7区で，標高11.3mの台地平坦部に位置している。

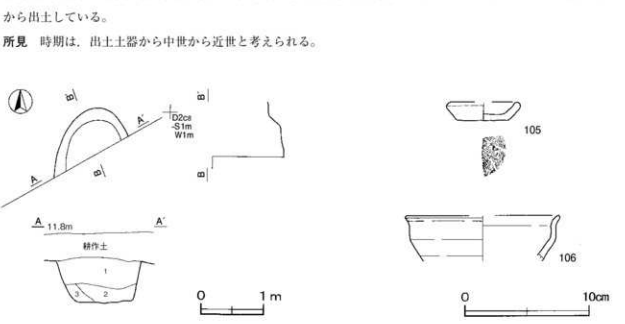
規模と形状　南半部が調査区域外のため，南北径0.66m，東西径1.32mしか確認できなかったが，遺存状況から楕円形と推測できる。深さは70cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが含まれているが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片６点（小皿１，不明５），陶器片１点（碗）が出土している。105・106は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から中世から近世と考えられる。



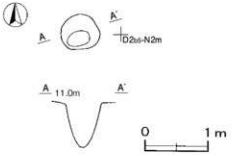
第141図　第34号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
105	土師質土器	小皿	[5.4]	1.5	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ　底部回転糸切り	覆土中	25%
106	陶器	天目茶碗	[12.0]	(3.6)	－	長石	にぶい黄橙	普通	内・外面鉄釉	覆土中	5％

第38号土坑（第142・143図）

位置　調査Ⅰ区のＤ２a4区で，標高11mの台地平坦部に位置している。



第142図　第38号土坑実測図

重複関係　第２号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径0.64m，短径0.58mの円形である。深さは68cmで，底面は皿状である。壁は直立している。

遺物出土状況　土師質土器片２点（鍋類），古銭２点（寛永通寶）が出土している。Ｍ３は覆土中層から，Ｍ４は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　古銭が出土しているが，形状的には墓坑とは考えられない。時期は，出土遺物から近世と考えられる。

第143図　第38号土坑出土遺物実測図

第38号土坑出土遺物観察表（第143図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
M3	寛永通寶	2.2	0.7	2.7	1668	銅	日本　背有「文」	覆土中層	
M4	寛永通寶	2.2	0.7	(1.2)	不明	銅	日本　背無　古寛永ｂ	覆土下層	

第47号土坑（第144図）

位置　調査１区のＤ２c4区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第50号土坑を掘り込んでいる。

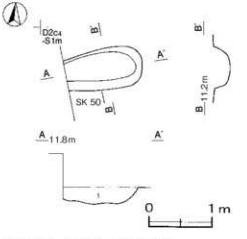
規模と形状　確認できた長径1.22m，短径0.64mの楕円形で，長径方向はＮ－82°－Ｅである。深さは23cmで，底面は皿状である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層で，自然堆積である。

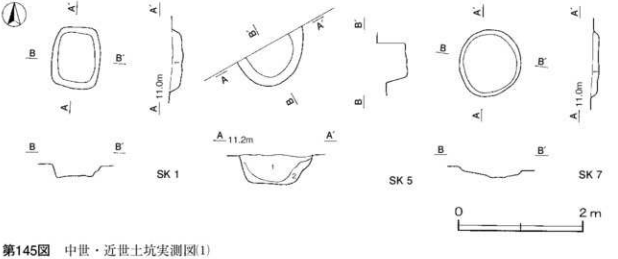
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片６点（鍋類），陶器片１点（鉢）が出土しているが，細片のため図示できない。

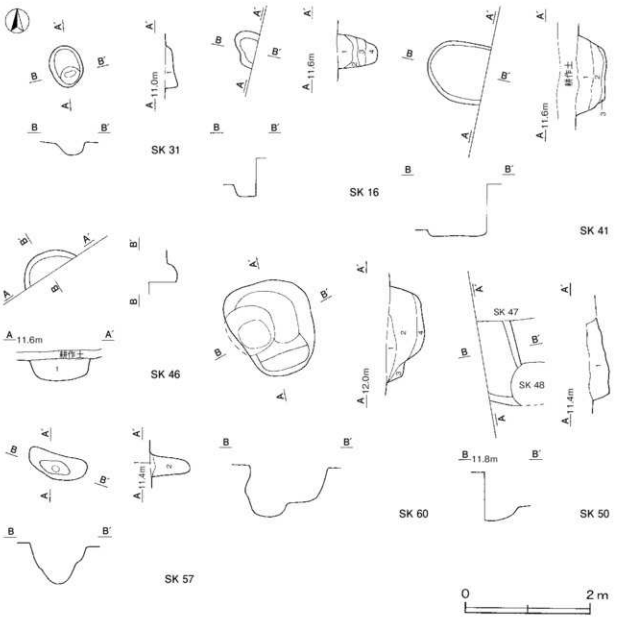
所見　時期は，出土土器から中世から近世と考えられる。



第144図　第47号土坑実測図



第145図　中世・近世土坑実測図(1)



第146図　中世・近世土坑実測図(2)

第1号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第5号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第7号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第16号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第31号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量

第41号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第46号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量

第50号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第57号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第60号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

表9　中世・近世土坑一覧表

番号	位置	長軸方向（南北軸）	平面形	規模（m）長径（軸）×短径（軸）（南北軸×東西軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
1	C 2g9	N－3°－E	長方形	0.98×0.78	23	直立	凹凸	自然	縄文土器，土師器	
5	C 2g7	－	［楕円形］	1.18×(0.63)	32	外傾	平坦	自然	土師器，土師質土器	
7	C 2g7	－	円形	1.09×1.00	10	緩斜	凹凸	自然	縄文土器，土師器	
16	D 2a0	－	［楕円形］	0.57×(0.31)	60	直立	平坦	自然	縄文土器，土師質土器	
31	D 2b7	N－29°－W	楕円形	0.63×0.50	19	外傾	平坦	自然	土師質土器	SB 1
34	D 2c7	－	［楕円形］	(0.66)×(1.32)	70	外傾	平坦	自然	土師質土器，陶器	
38	D 2a4	－	円形	0.64×0.58	68	直立	皿状	－	土師質土器，古銭	SB 2
41	C 2j0	N－78°－W	［楕円形］	(0.96)×0.96	46	外傾	平坦	自然	土師質土器	
46	D 2d5	－	不明	0.96×(0.31)	34	外傾	皿状	自然	土師質土器	
47	D 2c4	N－82°－E	［楕円形］	(1.22)×0.64	23	外傾	皿状	自然	土師質土器，陶器	SK50→本跡
50	D 2c4	N－7°－W	［楕円形］	(1.32)×(0.55)	23	外傾	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK47・48
57	D 2b1	N－74°－W	楕円形	0.90×0.38	63	外傾・有段	皿状	自然	土師質土器	
60	D 1f0	N－18°－W	不整長方形	1.52×1.30	80	外傾・有段	有段	自然	瓦器	

（5）　溝跡

今回の調査で，中世・近世とみられる溝跡19条が確認されている。そのうち，当遺跡の性格を考える上で必要な第１・６・18・21・22号溝跡については文章で説明する。その他の溝跡については，一覧表と土層断面図（第149図），及び出土遺物実測図（第150図）のみとし，平面図については溝跡全体図（第147・148図）に掲載するにとどめる。

第１号溝跡（第147・149図）

位置　調査Ｉ区のＤ２a3～Ｄ２b0区で，標高10.8ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第７号溝，第１号ピット群に掘り込まれている。また第６・９号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　Ｄ２a3区から南東方向（Ｎ－103°－Ｅ）へ直線的に延びている。確認できた長さは26.5ｍほどで，両端とも調査区域外に延びているが，現道路を挟んだ西側調査区において延長部は確認されていない。上幅は0.23～1.22ｍ，下幅は0.08～1.04ｍで，東側が幅広である。深さは４～23㎝で，底面の標高は西端部が最も高く，東端部との比高差は20㎝である。断面形は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいるが，堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片３点（鍋類）のほか，流れ込んだ縄文土器片２点，剥片２点（チャート）が出土している。土器は細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から近世と考えられ，第１・２号掘立柱建物跡や第１・２号柵跡と軸方向が同じであることから，屋敷地などの区画溝の可能性が考えられる。

第６号溝跡（第147・149図）

位置　調査Ⅰ区のＣ２j3～Ｃ２j6区で，標高10.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第11号溝跡を掘り込み，第１号欄に掘り込まれている。第１・９号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　確認できた長さは13.25mほどで，西端は調査区域外に延びているが，現道路を挟んだ西側調査区において延長部は確認されていない。Ｃ２j6区から北西方向（Ｎ－85°－Ｗ）へ直線的に10.55m延び，Ｃ２j3区でほぼ90度南へ屈曲し（Ｎ－170°－Ｗ），直線的に2.7m延び，Ｄ２a3区で調査区域外に至っている。上幅は0.32～0.70m，下幅は0.06～0.28mで，東側がやや幅広である。深さは10～32cm で，底面の標高は東端部が最も高く，西端部との比高差は15cmである。断面形は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んでいるが，堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師質土器片12点（鍋類）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から近世と考えられ，第１・２号掘立柱建物跡や第２号欄跡，第１号溝跡と軸方向が同じであることから，屋敷地などの区画溝の可能性が考えられる。

第18号溝跡（第148～150図）

位置　調査ⅡＡ・ⅡＢ区のＢ４g7～Ｂ５j5区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４・12・19・22号住居跡，第84号土坑，第３号ピット群のＰ24を掘り込んでいる。

規模と形状　確認できた長さは33.52mほどで，Ｂ４g7区から南東方向（Ｎ－115°－Ｅ）に直線的に延び，両端とも調査区域外に至っている。上幅は0.38～0.98m，下幅は0.08～0.57mで，深さは30cmである。底面の標高は北端部が最も高く，南端部との比高差は22cmである。断面形はＵ字状であるが，Ｂ５i2区付近ではＶ字状に近い形状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　Ａ－Ａ′，Ｂ－Ｂ′とも２層に分層できる。いずれもロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

Ａ－Ａ′土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

Ｂ－Ｂ′土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　Ｍ５が覆土上層から出土しているほか，流れ込んだ縄文土器片701点，石器３点（打製石斧，磨製石斧，磨石），石製品２点（垂飾品，石剣），剥片16点（チャート13，黒曜石３）が出土している。

所見　時期は，出土遺物から近世と考えられる。性格は不明であるが，同じⅡＡ・ⅡＢ区の第20・23～25号溝跡と軸方向がほぼ同じであり，これらと合わせて区画溝の可能性が考えられる。

第21号溝跡（第148・149図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ３f0～Ｃ４a4区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第140号土坑，第36号溝跡を掘り込み，第22号溝，第１号道路に掘り込まれている。第24号溝跡と重複するが，新旧関係は不明である。

規模と形状　確認できた長さは39.6mほどで，西端は調査区域外に延びている。Ｃ３f0区から南東方向（Ｎ－110°－Ｅ）へ直線的に12.0m延び，Ｃ４g2区でほぼ90度北へ屈曲し（Ｎ－22°－Ｅ），直線的に27.6m延び，Ｃ４a4区に至っている。上幅は1.66～2.30m，下幅は0.20～1.12mで，深さは90～126cmである。底面の標高は西端部が最も高く，Ｃ４e3区付近との比高差は30cmである。断面形は西端部付近ではＶ字状であるが，東から北側にかけては逆台形状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　Ａ－Ａ’は６層，Ｂ－Ｂ’は８層に分層できる。Ｂ－Ｂ’では下層に砂粒を多く含んでいる土が堆積している。ロームブロックを含んでいることなどから，埋め戻されている。

Ａ－Ａ’土層解説

1　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　灰　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

Ｂ－Ｂ’土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・焼土粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量
6　灰　褐　色　砂粒多量
7　黒　褐　色　砂粒多量，ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　流れ込んだ縄文土器片108点，石器２点（磨石，砥石），剥片２点（チャート）が出土している。

所見　出土遺物がないため時期を明確にできないが，近世の道路に掘り込まれていることから，近世以前に掘削され，近世後半には埋没したものとみられる。性格については不明であるが，第22号溝跡，第１号道路跡と軸方向が同じであることから，何らかの関連性が推測される。

第22号溝跡（第148・149図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ３e0～Ｂ４h5区で，標高11mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第203～206号土坑，第21・37号溝跡を掘り込み，第１号道路に掘り込まれている。第24号溝跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　確認できた長さは45.80mほどで，両端は調査区域外に延びている。Ｃ３f0区から南東方向（Ｎ－110°－Ｅ）へ直線的に10.0m延び，Ｃ４f2区でほぼ90度北へ屈曲し（Ｎ－22°－Ｅ），直線的に35.80m延び，調査区域外に至っている。上幅は1.06～2.25m，下幅は0.15～0.40mで，西端部がやや幅狭い。深さは38～60cmで，底面の標高は西端部が最も高く，北端部との比高差は15cmである。断面形は逆台形状で，壁は段をなして立ち上がっている。

覆土　Ａ－Ａ’は２層，Ｂ－Ｂ’は６層に分層できる。Ｂ－Ｂ’の第１～３層はローム粒子を多く含んでいるが，レンズ状の堆積状況から，自然堆積とみられる。

Ａ－Ａ’土層解説

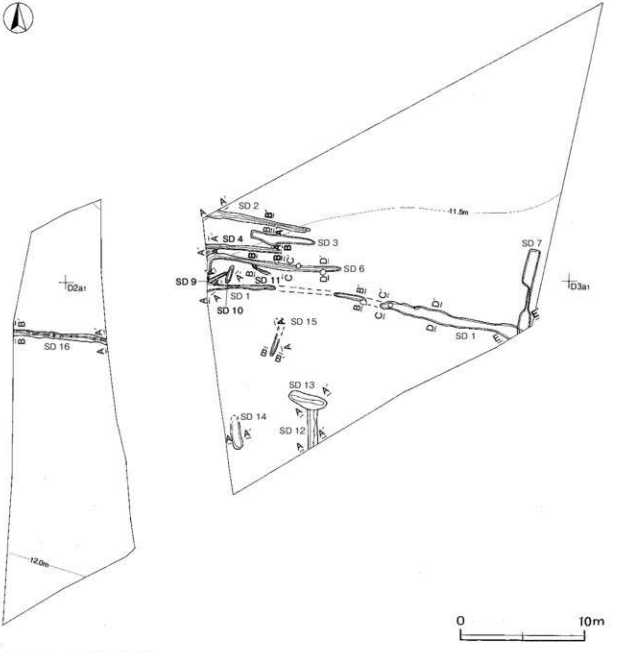
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

Ｂ－Ｂ’土層解説

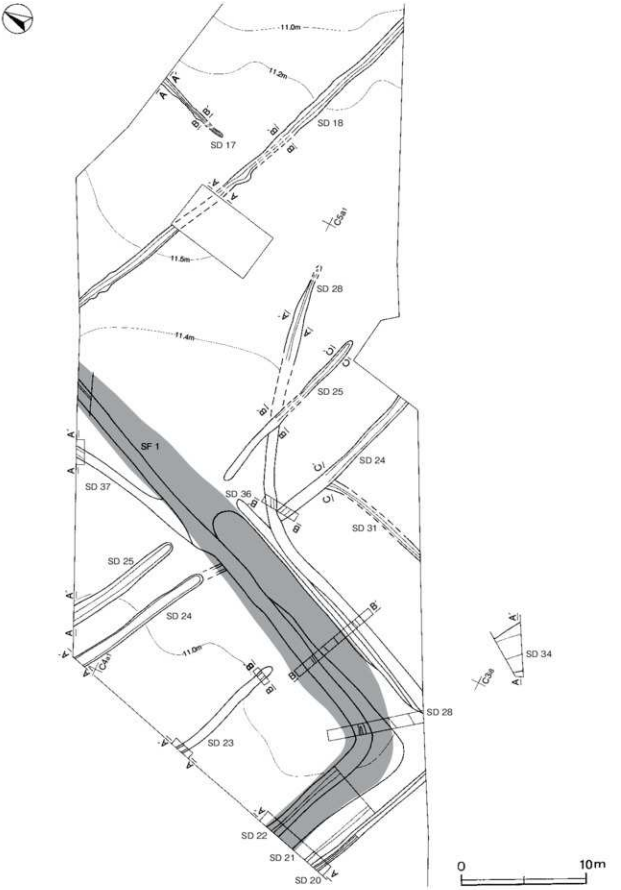
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　瓦片２点のほか，流れ込んだ縄文土器片７点が出土している。瓦片は細片のため図示できない。

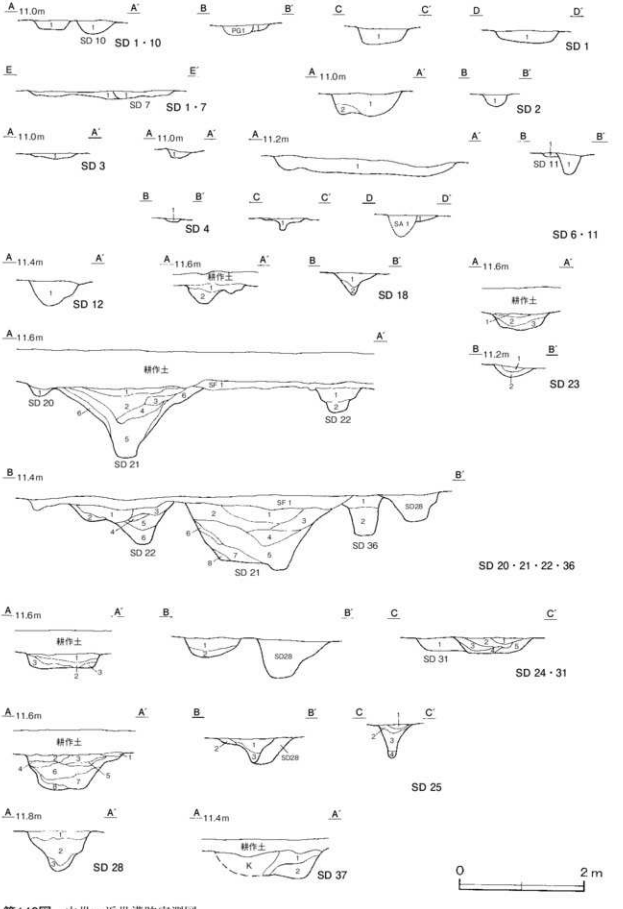
所見　出土遺物が少なく時期を明確にできないが，近世の道路に掘り込まれていることから，近世以前に掘削され，近世後半には埋没したものとみられる。性格については不明であるが，第21号溝跡，及び第1号道路跡と軸方向が同じであることから，何らかの関連性が推測される。



第147図　Ⅰ区溝跡実測図



第148図　Ⅱ区溝跡・道路跡実測図



第149図　中世・近世溝跡実測図

第２号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第３号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第４号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第７号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第11号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第12号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量

第20号溝跡土層解説
1　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第23号溝跡土層解説（Ａ－Ａ'）
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第23号溝跡土層解説（Ｂ－Ｂ'）
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第24号溝跡土層解説（Ａ－Ａ'）
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第24号溝跡土層解説（Ｂ－Ｂ'）
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第24号溝跡土層解説（Ｃ－Ｃ'）
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　極暗褐色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量

第25号溝跡土層解説（Ａ－Ａ'）
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第25号溝跡土層解説（Ｂ－Ｂ'）
1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

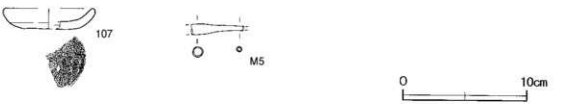
第25号溝跡土層解説（Ｃ－Ｃ'）
1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第28号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量

第31号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第36号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

第37号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量



第150図　第18号・24号溝跡出土遺物実測図

第18号溝跡出土遺物観察表（第150図）

番号	器種	長さ	小口径	口径径	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
M5	煙管	(4.2)	0.8	0.4	(2.6)	銅	吸い口部　両端欠損	覆土上層	

第24号溝跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
107	土師質土器	小皿	[7.0]	1.6	[4.0]	長石	橙	普通	手づくね　内・外面・底部ナデ	覆土中	25%

表10　中世・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	形状	規模 長さ（m）	規模 上幅（m）	規模 下幅（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
1	D 2 a3～D 2 b0	N-103°-E	逆台形	直線	(26.5)	0.23～1.22	0.08～1.04	4～23	外傾・緩斜	平坦	自然	土師質土器	本跡→SD 7，PG 1　SD 6・9
2	C 2 i3～C 2 i5	N-101°-E	逆台形	直線	(7.80)	0.26～0.78	0.06～0.24	20～36	外傾	U字状	自然	土師質土器	
3	C 2 i4～C 2 j5	N-97°-E	逆台形	直線	5.16	0.42～1.02	0.22～0.85	10	緩斜	平坦	自然	－	
4	C 2 j3～C 2 j5	N-93°-W	逆台形	直線	(6.10)	0.23～0.37	0.09～0.23	4～14	外傾・緩斜	平坦	自然	縄文土器	
6	C 2 j3～C 2 j6	N-85°-W N-170°-W	逆台形	L字状	(13.25)	0.32～0.70	0.06～0.28	10～32	外傾・緩斜	平坦	自然	土師質土器	SD11→本跡→SA 1　SD 1・9
7	C 2 j0～D 2 a0	N-7°-E	逆台形	直線	(6.48)	0.26～0.92	0.11～0.88	8～12	外傾	平坦	自然	土師質土器	SK17，SD 1→本跡
11	C 2 i4～C 2 j5	N-115°-E	逆台形	L字状	(1.80)	0.12～0.26	0.04～0.16	5	外傾	平坦	自然	鉄製品	本跡→SD 6，SA 2
12	D 2 c5～D 2 d5	N-1°-E	U字状	直線	(3.00)	0.73～0.84	0.09～0.28	24～40	外傾	U字状	自然	土師質土器，縄文土器	本跡→SD13　SK45
18	B 4 g7～B 5 j5	N-115°-E	U字状，V字状	直線	(33.52)	0.38～0.98	0.08～0.57	30	緩斜	U字状	自然	銅製品，縄文土器，石器，石製品，石製品	SI 4・12・19・22，SK84，PG 3・P 21→本跡
20	C 3 f0～C 4 g2	N-110°-E	U字状	直線	(11.30)	0.54～0.66	0.14～0.24	36	外傾	U字状	自然	－	本跡→SF 1
21	C 3 g0～C 4 a4	N-110°-E N-22°-E	V字状・逆台形	L字状	(39.6)	1.66～2.30	0.20～1.12	90～126	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器，石器	SK140，SD36→本跡→SD22，SF 1　SD24
22	C 3 e0～B 4 h5	N-110°-E N-22°-E	逆台形	L字状	(45.80)	1.06～2.25	0.15～0.40	38～60	有段	平坦	自然	瓦，縄文土器	SK200～206，SD21・37→本跡→SF 1　SD21
23	C 3 c0～C 4 d2	N-75°-W	逆台形・U字状	直線	(10.02)	0.50～0.80	0.20～0.62	26	外傾・緩斜	U字状	自然	－	
24	B 4 g0～C 4 d8	N-70°-W	逆台形・U字状	直線	(33.30)	0.73～1.12	0.38～0.82	24～52	外傾・緩斜	平坦・凹凸	自然	土師質土器，縄文土器，石器	SI17・18，PG16→本跡→SF 1　SD31→本跡→SD28　SD21・22
25	B 4 j1～C 4 d8	N-73°-W	逆台形・V字状	直線	(31.40)	0.41～1.30	0.16～0.60	52～57	外傾	平坦	自然	縄文土器片，石器，剥片	SI17・18，SK151→本跡　SD28→本跡
28	C 4 g3～C 4 a9	N-22°-E N-75°-E	U字状	L字状	(38.70)	0.28～1.06	0.17～0.25	62	緩斜	U字状	自然	縄文土器，石器，剥片	SI 5・6・10，SK164，SD24・36→本跡→SD25
31	C 4 e6～C 4 e5	N-14°-E	逆台形	直線	(9.26)	0.58～0.70	0.23～0.35	22	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI16→本跡→SD24
36	C 4 b5～C 4 g3	N-22°-E	逆台形	直線	(21.80)	0.40～0.88	0.32	75	外傾	平坦	人為	－	本跡→SD21・28，SF 1
37	B 4 h4～C 4 b4	N-11°-E	逆台形	L字状	(9.40)	0.84	0.32～0.69	42	外傾	平坦	自然	－	本跡→SD22，SF 1

(6)　道路跡

第１号道路跡（第148・151図）

位置　調査ⅡＡ区のＣ３e9～Ｂ４h6区で，標高11ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第25・26号住居跡，第140・142・202～206号土坑，第21・22・24・36・37号溝跡，第10・11号ピット群の上位で確認されている。

規模と形状　確認できた長さは52ｍほどで，両端とも調査区域外に延びている。Ｃ３e9区から南東方向（Ｎ－110°－Ｅ）へ直線的に12ｍ延び，Ｃ４g2区でほぼ90度北へ屈曲し（Ｎ－22°－Ｅ），直線的に40ｍ延び，調査区域外に至っている。路面幅は2.5～5.2ｍで，路面の下は確認面から10㎝ほど下がっている。硬化面の厚さは５㎝である。路面の標高は北端部が最も高く，西端部との比高差は37㎝である。

覆土　第１・２層とも締まりがあるが，特に第１層はローム ブロックを多く含んでおり，路面と考えられる。第２層は路面下の凹み部分に堆積したもので，粘土ブロックやロームブロックを含んでいるが，均一的な堆積状況から自然堆積である。

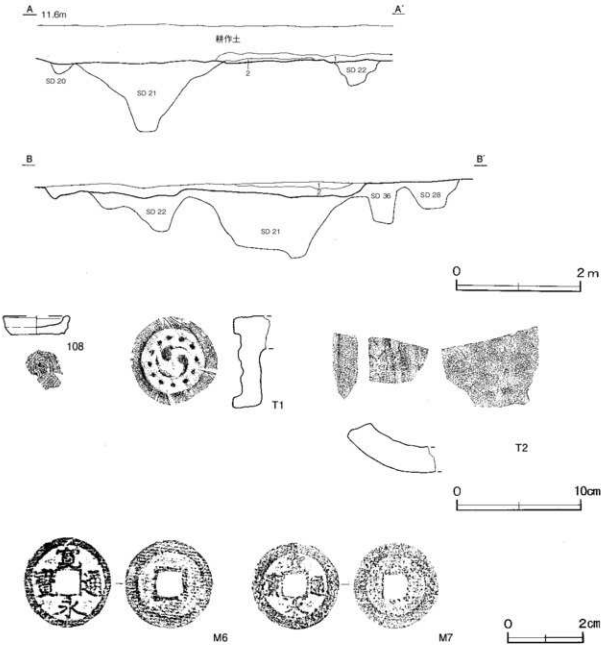
土層解説

１　褐　黒　色　ロームブロック多量

２　黒　　色　粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片12点（碗６，擂鉢４，甕２），砲器片15点（碗13，皿１，瓶１），土師質土器片３点（鍋類２，小皿１），瓦片13点，石器１点（砥石），鉄製品３点（釘２，不明１），古銭２点（寛永通寶）のほか，流れ込んだ縄文土器片150点，土製品１点（土偶），石器１点（石皿），石製品２点（石剣），剥片５点（チャート４，黒曜石１），軽石３点が出土している。遺物はすべて第２層中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から18世紀代と考えられる。第21・22号溝跡と軸方向が同じであることから，何らかの関連が推測される。



第151図　第１号道路跡・出土遺物実測図

第１号道路跡出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
108	土師質土器	小皿	[5.0]	1.5	4.2	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
T１	軒瓦	径7.3	－	(2.9)	(133.4)	長石・雲母	灰	普通	軒丸部分　外区珠文　内区右三巴文	覆土中	
T２	軒瓦	(5.8)	(7.0)	(2.1)	(87.7)	長石・雲母	灰黄	普通	平瓦部分　内・外面いぶし　内面ナデ	覆土中	

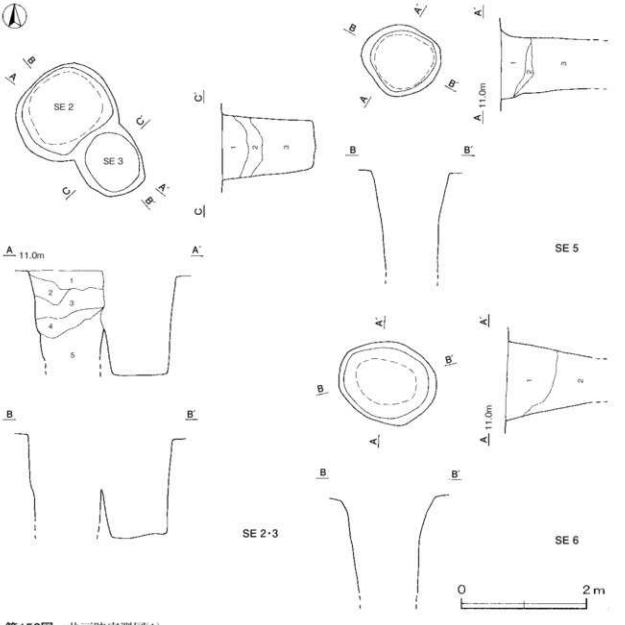
番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
M 6	寛永通寶	2.3	0.7	2.2	1636	銅	日本　背無　古寛永	覆土上層	
M 7	寛永通寶	2.2	0.7	2.1	1697	銅	日本　背無　新寛永	覆土中	

4　その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として，井戸跡５基，土坑34基，溝跡８条，ピット群１か所が存在する。以下，それらの遺構については，実測図と一覧表を掲載する。

(1)　井戸跡（第152・153図）

今回の調査で，時期・性格ともに不明の井戸跡５基が確認されている。これらの井戸跡については，規模・形状等について一覧表と実測図を掲載するにとどめる。



第152図　井戸跡実測図(1)

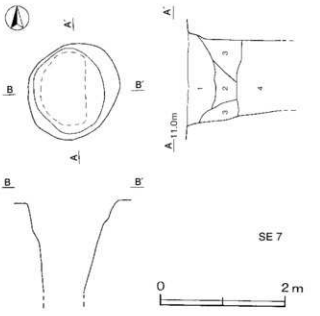
第２号井戸跡土層解説
1　明 黄 褐 色　ローム粒子多量
2　明 黄 褐 色　ロームブロック多量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　明 黄 褐 色　ロームブロック多量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

第３号井戸跡土層解説
1　極 暗 褐 色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第５号井戸跡土層解説
1　灰 黄 褐 色　ロームブロック・粘土ブロック少量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量

第６号井戸跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第７号井戸跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ローム粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック多量



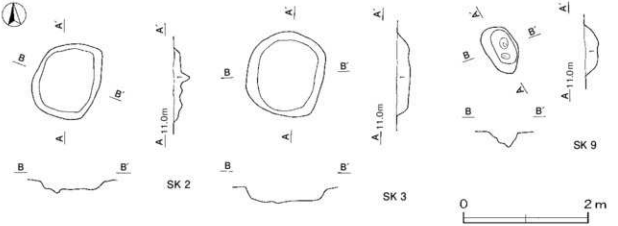
第153図　井戸跡実測図(2)

表11　井戸跡一覧表

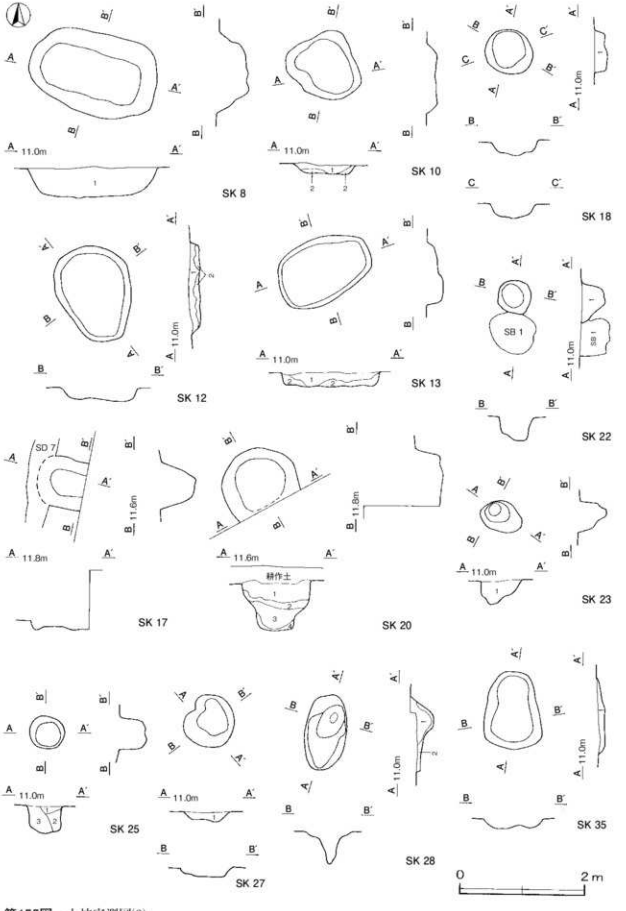
番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m) 長径(軸)×短径(軸)（南北軸×東西軸）	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
2	C 2f7	N-51°-E	楕円形	1.60×(1.20)	(135)	直立	－	人為	縄文土器	HSK40　本跡→SE 3
3	C 2f7	N-40°-W	楕円形	(1.19)×1.00	151	直立	平坦	自然	土師質土器，磁器，石器	HSK14　SE 2→本跡
5	C 2i6	N-80°-W	楕円形	1.31×1.15	(155)	直立	－	人為	磁器，石器	HSK39
6	C 2i0	N-78°-W	楕円形	1.55×1.25	(158)	直立	－	自然	縄文土器，石器	HSK37
7	C 2j9	N-80°-E	楕円形	1.58×1.40	(142)	直立	－	自然	－	HSK 4

(2)　土坑（第154 ～ 157図）

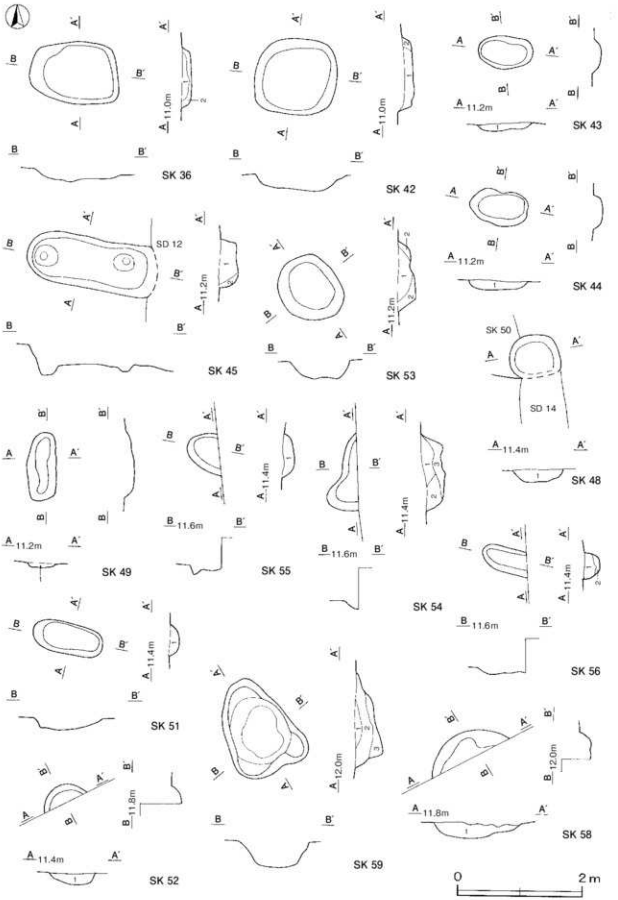
今回の調査で，時期・性格ともに不明の土坑34基が確認されている。これらの土坑については，規模・形状等について一覧表と実測図を掲載するにとどめる。



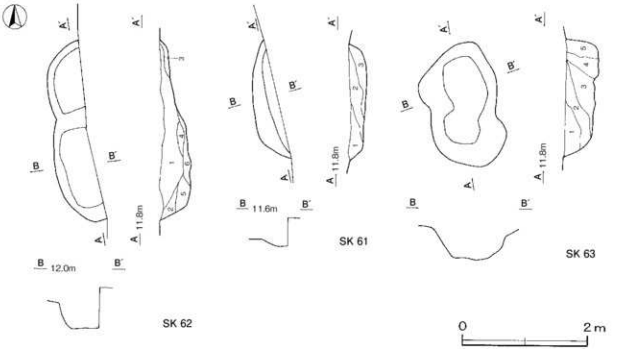
第154図　土坑実測図(1)



第155図　土坑実測図(2)



第156図　土坑実測図(3)



第157図　土坑実測図(4)

第2号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第3号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第8号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第9号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第10号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第12号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第13号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第18号土坑土層解説
1　黒　　色　ローム粒子多量

第20号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　粘土ブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック多量

第22号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量

第23号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量

第25号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　灰　褐　色　ローム粒子多量

第27号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子多量

第28号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第35号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第36号土坑土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第42号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量

第43号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第44号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第45号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

第48号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第49号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量

第51号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第52号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第53号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第54号土坑土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第55号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第56号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第58号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第59号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第61号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第62号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子少量

第63号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック中量

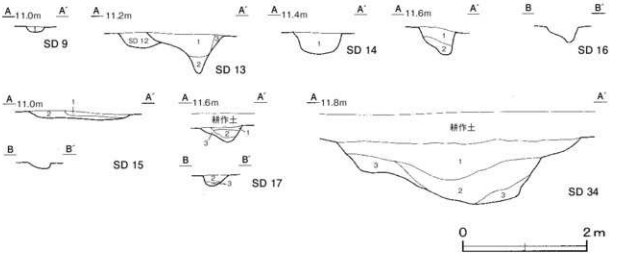
表12　土坑一覧表

番号	位置	主軸方向（南北軸）	平面形	規模（m）長径（軸）×短径（軸）（南北軸×東西軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
2	C 2i9	N-35°-E	楕円形	1.30×1.02	15	外傾	凹凸	自然	－	
3	C 2j9	－	円形	1.32×1.20	24	外傾	凹凸	自然	－	
8	C 2j8	N-77°-W	楕円形	2.04×1.31	43	緩斜	凹凸	自然	縄文土器，石器	
9	D 2a9	N-27°-W	楕円形	0.80×0.50	25	外傾	凹凸	自然	－	ピット2基
10	C 2i6	N-36°-W	不整楕円形	0.98×0.90	17	外傾	平坦	自然	土師器	
12	C 2i6	N-26°-W	楕円形	1.55×1.22	19	外傾	平坦	自然	縄文土器	
13	C 2i6	N-69°-E	楕円形	1.51×1.00	28	直立	平坦	自然	鉄製品	
17	D 2a0	N-75°-W	［楕円形］	(0.79)×0.74	55	外傾	平坦	－	－	本跡→SD7
18	D 2b9	－	円形	0.78×0.71	20	直立	皿状	自然	－	
20	D 2b8	－	［円形］	1.22×(0.92)	71	外傾	平坦	自然	－	
22	D 2b6	－	円形	0.59×0.54	36	外傾	皿状	自然	－	SB1-P8→本跡
23	D 2a6	N-76°-W	楕円形	0.69×0.50	45	外傾・直立	皿状	自然	石器	
25	D 2a6	－	円形	0.54×0.54	44	直立	皿状	人為	鉄製品	SB2
27	C 2i6	－	不整円形	0.86×0.80	11	緩斜	平坦	自然	－	
28	C 2h5	N-15°-E	楕円形	1.22×0.68	51	外傾	平坦	自然	縄文土器	北部にピット
35	C 2i4	N-5°-W	楕円形	1.25×0.89	14	緩斜	凹凸	自然	－	
36	C 2i5	N-86°-W	隅丸長方形	1.40×1.00	20	外傾・緩斜	平坦	自然	－	
42	C 2j9	N-0°	隅丸方形	1.30×1.22	20	緩斜	平坦	自然	－	
43	D 2a4	N-86°-W	楕円形	0.88×0.54	12	緩斜	皿状	自然	－	SB2
44	D 2a4	N-80°-W	不整楕円形	0.94×0.52	23	緩斜	平坦	自然	－	SB2
45	D 2c5	N-80°-W	不整楕円形	2.08×0.81	32	外傾	平坦	自然	－	東部・西部にピット SD12→本跡
48	D 2c4	－	［円形］	(0.68)×(0.65)	19	緩斜	皿状	自然	縄文土器，土師器，石器	SK50→本跡　SD14
49	D 2d4	N-0°	楕円形	1.08×0.47	15	緩斜	平坦	自然	－	SB2
51	D 2d4	N-80°-W	楕円形	1.10×0.50	17	外傾	平坦	自然	－	
52	D 2e4	－	－	(0.75)×(0.28)	20	外傾・緩斜	平坦	自然	－	
53	C 1j0	N-80°-W	楕円形	1.11×0.95	30	外傾	凹凸	自然	－	
54	D 2a1	－	［不整楕円形］	(1.21)×(0.50)	30	外傾	凹凸	自然	－	

番号	位置	主軸方向（南北軸）	平面形	規模（m）長径（軸）×短径（軸）（南北軸×東西軸）	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係（古→新）
55	D 2 a1	N-80°-W	［楕円形］	(0.64)×(0.52)	18	外傾	凹凸	自然	－	
56	D 2 b1	N-76°-W	［楕円形］	(0.72)×0.38	25	外傾・緩斜	皿状	自然	－	
58	D 2 f1	－	［円・楕円形］	(1.40)×(0.44)	28	外傾・緩斜	凹凸	自然	－	
59	D 1 g0	N-25°-W	不整楕円形	1.54×1.08	40	外傾・緩斜	皿状	自然	土師器，磁器	
61	D 2 d2	－	［円・楕円形］	(1.95)×(0.42)	28	緩斜	平坦	自然	－	
62	D 2 e2	－	［楕円形］	(2.90)×(0.60)	50	外傾	有段	自然	縄文土器，土師器	
63	D 1 e0	N-16°-W	不整楕円形	1.92×1.10	52	外傾・緩斜	凹凸	自然	－	

(3) 溝跡（第147・148・158図）

今回の調査で，時期・性格ともに不明の溝跡８条が確認されている。これらの溝跡については，規模・形状等について一覧表と実測図を掲載するにとどめる。



第158図　溝跡実測図

第９号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第10号溝跡土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量

第13号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第14号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第15号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

第16号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第17号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第34号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　極暗褐色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

表13　溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	形状	規模 長さ(m)	規模 上幅(m)	規模 下幅(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
9	C 2j3～C 2j4	N－62°－E	逆台形	直線	(1.70)	0.17～0.28	0.04～0.18	8	外傾	平坦	自然	－	SD1・6・10
10	C 2j4～D 2a4	N－15°－E	U字状	直線	(1.68)	0.25～0.42	0.08～0.21	21	外傾	U字状	自然	－	SD1・9
13	D 2c5～D 2c6	N－101°－E	V字状	直線	3.12	0.80～1.13	0.04～0.10	52～64	外傾	U字状	自然	土師質土器	SD12→本跡
14	D 2c4～D 2d4	N－7°－W	U字状	直線	2.94	0.64～0.78	0.14～0.52	30～35	外傾	平坦	自然	－	SK48
15	D 2a5～D 2b5	N－16°－E	U字状	直線	(3.17)	0.28～0.37	0.16～0.24	9～11	緩斜	平坦	自然	－	SB2
16	D 1b0～D 2b1	N－96°－E	V字状	直線	7.84	0.42～0.66	0.04～0.22	24～40	外傾	U字状	自然	－	
17	B 5f1～B 5h1	N－15°－E	逆台形・V字状	直線	(6.47)	0.18～0.60	0.10～0.19	20～25	外傾	平坦	自然	縄文土器、土製品	SI8、SK134→本跡
34	C 3i8～C 3i9	－	U字状	－	(2.24)	3.19	1.28	98	緩斜	U字状	自然	縄文土器、土師質土器、鉄製品	

(4)　ピット群

今回の調査で，Ⅰ区南東部の１か所でピット群が確認された。以下，確認した遺構について，ピット計測表と平面図を掲載する。

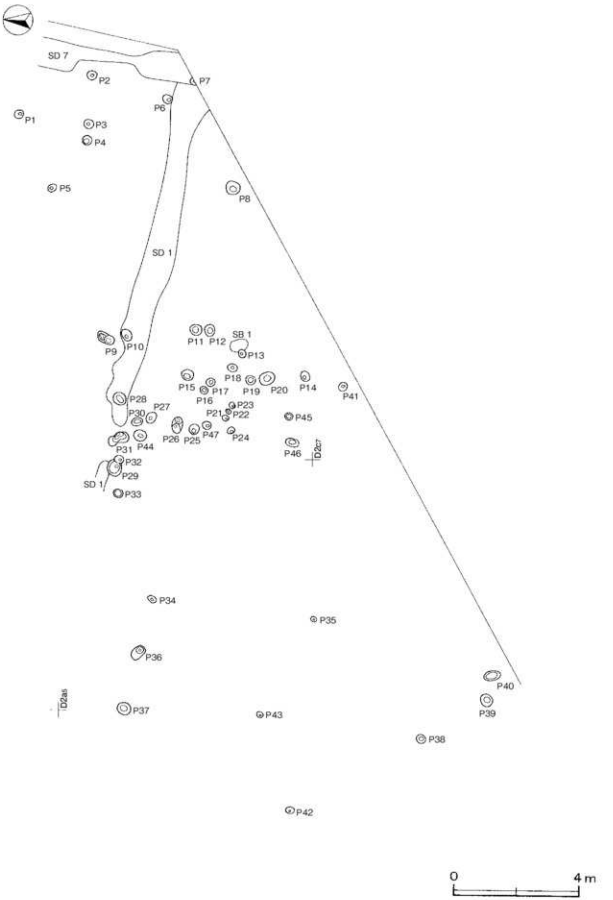
第１号ピット群（第159図）

位置　調査区Ⅰ区南東部のＤ２a4～のＤ２a9区にかけての東西24m，南北16mの範囲から，柱穴状のピット47か所が確認された。これらのピットのうち，Ｐ７，Ｐ10，Ｐ28，Ｐ29の４か所は第１号溝跡を掘り込んでいる。また第１・２号掘立柱建物跡と重複している。平面形は長径18～65cm，短径16～50cmの円形あるいは楕円形で，深さは11～48cmである。分布状況から建物は想定できない。覆土中から縄文土器片や土師質土器片が出土しているピットもあるが，時期・性格ともに不明である。

第１号ピット群計測表

単位：cm

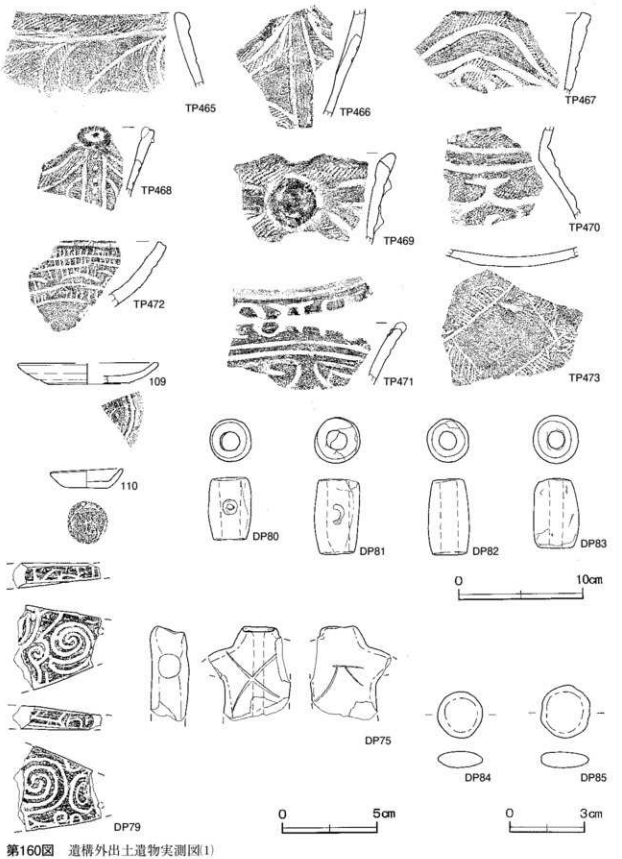
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	30	29	38	17	30	27	24	33	28	27	22
2	30	28	21	18	32	26	19	34	26	20	21
3	33	31	47	19	32	30	22	35	18	17	18
4	32	28	19	20	52	40	30	36	51	31	－
5	28	22	48	21	21	20	19	37	45	40	－
6	32	28	35	22	18	16	11	38	32	28	19
7	28	(17)	23	23	20	20	14	39	40	40	18
8	46	44	40	24	26	20	30	40	54	32	35
9	56	28	16	25	33	32	34	41	33	28	15
10	41	30	21	26	52	32	30	42	27	21	－
11	36	36	33	27	37	29	44	43	21	16	－
12	40	35	19	28	40	38	32	44	38	36	26
13	25	23	30	29	(50)	50	18	45	26	26	20
14	37	31	－	30	35	24	16	46	39	27	15
15	40	37	20	31	65	36	34	47	27	26	28
16	25	25	14	32	20	19	22				



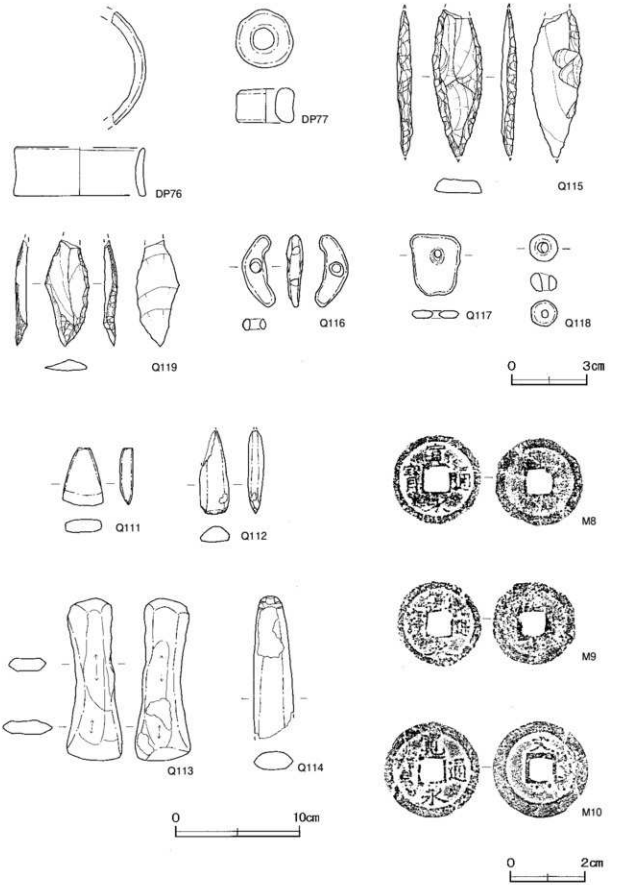
第159図　第１号ピット群実測図

(5) 遺構外出土遺物（第160・161図）

遺構に伴わない主な遺物について，実測図及び観察表で掲載する。



第160図　遺構外出土遺物実測図(1)



第161図　遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第160・161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
109	陶器	皿	[11.0]	1.7	[6.4]	長石	浅黄橙	普通	灰釉	表土	15%
110	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.2	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	表土	95%

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備　考
TP465	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→無節L縄文	表土	
TP466	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→磨き	表土	
TP467	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→磨き	表土	
TP468	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→無節L縄文	表土	
TP469	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→無節L縄文→磨き	表土	
TP470	縄文土器	壺	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線→無節L縄文→磨き	表土	
TP471	縄文土器	浅鉢	長石	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→磨き	表土	
TP472	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→キザミ充填　口唇部凹線	表土	
TP473	縄文土器	浅鉢	石英	にぶい黄橙	普通	沈線→細密沈線文充填→磨き	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・色調	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
DP75	土錘	(5.0)	(4.3)	2.0	(38.5)	にぶい橙　長石・石英・赤色粒子	中心に貫通孔	表土	PL23
DP76	耳飾り	[5.2]	－	1.9	(5.0)	明赤褐　長石	内・外面磨き　被熱	表土	
DP77	耳飾り	2.3	－	1.3	6.9	明赤褐　長石・石英	指頭によるナデ整形	表土	PL22
DP79	手燭形	(5.7)	5.5	1.4	(26.2)	にぶい橙　長石・石英・赤色粒子	柄部　正面に赤彩　貫通孔1孔	表土	
DP80	管状土錘	5.0	径3.4	－	55.1	にぶい赤褐　長石	孔径1.5cm　有印「○」	表土	
DP81	管状土錘	6.0	径3.6	－	80.8	にぶい赤褐　長石・石英	孔径1.5cm　有印「C」	表土	
DP82	管状土錘	6.1	径3.4	－	58.4	にぶい橙　長石・石英・赤色粒子	孔径1.5cm	表土	
DP83	管状土錘	5.6	径3.6	－	58.7	明赤褐　長石・石英・赤色粒子	孔径1.4cm	表土	
DP84	碁石状	径1.8	－	0.7	1.8	にぶい橙　赤色粒子	ナデ整形	表土	
DP85	碁石状	径2.0	－	0.7	2.5	橙　石英・赤色粒子	ナデ整形	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
Q111	磨製石斧	4.6	3.2	1.0	(25.4)	石英片岩	定角式　小形　刃部に微細剥離	SD28	PL27
Q112	磨製石斧	(6.6)	2.3	1.2	(24.4)	緑色凝灰岩	定角式　片刃に近い　刃部に微細剥離	表土	
Q113	砥石	13.0	4.4	1.1	(70.1)	花崗岩	有溝　被熱	表土	PL28
Q114	石剣	(11.2)	3.1	1.4	(67.7)	流紋岩	研磨整形　頭部に2条の沈線文　被熱	表土	PL27
Q115	ナイフ	(5.8)	1.9	0.6	(7.0)	珪質頁岩	横長剥片を素材とする二側縁	SD28	PL25
Q116	垂飾品	2.8	1.3	0.6	2.0	チャート	両面穿孔	SD18	PL25
Q117	垂飾品	2.4	2.0	0.3	2.4	粘板岩	両面穿孔	表土	PL25
Q118	垂飾品	1.0	－	0.7	1.1	玄武岩	孔径0.25～0.4cm　片面穿孔	表土	PL25
Q119	ナイフ	(4.2)	1.7	0.5	(2.6)	珪質頁岩	縦長剥片を素材とする二側縁	表土	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材　質	特　徴　な　ど	出土位置	備　考
M8	寛永通寶	2.4	0.7	2.5	1697	銅	日本　背無　新寛永	表土	
M9	寛永通寶	2.2	0.7	1.9	1697	銅	日本　背無　新寛永	表土	
M10	寛永通寶	2.6	0.7	1.9	1668	銅	日本　背有「文」	表土	

第４節　ま　と　め

今回の調査で，本田遺跡は縄文時代から近世までの複合遺跡であることが明らかとなり，特に縄文時代後期から晩期において，拠点的な集落が営まれたことが特筆される。ここでは縄文時代と近世について調査成果を概観し，若干の考察を加えることでまとめとしたい。

1　縄文時代

今回の調査では，縄文時代後期後葉期の住居跡21軒，後期後葉から晩期中葉期の炉跡２か所，土坑88基，ピット群12か所，晩期中葉期中心の遺物包含層１か所が確認できた。当遺跡の所在する茨城県西部における調査事例は少なく，縄文時代の集落様相が不明瞭な地域であったことから，今回の調査成果は当地域の集落構造を考えるうえで，貴重な資料になるものと思われる。以下で個々の遺構について概観し特徴などを見てゆくことで，当遺跡の縄文時代集落について考えてみたい。

(1)　竪穴住居跡について

今回の調査では，後期後葉期の竪穴住居跡が良好な遺存状態で確認されている。これらのうち，ここでは住居の掘り込みが明瞭な，第４・13・17号住居跡について取り上げ，各住居跡の平面形や主柱穴配置，出入口ピットの形状などを再確認し特徴を捉えることで，当地域の住居構造について確認する。

ア　各住居跡の構造

(ｱ)　第４号住居跡（第162図）

ピットや出入口部などから，少なくとも３回以上の重複が推測でき，第４Ｃ号住居跡が最も古く，第４Ｂ号住居跡，第４Ａ号住居跡の順に変遷することが捉えられた。時期は出土土器から曽谷式段階から安行１式中段階までに限られており，なおかつ平面形や主柱穴の位置をほとんど変えることなく再利用するなど連続性が伺えることから，系統的に連続する集団による居住と考えられる。

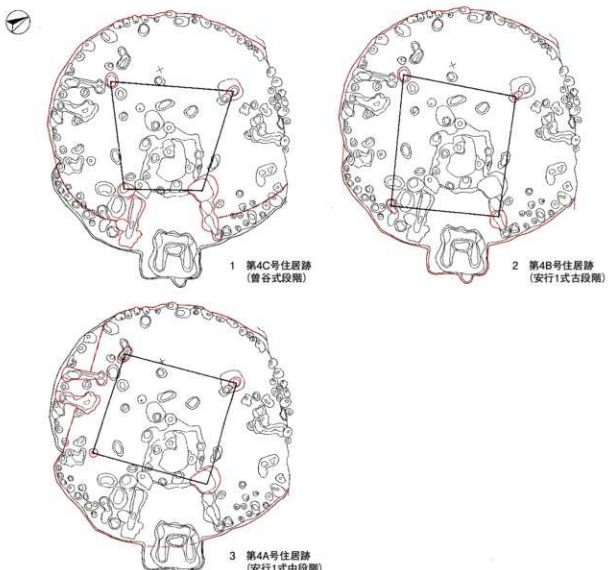
第４Ａ号住居跡（第162図３）は，南側に出入口部を有し，東壁の不自然な突出部分を考慮してＤ字形に近い円形の平面形を想定した。主柱穴は４か所で，壁際には多数の壁柱穴が巡っている。出入口部は平行する溝状のピット２か所からなる。炉は，やや出入口部寄りに位置する地床炉である。時期は，出土土器の最新の時期を捉えて安行１式中段階とみられる。

第４Ｂ号住居跡（第162図２）は，東側に突出する出入口部を有している，円形の住居跡である。主柱穴は４か所で，壁際には多数の壁柱穴が巡っている。出入口部は，東壁が方形に突出する部分にコの字状に溝状のピットを掘り込んで作られている。炉は厚い焼土と灰層の堆積が見られた地床炉で，やや出入口部寄りに位置している。時期は安行１式古段階とみられる。

第４Ｃ号住居跡（第162図１）は，東側のハの字状に開く溝状のピットが出入口部と考えられる。最も古い住居跡のため，出入口部付近の壁が遺存していないが，ピットや炉の位置から，おそらく南北方向にやや長い楕円形の平面形が想定される。主柱穴は４か所で，壁柱穴が巡っている。炉は重複しているため不明であるが，炉２の焼土や灰層の厚さなどを考慮すると，炉２を第４Ｂ号住居跡と共有していた可能性もある。時期は，曽谷式段階とみられる。

以上，第４号住居跡の住居構造は，３軒とも４か所の主柱穴配置，密に巡る壁柱穴，出入口部方向にやや寄っている地床炉を基本的な構成としている。出入口部の形状がやや異なるものの，いずれも主体

部径が6～7mほどで，規模の点からもよく似た構成といえる。壁柱穴は壁際を密に巡っているが，壁柱穴の中にも径の大小や深さに差があり，上屋を保持する柱穴と，壁体を構成する柱穴に分化していた可能性もある。



第162図　第４号住居跡（Ｓ＝１/120）

(イ)　第13号住居跡（第163図）

第13号住居跡は，第23号住居跡と重複していることから不明瞭な部分もあるが，掘り込みの深さや出入口ピットの位置からＡ・Ｂの２回の重複が捉えられ，覆土の堆積状況から第13Ｂ号住居跡から第13Ａ号住居跡への変遷が確認された。時期は，曽谷式段階から安行１式中段階の比較的短期間に，第13・22・23号住居跡と合わせて少なくとも５回以上の建て替えが確認されていることから，最も古い第13Ｂ号住居跡は曽谷式段階，次の第13Ａ号住居跡は，曽谷式段階から安行１式古段階と推測できる。

第13Ａ号住居跡（第163図２）は，東側に出入口部を有するもので，南壁の一部が第23号住居跡によ

って削平されているものの，平面形はほぼ円形と捉えられる。主柱穴は４か所であるが，出入口部に対面する奥壁部分に，やや径の大きな深さのあるピットが位置している点が特徴的である。壁柱穴は削平された南壁以外は密に巡っている。出入口部は溝状のピットが並列している。炉は南北に長い楕円形の地床炉を本跡のものとしたが，位置的に第23Ｂ号住居跡に伴う可能性もある。

第13Ｂ号住居跡（第163図１）は，南側に出入口部を有するもので，やや不整な円形である。主柱穴は４か所で逆台形状に位置しており，第13Ａ号住居跡同様，出入口部と対面する奥壁部分に，径の大きな深さのあるピットが存在している。壁柱穴は東壁際では密に巡っているが，これは第13Ａ号住居跡に伴うものと思われる。西壁では径及び深さが主柱穴と同じくらいのピットが，1.5～２ｍ間隔で認められる。出入口部は溝状のピットがコの字状に掘り込まれている。

ここでの２軒は，平面形が略円形であること，主柱穴が４か所で奥壁部に深いピットを有している点で共通するが，壁柱穴の在り方と出入口部の形状に違いがある。特に第13Ｂ号住居跡の壁柱穴の在り方は，ほぼ同時期の第４号住居跡とも大きく異なっている。また主体部の規模は，第13Ａ号住居跡が約６ｍ，第13Ｂ号住居跡が約４ｍであり，規模に大小があることがわかる。

(ｳ) 第17号住居跡（第163図）

第17号住居跡は，覆土の堆積状況から第17Ｂ号住居跡から第17Ａ号住居跡への変遷が捉えられている。また第17Ａ号住居跡では西壁際の壁柱穴が二重に巡っている部分もあることから，２回以上の重複を捉えることも可能である。

第17Ａ号住居跡（第163図４）は隅丸方形の平面形で，隅丸長方形の深さのある掘り込みを出入口部としている。主柱穴は５か所で，中央付近に五角形状に位置している。炉は住居跡の主軸方向に長軸を持つ楕円形の地床炉で，やや出入口部寄りに位置している。壁柱穴は西壁際で比較的密に巡っているが，東壁際には径のやや大きなピットがいくつか見られるのみである。西壁際の壁柱穴にも径の大小があり，径のやや大きなピットを捉えると，東壁と同様な間隔で主要な柱穴が位置していると捉えることもできる。時期は，炉覆土中の土器から安行２式段階に比定できる。

第17Ｂ号住居跡（第163図３）は，出入口部と床面の僅かな段差が捉えられたのみで，はっきりとした平面形は不明であるが，略円形と推測できる。主柱穴は４か所で，出入口部は連結したピットが並列するものである。壁柱穴は壁際に疎らに巡っている。時期は，出土土器から曽谷式段階に比定できる。よってこのＡ・Ｂ２軒の重複は，時間差がやや認められる例であり，住居形態にも差がある。主体部径も第17Ａ号住居跡が約７ｍであるのに対し，第17Ｂ号住居跡は約５ｍと小形である。

イ　時期毎の住居構造の特徴と差異

以上，曽谷式段階から安行２式段階までの短期間に存在した７軒の住居跡について概観した。ここで時期毎に特徴をまとめてみる。

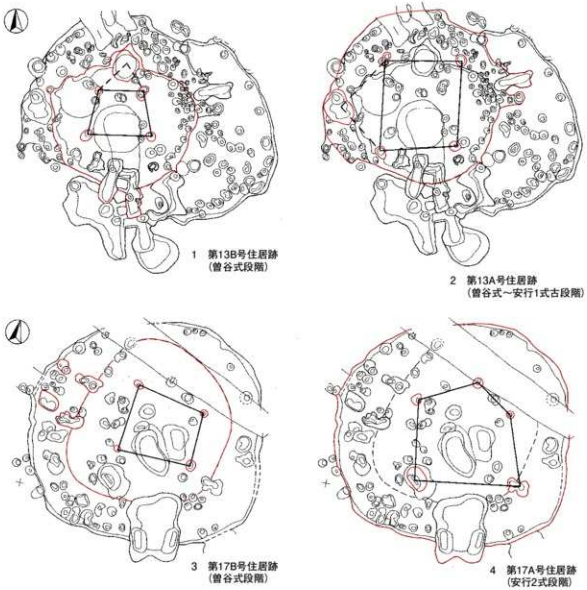
曽谷式段階は第４Ｃ・13Ｂ・17Ｂ号住居跡がある。平面形が円あるいは横長の楕円形で，主柱穴４か所を基本としている。出入口部は溝状のピットが並行するもの，ハの字に開くもの，コの字形のものと三者三様である。壁柱穴は密に配置されているものと，疎らに不規則に配置されているものがある。第13Ｂ号住居跡の奥壁部のピットは，他の２軒には見られない特徴である。

安行１式古段階の住居跡は，第４Ｂ・13Ａ号住居跡の２軒がある。円形の平面形に主柱穴４か所，密な壁柱穴の配置を基本としている。出入口部は方形の張り出しのもの，溝状ピットの並行配置の２者である。第13Ａ号住居跡の奥壁部のピットは，本跡を含め第13号両住居跡にのみみられるもので，第13号住居

居住者の特徴ともいえるべき構造である。規模は第４Ｂ号住居跡が約８ｍ，第13Ａ号住居跡が約５ｍで，規模に大小がある。

安行１式中段階の住居跡は第４Ａ号住居跡である。Ｄ字形に近い円形の平面形で，主柱穴４か所と壁際に壁柱穴が密に廻っている。出入口部は溝状のピットが並列するものである。主体部の規模は約７ｍと大形である。

安行２式段階の住居跡は第17Ａ号住居跡である。隅丸方形の平面形で，出入口部が方形に掘り込まれる点が特徴である。主柱穴は５か所で，壁柱穴は径がやや大きめで深さのあるピットが壁際に不規則に配置されている。主体部規模は約７ｍと大形である。また本住居跡は壁際の床面上及び床面よりやや上位から焼土ブロックが帯状に堆積していた。このような焼土の堆積は，第19Ａ号住居跡や第23Ａ号住居跡でも確認することができた。



第163図　第13・17号住居跡（Ｓ＝１/120）

以上，時期毎の住居跡形態を確認してきたが，4か所の主柱穴の配置は各時期を通して共通するものの，平面形と壁柱穴の在り方，出入口ピットの形状に差異を読み取ることができる。次に，県内外の事例を確認しながら，この差異について考えてみたい。

ウ　県域及び周辺地域の事例[1]（第164～166図）

ここでは県西部の事例を中心に，併せて周辺地域で確認されている縄文時代後期の住居跡の例から，当遺跡の住居構造について考えてみたい。本県域における当該期の住居跡の確認例は決して多くはないが，周辺地域の様相を併せて見ていくことによって，時間的な変遷を考えることが可能である。

県域の堀之内式段階の住居跡は，壁際に等間隔に壁柱穴が配置されているもので，上屋の保持が推測される壁柱穴構造が特徴である。坂東市高崎貝塚[2]の第１・23号住居跡や，五霞町石畑遺跡[3]の第５Ｂ号住居跡，高萩市小場遺跡[4]の第18号住居跡など，多くの事例を確認することができる。出入口部は高崎貝塚の第23号住居跡や石畑遺跡のように溝状のピットがハの字状に掘り込まれているもの，高崎貝塚の１号住居跡や小場遺跡の第18号住居跡のように，柄鏡形の掘り込みを有し方形の張り出し部にピットを伴うもの，ピットが連結し溝状に並列するものが見られる。

後期中葉期の加曽利Ｂ式段階の事例は多くないが，小場遺跡の様相から見ると主柱穴を伴わない壁柱穴構造で，堀之内式段階と大きな変化は見られないようである。関東地方においては，加曽利Ｂ２式段階以降に主柱穴が発達すると言われているが，千葉県域の竪穴住居跡を分析した菅谷通保氏によれば，北総地域では加曽利Ｂ１式段階以降に主柱穴が確認できるようである。

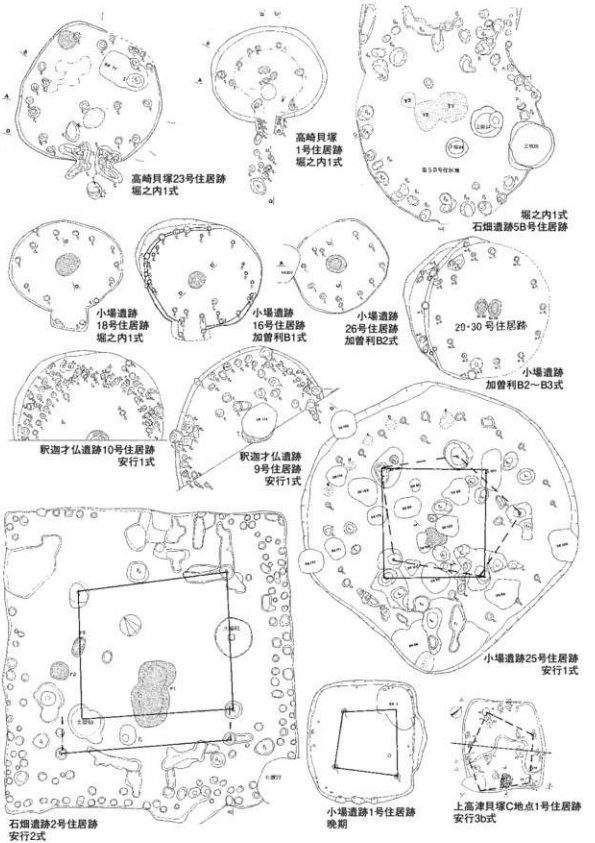
後期前葉から中葉期の壁柱穴構造は基本的には後葉期にも引き継がれ，系統的な連続性を確認することができる。壁柱穴に加えて主柱穴が発達し，出入口部が明瞭な構造を持つものが多い。

後期後葉期の安行１式段階では，小場遺跡の第25号住居跡が４か所の主柱穴でほぼ等間隔の壁柱穴配置，溝状ピットの２列並列の出入口部を呈し，当遺跡の第17Ｂ号住居跡と類似している。同様な構成は，曽谷式段階の栃木県小山市乙女不動原北浦遺跡[5]のＪ１号住居跡でも確認できる。

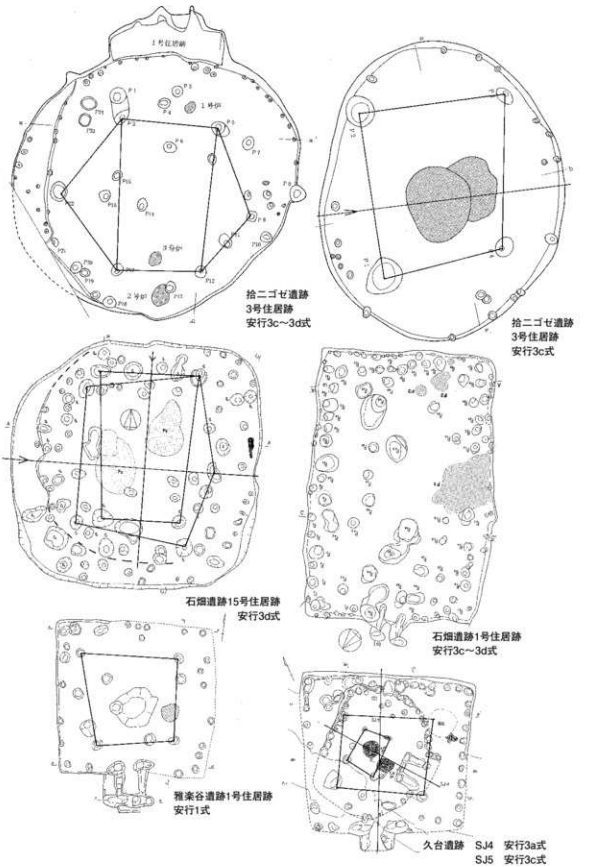
古河市釈迦才仏遺跡[6]では，完掘はなされていないものの，壁柱穴が密に巡っている，楕円形の住居跡が確認されている。このように壁柱穴の密な配置は，千葉県野田市野田貝塚[7]などに見られるように北総地域の住居跡に特徴的に確認できる様相であり，当遺跡の第４号住居跡や釈迦才仏遺跡例などは北総地域の影響を受けているものと推測される。

安行２式段階の事例は，石畑遺跡の第２号住居跡がある。方形の平面形で４か所の主柱穴，壁柱穴が壁際に密に配置されている。出入口部は溝状のピットが並列，あるいはコの字状に作られている。同時期の当遺跡の第17Ａ号住居跡とは形状を異にする部分が多い。方形の平面形を用いるのは埼玉県蓮田市雅楽谷遺跡例[8]や同市久台遺跡例[9]のように埼玉県や神奈川県など西関東に多いようであり，石畑遺跡の所在する位置を考えると，西関東の影響を強く受けている可能性がある。ちなみに石畑遺跡の第２号住居跡は，方形の平面形の中に円形に巡る壁溝状のピットと並列する出入口ピットが存在しており，出土土器から安行１式段階の住居跡との重複が捉えられている。小山市の乙女不動原北浦遺跡のＪ４号住居跡は出入口部の形状を異にしているが，隅丸方形の平面形とやや不規則な壁柱穴配置は当遺跡の第17Ａ号住居跡と共通している。

また石畑遺跡の第２号住居跡や小場遺跡の第25号住居跡など安行１式段階から安行２式段階の住居跡では，壁際で焼土が帯状に堆積する例が確認されている。前述したように当遺跡でもいくつかの事例をあげることができる。これは北関東地域に限らず南関東地域の後期後葉期から晩期前葉期の住居跡で多く見ら

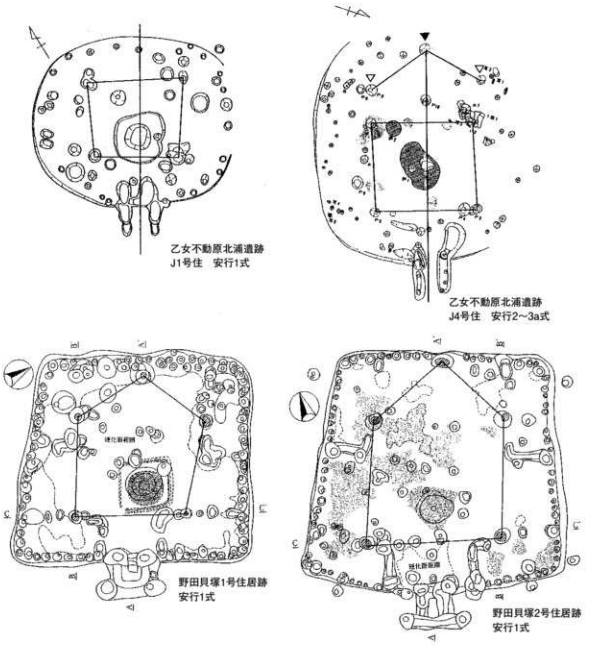


第164図　茨城・埼玉県域の後・晩期竪穴住居跡集成(1)（S＝1/120）



第165図　茨城・埼玉県域の後・晩期竪穴住居跡集成(2)（S＝1/120）

れるものであり，意味するところは明らかではないが，時期的な特徴の一つということができそうである。



第166図　周辺地域の竪穴住居跡の一例（S＝1/120）一部江原2005より抜粋

エ　当遺跡で確認された後期後葉期住居跡の位置付け

縄文時代の住居跡は多様な形態があるが，平面形や柱穴の配置には時期差のほか地域的な差異が反映され，これらを読み解くことによって一つの集落の中での集団の動静をうかがうことが可能である。特に以上で確認してきたように，当遺跡の住居跡をまとめると，

(a)　平面形が円形あるいは楕円形で４か所の主柱穴，壁柱穴が密に巡っているもの

(b)　平面形が円形あるいは楕円形で４か所の主柱穴，壁柱穴が(a)に比べて疎らでやや不規則に巡ってい

るもの

(c)　平面形が隅丸方形で４か所の主柱穴，壁柱穴が(a)に比べて疎らでややや不規則に巡っているもの

の３者を捉えることができる。(a)の密な壁柱穴の配置は野田貝塚や久台遺跡に見られるように，南関東地域の影響が強くうかがわれる柱穴配置といえそうである。(b)(c)の４か所の主柱穴で主となる壁柱穴の等間隔配置は，基本的には後期前葉期に見られる壁柱穴の在り方から系統的に変化してきたものと見ることができる。このような形態は乙女不動原北浦遺跡のＪ１号住居跡でも見ることができ，当遺跡を含む北関東地域では壁柱穴配置の点で南関東地域とは大きな差を捉えることができそうである。(c)の第17Ａ号住居跡の隅丸方形の平面形は，石畑遺跡の第２号住居跡と同様に，大宮台地の平面方形の住居跡との関係性から変化したものかもしれない。

当遺跡で確認できた住居跡は，ほとんどが曽谷式段階から安行２式段階のものに限られ，しかも曽谷式段階から安行１式中段階までの間に集中している。この比較的短期間のなかで，伝統的な構造を踏襲する住居跡とともに，他地域の影響を多分に受けた住居跡が存在している。第13号住居跡は壁の一部を共有していることなどから系統的に連続する集団による居住が考えられるが，伝統的な住居構造の第13Ｂ号住居跡から，南関東地域の影響が伺える壁柱穴の密集配置の第13Ａ号住居跡に建て替えられている。道路幅という狭い範囲で確認された短期間の集落跡内に，系統を異にする住居構造が共存している。住居系統の違いが，それらを用いている集団の違いを表しているものであれば，想像をたくましくすれば同時期のムラの中に出自を異にする集団が共存していたということがいえるのかもしれない。少なくとも異なる系統の住居構造を採用することが可能な，開かれた社会であったということはいえそうである。

住居跡分類	分類の基準	当遺跡の事例	周辺遺跡の事例
(a)	平面形が円形又は楕円形で，主柱穴４か所，壁柱穴が密に巡っているもの	第４Ａ・４Ｂ・４Ｃ，第13Ａ	釈迦ヌ広９・10号
(b)	平面形が円形又は楕円形で，主柱穴４か所，壁柱穴が疎らにややや不規則に巡っているもの	第13Ｂ，第17Ｂ	小場第25号，乙女不動原北浦Ｊ１号
(c)	平面形が隅丸方形で，主柱穴４か所，壁柱穴が疎らにややや不規則に巡っているもの	第17Ａ	乙女不動原北浦Ｊ４号

(2)　ピット群について（第167図）

当遺跡では縄文時代のピット群が12か所確認できた。これらのうち多くは建物跡等の配置を想定できないものであるが，第３号ピット群はその位置やピットの配置などの点で，他のピット群とは様相を異にしている。

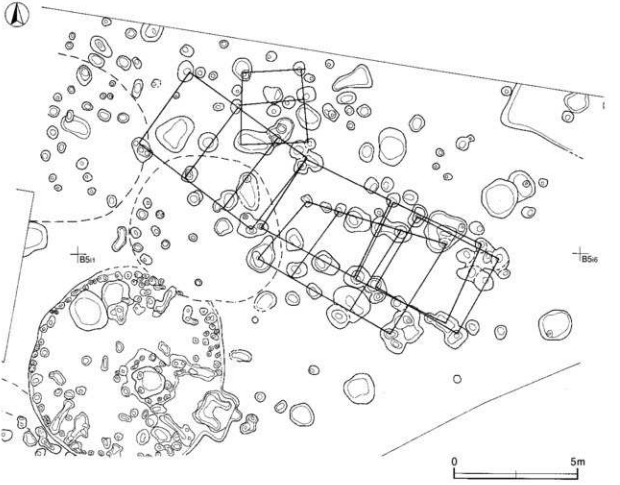
第３号ピット群はⅡＢ区東側の，晩期包含層にかかる斜面部に位置している。ピット40か所からなり，東西方向に列状に分布している。ピットの深さは18～120㎝で，50～70㎝のやや深いものが多い。Ｐ８～Ｐ14，Ｐ15～Ｐ21，Ｐ27～Ｐ30，Ｐ36～Ｐ39など数基のピットが重複している部分や，それらよりやや西方向に軸を振ったピット列などから，第167図のように１×１間あるいは１×２間の建物跡の重複を考えることが可能である。時期は，出土土器から後期後葉から晩期中葉期と考えられるが，主体となるのは晩期中葉期のようである。

また明瞭な建物跡を想定することはできないが，第７・８・13号ピット群も斜面部を取り囲むように位置している。第123・189・191・193・194号土坑など斜面際に位置する土坑の中には，径50～100㎝で断面がピット状を呈するものもある。これらはピット群と同様の性格を有する可能性もあり，このうちのいくつかは建物跡を想定することもできよう（第167図）。

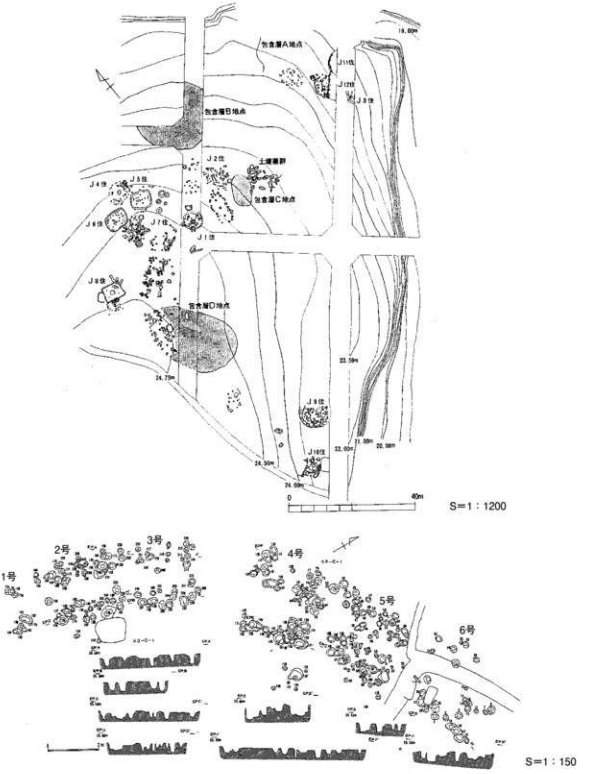
第３号ピット群のように，集落内の窪地あるいは斜面部を取り囲むようにピットが位置する例は，後・

晩期の集落跡では比較的多くみられる事例である。周辺地域では栃木県小山市に所在する寺野東遺跡[10]や乙女不動原北浦遺跡，千葉県では流山市三輪野山貝塚[11]や君津市三直貝塚[12]などで見ることができる。

このうち乙女不動原北浦遺跡では，晩期前葉から中葉期の遺物包含層が存在する斜面部を囲むように柱穴群が存在しており，これらを配置から6か所のまとまりとして捉えている（第168図）。報告ではこのまとまりについて，「広場を囲うように存在した上屋のみの構造を持つ，掘立的性格の強いものであった」と述べられている。石井寛氏はこれらの柱穴群について「弧状配列柱穴群」と概念化し，後期中葉の加曽利B式段階以降に，北関東地方に掘立柱建物跡の移入を考えられており，このような掘立柱建物跡について住居跡と捉えている[13]。当遺跡の場合，斜面部に広がる遺物包含層の主たる時期である晩期中葉期の住居跡が確認できていない。調査区域外に展開している可能性もあるが，「弧状配列柱穴群」が遺物包含層を残した人々の居住域と考えることも可能である。その場合，住居形態が後期後葉期と大きく異なる点は，異系統の住居形態を受け入れたものと考えるのか，あるいは集団の系統的な断絶状態を示していると考えるのか，住居跡以外に土器や土製品などの遺物からの検討を通して考えていく必要がある。



第167図　第3号ピット群及び周辺ピット群建物跡想定図



第168図　「弧状配列柱穴群」を有する集落の一例（乙女不動原北浦遺跡）

⑶　土坑について

当遺跡では，縄文時代の土坑が88基確認されている。そのうち性格を明らかにできるものは少ないが，これらの土坑のうち特徴的ないくつかについて確認する。

第161号土坑は，長径約1.2mの不整楕円形で，深さが178cmの円筒形状の土坑である。覆土はロームブロックを含む土で埋め戻されており，覆土下層から安行１式の台付鉢脚部が逆位で出土している。この台付鉢脚部は内面が赤彩されており，台付鉢としての機能停止後に別の容器に転用されたものと考えられる。当遺跡ではこのような径１ｍ前後の円形あるいは楕円形の平面形を呈し，深さが150cm以上の円筒形状で，覆土中にほぼ完形の土器を１，２点伴う土坑が，第161号土坑のほかに第117・203・204・205・206号土坑の５基が存在している。また遺物を伴ってはいないが，形状から第150・202号土坑なども同様の性格のものと推測できる。これらは覆土中に完形土器以外に遺物をほとんど含んでいない点も特徴的である。時期は，出土土器から安行１式段階に限られている。また土坑ではないが，第５号住居跡のＰ35，第15号住居跡のＰ１なども，深さがあり覆土中からほぼ完形の土器を出土していることから，同様の性格のものと考えられる。これらの土坑は，Ⅱ区の台地平坦面の住居跡や土坑が多く確認できる区域にあり，特に群集する様子は伺えない。

以上のような円筒形状で深さを有する土坑について類例を確認してみたい。中期から晩期の集落跡であるつくばみらい市前田村遺跡[14]では，窪地を取り囲むように深さ150cm以上の「円筒状土坑」が27基確認されている。覆土中には多量の縄文土器のほか獣骨や貝類などが出土しており，廃棄土坑と捉えられている。時期は晩期前葉期である。五霞町石畑遺跡では埋没谷に面する斜面部に，断面が円筒形状で底面から土器を出土する土坑が確認されている。また平成21年３月に報告書を刊行する予定のつくば市旭台貝塚でも人為的に埋め戻された断面円筒形の深い土坑があり，安行２式～安行３ａ式段階の完形に近い土器を数点伴い，中には貝類を含んでいるものもある。

県外の事例では，栃木県小山市寺野東遺跡や，千葉県佐倉市吉見台遺跡[15]，井野長割遺跡[16]，流山市三輪野山貝塚，埼玉県さいたま市馬場小室山遺跡[17]など，関東地方の後晩期集落では比較的多くの事例を確認することができる。時期的には後期後葉の安行２式段階から安行３ｂ式段階のものが多いようである。時期差のある完形に近い土器が出土する例もあり，鈴木正博氏は馬場小室山遺跡の第51号土坑の例から「多世代土器群多埋設深掘大土坑」と概念化している[18]。数世代におよぶ長期間にわたって土坑が意識され，土器を含む遺物が埋納されている土坑で，「収納施設埋設型」の土坑で「晩期安行式ムロ」としている。

以上の例を見るならば，深さのある「円筒形土坑」は，廃棄土坑あるいは何らかの埋納施設の性格を考えられているものが多いようである。当遺跡の事例は，安行１式段階の単一時期で，また遺物も完形土器が１，２点出土するのみで，他の土器片や他の遺物等をほとんど含んでいない点が上記の類例と異なるが，覆土が埋め戻されている点も考慮すると，当遺跡の「円筒状土坑」も何らかの埋納施設と考えられ，あるいは墓坑的な性格を有するものと推測できる。この「多世代土器群多埋設深掘大土坑」は特に安行２式から晩期前葉期に多くを確認することができるが，当遺跡の「円筒状土坑」は，その先駆的なものと捉えることができるかもしれない。

⑷　遺物包含層と集落景観

以上，当遺跡の各遺構について確認した。これらを踏まえて本田遺跡の集落景観について考えていきたい。

当遺跡の縄文時代の集落は，後期後葉の曽谷式段階から安行１式段階に第１の盛期をみる。この後期後葉期の住居跡や土坑は，遺物包含層が形成される斜面部に面する台地上に位置している。住居跡と土坑は分布を異にするわけではなく，ほぼ同じ区域に存在している。土坑の中には廃棄土坑や貯蔵のための土坑，また墓坑などがあるが，性格を明らかにできたものは少ない。ただし，確実に墓域や廃棄域，貯蔵穴区域というような分布を捉えることはできず，遺構の性格による分布の区別はなされていないようである。

斜面部に形成された遺物包含層は，出土遺物から晩期中葉期を中心としている。非常に多量の遺物が出土しているが，出土遺物の９割以上が晩期中葉期のもので，台地上の遺構の時期である後期後葉期以前の遺物はほとんど含まれていない。遺物包含層が形成される斜面部では，地山であるローム面の直上に晩期中葉期の遺物包含層が直接堆積しており，それ以前の時期の遺物を包含する土層は存在しない。また斜面部では遺構の密度が低くなるＢ５g3区辺りから不自然な段差が認められる。以上のことから，晩期中葉期に斜面部を削平あるいは何らかの整地行為がなされている可能性が考えられる。

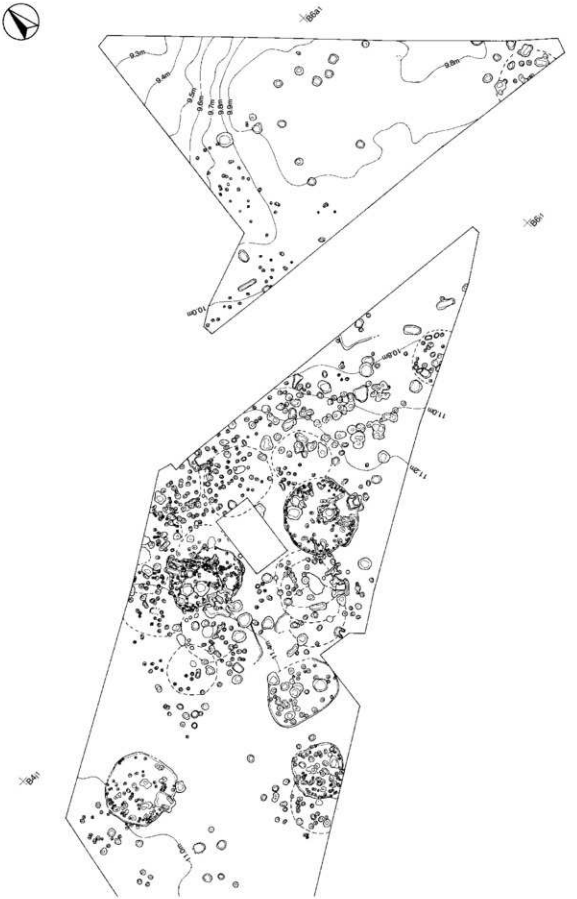
晩期の住居跡は第29号住居跡を除き確認できなかった。遺物包含層中に遺構の存在は確認できず，また遺物包含層下の斜面部には，小ピットはあるものの明確な遺構はほとんど確認できなかった。晩期に比定できる確実な遺構は多くないが，確認できた例では遺物包含層の形成される斜面部を巡るように位置するものが多いようである。第３号ピット群は出土遺物から後期後葉から晩期中葉期が中心であるが，１×１間以上の建物跡を想定できることから，前述したように遺物包含層が形成された時期の居住域の可能性が高い。

関東地方の後・晩期の拠点的な集落を見ると，集落の中央に窪地を有し，窪地の周囲に住居跡等の遺構が配置される「中央窪地形環状集落」が多い。これらの集落では台地部分に後期前葉から晩期前葉期の居住域を有し，窪地部分には晩期中葉期の遺物包含層が形成されており，調査区域が限定されているが，当遺跡をはじめ釈迦才仏遺跡や前田村遺跡，石畑遺跡なども同様の在り方を呈している可能性がある。検討を要するが，特に釈迦才仏遺跡は遺構の時期や配置などからも，当遺跡と共通点が多い。

この「中央窪地形環状集落」では，窪地部分に削平などの整地行為を伴うもの，また環状部分に盛り土を伴う，いわゆる「環状盛土遺構」があることが知られている[10]。当遺跡の場合，遺物包含層が形成される斜面部から低地部分にかけては旧長井戸沼からの谷津が入り込んでいるが，上述したように削平あるいは何らかの整地行為が行われた可能性がある。その場合に為されたであろう台地部分の盛り土については，耕作等による削平のため不明である。

盛り土を伴う「中央部窪地形環状集落」では，後期前葉期から継続的に遺構が確認されているものが多いが，当遺跡では後期中葉期の加曽利Ｂ式段階の遺構は確認できず，また遺物も加曽利Ｂ式段階のものはほとんど確認することができない。後期前葉から中葉期の居住域が調査区域外に展開している可能性も十分にあるが，加曽利Ｂ式段階の遺物が少ないように思われる。このような状況は釈迦才仏遺跡でも同様であり，後期中葉期の遺構や遺物がほとんど確認できず，台地上の盛り土行為も不明瞭である。当遺跡や釈迦才仏遺跡のような比較的時期が限定される集落跡では，盛り土行為は伴わないか，行われていてもそれほど大規模なものではなかったと推測できる。

いずれにせよ，今回の調査で本地域での縄文時代後期から晩期にかけての集落景観の一部を明らかにすることができた。後期後葉期には斜面部に臨む台地上に居住域が形成され，伝統的な柱穴構造を持つ住居と，南関東地域の影響を受けた構造の住居が共存している様相が捉えられた。利根川を挟んで下総台地・大宮台地と近接する当遺跡の位置からも，異系統の遺構が共存することは十分に考えられる現象であり，



第169図　縄文時代遺構分布図（S＝1／400）

当時の集団間の関係性を考えるうえで良好な資料となろう。晩期前葉から中葉期には斜面際に居住域が営まれる。斜面部には多くはないが土坑やピットが見られ，また何らかの整地行為が推測されるなど，晩期には斜面際から低くなる部分にかけて活動痕跡が認められるようになる。

このような遺構の在り方は，大きく見れば関東地方の拠点的な後・晩期集落である「中央諏地形環状集落」や「環状盛土遺構」と同様の事象と理解することができるが，個々の遺構については多様で，地域間の関係性や他地域との差異を読み取ることも可能である。今後は周辺地域との比較を行うことで，当地域の個性や特徴を把握していきたいと考えている。

2　中世・近世の遺構について

中世・近世の遺構は，掘立柱建物跡２棟，柵跡２列，井戸跡４基，土坑13基，溝跡19条，道路跡１条が確認されている。このうち当遺跡の近世の遺構として特徴的な，井戸跡と道路跡について検討してみたい。

⑴　井戸跡について

中世・近世の井戸跡は４基確認できた。そのうち出土遺物から時期が明瞭で，井戸跡の構造が復元可能な第８号井戸跡について，再度確認しておく。

第８号井戸跡の構造上の特徴は，掘方が大きく２段に分かれていること，さらに竹の半割材を井戸枠として用いていることである。

掘方は上部が長径約５m，短径約４mの不整楕円形状で，東側の壁は階段状に段差を有しており，深さ1.5mほどのところで平場が作られている。その平場の位置から一辺約1.2mの方形で垂直に掘り込みがなされており，この方形の掘方上部に板材が掘り込みに沿って井桁状におかれている。また方形の掘り込みの壁面には半割にした竹材が巡らされており，竹材と掘方壁面の間には，砂と粘土が裏込めされている。この方形の掘り込み部分が井戸枠を伴う井戸本体の部分であり，東側に平場を有する構造が復元できる。水が湧き始める水位はこの方形の井戸枠の高さとほぼ一致していることから，この平場が作業スペースであることが推測できる。

このような構造は，中世・近世とした他の井戸跡では確認できなかった。２回の工程に掘り込みをすることは作業スペースを確保するためと同時に，より深い位置まで井戸を掘削するための，作業工法上の手法と考えられるが，水が湧き始める水位は他の井戸跡と変わらないことから，必ずしも必要不可欠な行為とは思われない。

同様の平場を持つ井戸跡の事例は，規模は異なるものの五霞町同所新田遺跡の第10号井戸跡[20] に見ることができ，出土遺物からほぼ同時期の18世紀後半代のものと推測される。このような構造を持つものが時期的な特徴であるのか，あるいは地域的な特徴であるのか，今後類例を更に検索して明らかにしてゆきたい。

⑵　溝跡と道路跡について

本遺跡では，中世・近世の溝跡19条，近世の道路跡１条が確認されている。

第１号道路跡は，路面幅2.5 ～ 5.2mで，場所により幅に差がある。ロームブロックと粘土ブロックを含む，厚さ８～ 22㎝の非常に硬化した土で路面が形成されている。硬化面は周囲より10㎝ほど下がった部

分に形成されているが，明瞭な掘方を有するものというほどではない。おそらく，若干の窪んだ部分を路面としたものか，あるいは道路として一定期間使用している間に周囲より若干下がり，その部分を路面として使用していく間に硬化面が構築されたものであろう。第１号道路跡は調査区南部で90度方向を変え，調査区域外北側の香取神社方向に向かって延びている。

香取神社は，天正14年（1586年）創祀とされ，毎年４月15日，７月15日，11月15日の祭礼で奉納される「塚崎の獅子舞」は昭和35年に県の無形民俗文化財にも指定されている。この獅子舞については，嘉永元年（1848年）に発祥や起源について記された「御獅子講中者並人名簿」が残されており，「獅子講」により今なお大切に伝承され，周辺住民の信仰を集めている[21]。本遺構は，その位置から香取神社参道の可能性があり，出土遺物から時期的にも符号する。

本遺構の下位には第21・22・36号溝跡があり，いずれも第１号道路跡とほぼ軌道を同じくし，調査区南部で90度方向を変えている。第21号溝跡は上幅約２ｍで，深さは約130㎝，断面形状は薬研掘状である。覆土は堆積状況から埋め戻されている。第21号溝跡は第１号道路跡と軌道を同じくしていることから何らかの関係性は伺えるものの，形状等からは道路跡の掘方とは考えられない。第22・36号溝跡は芯々で８～９ｍの幅で並行に延びていることから，第１号道路跡以前の道路跡の側溝の可能性もある。

また，第21号溝跡は調査区域中央付近で途絶えている。この部分は第36号溝跡とほぼ同じで，第21号溝跡と直交する第23・24・25号溝跡が途絶える位置ともほぼ同位置である点が特徴的である。これらの溝は配置の特徴から区画溝の可能性があり，第１号道路跡も土地の区画に沿って設置されたと推測される。

旧長井戸沼は縄文時代前期の海進期には古鬼怒湾の最奥部にあたり，縄文時代後期後葉には海退現象によって後背湿地になっていたという。当遺跡の縄文時代後期から晩期にかけての石器組成のうち，石錘等の漁撈具が非常に少ない点は，この自然環境を反映したものと見ることができる。その後の小氷期の繰り返しによって中世以降には湖沼化していたようであり，江戸時代以降は沼地での漁撈活動が，生業のなかで大きなウエイトを占めていたようである。

しかし生産性の向上や度重なる水害などから，この沼地を干拓し水田化することは，住民の長年にわたる悲願であったようである。近世期にも若干の開拓が行われていたが，本格的な干拓は大正14年（1915年）に始められた。それまで旧長井戸沼中央部に流れ込んでいた宮戸川も，現在の旧長井戸沼西岸部に流路が変更され，現在のような水田が広がる景観が誕生することとなった。この際の開発工事により，旧道や地割は壊滅したものと思われるが，これについては今後，文献資料や古地籍図などから更に検討を加えていきたい。

註

1）県域の事例については，当遺跡の所在する県西地区を中心に集成したもので，県域を網羅したものではない。また加曽利Ｂ式段階など県西地区に事例が少ない時期のものについては，適宜他地区の事例などで補っている。周辺地域の事例については，北関東地域については江原英氏の論文から，下総地域については菅谷通保氏の論文から多くを学ばせていただいた。
　江原英「北関東中部域における縄紋時代後晩期居住形態の検討（予察）－乙女不動原北浦遺跡の住居と集落を中心に－」『怒濤の考古学－三澤正善君追悼記念論集』　三澤正善君追悼記念論集刊行会　2005年５月
　菅谷通保「竪穴住居から見た縄紋時代後・晩期－房総半島北部（北総地域）を中心とした変化について－」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第６集　帝京大学山梨文化財調査研究所　1995年
2）鶴見貞雄「茨城県自然博物館（仮称）建設予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　高崎貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』第88集　1994年３月
3）瓦吹堅「石畑遺跡」　五霞村教育委員会　1977年３月
4）沼田文夫「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書　小場遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第35集　1986年３月
5）三沢正善ほか「乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書」　小山市教育委員会　1982年３月
6）川津法伸「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書　大橋Ｂ遺跡・釈迦才仏遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第131集　1998年３月
7）野田市教育委員会『野田貝塚－第17・18次発掘調査』　2003年３月
8）橋本勉ほか「雅楽谷遺跡」㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1990年３月
9）新屋雅明ほか「九合遺跡Ⅱ」㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　2007年３月

10）江原英ほか「寺野東遺跡Ⅴ」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第200集　栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団　1997年３月
11）大内千年「主要地方道松戸野田線住宅宅地関連埋蔵文化財調査報告書　流山市三輪野山貝塚・宮前・道六神・八幡前」「千葉県文化財センター発掘調査報告書」第399集　2001年３月
12）吉野健一「東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書７　君津市三直貝塚」「千葉県教育振興財団調査報告」第533集　2000年３月
13）石井寛「掘立柱建物跡から観た後晩期集落址」『縄文時代』第19号　縄文時代研究会　2008年５月
14）横堀孝徳「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　前田村遺跡Ｃ・Ｄ・Ｅ区」「茨城県教育財団文化財調査報告」第116集　1997年３月
横堀孝徳「前田村遺跡Ｃ・Ｄ・Ｅ区」「第19回研究発表資料」茨城県考古学協会　1997年６月
15）林田利之「吉見台遺跡Ａ地点」「財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書」第159集　財団法人印旛郡市文化財センター　2000年３月
16）小倉和重ほか「井野長割遺跡（第８次）」佐倉市教育委員会・財印旛郡市文化財センター　2004年３月
17）青木義雄ほか「馬場（小室山）遺跡」「浦和市東部遺跡群発掘調査報告書」第３集　浦和市教育委員会・浦和市遺跡調査会　1983年３月
18）鈴木正博「第３節「環堤土塚」と馬場小室山遺跡．そして「見沼文化」への眼差し」『「環状盛土遺構」研究の現段階』「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」実行委員会　2007年７月
「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」実行委員会『「環状盛土遺構」研究の到達点　予稿集」　2005年10月
19）江原英「寺野東遺跡環状盛土遺構の類例」「研究紀要７」栃木県埋蔵文化財センター　1999年３月
江原英「遺構研究　環状盛土遺構」『縄文時代』10　縄文時代文化研究会　1999年５月
20）桑村裕「清水遺跡・同所新田遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第290集　2008年３月
21）境町史編さん委員会「下総境の生活史　図説・境の歴史」平成17年３月

付　　章

本田遺跡の動物遺体

国立歴史民俗博物館　　西本豊弘
総合研究大学院大学博士課程　金　憲爽

本田遺跡から動物遺体が少量出土した。その内容を表１・２に記載し，主なものを写真図版に示した。イノシシが主体であり，その他ではシカが少量とキツネとイヌ，鳥類のキジ・カモ・ヒシクイが見られた。なお，ウマの歯も採集されていたが，これは保存状態からみて江戸時代以降のものであろう。

１．イノシシ

この遺跡出土の動物遺体の大部分はイノシシである。写真１に示した頭蓋骨は，大きな成獣個体のもので第１後臼歯から後ろの部分であり，吻部は欠損していた。頭頂部と後頭部も欠損しており，この部分も人為的に割られた可能性がある。残存している歯は，左右ともに第１後臼歯から第３後臼歯であり，第３後臼歯の第３咬頭も少し磨耗していることから，数歳から10歳程度の成獣であろう。犬歯部分がないので雌雄は断定できないが，頭部も歯も大きいことと，頭頂部が広いことから雄獣の可能性が高い。この頭蓋骨以外の上顎骨や下顎骨および遊離歯も比較的多く出土しており，最小個体数は生後６ヶ月程度の幼獣４個体・１～２歳の若獣３個体・３歳以上の成獣５個体の12個体となった。頭部以外の四肢骨の出土量は少ない。

２．その他の動物骨

イノシシ以外の動物では，シカは下顎骨や角片などが見られたが最小個体数は１～２歳の若獣１個体・３歳以上の成獣２個体と少ない。その他ではキツネヵの脛骨中間部が１点と小型のイヌヵの脛骨中間部１点が見られた。いずれの脛骨も小さな破片であることから種名は確定ではない。

鳥類ではガン類のヒシクイの上腕骨中間部分１点とキジと思われる上腕骨遠位部破片１点・カモ類の橈骨近位部１点と尺骨中間部１点が含まれていた。カモ類の橈骨と尺骨は比較的大きいので，マガモやカルガモ程度の大型のカモ類であろう。この２点が同一個体かどうかは分からない。

３．まとめ

この遺跡の動物遺体は，イノシシが多いことが特徴である。当時の茨城県地域ではシカよりもイノシシが多かったのであろうか。また，鳥類ではカモ類とガン類のヒシクイが出土していることから湖沼での鳥類捕獲も行われていたと思われる。

表1　イノシシの頭蓋骨と歯の出土内容

遺構番号	部　位	左　右	歯　　式	個　数	備　考
ＳＩ４	後頭部			1	
	頭蓋骨	左	(ＸM123)	1	第３咬頭摩滅
	頭蓋骨	右	(M123)		第３咬頭摩滅
	上顎骨	左	(ｍ４Ｍ１)	1	
	上顎骨	左	(M12)	1	Ｍ３歯槽開き
	上顎	左	ｍ４	1	
	上顎	左	Ｐ４	1	未出
	上顎	左	Ｍ３	1	未出
	上顎	左	Ｍ３	2	
	上顎	右	Ｉ２	1	
	上顎	右	Ｍ２	1	崩出中
	上顎	右	Ｍ２	1	
	上顎	右	Ｍ３	1	未出
	上顎	右	Ｍ３	1	
	下顎	左	Ｉ１	1	
	下顎	左	Ｉ２	1	
	下顎	左	Ｍ３	2	未出
	下顎	左	Ｍ３	1	第１咬頭まで摩滅
	下顎	左	Ｍ３	1	
	下顎	右	ｉ２	1	
	下顎	右	Ｉ２	1	
	下顎	右	P34	1	未出
	下顎	右	Ｍ３	1	
	犬歯 fr			1	オス
	上顎 fr		Ｍ２	1	
	上顎 fr		Ｍ３	2	
	下顎枝 fr			1	
	歯 fr			82	
ＳＫ207	切歯骨	左右		1	
	頬骨	右		1	
	鼻骨			1	
	上顎骨	左	(m234Ｍ１)	1	
	上顎骨	左	(Ｐ４M12)	1	Ｍ２摩滅少ない
	上顎骨	右	(m34Ｍ１)	1	Ｍ２歯槽開き
	上顎骨	右	(ＸＭ１)	1	
	下顎骨	左	i２(m234Ｍ１)	1	
	下顎骨	左	(Ｐ４M12)	1	Ｍ２摩滅
	下顎骨	左	(M23)	1	
	上顎	左	Ｍ２	1	
	上顎	左	Ｍ２	1	
	上顎	右	Ｐ１，Ｐ２	1	
	上顎	右	Ｐ２	1	
	下顎	右	Ｍ１またはＭ２	1	未出
	頭骨 fr			1	オス
	歯 fr			4	

注）（　）は顎骨が伴うもの。その他は遊離歯，fr は破片のことを示す。
　ｉは乳切歯，Ｉは永久切歯，Ｐは前臼歯，ｍは乳歯，Ｍは永久歯の意味を示す。

表2　動物遺体の内容（イノシシの頭蓋部を除く）

遺構番号	種　名	部　位	左　右	残存状態	個　数	備　考
表採	陸獣	頸椎			1	
	陸獣	骨片			5	
ＳＩ４	イヌ	脛骨	左	中間	1	
	キツネ	脛骨	右	中間	1	
	イノシシ	寛骨	左	臼部	1	
	イノシシ	大腿骨		中間	1	若
	イノシシ	中節骨			3	
	イノシシ	末節骨			1	
	シカ	角			1	
	シカ	頭骨		破片	1	
	シカ	上顎	右	M12	1	
	シカ	大腿骨	左	中間	1	
	シカ	脛骨	右	遠位	1	
	シカ	基節骨			1	若
	カモ類	橈骨	右	近位	1	焼骨
	キジ	上腕骨	左	遠位	1	
	貝殻				4	
	鳥類				1	
	陸獣	骨片			289	
ＳＩ５	陸獣	骨片			1	焼骨
ＳＩ13	陸獣	骨片			17	焼骨
ＳＩ15	陸獣	骨片			1	焼骨
ＳＫ143	陸獣	骨片			1	焼骨
ＳＫ159	陸獣	骨片			20	焼骨
ＳＫ173	陸獣	骨片				
ＳＫ207	イノシシ	肩甲骨	右	完	1	
	イノシシ	上腕骨	左	中間	1	
	シカ	末節骨			1	
	鳥類	四肢骨破片			5	
	陸獣	骨片			54	
ＳＫ208	シカ	上顎	左	Ｍ２	1	
	シカ	基節骨			2	
	シカ	中節骨			2	
	陸獣	骨片			4	
	ヒシクイ	上腕骨	右	中間	1	
ＰＧ13	陸獣	骨片			1	焼骨
包含層	ウマ	上顎	右	Ｐ34M23	1	
	ウマ	上顎	左	M123	1	
	ウマ	上顎破片			3	
	ウマ	下顎	左	Ｐ34M123	1	
	ウマ	下顎	右	Ｐ34M123	1	
	陸獣	骨片			5	焼骨

写真１　イノシシ頭蓋骨（SI４－Ｐ80出土）

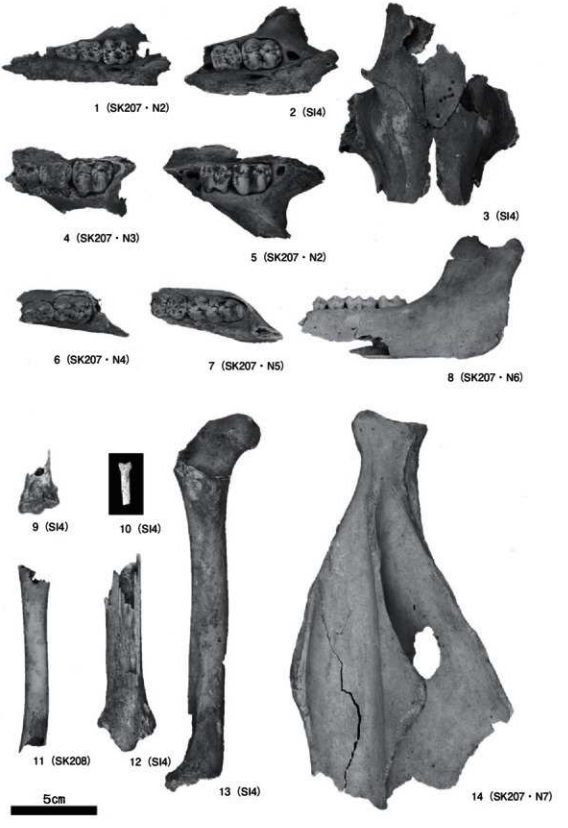


写真２　鳥類・哺乳類
１～８，14：イノシシ　９：キジ　10：カモ類　11：ヒシクイ　12・13：シカ（１・２：上顎骨，左　３：頭蓋骨　４・５：上顎骨，右　６～８：下顎骨，左　９：上腕骨，左，遠位部　10：橈骨，右，近位部　11：上腕骨，右，中間部　12：脛骨，右，遠位部　13：大腿骨，左　14：肩甲骨，右　９・10は提示した大きさの２倍）

本田遺跡出土炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本田遺跡は，宮戸川を挟んだ台地平坦面の縁辺部に立地する。今回の発掘調査により，縄文時代の竪穴住居跡や土坑，古墳時代の竪穴住居跡，近世の溝跡・土坑・井戸跡等が検出されている。このうち，古墳時代中期の焼失住居跡である第１号住居跡は，平面形が東西にやや長い長方形を呈しており，住居跡の北壁および西壁周辺を中心に，住居構築材に由来すると考えられる炭化材が出土している。

本報告では，これらの炭化材の樹種を明らかにするため，樹種同定を実施する。

１．試料

試料は，第１号住居跡から出土した炭化材２点（Ｗ２・３）である。

２．分析方法

試料を自然乾燥させた後，木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお，木材組織の名称等については，島地・伊東（1982）および Wheeler 他（1998）に従う。また，各樹種の木材組織については，林（1991）や伊東（1995，1996，1997，1998，1999）を参考にする。

３．結果

炭化材は２点とも落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus　subgen.　Quercus　sect.　Cerris）　ブナ科

環孔材で，孔圏部は１～２列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，単独で放射方向に配列し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

４．考察

第１号住居跡から出土した炭化材は，Ｗ２が住居の西壁中央付近，Ｗ３が住居の北東隅付近から出土している。いずれも壁と直交しており，垂木などの住居構築部材に由来すると考えられる。発掘調査の所見では，試料の下半部は残存しておらず，芯持丸木を利用したのか，分割材を利用していたのかまでは判別できていない。分析時の２点の試料はいずれも柾目板状を呈しているが，これが芯持丸木材あるいは分割材のどちらに由来するかの判断は難しい。

これらの炭化材は，いずれも落葉広葉樹のクヌギ節に同定された。日本のクヌギ節には，クヌギとアベマキの２種があるが，クヌギが関東地方の平地において一般的な樹種であるのに対し，アベマキは現在の関東地方には分布していない。このことから，今回のクヌギ節は，現在の関東地方の平地に普通にみられるクヌギの可能性が高い。クヌギの木材は，重硬で強度が高い材質を有しており（平井　1996），こうした材質から構築部

材に利用されたことが推定される。クヌギはコナラと共に関東地方の二次林を代表する樹木であるが，コナラが台地上等の乾いた環境に多く分布するのに対し，クヌギはより水分の多い土地に多く見られる。エノキやムクノキと共に河畔林を構成することもあり，周辺の自然堤防上や後背湿地等に生育していたことが推定される。

宮戸川左岸の台地平坦面上に立地する境町末広遺跡では，古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した炭化材について樹種同定が実施されており，全点がクヌギ節と材質的によく似たコナラ節に同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社　2003）。両遺跡の立地環境を比較すると，本遺跡が低地に接する台地縁辺部に立地するが，末広遺跡は台地中央部に立地している。したがって，本遺跡では河畔や自然堤防上に生育していた樹木を入手しやすかったのに対し，末広遺跡では台地平坦面上に生育していた樹木を入手しやすかったと考えられる。両遺跡におけるクヌギ節とコナラ節の違いは，こうした立地環境による周辺植生の違いを反映したものと考えられる。

また，茨城県内では，奥山A遺跡（常総市），北前遺跡・姥ヶ谷津遺跡・高崎貝塚（坂東市），行人田遺跡（牛久市），苅間神田遺跡（つくば市），南小割遺跡（茨城町）等で古墳時代前期の住居構築材について樹種同定が実施されている（パリノ・サーヴェイ株式会社　1986，1993，1994a，1994b，1996，1997，1998）。遺跡によって結果は多少異なるが，全体的にクヌギ節の利用が多い傾向があり，今回の結果とも調和的である。

引用文献

林昭三『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所　1991年

平井信二『木の大百科　解説編』642p，朝倉書店　1996年

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31　81-181．京都大学木質科学研究所　1995年

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32　66-176．京都大学木質科学研究所　1996年

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33　83-201．京都大学木質科学研究所　1997年

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34　30-166．京都大学木質科学研究所　1998年

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35　47-216．京都大学木質科学研究所　1999年

パリノ・サーヴェイ株式会社「材同定報告」「水海道都市計画事業・内宇谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２　奥山Ａ遺跡・奥山Ｃ遺跡・西原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第31集　1986年３月　239-243.

パリノ・サーヴェイ株式会社「北前遺跡遺構内出土炭化材の樹種同定」「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　原口遺跡・北前遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第83集　1993年３月　309-310.

パリノ・サーヴェイ株式会社「姥ヶ谷津遺跡から出土した炭化材の種類」「岩井幸田工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書　姥ヶ谷津遺跡・南開遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第89集　1994年３月　107-109.

パリノ・サーヴェイ株式会社「高崎貝塚遺構内出土炭化材の樹種同定について」「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ高崎貝塚」『茨城県教育財団調査報告』第88集　1994年３月　318-320.

パリノ・サーヴェイ株式会社「馬場遺跡・行人田遺跡出土の炭化材・炭化種子同定報告について」「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（五）」『茨城県教育財団調査報告』第106集　1996年３月　261-264.

パリノ・サーヴェイ株式会社「神田遺跡から出土した炭化材の樹種」「（仮称）鶴城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第121集　1997年３月　294-296.

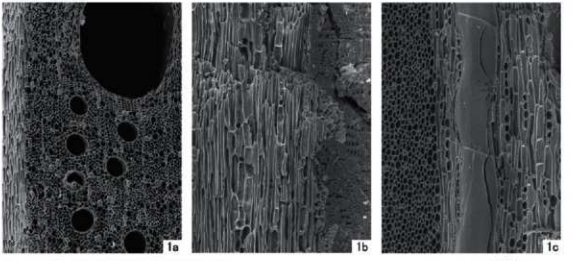
パリノ・サーヴェイ株式会社「南小割遺跡から出土した炭化材の樹種」「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第129集　1998年３月　149-152.

パリノ・サーヴェイ株式会社「自然科学分析」『末広遺跡　第二次発掘調査報告書』境町教育委員会　2003年　31-35.

島地謙・伊東隆夫『図説木材組織』地球社　1982年　176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編）伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）「広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト」海青社　122p.［Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］ 1998年

図版1　炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（SI-1;No.1）
a:木口,b:柾目,c:板目

写　真　図　版

出土遺物

遺跡全景（東から）

Ⅱ区完掘状況（南東から）

第４号住居跡
第207･208号土坑
完掘状況（東から）

第４号住居跡
第207･208号土坑
完掘状況（南から）

第４号住居跡遺物出土状況

第207号土坑遺物出土状況

第５号住居跡
完　掘　状　況

第８号住居跡
完　掘　状　況

第５号住居跡 P35遺物出土状況

第11号住居跡完掘状況

第12号住居跡
完掘状況

第14号住居跡
完掘状況

第13·22·23号住居跡
完掘状況

第13・14・15・19・22・23号住居跡完掘状況

第13号住居跡，第158・160号土坑完掘状況

第13号住居跡遺物出土状況

第15号住居跡 P1遺物出土状況

第15号住居跡 P1遺物出土状況

第17号住居跡
完　掘　状　況

第18号住居跡
完　掘　状　況

第17号住居跡遺物出土状況

第18号住居跡 P1遺物出土状況

第１号住居跡
完　掘　状　況

第１号住居跡
遺物出土状況

第１号住居跡貯蔵穴１遺物出土状況

第１号住居跡貯蔵穴２遺物出土状況

第25･26号 住 居 跡
第10･11号ピット群
完　掘　状　況

第１号遺物包含層ⅡＣ区
遺 物 出 土 状 況

第１号遺物包含層ⅡＣ区遺物出土状況

第１号遺物包含層ⅡＣ区遺物出土状況

第５号土坑完掘・遺物出土状況

第７号土坑完掘状況

第47・50号土坑完掘状況・土層断面

第60号土坑完掘状況

第76号土坑完掘・遺物出土状況

第77号土坑完掘状況

第79号土坑完掘・遺物出土状況

第81号土坑完掘状況

第82号土坑完掘・遺物出土状況

第87号土坑完掘状況

第90号土坑完掘・遺物出土状況

第92号土坑完掘状況

第94号土坑完掘状況

第104号土坑完掘状況

第113号土坑完掘状況

第118号土坑完掘・遺物出土状況

第125号土坑完掘状况

第126号土坑完掘状况

第140号土坑完掘状况

第142号土坑完掘状况

第143号土坑完掘状况

第149号土坑完掘状况

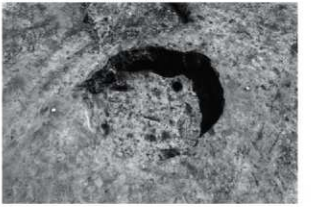
第150号土坑完掘状况

第151号土坑完掘状况

第161号土坑完掘状況

第161号土坑遺物出土状況

第165・166号土坑完掘・遺物出土状況



第169号土坑完掘状況

第185号土坑完掘・遺物出土状況

第198号土坑完掘状況

第200号土坑完掘・遺物出土状況

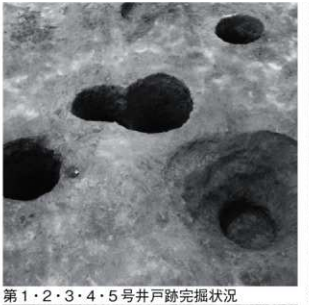
第203号土坑遺物出土状況

Ⅰ区全景(西から)
完　掘　状　況

Ⅰ区全景(南東から)
完　掘　状　況

第1・2号掘立柱建物跡
第1号ピット群
第1～4・6・9～11・15号
溝跡完掘状況

第８号井戸跡
完　掘　状　況



第１・２・３・４・５号井戸跡完掘状況

第６号井戸跡完掘状況

第８号井戸跡完掘状況

第９号井戸跡完掘状況

SI4-12

SI4-11

SI4-4

SI4-2

SI4-13

SI4-14

SI5-19

SI13-22

第４・５・13号住居跡出土遺物

PL16

SI16-30

SI16-31

SI17-39

SI17-41

SI16-32

SI18-45

SI14-111

SK174-58

第14・16・17・18号住居跡，第174号土坑出土遺物

SI4-5

SI5-18

SI15-25

SI15-26

SI17-37

SI17-42

第４・５・15・17号住居跡出土遺物

SI17-33

SI18-44

SK117-53

SK118-54

SK161-55

SK166-56

第17・18号住居跡，第117・118・161・166号土坑出土遺物

SI29-TP213

PG3-TP337

SK203-62

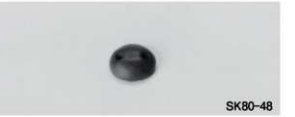
遺物包含層ⅡC区-85

SK205-64

SK206-66

第29号住居跡，第203・205・206号土坑，第３号ピット群，第１号遺物包含層出土遺物

SI1-94


SK80-48

SI17-35

遺物包含層ⅡC区-88

SI17-34

SI17-36

SK204-63

SI25-47

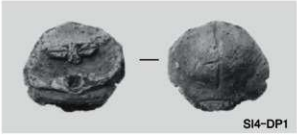
遺物包含層ⅡC区-70

遺物包含層ⅡC区-80

第1・17・25号住居跡，第80・204号土坑，第1号遺物包含層ⅡC区出土遺物

第１号住居跡，第８号井戸跡，第１号遺物包含層ⅡB区出土遺物

出土土製品（耳飾り・土錘・球状土錘）


SI4-DP1

遺構外-DP75

SI13-DP24　遺物包含層ⅡC区-DP54

遺物包含層ⅡC区-DP52　遺物包含層ⅡC区-DP57

SI13-DP23

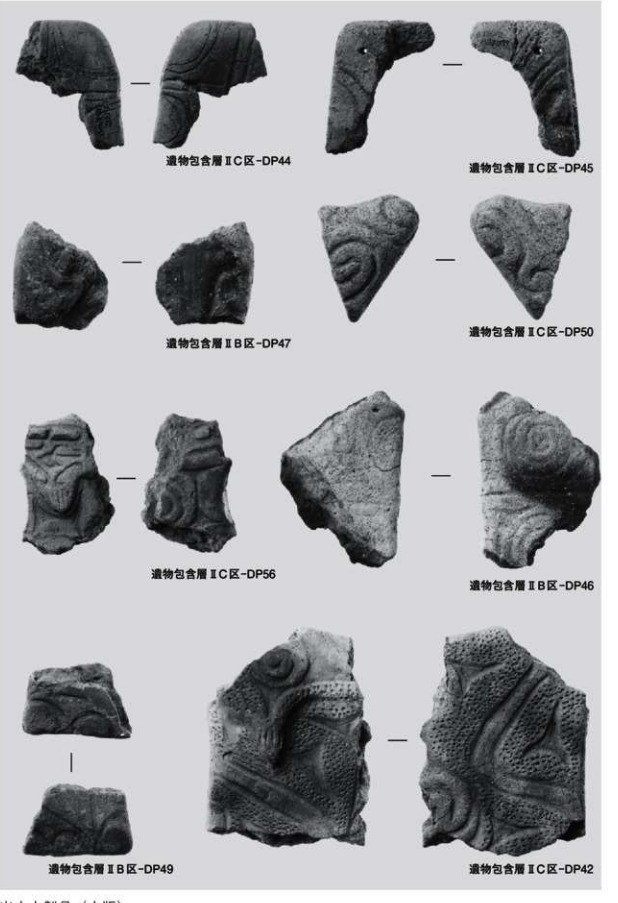
遺物包含層ⅡC区-DP62

遺物包含層ⅡB区-DP58

遺物包含層ⅡC区-DP43

遺物包含層ⅡC区-DP41

出土土製品（土偶・土版・動物形土製器）


遺物包含層ⅡC区-DP44
遺物包含層ⅡC区-DP45
遺物包含層ⅡB区-DP47
遺物包含層ⅡC区-DP50
遺物包含層ⅡC区-DP56
遺物包含層ⅡB区-DP46
遺物包含層ⅡB区-DP49
遺物包含層ⅡC区-DP42

出土土製品（土版）

SI13 Q24 | 遺物包含層ⅡC区 Q106 | PG3 Q68 | 遺構外 Q118 | 遺物包含層ⅡC区 Q105 | SI4 Q5 | 遺物包含層ⅡB区 Q104 | 遺構外 Q116

SK117 Q57 | SI15 Q42 | SI15 Q41 | 遺物包含層ⅡC区 Q102 | SI4 Q3 | 遺物包含層ⅡB区 Q100

SI4 Q4 | PG3 Q67 | 遺物包含層ⅡB区 Q107 | SI17 Q45 | SI13 Q25 | SK81 Q56

PG3 Q66 | 遺物包含層ⅡC区 Q101 | 遺物包含層ⅡC区 Q99 | SK80 Q54 | SI17 Q46

SK81-Q55 | SI13-Q26 | 遺構外-Q115 | 遺構外-Q117

出土石器・石製品（玉類・石鏃・石錐・ナイフ形石器）

SK185-Q60

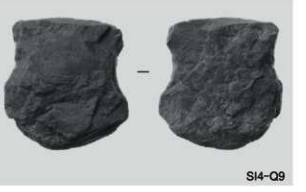
遺物包含層ⅡB区-Q103

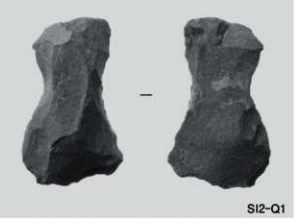
PG3-Q69

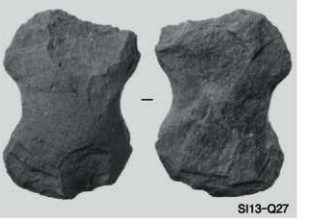
SI18-Q50

遺物包含層ⅡC区-Q79

遺物包含層ⅡC区-Q71


SI4-Q9


SI2-Q1


SI13-Q27

出土石器・石製品（玉類・打製石斧・独鈷石）

出土石器・石製品（打製石斧・磨製石斧・石錘・石剣・石棒）

PL28

石器（磨石・石皿・砥石），骨角製品（栓状製品），金属製品（刀子）

抄　　録

ふりがな	ほんでんいせき
書名	本田遺跡
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第313集
著者名	江原美奈子　大関武
編集機関	財団法人茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　ＴＥＬ　029－225－6587
発行日	2009（平成21）年３月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
本田遺跡（ほんでん）	茨城県猿島郡境町（いばらきけん さしまぐん さかいまち） 大字塚崎（おおあざつかさき）2916番地 ほか	08546 － 004	36度 7分 30秒	139度 46分 52秒	9.3m ～ 12.0m	20070401 ～ 20070831	5,697㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本田遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡　21軒 炉跡　2か所 土坑　88基 ピット群　12か所 遺物包含層　1か所	縄文土器，土製品（耳飾り・土偶・土版・土器片円盤・動物形土製品），石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・石錘），石製品（勾玉・石棒・石剣），貝類，獣骨	
		古墳	竪穴住居跡　1軒	土師器（高坏・壺・ミニチュア土器），土製品（球状土錘），鉄製品（刀子）	
		中世・近世	掘立柱建物跡　2棟 欄跡　2列 井戸跡　4基 土坑　13基 溝跡　19条 道路跡　1条	土師質土器（小皿・鍋），陶器（碗・鉢・瓶），磁器（碗），石器（砥石），金属製品（煙管），古銭，瓦，漆器	
	その他	時期不明	井戸跡　5基 土坑　34基 溝跡　8条 ピット群　1か所		

要約

縄文時代後・晩期，古墳時代中期，近世後半の複合遺跡であることが確認された。特に縄文時代では，低地に向かって緩やかに傾斜する台地上から縁辺部に住居群が配され，斜面部には多量の土器や石器などを含む遺物包含層が形成されるなど，縄文時代後・晩期の拠点的集落の様相の一部が捉えられた。特に後期後葉の第４号住居跡からは，多くの縄文土器や石器のほか，イノシシをはじめとする獣骨類などが出土している。

茨城県教育財団文化財調査報告第313集

本　田　遺　跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成21（2009）年３月18日　印刷
平成21（2009）年３月23日　発行

発行　財団法人茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　冨士オフセット印刷株式会社
〒310-0067　水戸市根本３丁目1534－２
TEL　029－231－4241㈹